

Canon

EOS-1D X Mark III



詳細ガイド

この使用説明書は、EOS-1D X Mark IIIのファームウェアが Ver.1.1.0以上であることを前提に説明しています。

J

目次

はじめに	8
カメラと主な付属品	9
使用説明書について	11
すぐ撮影するには	12
このガイドについて	15
使用できるカードについて	17
安全上のご注意	18
取り扱い上のご注意	21
各部の名称	24
ソフトウェア	47
準備と基本操作	51
バッテリーを充電する	52
バッテリーを入れる／取り出す	56
カードを入れる／取り出す	59
電源を入れる	64
レンズを取り付ける／取り外す	68
基本操作	72
メニュー機能の操作と設定	88
クイック設定	93
画面にタッチして操作する	96
撮影モード	99
P：プログラムAE撮影	100
Tv：シャッター優先AE	104
Av：絞り優先AE	107
M：マニュアル露出	111
bulb：長時間露光（バルブ）撮影	114
撮影	116
静止画撮影	117
メニュー目次：静止画撮影（ファインダー撮影）	118
ホワイトバランス	121

マニュアルホワイトバランス	127
ホワイトバランスの補正	137
色空間	141
ピクチャースタイルの選択	142
ピクチャースタイルの調整	146
ピクチャースタイルの登録	150
明瞭度	153
レンズ光学補正	154
記録画質	160
静止画のISO感度を設定	169
オートライティングオブティマイザ	177
長秒時露光のノイズ低減	179
高感度撮影時のノイズ低減	181
高輝度側・階調優先	182
撮影画像の確認時間	183
カードなしリリース	184
ミラーアップ撮影	185
ダストデリートデータ取得	187
外部ストロボ撮影	191
ストロボ機能の設定	195
フリッカーレス撮影	208
多重露出撮影	210
HDR PQ設定	220
測光モードの選択	223
自分の好みに露出を補正する	226
露出を自動的に変えて撮る/AEB撮影	228
露出を固定して撮る/AEロック撮影	230
アイピースシャッターの使い方	232
リモートスイッチ撮影	233
静止画撮影 (ライブビュー撮影)	234
メニュー目次: 静止画撮影 (ライブビュー撮影)	235
ライブビュー撮影	238
シャッター方式	241

露出Simulation.	243
測光タイマー.	244
ライブビュー撮影全般の注意事項.	245
動画撮影.	247
メニュー目次：動画撮影.	248
動画撮影.	250
動画記録画質.	267
録音.	278
タイムコード.	282
Canon Log設定.	289
動画電子IS.	295
その他のメニュー機能.	297
動画撮影全般の注意事項.	302
AF/ドライブ.	304
メニュー目次：AFタブ（ファインダー撮影）.	305
メニュー目次：AFタブ（ライブビュー撮影）.	308
メニュー目次：AFタブ（動画撮影）.	311
AF動作.	313
測距エリアとAF フレームの選択（ファインダー撮影）.	318
測距エリア選択モードの内容（ファインダー撮影）.	326
AF方式の選択（ライブビュー撮影）.	335
AIサーボAF/サーボAF特性.	354
AF機能のカスタマイズ.	365
AFマイクロアジャストメント.	388
手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス）.	397
ドライブモードの選択.	404
セルフタイマー撮影.	407
再生.	409
メニュー目次：再生タブ.	411
画像の再生.	413
画像の拡大表示.	418
インデックス表示（複数画像表示）.	421

音声メモを記録／再生	424
動画の再生	429
動画の前後部分のカット	432
4K動画からフレーム切り出し	435
テレビで見る	437
画像プロテクト	439
画像回転	445
画像消去	447
印刷指定／DPOF	454
画像コピー	459
HEIF画像をJPEG画像に変換	467
RAW現像	469
JPEG画像のトリミング	477
JPEG画像のリサイズ	480
レーティング	482
スライドショー	488
画像検索の条件設定	491
メイン電子ダイヤルでの画像送り	494
再生する情報の設定	496
ハイライト警告の表示	499
AFフレーム表示	500
再生時のグリッド	501
HDMI HDR出力	502
通信機能	503
メニュー目次：通信機能タブ	504
通信機能でできること	505
Camera Connect でスマートフォンと通信	507
EOS UtilityでパソコンとWi-Fi接続	543
通信機能の基本設定	550
FTPサーバーへの画像転送	589
EOS Utilityでリモート操作	616
Browser Remoteでカメラ操作	633
接続の終了と再接続	660

ネットワーク設定の確認と操作	663
カメラ間時刻同期	686
GPS機能	692
資料	700
トラブルシューティング	707
通信の設定初期化	724
機能設定	725
メニュー目次：機能設定タブ	726
記録・再生するカードを選択する	730
フォルダの設定	736
画像番号	740
ファイル名の設定	745
縦位置画像回転表示	748
カード初期化	750
画面の明るさ	753
画面の色調	754
オートパワーオフ	755
日付／時刻／エリア	756
言語	760
ファインダー内表示	761
〈INFO〉ボタンで表示する内容	767
クイック設定カスタマイズ	771
撮影情報表示設定	778
動画撮影時シャッターボタンの機能	783
メニュー画面の拡大	785
ヘルプ機能	786
ビデオ方式	789
タッチ操作	790
電子音	792
バッテリー情報	793
センサークリーニング	795
HDMI出力解像度	800
カメラ設定をカードに保存・読込	801

カスタム撮影モード (C1-C3)	804
カメラの初期化.	807
著作権情報.	809
カメラシステム情報.	812
その他の情報.	816
カスタム機能/マイメニュー.	817
メニュー目次: カスタム機能タブ.	818
カスタム機能で変更できる内容.	824
操作ボタンカスタマイズ.	849
メニュー目次: マイメニュータブ.	871
マイメニューの登録.	872
資料.	879
パソコンへの画像の取り込み.	880
故障かな?と思ったら.	884
エラー表示.	899
使用レンズとAF測距 (ファインダー撮影)	900
システム図.	919
データシート.	921
情報表示.	927
主な仕様.	940
商標・ライセンスについて.	955

はじめに

はじめに必ずお読みください

撮影の失敗や事故を未然に防ぐため、はじめに[安全上のご注意](#)、および[取り扱い上のご注意](#)をお読みください。また、この「詳細ガイド」をよく読んで正しくお使いください。

試し撮りと撮影内容の補償について

撮影後は画像を再生して、画像が正常に記録されていることを確認してください。万一、カメラ（本機）やメモリーカードなどの不具合により、画像の記録やパソコンへの画像の取り込みができなかった場合の、記録内容の補償についてはご容赦ください。

著作権について

あなたがカメラ（本機）で記録した権利者のいる被写体の画像は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示会などの中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

ファームウェアのバージョンについて

ファームウェアのバージョンによっては、Browser Remoteを使用することができません。その場合は、キヤノンのWebサイトから最新のファームウェアをダウンロードして、バージョンアップを行ってください。

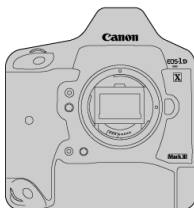
周辺機器との接続について

カメラをパソコンなどと接続するときは、付属または純正のインターフェースケーブルを使用してください。なお、インターフェースケーブルを接続するときは、付属のケーブルプロテクターを使用してください (🔒)。

- [カメラと主な付属品](#)
- [使用説明書について](#)
- [すぐ撮影するには](#)
- [このガイドについて](#)
- [使用できるカードについて](#)
- [安全上のご注意](#)
- [取り扱い上のご注意](#)
- [各部の名称](#)
- [ソフトウェア](#)

カメラと主な付属品

ご使用前に、以下のものがすべてそろっているかご確認ください。万一、足りないものがあるときは、お買い求めの販売店にご連絡ください。



カメラ

(ボディキャップ付き、バッテリー収納部キャップ付き)



アイキャップ Eg



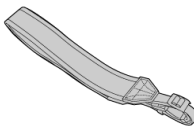
バッテリーパック LP-E19

(保護カバー付き)



充電器 バッテリーチャージャー LC-E19

(保護カバー付き)



ストラップ



インターフェースケーブル



ケーブルプロテクター

- メモリーカード (☒)、HDMIケーブルは付属していません。
- アイカップ Egをファインダーの接眼部に取り付けてください。
- 付属品は、なくさないように注意してください。
- ソフトウェアのCD-ROMは付属していません。ソフトウェア (☒) は、キヤノンホームページからダウンロードしてください。

⚠ 注意

- 付属のインターフェースケーブル使用時は、通信速度がSuperSpeed USB (USB 3.1 Gen 1) 相当になります。

使用説明書について



製品に付属している冊子は、カメラの電源を入れるまでの操作手順と機能をまとめた「使用説明書」です。

- **詳細ガイド**

すべての使い方は、この「詳細ガイド」で説明しています。
最新の詳細ガイドは、下記のサイトでご確認ください。

<https://cam.start.canon/C001/>



- **レンズ/ソフトウェア使用説明書**

下記のサイトからダウンロードしてください。

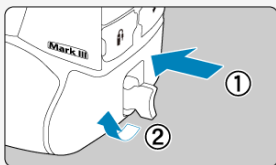
<https://cam.start.canon/>



参考

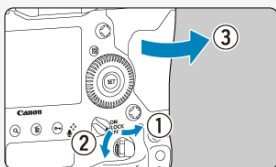
- [📄: 使用説明書・ソフトウェア URL] を選ぶと、カメラのモニターにQRコードを表示できます。

1. バッテリーを入れる (🔋)



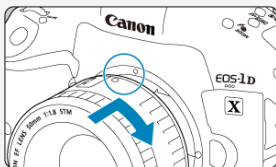
- 購入時はバッテリーを充電してからお使いください (🔋)。

2. カードを入れる (💳)



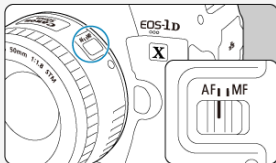
- カードを2枚入れることができます。

3. レンズを取り付ける (📷)

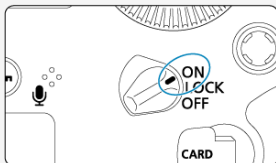


- レンズとカメラの赤いレンズ取り付け指標を合わせて取り付けます。

4. レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする (🔍)





5. 電源スイッチを〈ON〉にする (🔍)



6. 撮影モードを〈P〉にする (🔍)



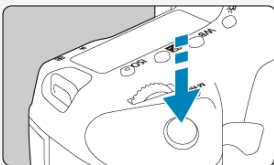
- 〈MODE〉 ボタンを押します。
- 上面表示パネルを見ながら、 または  を回して〈P〉を選びます。

7. ピントを合わせる (📷)



- ファインダーをのぞき、写したいものを画面中央に配置します。
- シャッターボタンを軽く押すと、ピントが合います。

8. 撮影する (📷)



- さらにシャッターボタンを押して撮影します。

9. 撮影した画像を確認する









- 撮影した画像がモニターに約2秒間表示されます。
- <▶> ボタンを押すと、もう一度画像が表示されます (📷)。

- モニターを見ながら撮影するときは、[ライブビュー撮影](#)を参照してください。






このガイドについて

- [☑ 本文中の絵文字について](#)
- [☑ 操作説明の前提と作例写真について](#)

本文中の絵文字について

	メイン電子ダイヤルを示しています。
	サブ電子ダイヤルを示しています。
	マルチコントローラーを示しています。
	スマートコントローラーを示しています。
	設定ボタンを示しています。
	操作ボタンから指を離れたあと、タイマー機能により、ボタンを押した状態が*秒間保持されることを示しています。

- その他、本文中の操作ボタンや設定位置の説明には、ボタンやモニターの表示など、カメラで使われている絵文字を使用しています。

	関連トピックへのリンクを示しています。
	撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項を記載しています。
	補足説明や補足事項を記載しています。
	上手に使うためのヒントや撮影のポイントを記載しています。
	困ったときの手助けになる内容を記載しています。

操作説明の前提と作例写真について

- 電源スイッチが〈ON〉になっていることを前提に説明しています (🔌)。
- メニュー機能やカスタム機能などが初期状態になっていることを前提に説明しています。
- 本文中のイラストは、EF50mm F1.8 STMレンズを取り付けた状態で説明しています。
- このガイドで使用している作例写真は、効果を分かりやすく伝えるためのイメージです。

使用できるカードについて

カードの容量に関わらず下記のカードが使用できます。なお、新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）してください (🔗)。

- CFexpressカード

* Type B対応

動画が記録できるカードについて

動画を撮影するときは、動画記録画質に適應する性能（書き込み/読み取り速度）を備えたカードを使用してください (🔗)。

このガイドでは、CFexpressカードのことを「カード」と表記しています。

* 画像を記録するカードは付属していません。別途ご購入ください。

安全上のご注意

安全に使っていただくための注意事項です。必ずお読みください。
お使いになる方だけでなく、他人への危害や損害を防ぐためにお守りください。



警告

死亡や重傷を負う恐れがある内容です。

- 乳幼児の手の届くところに置かない。
ストラップを首に巻き付けると、窒息することがあります。
カメラ、アクセサリーの部品や付属品を飲み込むと危険です。飲み込んだ場合は、すぐ医師に相談してください。
- 電池を飲み込むと危険です。飲み込んだときは、すぐ医師に相談してください。
 - 指定外の電源は使わない。
 - 分解や改造をしない。
 - 強い衝撃や振動を与えない。
 - 破損したときは、内部に触れない。
 - 煙が出ている、異臭がするなどの異常が発生したときは使わない。
 - アルコール、ベンジン、シンナーなどの有機溶剤で手入れしない。
 - 液体でぬらしたり、内部に液体や異物を入れない。
 - 可燃性ガスを含んだ空気中では使用しない。
- 感電、破裂、火災の原因となります。
 - レンズやレンズを付けたカメラは、レンズキャップを外した状態で放置しない。
光がレンズを通して焦点を結び、火災の原因となります。
 - ファインダーがある製品では、ファインダーで強い光源（晴天時の太陽や人工的な強い光源など）を見ない。
- 視力障害の原因となります。
 - 雷が鳴り出したら、コンセントにつながれた製品に触れない。
感電の原因となります。
 - バッテリーや電池を使うときは、次のことに注意する。
 - 指定外の製品で使わない。
 - 熱したり、火中投入しない。
 - 指定外の製品で充電しない。
 - 端子に他の金属や金属製のピンやゴミを触れさせない。
 - 液漏れしたものは使わない。
 - 廃却するときは、接点にテープを貼るなどして絶縁する。
- 感電、破裂、火災の原因となります。
液漏れして身体や衣服についたときは、水でよく洗い流す。目に入ったときは、きれいな水で十分洗った後、すぐ医師に相談してください。
- バッテリーチャージャーを使うときは、次のことに注意する。
 - 電源プラグやコンセントのほこりを、定期的に乾いた布で拭き取る。
 - ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
 - 電源プラグの差し込みが不十分なまま使わない。
 - 電源プラグや端子に金属製のピンやゴミを触れさせない。
- 電源コードに重いものをのせたり、傷つけたり、破損させたり、加工したりしない。
- 使用中および使用后すぐに、製品に布などをかけない。

- コードを引っ張って電源プラグを抜かない。
- 電源に長時間つないだままにしない。
- 5℃～40℃の範囲外で充電しない。

感電、破裂、火災の原因となります。

- 長時間、身体と同じ部位に触れさせたまま使わない。

熱いと感じなくても、皮膚が赤くなったり、水ぶくれができたりするなど、低温やけどの原因となることがあります。気温の高い場所で使うときや、血行の悪い方や皮膚感覚の弱い方などが使うときは、三脚などを使ってください。

- 使用が禁止されている場所では、電源を切るなどの指示に従う。

電波の影響で機器類が誤動作し、事故の原因となる恐れがあります。

⚠️注意

傷害を負う可能性がある内容です。

- ストロボを目に近付けて発光しない。

目をいためる恐れがあります。

- 長い時間、ファインダーや画面を見続けず。

乗り物酔いのような症状をおこすことがあります。すぐに製品の使用を中止して休息をとってください。

- ストロボを指や布などで覆ったまま、発光させない。

やけどや故障の原因となります。

- 製品を高温や低温となる場所に放置しない。

製品自体が高温や低温になり、触れるとやけどやけがの原因となります。

- ストラップ使用時は、他のものに引っ掛けたり、強い衝撃や振動を与えない。

- レンズを強く押ししたり、ぶつけたりしない。

けがやカメラの故障の原因となります。

- 三脚を使うときは、十分に強度があるものを使う。

- カメラを三脚につけたまま移動しない。

けがや事故の原因となります。

- 製品の内部には手を入れない。

けがの原因となります。

- 使用中や使用後に肌に異常を感じた場合は、使用を中止し医師にご相談ください。

取り扱い上のご注意

カメラについて

- カメラは精密機器です。落としたり衝撃を与えたりしないでください。
- このカメラは防水構造になっていませんので、水中では使用できません。
- 防塵・防滴性能を発揮させるため、カメラの端子カバー、バッテリー着脱つまみ、カードスロットカバーなどの開閉部をしっかりと閉じてください。
- このカメラは、不用意に降りかかる砂塵や、水滴などのカメラ内部への侵入を抑えることで、防塵性、防滴性に配慮した設計を行っていますが、ゴミやほこり、水、塩分などのカメラ内部への侵入を、完全に防ぐことはできません。ゴミやほこり、水、塩分などが、できるだけカメラに付着しないようにしてください。
- カメラに水が付着したときは、乾いたきれいな布で、ゴミやほこり、塩分などが付着したときは、固くしぼったきれいな布でよくふき取ってください。
- ゴミやほこりが多い場所で使用すると、故障の原因になります。
- 使用後はカメラの清掃をおすすめします。ゴミやほこり、水、塩分などをカメラに付着したままにすると、故障の原因になります。
- 万一、カメラが水に濡れて、内部に浸水（水没）したり、ゴミやほこり、塩分などが内部に侵入した恐れがあるときは、早めに修理受付窓口にご相談ください。
- カメラを磁石やモーターなどの強力な磁気が発生する装置の近くに、絶対に置かないでください。また、電波塔などの強い電波が発生しているところで使用したり、放置したりしないでください。電磁波により、カメラが誤動作したり、記録した画像データが破壊されることがあります。
- 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。カメラの故障の原因になることがありますので、このような場所にカメラを放置しないでください。
- カメラには精密な回路が内蔵されていますので、絶対に自分で分解しないでください。
- 指などでミラーの動作を阻害しないでください。故障の原因になります。
- レンズ、ファインダー、ミラー、フォーカシングスクリーンなどにゴミが付いているときは、市販のプロアーで吹き飛ばすだけにしてください。カメラボディおよびレンズは、有機溶剤を含むクリーナーなどでふかないでください。特に汚れがひどいときは、修理受付窓口にご相談ください。
- カメラの電気接点は手で触らないでください。腐食の原因になることがあります。腐食が生じるとカメラが作動不良を起こすことがあります。
- カメラを寒いところから、急に暑いところに移すと、カメラの外部や内部に結露（水滴）が発生することがあります。カメラを寒いところから、急に暑いところに移すときは、結露の発生を防ぐために、カメラをビニール袋に入れて袋の口を閉じ、周囲の温度になじませてから、袋から取り出してください。
- 結露が発生したときは、故障の原因になりますので、カメラを使用したり、レンズ、カード、バッテリーをカメラから取り外さないでください。カメラの電源をOFFにして、水滴が完全に消えるまで待ってから、カメラを使用してください。なお、水滴が完全に消えても、カメラ内部が低温になっているときは、周囲の温度になじむまで、レンズ、カード、バッテリーをカメラから取り外さないでください。
- カメラを長期間使用しないときは、カメラからバッテリーを取り出し、風通しが良く、涼しい乾燥した場所にて保管してください。保管期間中でも、ときどきシャッターを切るようにして作動することを確認してください。
- カメラの保管場所として、実験室などのような薬品を扱う場所は、さび・腐食などの原因になるため避けてください。
- 長期間使用しなかったカメラは、各部を点検してから使用してください。長期間使用しなかったあとや、海外旅行など大切な撮影の前には、各部の作動を修理受付窓口、またはご自身でチェックしてからご使用ください。

- 連続撮影を長時間繰り返したり、ライブビュー撮影や動画撮影を長時間行うと、カメラの温度が高くなる場合があります。これは故障ではありません。
- 明るい光源が撮影画面の内側や外側近くにあると、ゴーストが写り込むことがあります。

モニターと表示パネルについて

- モニターは、非常に精密度の高い技術で作られており99.99%以上の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや、黒や赤などの点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。また、記録されている画像には影響ありません。
- モニターを長時間点灯したままにすると、表示していた内容の像が残ることがあります。この残像は一時的なもので、カメラを数日間使用しないでおくとも自然に消えます。
- 液晶の特性で低温下での表示反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

カードについて

カードとその中に記録されているデータを保護するために、次の点に注意してください。

- 「落とさない」、「曲げない」、「強い力や衝撃、振動を加えない」、「濡らさない」。
- カードの溝に、ほこり、異物などが入らないようにしてください。
- カード表面にシールなどを貼らない。
- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものや、静電気の発生しやすいところで保管、使用しない。
- 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しない。
- ケースなどに入れて保管する。
- 温度の高いところ、ほこりや湿気の多いところに保管しない。

レンズについて

- レンズを取り外したときは、接点 (1) やレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。



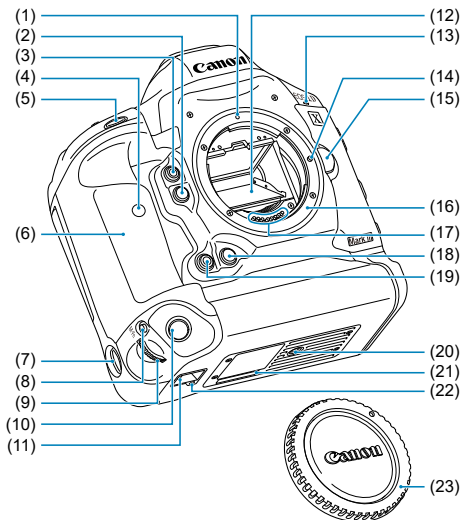
撮像素子の前面に付着する汚れについて

撮像素子の前面には、外部から入り込むゴミのほかに、ごくまれにカメラ内部の潤滑剤などが付着することがあります。汚れが画像に写り込むときは、できるだけ修理受付窓口に撮像素子の清掃をお申し付けください。

各部の名称

☑ [ストラップ（吊りひも）の取り付け方](#)

☑ [ケーブルプロテクターの使い方](#)



-
- (1) レンズ取り付け指標

 - (2) 絞り込みボタン

 - (3) マルチファンクションボタン2

 - (4) セルフタイマーランプ

 - (5) シャッターボタン

 - (6) グリップ

 - (7) 縦位置操作スイッチ

 - (8) 〈M-Fn〉 縦位置
測距エリア選択/
AF方式選択/
マルチファンクション/
FEロック/
マルチスポット測光ボタン

 - (9) 縦位置メイン電子ダイヤル

 - (10) 縦位置シャッターボタン

 - (11) ハンドストラップ取り付け部

 - (12) ミラー

 - (13) 動画撮影用マイク

 - (14) レンズロックピン

 - (15) レンズロック解除ボタン

 - (16) レンズマウント

 - (17) 接点

 - (18) 縦位置絞り込みボタン

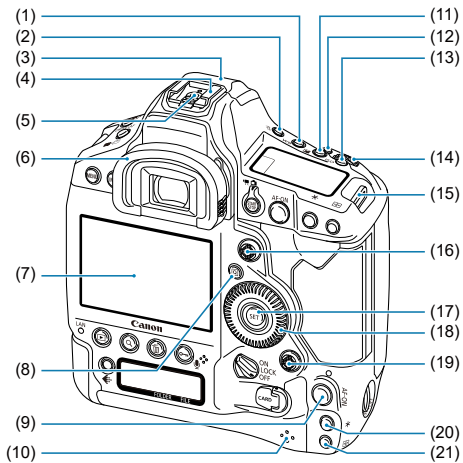
 - (19) 縦位置マルチファンクションボタン2

 - (20) 三脚ねじ穴

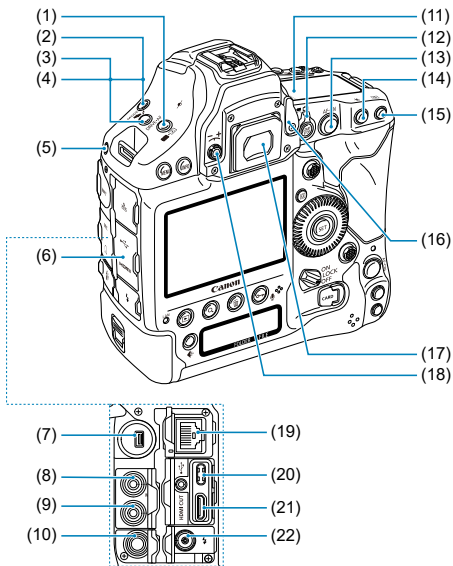
 - (21) シリアル番号

 - (22) アクセサリー位置決め穴

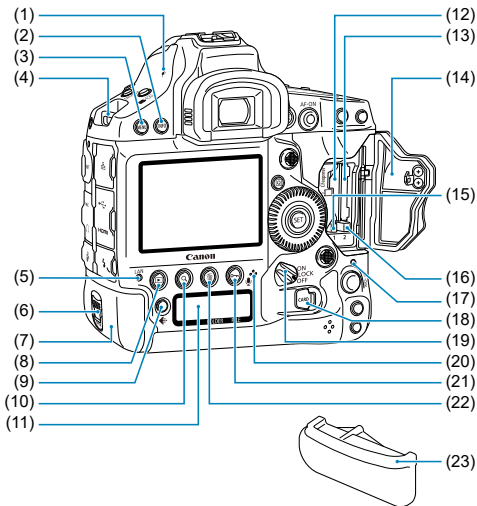
 - (23) ボディキャップ
-






-
- (1) 〈WB〉ホワイトバランス選択ボタン
 - (2) 〈※〉表示パネル照明ボタン
 - (3) GPSアンテナ部
 - (4) アクセサリーシュー
 - (5) シンク口接点
 - (6) アイカップ
 - (7) モニター
 - (8) 〈回〉クイック設定ボタン
 - (9) 〈AF-ON〉縦位置
AFスタートボタン/
スマートコントローラー
 - (10) スピーカー
 - (11) 〈☒〉露出補正/
絞り数値設定ボタン
 - (12) 〈M-Fn〉測距エリア選択/
AF方式選択/
マルチファンクション/
FEロック/
マルチスポット測光ボタン
 - (13) 〈ISO〉ISO感度設定/時刻表示ボタン
 - (14) 〈〉メイン電子ダイヤル
 - (15) ストラップ取り付け部
 - (16) 〈※〉マルチコントローラー
 - (17) 〈〉設定ボタン
 - (18) 〈〉サブ電子ダイヤル
 - (19) 〈※〉縦位置マルチコントローラー
 - (20) 〈※〉縦位置AEロックボタン
 - (21) 〈〉縦位置AFフレーム選択ボタン
-

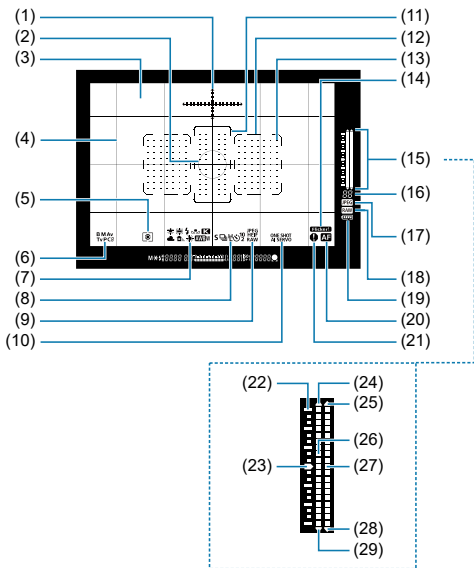









-
- (1) <  > ストロボ調光補正/
測光モード選択ボタン
-
- (2) < **MODE** > 撮影モード選択ボタン
-
- (3) < **DRIVE**・**AF** > ドライブモード/
AF動作選択ボタン
-
- (4) <  > AEB設定ボタン
-
- (5) 拡張システム取り付け穴
-
- (6) 端子カバー
-
- (7) 拡張システム端子
-
- (8) < **MIC** > 外部マイク入力/
ライン入力端子
-
- (9) <  > ヘッドフォン端子
-
- (10) <  > リモコン端子 (N3タイプ)
-
- (11) 上面表示パネル
-
- (12) <  > ライブビュー撮影/
<  > 動画撮影スイッチ
<  > スタート/ストップボタン
-
- (13) < **AF-ON** > AFスタートボタン/
スマートコントローラー
-
- (14) <  > AEロックボタン
-
- (15) <  > AFフレーム選択ボタン
-
- (16) アイピースシャッターレバー
-
- (17) ファインダー接眼部
-
- (18) 視度調整つまみ
-
- (19) <  > Ethernet用RJ-45端子
-
- (20) <  > デジタル端子
-
- (21) < **HDMI OUT** > HDMIミニ出力端子
-
- (22) <  > シンクロ端子
-



-
- (1) 〈〉 撮像面マーク
 - (2) 〈INFO〉 インフォボタン
 - (3) 〈MENU〉 メニューボタン
 - (4) ストラップ取り付け部
 - (5) 〈LAN〉 ネットワークランプ
 - (6) バッテリー着脱つまみ
 - (7) バッテリー
 - (8) 〈〉 再生ボタン
 - (9) 〈〉 カード/画像サイズ選択ボタン
 - (10) 〈Q〉 インデックス/拡大/縮小ボタン
 - (11) 背面表示パネル
 - (12) カードスロット1
 - (13) カードスロット2
 - (14) カードスロットカバー
 - (15) カード1取り出しボタン
 - (16) カード2取り出しボタン
 - (17) アクセスランプ
 - (18) カードスロットカバー開放つまみ
 - (19) 電源/マルチ電子ロックスイッチ
 - (20) 音声メモ用マイク
 - (21) 〈/🎤〉 プロテクト/音声メモボタン
 - (22) 〈〉 消去ボタン
 - (23) バッテリー収納部キャップ
-

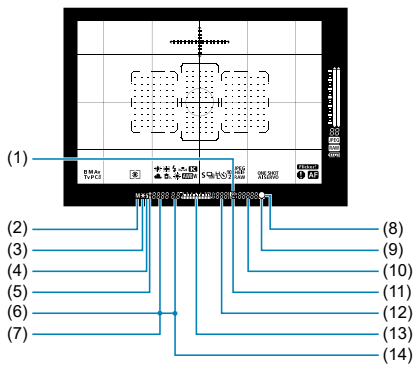
ファインダー内表示



-
- (1) 水準器
-
- (2) スポット測光範囲
-
- (3) フォーカシングスクリーン
-
- (4) グリッド
-
- (5) 測光モード
-
- (6) 撮影モード
-
- (7) ホワイトバランス
-
- (8) ドライブモード
-
- (9) 画像タイプ
-
- (10) AF動作
-
- (11) ラージゾーンAFフレーム
-
- (12) エリアAFフレーム
-
- (13)  AFフレーム
 スポットAFフレーム
-
- (14) フリック検知
-
- (15) 露出レベル表示
(測光値/調光値)
-
- (16) 連続撮影可能枚数
多重露出残り枚数
-
- (17)  JPEGマーク
-
- (18)  RAWマーク
-
- (19)  バッテリー残量
-
- (20)  AF作動表示
-
- (21)  警告表示
-
- (22) 露出段数目盛
■ : 1段
■ : 1/3段
-
- (23) 標準露出指標
-
- (24) 露出オーバー
-
- (25) 調光オーバー
-
- (26) 露出レベル
-
- (27) 調光レベル
ストロボ調光補正量
マルチスポット測光値
-
- (28) 調光アンダー
-
- (29) 露出アンダー
-

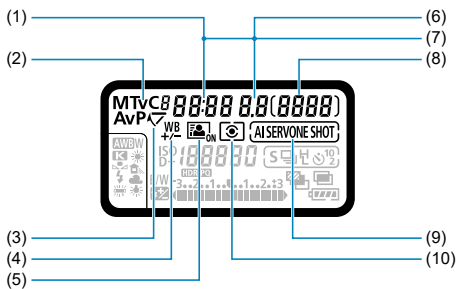
* 設定に応じた部分のみ表示されます。

* AFフレームは赤く表示されます。



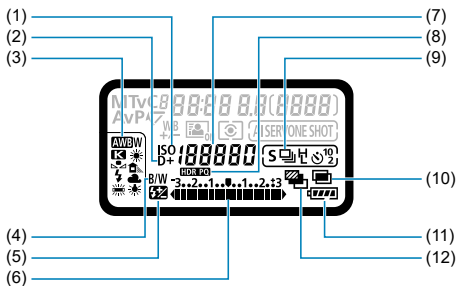
(1)	〈ISO〉 ISO表示
(2)	マニュアル露出
(3)	〈✳〉 AEロック AEB撮影中 マルチスポット測光
(4)	〈⚡〉 ストロボ充電完了 FEロック連動範囲外警告
(5)	〈⚡*〉 FEロック FEB撮影中 〈⚡H〉 ハイスピードシンクロ
(6)	AFフレーム選択表示 ([::] AF、SEL [1]、SEL AF) AFフレーム登録 ([::] HP、SEL [1]、SEL HP) 時刻 カード警告 (Card 1/2/1,2)
(7)	シャッタースピード バルブ (buLb) FEロック (FEL) データ処理中 (buSY) マルチ電子ロック警告 (L) カード未装填警告 (Card) エラー表示 (Err)
(8)	〈●〉 合焦マーク
(9)	〈↙↘〉 AF作動表示
(10)	ISO感度 ダストデリートデータ取得 (- - - -)
(11)	〈D+〉 高輝度側・階調優先
(12)	撮影可能枚数 カードフル警告 (Full) カードエラー警告 (Err) エラー番号
(13)	露出レベル表示 (設定値) 露出補正量 AEBレベル
(14)	絞り数値 AIバウンスモード中 (AI_b) AEBステップ量 ダストデリートデータ取得 (- -)
























上面表示パネル



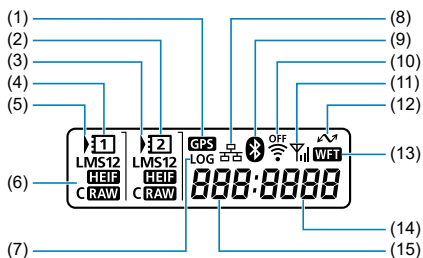
-
- (1) シャッタースピード
バルブ (buLb)
バルブ露光時間 (分:秒)
FEロック (FEL)
データ処理中 (buSY)
マルチ電子ロック警告 (L)
撮像素子の清掃中 (CLn)
AIバウンスモード中 (AI_b)
カード未装填警告 (Card)
エラー表示 (Err)
-
- (2) 撮影モード
P プログラムAE
Av 絞り優先AE
M マニュアル露出
Tv シャッター優先AE
C1/C2/C3 カスタム撮影モード
-
- (3) <M> ミラーアップ撮影
-
- (4) <WB> ホワイトバランス補正
-
- (5) <O.I.F.> オートライティングオペティマイザ
-
- (6) 絞り数値
AEBステップ量
ダストデリートデータ取得 (- -)
-
- (7) AFフレーム選択表示
([::] AF、SEL [], SEL AF)
AFフレーム登録
([::] HP、SEL [], SEL HP)
カード警告 (Card 1/2/1,2)
-
- (8) 撮影可能枚数
セルフタイマー作動表示
バルブ露光時間 (時間)
マニュアルホワイトバランス取得表示 ([*])
カードフル警告 (Full)
カードエラー警告 (Err)
エラー番号
画像記録中の残り枚数
-
- (9) AF動作
ONE SHOT ワンショットAF
AI SERVO AIサーボAF
-
- (10) 測光モード
 評価測光
 部分測光
 スポット測光
 中央部重点平均測光
-

* 設定に応じた部分のみ表示されます。



-
- (1) 〈ISO〉ISO表示
-
- (2) 〈D+〉高輝度側・階調優先
-
- (3) ホワイトバランス
 オート（雰囲気優先）
 オート（ホワイト優先）
 太陽光
 日陰
 くもり
 白熱電球
 白色蛍光灯
 ストロボ
 マニュアル
 色温度/カスタムホワイトバランス
-
- (4) 〈B/W〉モノクロ撮影
-
- (5) 〈〉ストロボ調光補正
-
- (6) 露出レベル表示（設定値）
露出補正量
AEBレベル
ストロボ調光補正量
-
- (7) ISO感度
色温度数値
マニュアルホワイトバランス番号
カスタムホワイトバランス（PC-*）
ダストデリートデータ取得（-----）
-
- (8) 〈〉HDR PQ
-
- (9) ドライブモード
 1枚撮影
 H 高速連続撮影
 連続撮影
 L 低速連続撮影
 S 1枚：ソフト動作
 S C ソフト連続撮影
 S L ソフト低速連続撮影
 10 セルフタイマー：10秒
 2 セルフタイマー：2秒
-
- (10) 〈〉多重露出撮影
-
- (11) バッテリー残量
-
- (12) 〈〉AEB撮影
-

背面表示パネル



(1) <GPS> GPS受信状態*1

(2) <[2]> カード2装填表示

(3) <▶> カード2選択マーク

(4) <[1]> カード1装填表示

(5) <▶> カード1選択マーク

(6) 画像サイズ

L ラージ

M1 ミドル1

M2 ミドル2

S スモール

HEIF ヒーフ

RAW ロウ

CRAW コンパクトロウ

(7) <LOG> ログ機能

(8) <品> 有線LAN接続*2

(9) <Bluetooth> Bluetooth接続

(10) <Wi-Fi> Wi-Fi機能

(11) <電波強度> 電波強度

(12) <通信マーク> 通信マーク*3

(13) <WFT> WFT接続

(14) 画像番号

(15) フォルダ番号

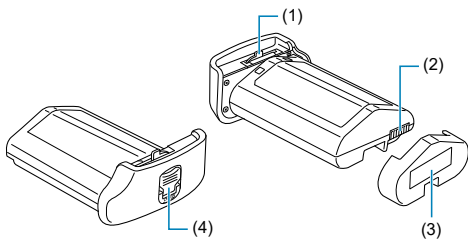
* 1 : 内蔵GPS機能使用時に表示

* 2 : 有線LAN接続時に表示

* 3 : パソコン、スマートフォン接続時に表示

* 設定に応じた部分のみ表示されます。

バッテリーパック LP-E19



(1) ロックレバー

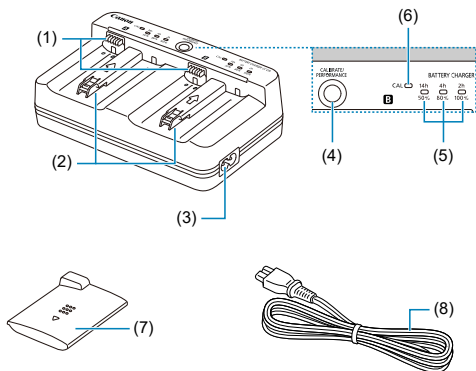
(2) 接点

(3) 保護カバー

(4) 着脱つまみ

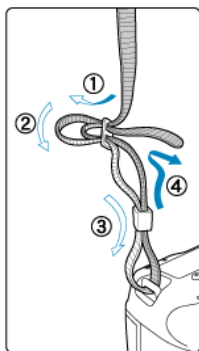
バッテリーチャージャー LC-E19

バッテリーパック LP-E19用の充電器です (☑)。



-
- (1) 接点
 - (2) バッテリー取り付け部
 - (3) 電源コードソケット
 - (4) 劣化度確認ボタン/キャリブレーションボタン
 - (5) 充電ランプ/劣化度確認ランプ/放電時間ランプ
 - (6) キャリブレーション (放電) ランプ
 - (7) 保護カバー (2個)
 - (8) 電源コード
-

ストラップ（吊りひも）の取り付け方



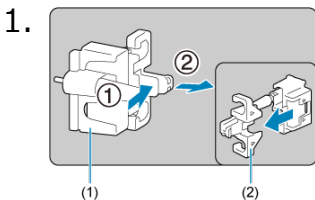
ストラップの先端をストラップ取り付け部の下から通し、さらにストラップに付いている留め具の内側を通します。留め具の部分のたるみを取り、引っぱっても留め具の部分がゆるまないことを確認してください。

ケーブルプロテクターの使い方

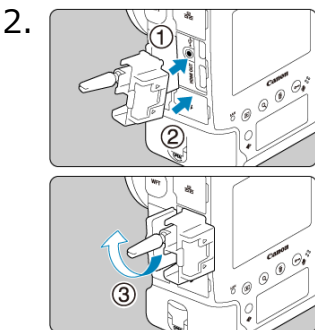
カメラとパソコンを接続するときは、**付属または純正のインターフェースケーブル**を使用してください。

また、**カメラにインターフェースケーブルを接続するときは、付属のケーブルプロテクターを使用してください。**ケーブルプロテクターを使用すると、ケーブルが不用意に抜けることを防止したり、端子の破損を防止することができます。

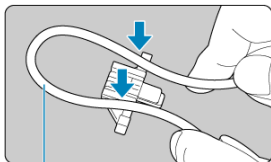
付属インターフェースケーブル／純正HDMIケーブル（別売）使用時



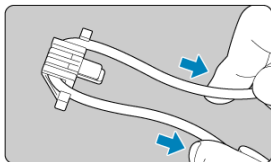
- (1) プロテクター本体
(2) クランパー部



3.

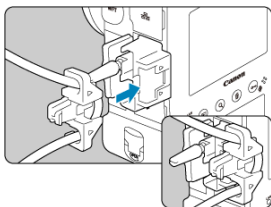


(3)

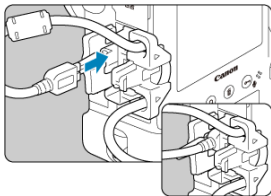


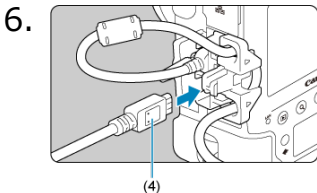
(3) 付属インターフェースケーブル

4.



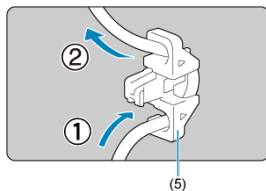
5.





(4) HDMIケーブル（別売）

別売の純正インターフェースケーブル使用時



別売のキャノン純正インターフェースケーブルを使用するときは、図のようにケーブルをクリンパー部（5）に通してからプロテクター本体に取り付けてください。

⚠ 注意

- ケーブルプロテクターを使用せずにインターフェースケーブルを接続すると、デジタル端子が破損する恐れがあります。
- インターフェースケーブルがデジタル端子にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

📖 参考

- カメラとテレビを接続するときは、HDMIケーブル HTC-100の使用をおすすめします。HDMIケーブル接続時もケーブルプロテクターの使用をおすすめします。

ソフトウェア

- [☑ ソフトウェアの概要](#)
- [☑ EOS用または専用ソフトウェアのダウンロード/インストール](#)
- [☑ ソフトウェア使用説明書のダウンロード](#)

ソフトウェアの概要

EOS用各種ソフトウェアの概要を説明します。なお、ソフトウェアのダウンロード/インストールは、インターネットに接続して行います。インターネット非接続の環境では、ダウンロード/インストールはできません。

EOS Utility

カメラとパソコンを接続し、撮影画像（静止画／動画）のパソコンへの取り込み、カメラの各種設定、パソコン操作によるリモート撮影などを行うソフトウェアです。

Digital Photo Professional

RAW画像を撮影される方におすすめのソフトウェアです。画像の閲覧・編集・印刷などができます。また、RAW動画の再生、編集などもできます。

Picture Style Editor

ピクチャースタイルを編集し、オリジナルピクチャースタイルファイルの作成・保存ができます。画像処理上級者向けのソフトウェアです。

GPS Log File Utility

GPSログファイル（.LOG）をKMZファイル形式に変換を行うためのソフトウェアです。

EOS用または専用ソフトウェアのダウンロード/インストール

ソフトウェアは必ず最新版をインストールしてください。
旧バージョンのソフトウェアがインストールされている場合は、上書きインストールしてください。

⚠ 注意

- ソフトウェアをインストールする前に、カメラとパソコンを絶対に接続しないでください。ソフトウェアを正しくインストールできません。
- インターネットに接続していない状態では、パソコンにソフトウェアをインストールすることはできません。
- 旧バージョンのソフトウェアでは、このカメラで撮影した画像をパソコンで正しく表示できません。また、このカメラで撮影したRAW画像の処理はできません。

1. ソフトウェアをダウンロードする

- パソコンからインターネットに接続し、キヤノンの下記のWebサイトにアクセスしてください。

<https://cam.start.canon/>



- ソフトウェアをダウンロードします。
- ソフトウェアによっては、シリアル番号の入力が必要です。シリアル番号は、カメラの底面に記載されています。
- パソコン上で解凍します。

- **Windows**

表示されたインストーラーファイルをクリックすると、インストーラーが起動します。

- **macOS**

dmgファイルが生成/表示されるので、次の手順でインストーラーを起動してください。

1.dmgファイルをダブルクリックする

- デスクトップにドライブアイコンと、インストーラーファイルが表示されます。
インストーラーファイルが表示されないときは、ドライブアイコンをダブルクリックすると、インストーラーファイルが表示されます。

2.インストーラーファイルをダブルクリックする

- インストーラーが起動します。

2. 画面の指示に従ってインストールする

ソフトウェア使用説明書のダウンロード

ソフトウェア使用説明書（PDF ファイル）は、キヤノンのホームページからパソコンなどにダウンロードすることができます。

- ソフトウェア使用説明書のダウンロードサイト

<https://cam.start.canon/>



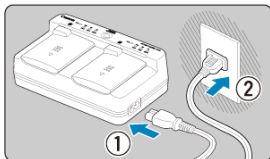
準備と基本操作

この章では、撮影に入る前にあらかじめ準備しておくことと、基本の操作について説明しています。

- [バッテリーを充電する](#)
- [バッテリーを入れる／取り出す](#)
- [カードを入れる／取り出す](#)
- [電源を入れる](#)
- [レンズを取り付ける／取り外す](#)
- [基本操作](#)
- [メニュー機能の操作と設定](#)
- [クイック設定](#)
- [画面にタッチして操作する](#)

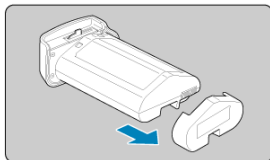
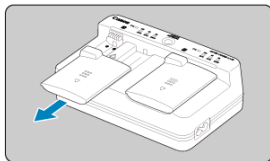
バッテリーを充電する

1. 充電器をコンセントにつなぐ



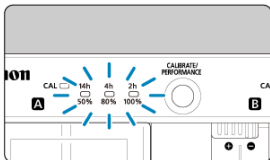
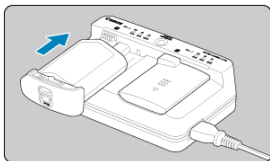
- 電源コードを充電器に接続し、電源プラグをコンセントに差し込みます。
- バッテリーを取り付けていない状態では、すべてのランプが消灯しています。

2. 保護カバーを外す



- 充電器の保護カバー（付属）と、バッテリーの保護カバー（付属）を取り外します。

3. 充電する



- 保護カバーを外したときと逆の要領で、バッテリーをスライドさせ、充電器にしっかりと取り付けます。
 - **A**、**B**どちら側に取り付けても充電できます。
 - 充電が始まり、充電ランプが緑色に点滅または点灯します。
 - **3つの充電ランプ (50%/80%/100%) が緑色に点灯すると充電完了です。**
-
- 使い切ったバッテリーの充電に要する時間は、常温 (+23℃) で1本あたり約2時間50分です。なお、充電時間は周囲の温度や残量によって大きく異なります。
 - 安全に充電を行うため、低温下 (+5℃～+10℃) では充電時間が長くなります (最長約5時間)。

⚠ 注意

- 付属のバッテリーパック LP-E19を充電するときは、付属のバッテリーチャージャー LC-E19を使用してください。バッテリーチャージャー LC-E4N/LC-E4では充電できません。
- バッテリーの状態によっては100%まで充電できないことがあります。

📖 参考

- 充電器にバッテリーを2本取り付けたときは、取り付け順に充電が行われます。

- **購入時、バッテリーはフル充電されていません**
充電してからお使いください。
- **充電は使用する当日か前日にする**
充電して保管していても、自然放電により少しずつバッテリーの容量が少なくなっています。
- **充電が終わったら、バッテリーを取り外し、プラグをコンセントから抜く**
バッテリーと充電器を使わないときは、それぞれに付属の保護カバーを取り付けておきます。
- **バッテリーは0℃～+45℃の範囲で使用する**
バッテリーの性能を十分に発揮させるためには、+10℃～+30℃の範囲でを使用することをおすすめします。低温下ではバッテリーの性能が一時的に低下し、使用できる時間が短くなることがあります。
- **カメラを使わないときは、バッテリーを取り出しておく**
バッテリーを長期間カメラに入れたままにしておくと、微少の電流が流れて過放電状態となり、バッテリー寿命短縮の原因になります。バッテリーに保護カバーを取り付けて保管してください。なお、フル充電して保管すると、性能低下の原因になることがあります。
- **充電器は海外でも使うことができる**
充電器は、家庭用電源のAC100～240V 50/60Hzに対応しています。お使いになる国や地域に対応した、市販の電源プラグ変換アダプターを使用してください。なお、充電器が故障する恐れがありますので、海外旅行用の電子変圧器などに接続しないでください。
- **バッテリーの劣化度が確認できる**
充電中に充電器の〈PERFORMANCE〉ボタンを押すと、3つのランプの緑色の点灯でバッテリーの劣化度を確認することができます。
 - ● ● : 劣化していません
 - ● ○ : 少し劣化しています
 - ○ ○ : バッテリーの買い換えをおすすめします
- **フル充電したのにすぐ使えなくなるときはバッテリーの寿命**
バッテリーの劣化度を確認した上で (🔋)、新しいバッテリーをお買い求めください。

? 〈CAL〉ランプが点滅した

- バッテリーに充電できる容量を把握して、カメラのバッテリー残量表示が正しく行われるようにするため、キャリブレーション（放電）を推奨する表示です。
- 〈CAL〉ランプが緑色に点滅したときは、キャリブレーションを行うことをおすすめします。なお、充電したいときは、そのまま約10秒間待つと自動的に充電が始まります。
- キャリブレーションを行うときは、〈CAL〉ランプが緑色に点滅している間に〈CALIBRATE〉ボタンを押します。〈CAL〉ランプが緑色に点灯して放電が始まります。
- 放電完了後、自動的に充電が行われますが、バッテリー残量が多いほど放電に時間がかかります。〈14h〉〈4h〉〈2h〉は、放電に要する時間の目安で、〈14h〉のランプが緑色に点滅しているときは、放電完了までに約4時間から最大16時間程度かかります。
- キャリブレーションを行うと（放電が行われ）、一旦バッテリー残量が空の状態になるため、その後の充電に約2時間50分かかります。キャリブレーションを途中で中止してバッテリーを充電したいときは、充電器からバッテリーを取り外し、再度取り付けます。

⚠ 注意

- キャリブレーションを行わずにバッテリーの充電/使用を何度も繰り返すと、バッテリー残量 (🔋) が正しく表示されないことがあります。
- 充電とキャリブレーション（放電）を2本同時に行うことはできませんが、2本同時に充電したり、2本同時にキャリブレーションすることはできません。
- キャリブレーションを行うときは、バッテリーの残量が少ない状態で行うことをおすすめします。フル充電されたLP-E19のときは、キャリブレーション開始から充電完了まで約18時間50分かかります。

? バッテリーを取り付けた直後に〈100%〉のランプだけが点灯した

- 充電を開始してすぐに〈100%〉のランプだけが緑色に点灯したときは、バッテリー内部の温度が適正範囲外の状態です。バッテリー内部の温度が+5~+40℃の範囲内になると、自動的に充電が始まります。
- 充電器にバッテリーを2本取り付けたときに、後から取り付けたバッテリー側の〈100%〉のランプだけが緑色に点灯したときは、充電待機状態を表しています。

? 3つのランプが全部点滅した

- バッテリーパック LP-E19以外のバッテリーを充電器に取り付けたときは充電できません。3つのランプと〈CAL〉ランプが緑色で点滅します。
- 充電時に3つのランプが緑色で順番に点滅したときや、3つのランプが緑色で順番に点滅しながら、〈CAL〉ランプも緑色で点滅したときは、バッテリーを充電器から取り外し、お買い上げになった販売店、または修理受付窓口にご連絡ください。
- キャリブレーション時に、3つのランプが点滅したときは、バッテリーを充電器から取り外し、お買い上げになった販売店、または修理受付窓口にご連絡ください。

バッテリーを入れる／取り出す

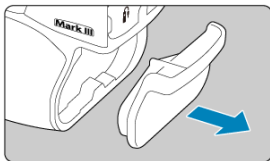
☑ [入れ方](#)

☑ [取り出し方](#)

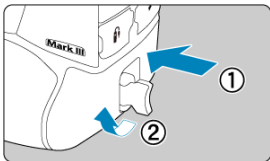
充電したバッテリーパック LP-E19をカメラに入れます。
このカメラのファインダーは、バッテリーを入れると明るくなり、バッテリーを取り出すと暗くなります。

入れ方

1. バッテリー収納部キャップを取り外す



2. バッテリーを入れる

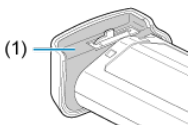


- バッテリーを奥までしっかりと入れ、着脱つまみを矢印の方向に回します。

⚠ 注意

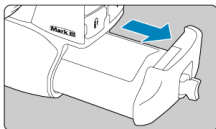
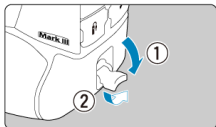
- このカメラで初めて使用するバッテリーを入れたときは、電源が入るまでに時間がかかることがあります。
- バッテリーパック LP-E19以外は使用できません。

📖 参考



- バッテリーの防滴パッキン (1) にゴミなどが付着しているときは、湿らせた綿棒などで取り除いてください。

1. 着脱つまみを回してバッテリーを取り出す



- 電源スイッチが〈OFF〉になっていることを確認します (☑)。
- 着脱つまみを起こし、矢印の方向に回して取り出します。
- ショート防止のため、必ずバッテリーに付属の保護カバー (☑) を取り付けてください。
- カメラを使用しないときは、バッテリー収納部キャップ (☑) をカメラに取り付けてください。

カードを入れる／取り出す

☑ 入れ方

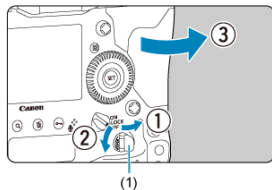
☑ 取り出し方

このカメラは、カードを2枚入れることができます。どちらかのスロットにカードが入っていれば、撮影した画像を記録することができます。

カードを2枚入れたときは、どちらのカードを使用するか選択したり、両方のカードに同時に画像を記録することができます (📷)。

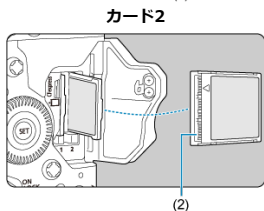
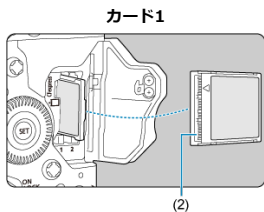
入れ方

1. カバーを開ける



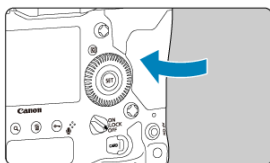
- カードスロットカバー開放つまみ (1) を起こし、矢印の方向に回して開きます。

2. カードを入れる



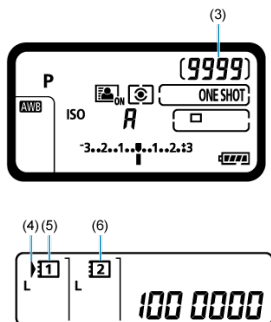
- 左側に入れたカードが [1]、右側に入れたカードが [2] になります。
- カードの表を手前にして、溝 (2) がある方を奥にして差し込みます。**入れる向きを間違えるとカメラが壊れることがあります。**
- カード取り出しボタン (灰色) がせり出します。

3. カバーを閉める



- 「カチッ」と音がするまでカバーを押します。

4. 電源スイッチを〈ON〉にする (🔌)



- (3) 撮影可能枚数
- (4) カード選択マーク
- (5) カード1
- (6) カード2

- 上面表示パネルに撮影可能枚数が表示されます。
- 背面表示パネルには、装填したカードが表示されます。
〈1〉マークが付いているカードに画像が記録されます。

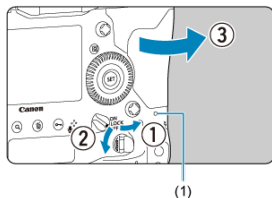
📢 注意

- CFexpressカード以外のカードは使用できません。

📖 参考

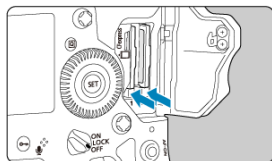
- 撮影可能枚数は、使用するカードの空き容量や、記録画質、ISO感度などにより変わります。
- [📷: カードなしリリース] を [しない] に設定すると、カードの入れ忘れを防止することができます (🔌)。

1. カバーを開ける



- 電源スイッチを〈OFF〉にします。
- アクセスランプ (1) が消えていることを確認して、カバーを開きま
す。
- モニターに「書き込み中...」と表示されたときは、カバーを閉じてくだ
さい。

2. カードを取り出す



- カード取り出しボタンを押し込むと、カードが出ます。
- カードをまっすぐに取り出して、カバーを閉じます。

注意

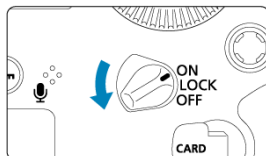
ライブビュー撮影／動画撮影時に画面に赤い罫が表示されたときは、カードをすぐに取り出さないでください。カメラ内部の発熱により、カードが熱くなっていることがあります。電源スイッチを〈OFF〉にして撮影を休止し、しばらく経ってからカードを取り出してください。撮影直後に熱くなっているカードを取り出すと、カードを落下させてカードが破損する恐れがあります。カードを取り出すときは十分注意してください。

! 注意

- アクセスランプが点灯／点滅しているときは、カードへの記録／読み出し中や、消去中、データ転送中です。カードスロットカバーを開けないでください。また、アクセスランプが点灯／点滅しているときに次のことを行うと、画像データが壊れたり、カードやカメラ本体が損傷する原因になるため、絶対に行わないでください。
 - カードを取り出す
 - バッテリーを取り出す
 - カメラ本体に振動や衝撃を与える
 - 電源コードの抜き差しを行う
(家庭用電源アクセサリ (別売) 使用時)
- 画像が記録されているカードを使用すると、撮影した画像の番号が0001から始まらないことがあります (🔗)。
- モニターにカードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、カードの抜き差しを行ってください。それでも改善しないときは、別のカードに交換してください。
なお、パソコンでカードの内容が読み取れるときは、カード内のデータをすべてパソコンに保存したあと、カメラでカードを初期化してください (🔗)。正常な状態に戻ることがあります。

電源を入れる

- ☑ [日付/時刻/エリアを設定する](#)
- ☑ [表示言語を変更する](#)
- ☑ [撮像素子の自動清掃](#)
- ☑ [バッテリー残量表示について](#)



- 〈ON〉
カメラが作動します。
- 〈LOCK〉
カメラが作動します。マルチ電子ロック機能が働きます (🔒)。
- 〈OFF〉
カメラは作動しません。カメラを使用しないときはこの位置にします。

📱 参考

- カードへの画像記録中に電源スイッチを〈OFF〉にすると、[書き込み中...]が表示され、画像記録が終了してから電源が切れます。




日付/時刻/エリアを設定する

電源スイッチを入れたときに、日付/時刻/エリアの設定画面が表示されたときは、[日付/時刻/エリア](#)を参照して日付/時刻/エリアを設定してください。

表示言語を変更する

表示言語を変更するときは、[言語](#)を参照してください。

撮像素子の自動清掃

- 電源スイッチを〈ON/LOCK〉にしたときと、〈OFF〉にしたときに、撮像素子の自動清掃が行われます（小さな音が鳴ることがあります）。清掃中は、モニターに〈〉が表示されます。
- 清掃中でもシャッターボタンを半押しすると（）、清掃作業が中止され、すぐに撮影することができます。
- 電源スイッチの〈ON/LOCK〉 〈OFF〉を短い時間で繰り返すと、〈〉が表示されないことがありますが、故障ではありません。

バッテリー残量表示について

バッテリーの残量は、電源スイッチを〈ON〉にしたときに表示されます。



表示						
残量 (%)	100~70	69~50	49~20	19~10	9~1	0

参考

- 下記の操作を行うとバッテリーが早く消耗します。
 - シャッターボタン半押し状態を長く続ける
 - AF動作だけを行って撮影しない操作を頻繁に行う
 - レンズの手ブレ補正機能を使用する
 - Wi-Fi機能、Bluetooth機能を使用する
 - モニターを頻繁に使用する
- 実際の撮影条件により、撮影可能枚数が少なくなることがあります。
- レンズの動作にはカメラ本体の電源を使用します。使用するレンズにより、バッテリーが早く消耗することがあります。
- [🔍: バッテリー情報] でバッテリーの状態を確認することができます (🔍)。

レンズを取り付ける／取り外す

[取り付け方](#)

[取り外し方](#)

すべてのEFレンズを使用することができます。なお、RFレンズ、EF-Sレンズ、EF-Mレンズは使用できません。

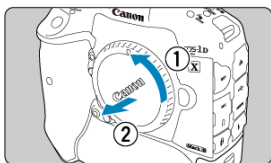
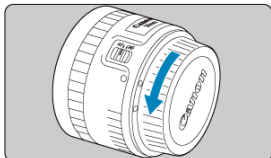
注意

- レンズで太陽を直接見ないでください。失明の原因になります。
- レンズ取り付け／取り外しを行うときは、カメラの電源スイッチを〈OFF〉にしてください。
- 自動ピント合わせのときに、レンズの先端（フォーカスリング）が動くレンズは、動いている部分に触れないでください。

ゴミやほこりについて、普段から以下のことに注意してください

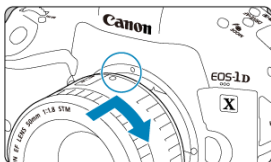
- レンズの交換は、ほこりの少ない場所で素早く行う
- レンズを取り外してカメラを保管するときは、ボディキャップを必ずカメラに取り付ける
- ボディキャップは、ゴミやほこりを落としてからカメラに取り付ける

1. キャップを外す



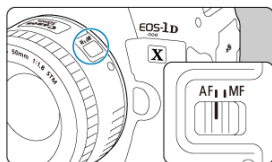
- レンズのダストキャップとボディキャップを矢印の方向に回して外します。

2. レンズを取り付ける



- レンズとカメラの赤いレンズ取り付け指標を合わせ、レンズを矢印方向に「カチッ」と音がするまで回します。

3. レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする

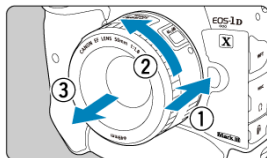


- 〈AF〉はAuto Focus : 自動ピント合わせのことです。
- 〈MF〉はManual Focus : 手動ピント合わせのことです。自動ピント合わせはできません。

4. レンズキャップを外す

取り外し方

レンズロック解除ボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に回す

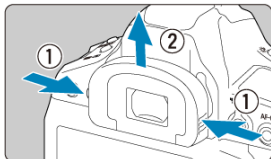


- 回転が止まるまで回してから、取り外します。
- 取り外したレンズにダストキャップを取り付けます。

基本操作

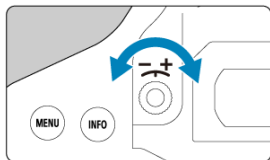
- ☑ [ファインダーの調整](#)
- ☑ [カメラの構え方](#)
- ☑ [シャッターボタン](#)
- ☑ [☀️ メイン電子ダイヤル](#)
- ☑ [🕒 サブ電子ダイヤル](#)
- ☑ [🌀 マルチコントローラー](#)
- ☑ [〈M-Fn〉: マルチファンクションボタン](#)
- ☑ [〈AF-ON〉: AFスタートボタン/スマートコントローラー](#)
- ☑ [〈LOCK〉: マルチ電子ロック](#)
- ☑ [🌞 表示パネル照明](#)
- ☑ [縦位置撮影時の操作](#)
- ☑ [時刻を確認する](#)
- ☑ [ボタンのバックライト](#)
- ☑ [〈INFO〉ボタン](#)

1. アイカップを取り外す



- アイカップの両脇をつまんだまま引き上げて取り外します。

2. 調整する



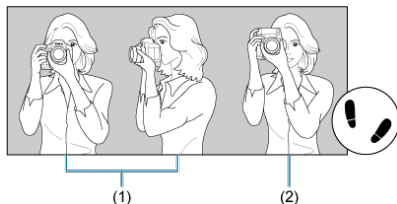
- ファインダー内のAFフレームが最も鮮明に見えるように、つまみを右または左に回します。
- アイカップを取り付けます。

参考

- 視度調整を行ってもファインダーが鮮明に見えないときは、視度補正レンズEg（別売）の使用をおすすめします。

カメラの構え方

手ブレのない鮮明な画像を撮るため、カメラが動かないようにしっかり構えて撮影します。



- (1) 横位置
- (2) 縦位置

1. 右手でグリップを包むようにしっかりと握ります。
2. 左手でレンズを下から支えるように持ちます。
3. 右手人差し指の腹をシャッターボタンに軽くのせます。
4. 脇をしっかり締め、両ひじを軽く体の前に付けます。
5. 片足を軽く踏み出して、体を安定させます。
6. カメラを額に付けるようにして、ファインダーをのぞきます。

参考

- モニターを見ながら撮影するときは、[ライブビュー撮影](#)を参照してください。

シャッターボタン

シャッターボタンは二段階になっています。シャッターボタンを一段目まで浅く押すことを「半押し」といいます。半押しからさらに二段目まで深く押すことを「全押し」といいます。

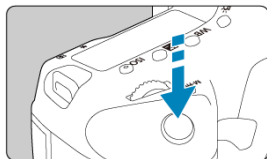
半押し



自動ピント合わせと、自動露出機構によるシャッタースピードと絞り数値の設定が行われます。

露出値（シャッタースピードと絞り数値）が、ファインダー内と上面表示パネルに約6秒間表示されます（測光タイマー/6）。

全押し



シャッターが切れて撮影されます。

● 手ブレしにくい撮影のしかた

手にしたカメラが撮影の瞬間に動くことを「手ブレ」といい、全体がぼやけたような写真になります。鮮明な写真を撮るため、次の点に注意してください。

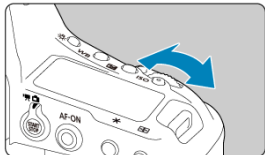
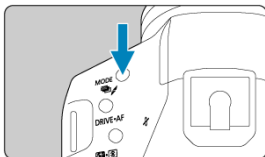
- **カメラの構え方**のように、カメラが動かないようしっかり構える。
- シャッターボタンを半押ししてピントを合わせたあと、ゆっくりシャッターボタンを全押しする。




 参考


- シャッターボタンを一気に全押ししたり、半押し後すぐに全押しすると、一瞬の間を置いてから撮影されます。
- メニュー画面表示中、画像再生中でも、シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

〈〉 メイン電子ダイヤル

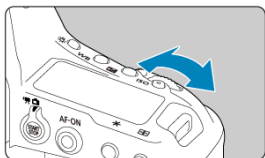
(1) ボタンを押したあと 〈〉 を回す



〈MODE〉 〈DRIVE・AF〉 〈・〉 〈ISO〉 ボタンなどを押すと、その機能の選択状態がタイマーで約6秒間保持されます (6)。その間に 〈〉 を回します。タイマーが終了するか、シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

- 撮影モード、AF動作、測光モード、AFフレーム、ISO感度、〈〉 ボタンによる露出補正、カードの選択などに使用します。

(2) 〈〉 のみを回す



ファインダー内表示や上面表示パネルを見ながら 〈〉 を回します。

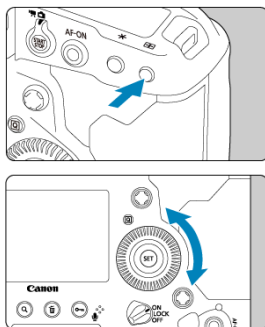
- シャッタースピードや絞り数値の設定などに使用します。



参考



- (1) の操作は、電源スイッチが 〈LOCK〉 () でも行うことができます。

〈○〉 サブ電子ダイヤル

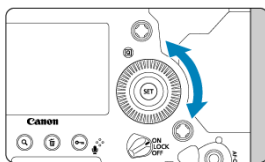
(1) ボタンを押したあと〈○〉を回す



〈MODE〉 〈DRIVE・AF〉 〈・〉 〈ISO〉 ボタンなどを押すと、その機能の選択状態がタイマーで約6秒間保持されます (6)。その間に〈○〉を回します。タイマーが終了するか、シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

- 撮影モード、ドライブモード、ストロボ調光補正、AFフレーム、ISO感度、〈・〉ボタンによる露出補正、ホワイトバランス、画像サイズを選択などに使用します。

(2) 〈○〉のみを回す




ファインダー内表示や上面表示パネルを見ながら〈○〉を回します。

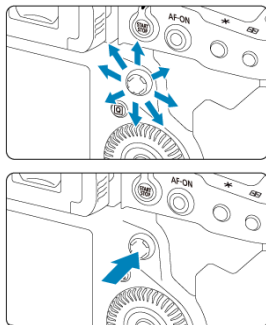
- 露出補正やマニュアル露出時の絞り数値の設定などに使用します。

参考

- (1) の操作は、電源スイッチが〈LOCK〉 () でも行うことができます。

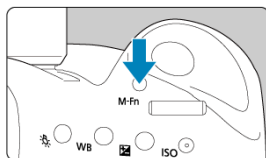
〈〉 マルチコントローラー

〈〉は8方向キーと中央押しボタンの構造になっています。親指の腹を軽くあてて操作します。



- AFフレーム選択、ホワイトバランス補正、ライブビュー撮影／動画撮影時におけるAFフレーム／拡大表示枠の移動、再生時における拡大表示位置の移動、クイック設定などに使用します。
- メニューの選択・設定を行うこともできます。

〈M-Fn〉：マルチファンクションボタン

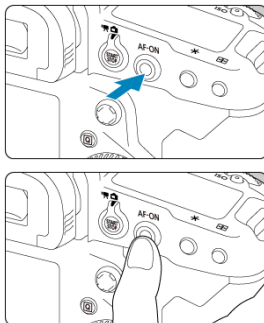






〈M-Fn〉ボタンは測距エリア選択モードの選択 (🔍) / AF方式の選択 (📷), FEロック (🔒), マルチスポット測光 (📍) などに使用します。

測距エリア / AF方式を選ぶときは、〈📷〉ボタンを押したあと (🔍6)、〈M-Fn〉ボタンを押します。

〈AF-ON〉：AFスタートボタン／スマートコントローラー

この部材は中央押しと、指でスライド操作（指を触れたまま動かすこと）ができます。



- 〈AF-ON〉ボタンを押すと、AFを行うことができます。シャッターボタンの半押しと同じ操作です。
- 〈〉ボタンを押したあと、スマートコントローラーを指でスライドすると、AFフレームを移動することができます。AFフレームの移動量（敏感度）を設定することもできます（）。
- [6：操作ボタン カスタマイズ] の [スマートコントローラー] で [AFフレームダイレクト選択] を割り当てることができます。この機能を割り当てると、測光タイマーが作動中であれば、〈〉ボタンを押さずに、スマートコントローラーを指でスライドすると、直接AFフレームを選択し、そのまま〈AF-ON〉ボタンを押し込むと、ピント合わせを行うことができます。

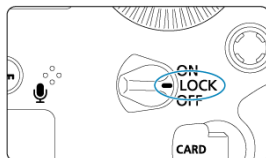
⚠ 注意

スマートコントローラー使用時のご注意

- 手袋をしたまま操作したときに、反応が悪い場合は手袋を外してお使いください。
- 濡れた指で操作すると、動作しにくいことがあります。

〈LOCK〉：マルチ電子ロック

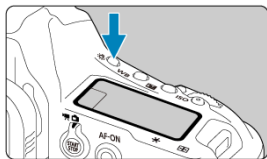
[点6：マルチ電子ロック] を設定し (🔒)、電源スイッチを〈LOCK〉位置にすると、メイン電子ダイヤル、サブ電子ダイヤル、マルチコントローラーが不用意に動いたり、スマートコントローラーやタッチパネルに意図せずに触れたりして、設定が変わることを防止することができます。



📖 参考

- 電源スイッチが〈LOCK〉位置の状態では、禁止した操作部材を操作すると、ファインダー内と上面表示パネルに〈L〉、クイック設定画面 (🔒) に [LOCK] が表示されます。
- 初期状態で電源スイッチを〈LOCK〉の位置にしたときは、〈🔒〉がロックされます。

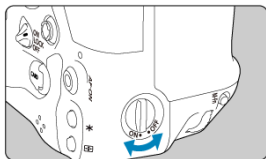
〈☾〉 表示パネル照明



〈☾〉 ボタンを押すと、上面表示パネルと背面表示パネルを照明することができます。〈☾〉 ボタンを押すたびに点灯 (☾6) / 消灯します。
なお、バルブ撮影時は、シャッターボタンを全押しすると照明が消えます。

縦位置撮影時の操作

カメラの下部には、縦位置撮影用のボタン、ダイヤル、マルチコントローラーが配置されています (☑)。



- 縦位置撮影用の操作部材を使用するときは、縦位置操作スイッチを〈ON〉にします。
- 使用しないときは、誤って作動しないように〈OFF〉にします。

☑ 参考

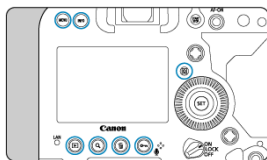
- 縦位置マルチファンクションボタン2、縦位置絞り込みボタン (☑) は、縦位置操作スイッチが〈OFF〉の位置でも作動します。

時刻を確認する



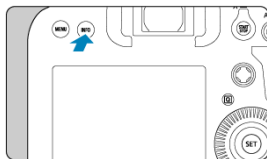
ファインダーをのぞきながら〈ISO〉ボタンを押すと、ファインダー内で時刻を確認することができます (Ⓔ6)。

ボタンのバックライト



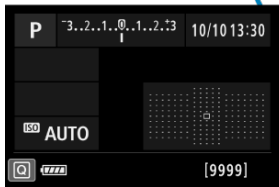
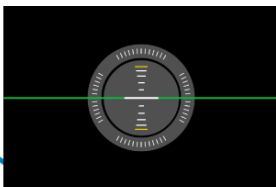
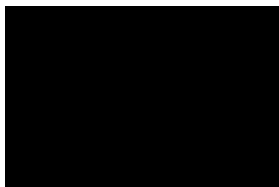
表示パネルの点灯中、またはメニュー画面の表示中、画像の再生中、クイック設定画面の表示中は、〈MENU〉 〈INFO〉 〈Q〉 〈▶〉 〈Q〉 〈🗑〉 〈On/Off〉 ボタンが点灯します。暗い場所では、ボタンの配置を確認することができます。シャッターボタンを半押しするなどして、測光タイマーが作動すると、各ボタンは消灯します。

〈INFO〉ボタン

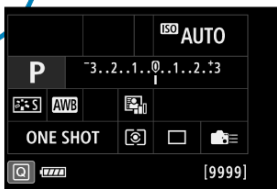


〈INFO〉ボタンを押すたびに情報表示内容が切り換わります。
下記は、静止画撮影時の画面例です。

水準器



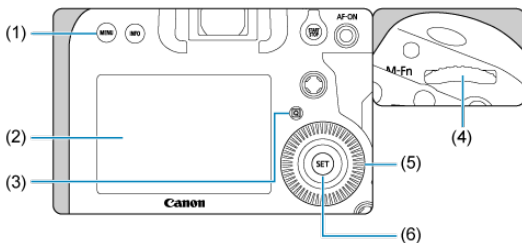
クイック設定カスタマイズ画面



クイック設定画面

メニュー機能の操作と設定

- ☑ [メニュー画面](#)
- ☑ [メニュー機能の設定操作](#)
- ☑ [メニュー項目の灰色表示](#)



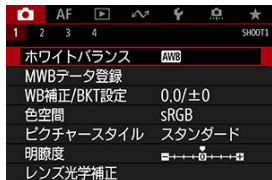
-
- (1) 〈MENU〉ボタン
 - (2) モニター
 - (3) 〈AF-ON〉ボタン
 - (4) 〈〉メイン電子ダイヤル
 - (5) 〈〉サブ電子ダイヤル
 - (6) 〈SET〉ボタン
-

メニュー画面




-
- (1) メインタブ
 - (2) サブタブ
 - (3) メニュー項目
 - (4) 📷: 撮影
 - (5) **AF**: AF
 - (6) ▶: 再生
 - (7) 📶: 通信機能
 - (8) 🛠: 機能設定
 - (9) ⋯: カスタム機能
 - (10) ★: マイメニュー
 - (11) 設定内容
-

1. メニューを表示する

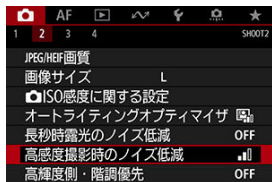



- 〈MENU〉ボタンを押すと、メニューが表示されます。

2. タブを選ぶ

- 〈Q〉ボタンを押すと、メインタブ（系統）が切り換わります。
- 〈〉を回してサブタブを選びます。

3. 項目を選ぶ



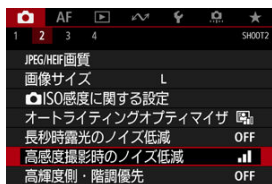
- 〈〉を回して項目を選び、〈SET〉を押します。

4. 内容を選ぶ



- 〈〉を回して内容を選びます。
- 現在設定されている内容は青色で表示されます。

5. 内容を設定する



- 〈〉を押すと設定されます。

6. 設定を終了する

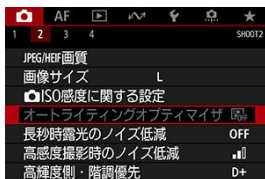
- 〈MENU〉ボタンを押すと、撮影準備状態に戻ります。

参考

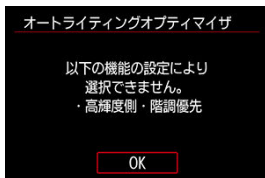
- これ以降のメニュー機能の説明は、〈MENU〉ボタンを押して、メニュー画面が表示されていることを前提に説明しています。
- メニュー画面にタッチしたり、〈〉でメニュー機能の操作を行うこともできます。
- 操作の途中でキャンセルするときは、〈MENU〉ボタンを押します。

メニュー項目の灰色表示

例：高輝度側・階調優先設定時



灰色で表示されている項目は設定できません。すでに設定されている他の機能が優先されるためです。



灰色で表示されている項目を選び(Ⓢ)を押すと、優先されている機能を確認することができます。

優先されている機能の設定を解除すると、灰色で表示されていた項目が設定できるようになります。

注意

- 項目によっては、優先されている機能を確認できないことがあります。

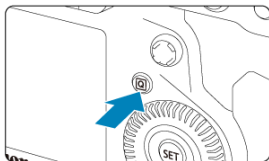
参考

- [🔧: カメラの初期化] で [設定項目を選んで初期化] の [基本設定] を選ぶと、メニュー機能の設定を初期状態に戻すことができます (🔄)。

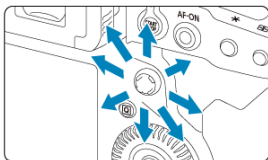
クイック設定


モニターに表示されている項目を直接選択して、直感的な操作で設定することができます。クイック設定の基本操作は、クイック設定画面、クイック設定カスタマイズ画面 (🔍) で共通です。

1. <🔍> ボタンを押す (🔍10)



2. 項目を選ぶ



- 〈〉で選びます。

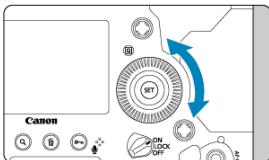
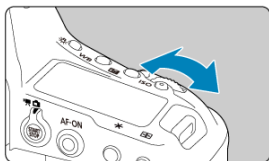




- ファインダー撮影時の画面例です。



- ライブビュー撮影時の画面例です。

3. 内容を選ぶ



- 〈〉または〈〉を回して設定を変更します。さらにボタンを押して設定する項目もあります。

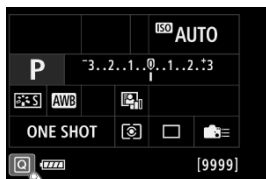
画面にタッチして操作する

☑ [タッチ](#)

☑ [ドラッグ](#)

タッチ

画面例（クイック設定）



- モニターに指を触れて、指を離します。
- 例えば [Q] をタッチすると、クイック設定の状態になります。[↶] をタッチすると、元の画面に戻ります。

参考

- [🔊: 電子音] を [タッチ音切] に設定すると、タッチ操作時に電子音が鳴らないようになります (🔊)。
- [🔊: タッチ操作] でタッチしたときの反応を設定することができます (🔊)。
- [🔊: タッチ操作] で [📷: 撮影時の誤操作防止] のチェックを付けると、以下の機能を設定するための「ボタン操作」を行ったときに（メニューから機能設定を行ったときを除く）、モニターにタッチして設定変更ができなくなります（タッチ無効）。これにより、鼻がモニターに触れて、意図せず設定が変わるのを防止することができます。
 - ホワイトバランス
 - 露出補正
 - ISO感度
 - 撮影モード
 - AF動作・ドライブモード
 - 調光補正・測光モード
 - AEB設定
 - 測距点選択

ドラッグ

画面例（メニュー画面）



- モニターに指を触れたまま動かします。

撮影モード

シャッタースピードや絞り数値を選択したり、露出を自分の好みに変えるなど、カメラの設定を思いどおりに変えることで、さまざまな撮影ができます。

参考

- あらかじめ電源スイッチを〈ON〉の位置にしてください。



- [P : プログラムAE撮影](#)
- [Tv : シャッター優先AE](#)
- [Av : 絞り優先AE](#)
- [M : マニュアル露出](#)
- [bulb : 長時間露光 \(バルブ\) 撮影](#)

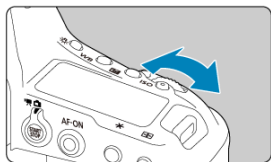
P : プログラムAE撮影

被写体の明るさに応じて、カメラがシャッタースピードと絞り数値を自動的に設定します。

* 〈P〉はProgram（プログラム）の略です。

* AEはAuto Exposure（オートエクスポージャー）の略で自動露出のことです。

1. 撮影モードを〈P〉にする



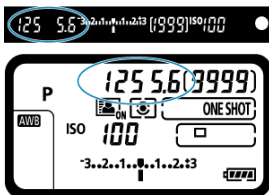
- 〈MODE〉ボタンを押し、〈〉または〈〉を回して〈P〉を選びます。

2. ピントを合わせる



- ファインダーをのぞいて、AFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
- ピントが合うと、ファインダー内右下に合焦マーク（●）が点灯します（ワンショットAF時）。
- シャッタースピードと絞り数値が自動的に決まり、ファインダー内と上面表示パネルに表示されます。

3. 表示を確認する

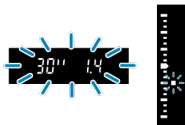


- シャッタースピードと絞り数値が点滅していなければ、標準露出です。

4. 撮影する

- 構図を決め、シャッターボタンを全押しします。

注意





- シャッタースピードの「30」と小さな絞り数値が点滅するときは、被写体が暗すぎます。
ISO感度を上げるか、ストロボを使用してください。



- シャッタースピードの「8000」と大きな絞り数値が点滅するときは、被写体が明るすぎます。
ISO感度を下げるか、減光用のNDフィルター（別売）を使用してください。

参考

プログラムシフトについて

- プログラムAEのときは、自動的に設定されたシャッタースピードと絞り数値の組み合わせ（プログラム）を、同じ露出のままで自由に変えることができます。これを「プログラムシフト」といいます。
- プログラムシフトは、シャッターボタンを半押ししてから、希望するシャッタースピード、または絞り数値が表示されるまで（）を回します。
- プログラムシフトは、測光タイマー（6）が終了したとき（露出表示が消えたとき）に自動的に解除されます。
- ストロボを使用したときは、プログラムシフトはできません。

🔦ブレの少ない画像を撮影するには

- 1枚：ソフト動作 (🔦)、ミラーアップ撮影 (🔦) などが効果的です
- 連続撮影を行うときは、ソフト連続撮影、ソフト低速連続撮影が効果的です (🔦)。
- 撮影機材の重さに耐えられる三脚を使用してください。また、カメラを三脚に確実に固定してください。
- リモートスイッチなどの使用をおすすめします (🔦)。

?こんなときは

- **合焦マーク (●) が点滅してピントが合わない**
明暗差 (コントラスト) のある部分にエリアAFフレームを合わせてシャッターボタンを半押ししてください。また、被写体に近づきすぎているときは、離れて撮影してください。
- **複数のAFフレームが同時に表示される**
表示されているすべての位置にピントが合っています。被写体に合わせたAFフレームも表示されているときは、そのまま撮影してください。
- **合焦マーク (●) が点灯しない**
AIサーボAFでピントを合わせ続けている状態です (AF作動表示 <AF> は点灯しますが、合焦マーク (●) は点灯しません)。
なお、AIサーボAFのときは、フォーカスロック撮影 (🔦) はできません。
- **シャッターボタンを半押ししてもピント合わせが行われない**
レンズのフォーカスモードスイッチが <MF> (手動ピント合わせ) になっているときは、<AF> (自動ピント合わせ) にしてください。
- **シャッタースピードと絞り数値が点滅している**
光が不足している (暗い) ため、そのまま撮影すると手ブレによって被写体が鮮明に写らないことがあります。三脚を使用するか、EL/EXスピードライト (別売/🔦) を使用して撮影することをおすすめします。
- **外部ストロボを使用したのに、画面の下側が不自然に暗くなった**
レンズにフードが付いていると、ストロボの光がフードで遮られることがあります。写したいものが近くにあるときは、フードを取り外してストロボ撮影を行ってください。

Tv : シャッター優先AE

シャッタースピードを設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが標準露出に必要な絞り数値を自動的に設定します。シャッタースピードを速くすると、動きの速い被写体の瞬間をとらえることができます。逆にシャッタースピードを遅くすると、流動感を表現することができます。

* 〈Tv〉はTime value (タイムバリュー) の略で時間量のことです。



流動感のある写真
(遅いスピード : 1/30秒)



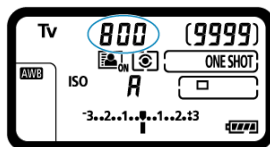
動きを止めた写真
(速いスピード : 1/2000秒)


1. 撮影モードを〈Tv〉にする



- 〈MODE〉ボタンを押し、 または  を回して 〈Tv〉を選びます。

2. シャッタースピードを設定する



- 上面表示パネルを見ながら  を回します。

3. ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- 絞り数値が自動的に決まります。


4. 表示を確認して撮影する




- 絞り数値が点滅していなければ標準露出です。

注意



- 小さな絞り数値が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。絞り数値の点滅が止まるまで〈〉を回してシャッタースピードを遅くするか、ISO感度を上げます。



- 大きな絞り数値が点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。絞り数値の点滅が止まるまで〈〉を回してシャッタースピードを速くするか、ISO感度を下げます。

参考

シャッタースピードの表示について

- 「8000」から「4」までは分数の分母を表しています。例えば「125」は1/125秒を表しています。また、「0"5」は0.5秒を、「15"」は15秒を表しています。

Av : 絞り優先AE

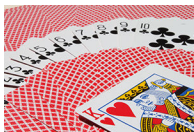
[ピントの合う範囲を確認する](#)

絞り数値を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが標準露出に必要なシャッタースピードを自動的に設定します。絞り数値を大きくする（絞りを閉じる）と、ピントの合う範囲が前後に広がります。逆に絞り数値を小さくする（絞りを開く）と、ピントの合う範囲が狭くなります。

* 〈Av〉はAperture value（アパーチャーバリュー）の略で開口量のことです。



背景をぼかした写真
（小さい絞り数値：F5.6）



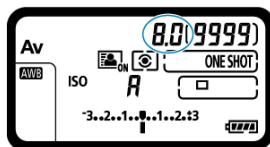
背景にもピントが合った写真
（大きい絞り数値：F32）


1. 撮影モードを〈Av〉にする



- 〈MODE〉ボタンを押し、またはを回して〈Av〉を選びます。

2. 絞り数値を設定する



- 上面表示パネルを見ながら〈〉を回します。

3. ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- シャッタースピードが自動的に決まります。


4. 表示を確認して撮影する




- シャッタースピードが点滅していなければ標準露出です。

注意



- シャッタースピードの「30」が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。シャッタースピードの点滅が止まるまで〈〉を回して絞り数値を小さくする（絞りを開く）か、ISO感度を上げます。



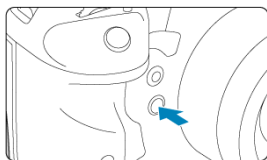
- シャッタースピードの「8000」が点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。シャッタースピードの点滅が止まるまで〈〉を回して絞り数値を大きくする（絞りを閉じる）か、ISO感度を下げます。

参考

絞り数値の表示について

- 数値が大きくなるほど、レンズの絞り径は小さくなります。表示される絞り数値はレンズによって異なります。カメラにレンズが付いていないときは、表示が「00」になります。

ピントの合う範囲を確認する



絞り込みボタンを押すと、そのとき設定されている絞り数値でレンズの絞り込みが行われ、実際にピントの合う範囲（被写界深度）を確認することができます。

参考

- 絞り数値が大きいほどピントの合う範囲は前後に広くなりますが、ファインダーは暗くなります。
- ライブビュー映像を見ながら (☑)、絞り数値を変えて絞り込みボタンを押すと、被写界深度の効果が分かりやすくなります。
- 絞り込みボタンを押している間は、露出が固定された (AEロック) 状態になります。
- スピードライト470EX-AIを取り付けて、<AI.B>スイッチを<F> (フルオート) に設定したときは、絞り込みボタンを押すと、AI.Bフルオート撮影の測距動作を開始します。

M : マニュアル露出

ISOオート設定時の露出補正

自分でシャッタースピードや絞り数値を決めて撮影するときに設定します。露出は、ファインダー内の露出レベル表示を参考にしたり、市販の露出計を利用して自分で任意に決めます。

* 〈M〉はManual（マニュアル）の略です。

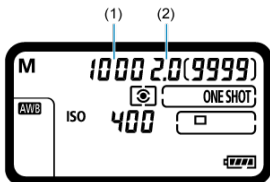
1. 撮影モードを〈M〉にする





- 〈MODE〉ボタンを押し、または \odot を回して〈M〉を選びます。

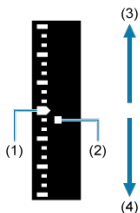
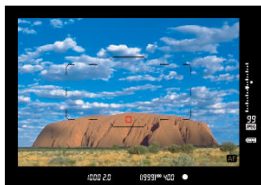
2. ISO感度を設定する

3. シャッタースピードと絞り数値を設定する



- シャッタースピード (1) は 、絞り数値 (2) は \odot を回して設定します。
- 設定できないときは、電源スイッチを〈ON〉の位置にしてから  または \odot を回します。

4. ピントを合わせる



- (1) 標準露出指標
- (2) 露出レベルマーク
- (3) 明るい (+)
- (4) 暗い (-)

- シャッターボタンを半押しします。
- ファインダー内と上面表示パネルに露出値が表示されます。
- ファインダー内右側の露出レベル表示で、露出レベル〈■〉が標準露出〈■〉からどのくらいズれているか、確認することができます。

5. 露出を決めて撮影する

- 露出レベル表示を確認し、任意のシャッタースピード、絞り数値を設定します。
- 標準露出から±3段を超えるときは、露出レベル表示の端が〈▲〉または〈▼〉の表示になります。

ISOオート設定時の露出補正

マニュアル露出撮影時にISO感度を「A」(AUTO)に設定したときは、以下の方法で露出補正 (☑) を行うことができます。

- [点6: 操作ボタン カスタマイズ] の [☒☑: 露出補正 (押しながら☀)] (☑)
- クイック設定画面

注意

- ISOオート設定時は、設定したシャッタースピードと絞り数値に対して標準露出になるようにISO感度が変動するため、意図した露出で撮影できないことがあります。そのときは露出補正を行ってください。
- ISOオート設定時にストロボを使用したときは、露出補正量を設定しても補正は行われません。

参考

- カメラの設定が〈M〉モード+ISOオート+〈☑〉(評価測光)で、[点2: 合焦後AEロックする測光モード]の設定が初期状態のときは(☑)、シャッターボタンを半押しして、ワンショットAFでピントが合うと、半押ししている間、ISO感度が固定(ロック)されます。
- ISOオート設定時に〈*〉ボタンを押すと、ISO感度を固定(ロック)することができます。
- 〈*〉ボタンを押して構図を変えると、〈*〉ボタンを押したときとの露出差を露出レベル表示で確認することができます。
- 〈P〉 〈Tv〉 〈Av〉モードで露出補正(☑)を行っていたときは、〈M〉モード+ISOオートに変更したときに、設定していた補正量が引き継がれます。
- ISOオート設定時に[点1: 露出設定ステップ]を[設定1/2 露出補正1/2]に設定して1/2段の露出補正を行ったときは、ISO感度(1/3段分)とシャッタースピードで露出補正が行われます。ただし、表示上のシャッタースピードは変化しません。

bulb : 長時間露光 (バルブ) 撮影

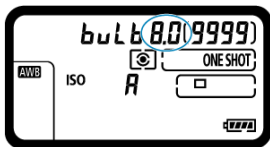
シャッターボタンを押している間、シャッターが開いたままになり、シャッターボタンから指を離すと閉じます。夜景や打上げ花火、天体撮影など長時間の露光が必要なときに設定します。

1. 撮影モードを〈bulb〉にする



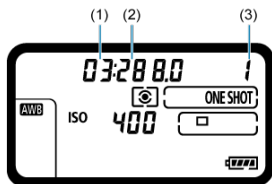
- 〈MODE〉ボタンを押し、〈〉または〈〉を回して〈bulb〉を選びます。

2. 絞り数値を設定する



- 上面表示パネルを見ながら〈〉または〈〉を回します。

3. 撮影する



- (1) 分
- (2) 秒
- (3) 時間

- シャッターボタンを全押ししている間、露光が行われます。
- 上面表示パネルに露光経過時間が表示されます。


⚠ 注意

- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けしないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- 長時間のバルブ撮影を行うと、画像に含まれるノイズが多くなります。
- ISOオート設定時はISO400に設定されます。
- セルフタイマーとミラーアップ撮影機能を併用してバルブ撮影を行うときは、シャッターボタンを全押しし続けてください（セルフタイマー作動秒時+バルブ撮影時間）。セルフタイマー作動中にシャッターボタンから指を離すと、シャッターが切れたような音がしますが、実際は撮影されていません。

📖 参考

- [📷: 長秒時露光のノイズ低減] で長秒露光時に発生するノイズを低減することができます (🔘)。
- バルブ撮影を行うときは、三脚の使用をおすすめします。ミラーアップ撮影 (🔘) を併用することもできます。
- リモートスイッチ RS-80N3（別売）、またはタイマーリモートコントローラー TC-80N3（別売）を使用して、バルブ撮影を行うことができます (🔘)。

撮影

この章では、撮影に関する内容や、メニュー機能の「：撮影タブ」に含まれる項目などについて説明しています。

- [静止画撮影](#)
- [静止画撮影（ライブビュー撮影）](#)
- [動画撮影](#)

静止画撮影

- [メニュー目次：静止画撮影（ファインダー撮影）](#)
- [ホワイトバランス](#)
- [マニュアルホワイトバランス](#)
- [ホワイトバランスの補正](#)
- [色空間](#)
- [ピクチャースタイルの選択](#)
- [ピクチャースタイルの調整](#)
- [ピクチャースタイルの登録](#)
- [明瞭度](#)
- [レンズ光学補正](#)
- [記録画質](#)
- [静止画のISO感度を設定](#)
- [オートライティングオブティマイザ](#)
- [長秒時露光のノイズ低減](#)
- [高感度撮影時のノイズ低減](#)
- [高輝度側・階調優先](#)
- [撮影画像の確認時間](#)
- [カードなしリリース](#)
- [ミラーアップ撮影](#)
- [ダストデリートデータ取得](#)
- [外部ストロボ撮影](#)
- [ストロボ機能の設定](#)
- [フリッカーレス撮影](#)
- [多重露出撮影](#)
- [HDR PQ設定](#)
- [測光モードの選択](#)
- [自分の好みに露出を補正する](#)
- [露出を自動的に変えて撮る/AEB撮影](#)
- [露出を固定して撮る/AEロック撮影](#)
- [アイピースシャッターの使い方](#)
- [リモートスイッチ撮影](#)

メニュー目次：静止画撮影（ファインダー撮影）

● 撮影1



- (1) [ホワイトバランス](#)
- (2) [MWBデータ登録](#)
- (3) [WB補正/BKT設定](#)
- (4) [色空間](#)
- (5) [ピクチャースタイル](#)
 - [ピクチャースタイルの選択](#)
 - [ピクチャースタイルの調整](#)
 - [ピクチャースタイルの登録](#)
- (6) [明瞭度](#)
- (7) [レンズ光学補正](#)

● 撮影2



- (1) [JPEG/HEIF画質](#)
- (2) [画像サイズ](#)
- (3) [ISO感度に関する設定](#)
- (4) [オートライティング最適マイザ](#)
- (5) [長秒時露光のノイズ低減](#)
- (6) [高感度撮影時のノイズ低減](#)
- (7) [高輝度側・階調優先](#)

● 撮影3



- (1) [撮影画像の確認時間](#)
- (2) [カードなしリリース](#)
- (3) [ミラーアップ撮影](#)
- (4) [ダストデリートデータ取得](#)
- (5) [外部ストロボ制御](#)
- (6) [フリッカーレス撮影](#)

● 撮影4



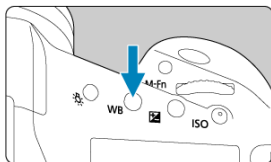
- (1) [多重露出](#)
- (2) [HDR PQ設定](#)
- (3) [ライブビュー撮影](#)

ホワイトバランス

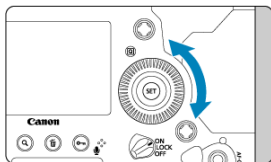
- ☑ [ホワイトバランスについて](#)
- ☑ [\[AWB\] オートホワイトバランス](#)
- ☑ [\[K\] 色温度](#)

ホワイトバランス (WB) は、白いものを白く写すための機能です。通常はオート [AWB] (雰囲気優先)、または [AWBW] (ホワイト優先) で適切なホワイトバランスが得られます。オートで自然な色あいにならないときは、光源別にホワイトバランスを選択したり、白い被写体を撮影して手動で設定します。

1. 〈WB〉 ボタンを押す (6)



2. ホワイトバランスを選ぶ



- 上面表示パネルまたはファインダー内を見ながら (6) を回します。

表示	モード	色温度 (K : ケルビン)
	オート(雰囲気優先)	3000~7000
	オート(ホワイト優先)	
	太陽光	5200
	日陰	7000
	くもり、薄暮、夕やけ空	6000
	白熱電球	3200
	白色蛍光灯	4000
	ストロボ使用	自動設定*
	マニュアル	2000~10000
	色温度	2500~10000

* 色温度情報通信機能を備えたストロボ使用時。それ以外は約6000K固定

参考

- カスタムホワイトバランスを設定するときは、手順2で [**K** : PC-*] を選びます。カスタムホワイトバランスのカメラへの登録方法については、EOS Utility使用説明書を参照してください。EOS Utilityから登録可能なカスタムホワイトバランスは最大5個です。静止画と動画で異なるデータを使用する場合は、静止画用と動画用を個別に登録してください。

ホワイトバランスについて

人間の目には、照明する光が変化しても、白い被写体は白に見えるという順応性があります。デジタルカメラでは、照明光の色温度に応じて色の基準となる白を決め、ソフトウェア的に色あいを調整することで、自然な色あいで撮影することができます。

【AWB】オートホワイトバランス

【AWB】では、白熱電球（タングステン光）下などで撮影したときに、その場の雰囲気重視してやや赤みがかった写真になります。

【AWBW】を選ぶと、赤みの少ない写真にすることができます。

1. 【: ホワイトバランス】を選ぶ



2. 【AWB】を選ぶ



- 【AWB】を選んだ状態で〈INFO〉ボタンを押します。

3. 項目を選ぶ

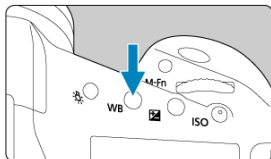


⚠ 注意

【AWBW】（ホワイト優先）設定時の注意事項

- 赤みのある被写体の色が薄くなる場合があります。
- 画面内に複数の光源が含まれるときは、赤みの少ない写真にならないことがあります。
- ストロボ使用時は【AWB】（雰囲気優先）と同じ色あいになります。

1. 〈WB〉 ボタンを押す (⦿6)



2. 〈K〉 を選ぶ



- 上面表示パネルを見ながら 〈⦿〉 を回して 〈K〉 を選びます。

3. 数値を設定する



- 続けて 〈⦿〉 を回して数値を設定します。
- 設定できる色温度範囲は、約2500K～10000K (100Kステップ) です。

! 注意

- 人工光源の色温度を設定するときは、必要に応じてWB補正（マゼンタ／グリーン寄り）を行ってください。
- 市販のカラーメーターで測定した色温度数値を〈**K**〉に設定するときは、事前にテスト撮影を行い、カメラとカラーメーター間の誤差を補正した数値を設定してください。

マニュアルホワイトバランス

- [MWBデータを登録する](#)
- [登録したMWBデータを選んで撮影する](#)
- [登録したMWBデータにキャプションを付ける](#)

マニュアルホワイトバランス（MWB）は、撮影場所の光源にあわせてホワイトバランスを設定するとき 사용합니다。必ず撮影する場所の光源下で一連の操作を行ってください。MWBデータは、カメラに最大5件登録することができます。また、登録したMWBデータにキャプション（見出し）を付けることもできます。静止画と動画で異なるデータを使用する場合は、静止画用と動画用を個別に登録してください。

MWBデータを登録する

その場で撮影して登録する方法と、カードに記録されている画像から登録する方法があります。

画像を撮影して登録

1. [📷: MWBデータ登録] を選ぶ

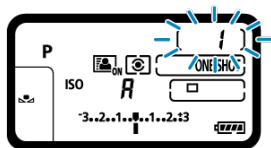
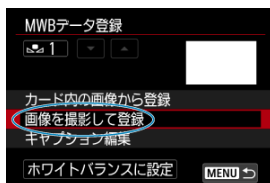


2. 登録するMWB番号を選ぶ



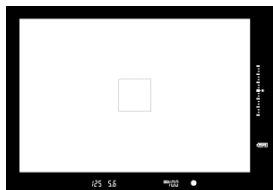
- 〈SET〉を押します。
- 〈○〉を回して〈📷*〉の1~5の番号を選び、〈SET〉を押します。選択した番号にMWBデータが登録されます。

3. [画像を撮影して登録] を選ぶ

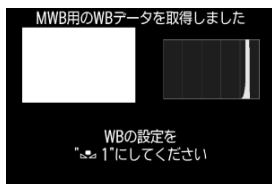


- モニターの表示が消え、上面表示パネルに選択した番号が点滅します。

4. 白い無地の被写体を撮影する



- ファインダーをのぞき、図の点線の枠内全体に、白い無地の被写体がくるようにします。
- 手動でピントを合わせ、白い被写体が標準露出になるように撮影します。
- ホワイトバランスはどの設定でも構いません。






- カメラにMWBデータが登録されます。
- 登録したMWBで撮影するときは、[登録したMWBデータを選んで撮影する](#)を参照してください。

ⓘ 注意

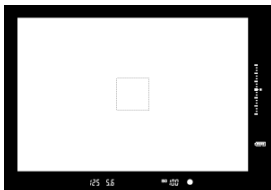
- 手順4で撮影した画像の露出が、標準露出から大きく外れていると、正確なホワイトバランスが設定されないことがあります。

参考

- 次の方法でMWBデータを登録することもできます。
 - 1.〈WB〉ボタンを押し、〈〉を回して〈〉を選びます (☑)。
 - 2.続けて〈〉を回して、MWBデータを登録する番号を選びます。
 - 3.〈On〉ボタンを押します。
→上面表示パネルに手順2で選択した番号が点滅します。
 - 4.手順4と同じ方法で白い無地の被写体を撮影します。
→選択した番号にMWBデータが登録されます。
- 手順4で [指定された画像では適切なWBが得られないことがあります] と表示されたときは、手順1に戻って再度撮影してください。
- 手順4で撮影した画像はカードには記録されません。
- 白い被写体の代わりに、市販のグレーチャートや18%標準反射板を撮影すると、より正確なホワイトバランスにすることができます。

カード内の画像から登録

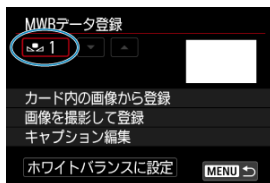
1. 白い無地の被写体を撮影する



- [画像を撮影して登録](#)の手順4を参考にして、白い無地の被写体を撮影します。

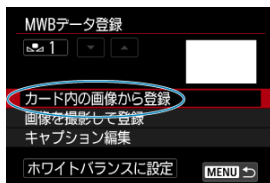
2. [📷] タブの [MWBデータ登録] を選ぶ

3. 登録するMWB番号を選ぶ



- 〈SET〉を押します。
- 〈○〉を回して〈📷*〉の1~5の番号を選び、〈SET〉を押します。選択した番号にMWBデータが登録されます。

4. [カード内の画像から登録] を選ぶ



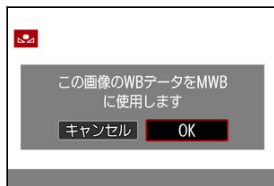
- カードに記録されている画像が表示されます。

5. MWBデータ登録用の画像を選ぶ



- 〈○〉を回して手順1で撮影した画像を選び、〈SET〉を押します。

6. [OK] を選ぶ



- カメラにMWBデータが登録されます。
- メッセージを確認して [OK] を選ぶと、手順3の画面に戻ります。

⚠ 注意

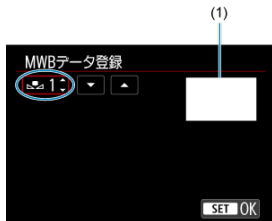
- ピクチャースタイルを [モノクロ] に設定して撮影した画像、多重露出画像、HDR画像、4K動画からフレーム切り出しを行った画像、他のカメラで撮影した画像は、手順5で選択できません。

📖 参考

- 登録したMWBで撮影するときは、登録したMWB番号を選んでから撮影します。

登録したMWBデータを選んで撮影する

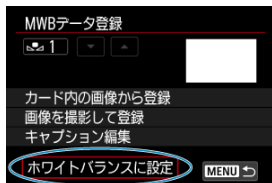
1. MWB番号を選ぶ



(1) 登録されている画像


- [MWBデータ登録] の画面で、登録した番号を選びます。

2. [ホワイトバランスに設定] を選ぶ






- WBの設定が〈*〉になります。

3. 撮影する

- 〈*〉の設定で撮影されます。

 参考

- 上面表示パネルを見ながら、登録したMWB番号を選ぶこともできます。そのときは、〈WB〉ボタンを押し〈〉を回して〈〉を選びます。続けて〈〉を回して登録したMWB番号を選びます。

登録したMWBデータにキャプションを付ける

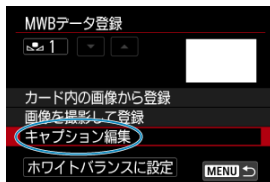
登録したMWBデータ5件（MWB番号1～5）に、それぞれキャプション（見出し）を付けることができます。

1. MWB番号を選ぶ



- [MWBデータ登録] の画面で、見出しを付ける番号を選びます。

2. [キャプション編集] を選ぶ

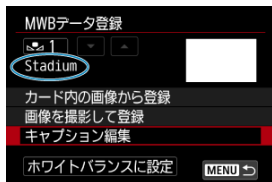


3. 文字を入力する



- 〈〉 〈〉 を操作して文字を選び、〈〉 を押すと入力されます。
- [] を選ぶと、入力モードが切り換わります。
- [] を選ぶか、〈〉 ボタンを押すと、1文字消去されます。

4. 設定を終了する



- 〈MENU〉 ボタンを押して [OK] を選びます。
- 設定した内容が保存され、手順2の画面に戻ります。
- 入力したキャプションが 〈*〉 の下に表示されます。

参考

- MWBを登録した場所や、光源の名前などをキャプションにすると便利です。

ホワイトバランスの補正

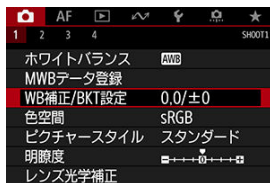
[ホワイトバランス補正](#)

[ホワイトバランスを自動的に変えて撮る](#)

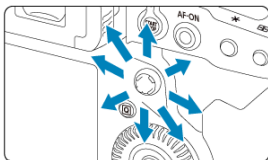
設定しているホワイトバランスを補正することができます。この機能を使うと、市販の色温度変換フィルターや、色補正用フィルターと同じような効果を得ることができます。

ホワイトバランス補正

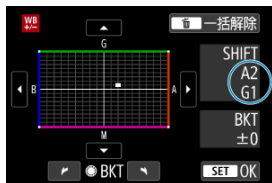
1. [📷: WB補正/BKT設定] を選ぶ



2. ホワイトバランスを補正する



設定例：A2, G1



- 〈〉を操作して、画面上の「■」を希望する位置に移動します。
- Bはブルー、Aはアンバー、Mはマゼンタ、Gはグリーンの意味です。移動方向寄りの色に補正されます。
- 画面右の[SHIFT]に補正方向と、補正量が表示されます。
- 〈〉ボタンを押すと、[WB補正/BKT設定]の設定を一括解除することができます。
- 〈〉を押すと設定が終了します。

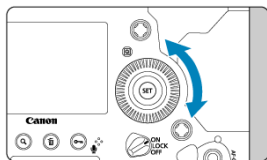
参考


- WB補正時は上面表示パネルに〈〉が表示されます。
- WB補正時に、ファインダー内に〈〉を表示することができます ()。
- ブルー／アンバー方向の1段は、色温度変換フィルターの約5ミレッドに相当します (ミレッド：色温度変換フィルターの濃度を表すときなどに使用される色温度の単位)。

ホワイトバランスを自動的に変えて撮る

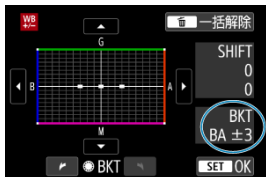
ホワイトバランスブラケティング (WB-BKT) 機能で、1回の撮影で色あいの異なる3枚の画像を記録することができます。



補正幅を設定する



- **ホワイトバランス補正**の手順2で  を回すと、画面上の「■」が「■ ■ ■」(3点) になります。
右に回すとB/A方向、左に回すとM/G方向のブラケティングになります。

B/A方向±3段のとき



- 画面右の [BKT] にブラケティング方向と、補正幅が表示されます。
-  ボタンを押すと [WB補正/BKT設定] の設定を一括解除することができます。
-  を押すと設定が終了します。

記録される順序について

①基準ホワイトバランス ②ブルー (B) 寄り ③アンバー (A) 寄り、または ①基準ホワイトバランス ②マゼンタ (M) 寄り ③グリーン (G) 寄りの順に画像が記録されます。

❗ 注意

- WBブラケティング撮影時は、連続撮影可能枚数が少なくなります。
- 1回の撮影で3枚の画像を記録するため、通常の撮影よりもカードに画像を記録する時間が長くなります。

参考

- WB補正やAEB撮影と組み合わせることができます。AEB撮影と組み合わせたときは、合計9枚の画像が記録されます。
- WBブラケットング設定時は、ホワイトバランスのマークが点滅します。
- WBブラケットング時の記録順序 (🔄) と撮影枚数 (🔄) を変更することができます。
- 「**BKT**」はBracketing : ブラケットングの略です。

色空間

[Adobe RGB](#)

再現できる色の範囲（色域特性）のことを「色空間」といいます。一般的な撮影のときはsRGBをおすすめします。

1. [📷: 色空間] を選ぶ

2. 色空間を設定する



- [sRGB] または [Adobe RGB] を選び、<SET>を押します。

Adobe RGB

主に商用印刷などの業務用途で使用します。Adobe RGB対応モニターや、DCF 2.0 (Exif 2.21以上) 対応プリンターなどの使用をおすすめします。

参考

- 色空間をAdobe RGBに設定して撮影した静止画は、ファイル名の先頭文字が「_」(アンダーバー) になります。
- ICCプロファイルは付加されません。ICCプロファイルについては、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional使用説明書を参照してください。

ピクチャースタイルの選択

[各スタイルの画像特性](#)

[記号の意味](#)

ピクチャースタイルは、写真表現や被写体にあわせて、用意された項目を選ぶだけで効果的な画像特性が得られる機能です。

1. [📷:ピクチャースタイル] を選ぶ



2. スタイルを選ぶ



各スタイルの画像特性

● オート

撮影シーンに応じて、色あいが自動調整されます。特に自然や屋外シーン、夕景シーンでは、青空、緑、夕景が色鮮やかな写真になります。

参考

- [オート] で好みの色あいにならなかったときは、他のスタイルに変更して撮影してください。

● スタANDARD

鮮やかで、くっきりした写真になります。通常はこの設定でほとんどのシーンに対応できます。

● ポートレート

肌色がきれいで、ややくっきりした写真になります。人物をアップで写すときに効果的です。

[設定内容と効果](#)の[色あい]を変えると、肌色を調整することができます。

● 風景

青空や緑の色が鮮やかで、とてもくっきりした写真になります。印象的な風景を写すときに効果的です。

● デイテール重視


被写体の細部の輪郭や繊細な質感の描写に適しています。やや鮮やかな写真になります。

● ニュートラル

パソコンでの画像処理に適した設定です。自然な色あいで、メリハリの少ない控えめな写真になります。

● 忠実設定


パソコンでの画像処理に適した設定です。5200K（色温度）程度の太陽光下で撮影した写真が、測色的に被写体の色とほぼ同じになるように色調整されます。メリハリの少ない控えめな写真になります。


-  **モノクロ**
白黒写真になります。


 **注意**

- **[モノクロ]** の設定で撮影したJPEG画像を、カラー写真に戻すことはできません。

 **参考**

- **[モノクロ]** 設定時は、上面表示パネルに **〈B/W〉** が表示されます。また、ファインダー内に **〈!** を表示することもできます ()。

-  **ユーザー設定1~3**

[ポートレート] や **[風景]**、ピクチャースタイルファイルなどの基本スタイルを登録し、好みにあわせて調整することができます ()。登録されていないときは、**[スタンダード]** の初期設定と同じ特性で撮影されます。

記号の意味

スタイル選択画面の記号は、[シャープネス]の[強さ][細かさ][しきい値]や、[コントラスト]などを表しています。数値は、各スタイルに設定されている各項目の設定値を示しています。

ピクチャスタイル	記号	ピクチャスタイル	記号
オート	4, 2, 3, 0, 0, 0	ティテール重視	4, 1, 1, 0, 0, 0
スタンダード	4, 2, 3, 0, 0, 0	ニュートラル	0, 2, 2, 0, 0, 0
ポートレート	3, 2, 4, 0, 0, 0	忠実設定	0, 2, 2, 0, 0, 0
風景	5, 2, 3, 0, 0, 0	モノクロ	4, 2, 3, 0, N, N
ティテール重視	4, 1, 1, 0, 0, 0	ユーザー設定1	スタンダード
ニュートラル	0, 2, 2, 0, 0, 0	ユーザー設定2	スタンダード
INFO 詳細設定	SET OK	INFO 詳細設定	SET OK

①	シャープネス		
			強さ
			細かさ
			しきい値
②	コントラスト		
	色の濃さ		
	色あい		
	フィルター効果 (モノクロ)		
	調色 (モノクロ)		

注意

- 動画撮影時、[シャープネス]の[細かさ][しきい値]は、「*」と表示されま
す。また、動画撮影時は[細かさ][しきい値]は設定できません。

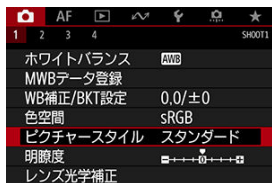
ピクチャースタイルの調整

☑ [設定内容と効果](#)

☑ [ピクチャースタイル モノクロの調整](#)

各ピクチャースタイルを初期設定から変更（調整）することができます。[モノクロ]の調整については、[ピクチャースタイル モノクロの調整](#)を参照してください。

1. [ピクチャースタイル] を選ぶ



2. スタイルを選ぶ



- 調整するスタイルを選び、〈INFO〉ボタンを押します。

3. 項目を選ぶ



- 設定内容と効果については、[設定内容と効果](#)を参照してください。

4. 効果の度合いを設定する



- 〈MENU〉ボタンを押すと、調整した内容が保存され、スタイル選択画面に戻ります。
- 初期設定から変更した数値が青色で表示されます。

参考

- 動画撮影時は [シャープネス] の [細かさ] [しきい値] の設定はできません (項目が表示されません)。
- 手順3で [初期設定] を選ぶと、スタイルごとに設定した内容を初期状態に戻すことができます。
- 調整したスタイルで撮影するときは、調整したスタイルを選択してから撮影します。

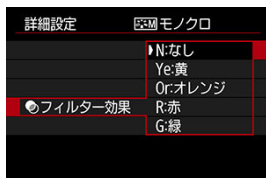
設定内容と効果

●	シャープネス			
	●	強さ	0 : 輪郭強調・控えめ	7 : 輪郭強調・強め
	●	細かさ ^{*1}	1 : 細かい	5 : 粗い
	●	しきい値 ^{*2}	1 : 小さい	5 : 大きい
●	コントラスト		-4 : 明暗差・弱	+4 : 明暗差・強
●	色の濃さ		-4 : 薄い	+4 : 濃い
●	色あい		-4 : 肌色が赤め	+4 : 肌色が黄色め

* 1 : 強調する輪郭線の細かさを示しています。値が小さいほど、より細部が強調されやすくなります。

* 2 : 「周囲に比べ、どの程度のコントラスト差があれば輪郭線を強調するか」の設定です。値が小さいほど、コントラスト差が少ない輪郭線が強調されやすくなります。なお、値を小さくするとノイズも強調されやすくなります。

フィルター効果



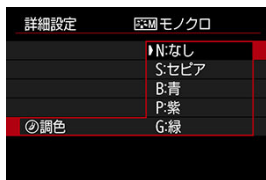
フィルター効果を使うと、同じモノクロ画像でも、白い雲や木々の緑を強調した画像にすることができます。

フィルター	効果例
N:なし	フィルター効果なしの通常の白黒画像になります。
Ye:黄	青空がより自然に再現され、白い雲がはっきりと浮かび上がります。
Or:オレンジ	青空が少し暗くなります。夕日の輝きがもっと増えます。
R:赤	青空がかなり暗くなります。紅葉の葉がはっきりと明るくなります。
G:緑	人物の肌色や唇が落ち着いた感じになります。木々の緑の葉がはっきりと明るくなります。

参考

- [コントラスト] をプラス側に設定して撮影すると、フィルター効果がより強調されます。

調色



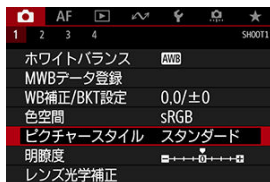
調色を設定して撮影すると、色のついたモノクロ画像にすることができます。より印象的な画像を撮影したいときに有効です。

ピクチャースタイルの登録

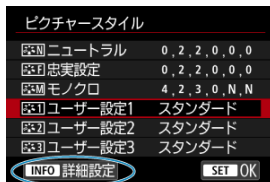
[ポートレート] や [風景] などの基本スタイルを選択し、好みにあわせて調整して、[ユーザー設定1] から [ユーザー設定3] に登録することができます。設定が異なる複数のスタイルを用意しておきたいときに使用します。

また、EOS用ソフトウェアのEOS Utility (📷) からカメラに登録したスタイルをここで調整することもできます。

1. [📷: ピクチャースタイル] を選ぶ

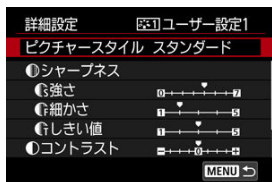


2. [ユーザー設定] を選ぶ



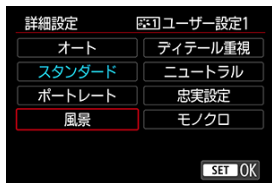
- [ユーザー設定*] を選び、〈INFO〉ボタンを押します。

3. <SET>を押す



- [ピクチャースタイル] が選ばれた状態で <SET> を押します。

4. 基本にするスタイルを選ぶ



- 基本にするスタイルを選びます。
- EOS用ソフトウェアのEOS Utilityから登録したスタイルを調整するときは、この操作で選択します。

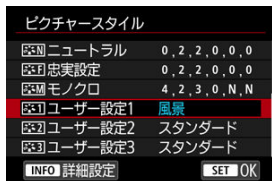
5. 項目を選ぶ



6. 効果の度合いを設定する



- 詳しくは、[ピクチャースタイルの調整](#)を参照してください。



- 〈MENU〉ボタンを押すと内容が登録され、スタイル選択画面に戻ります。
- [ユーザー設定*]の右に、基本にしたスタイルが表示されます。
- [ユーザー設定*]に登録したスタイルの設定内容が、初期設定から変更されているときは、スタイル名が青色で表示されます。

注意

- [ユーザー設定*]にスタイルがすでに登録されているときは、基本にするスタイルを変更すると、登録されているスタイルの設定内容が無効になります。
- EOS Utilityから登録可能なピクチャースタイルは最大3個です。静止画と動画で異なるデータを使用する場合は、静止画用と動画用を個別に登録してください。
- [☺: カメラの初期化]で[設定項目を選んで初期化]の[基本設定]を選ぶと、[ユーザー設定*]に設定したスタイルと内容が初期化されます。

参考

- 登録したスタイルで撮影するときは、登録した[ユーザー設定*]を選択してから撮影します。
- ピクチャースタイルファイルのカメラへの登録方法については、EOS Utility使用説明書を参照してください。

明瞭度

画像エッジ部のコントラスト（明瞭度）を調整することができます。
マイナス側に設定するとソフトな印象になり、プラス側に設定するとくっきりした印象の画像になります。

1. [📷: 明瞭度] を選ぶ



2. 効果の度合いを設定する



⚠ 注意

- 明瞭度を設定すると、明暗差が大きい場合に境界部の周辺が暗くなったり、または明るくなったりすることがあります。
- 設定内容は、ライブビュー映像には反映されません。

レンズ光学補正

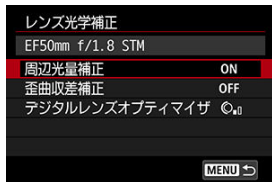
- [周辺光量補正](#)
- [歪曲収差補正](#)
- [デジタルレンズオプティマイザ](#)
- [色収差補正](#)
- [回折補正](#)

レンズの光学特性によって、画像の四隅が暗くなったり、画像にゆがみが生じたりするなどの現象が発生します。[**レンズ光学補正**]の機能を使用することで、これらの現象を補正することができます。

1. [📷: レンズ光学補正] を選ぶ



2. 項目を選ぶ



3. [する] を選ぶ



- 装着しているレンズの名称と、[補正データあり] が表示されていることを確認します（ただし、[回折補正] 設定時は、[補正データあり] は表示されません）。
- [補正データなし] や [魚] が表示されたときは、[デジタルレンズオプティマイザ](#)を参照してください。

周辺光量補正

画像の四隅が暗くなる「周辺光量の低下」を補正することができます。

注意

- 撮影条件により、画像の周辺部分にノイズが発生することがあります。
- ISO感度が高くなるほど、補正量が少なくなります。

参考

- EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで最大補正を行ったときよりも、控えめに補正されます。

歪曲収差補正

画像にゆがみが生じる「歪曲収差」を補正することができます。

⚠ 注意

- ゆがみの補正が行われるため、ファインダー撮影時に見えていた範囲よりも狭い範囲が記録されます（画像の周辺部分が少しトリミングされ、解像感が若干低下します）。
- 動画撮影時は、[歪曲収差補正] は表示されません（補正できません）。
- ライブビュー撮影時は、歪曲収差補正の設定により、画角がわずかに変化することがあります。
- ライブビュー撮影時に画面の端のほうを拡大表示したときは、記録されない範囲が表示されることがあります。
- 歪曲収差補正が行われた画像には、ダストデリートデータ (🔍) は付加されません。また、撮影時と異なる位置にAFフレームが表示されることがあります。
- 画面の端のほうを拡大表示したときは、記録されない範囲が表示されることがあります。

デジタルレンズオプティマイザ

レンズの光学特性により生じる諸収差や、回折現象、ローパスフィルターに起因した解像劣化を補正することができます。

なお、[デジタルレンズオプティマイザ]で[補正データなし]や[無]が表示されたときは、EOS Utilityを使用して、レンズの補正用データをカメラに登録することができます。詳しくは、EOS Utility使用説明書を参照してください。

注意

- 撮影条件により、補正効果とともにノイズが強調されることがあります。また、画像に輪郭強調が強くなる場合があります。必要に応じてピクチャースタイルのシャープネスの調整を行ったり、[デジタルレンズオプティマイザ]を[しない]に設定して撮影してください。
- ISO感度が高くなるほど、補正量が少なくなります。
- 動画撮影時は、[デジタルレンズオプティマイザ]は表示されません（補正できません）。

参考

- [デジタルレンズオプティマイザ]を[する（標準）]に設定したときは、[色収差補正][回折補正]は表示されませんが、ともに[する]の設定で撮影されます。

色収差補正

被写体の輪郭部分に色のにじみが生じる「色収差」を補正することができます。

参考

- [デジタルレンズオブティマイザ] を [する (標準)] に設定したときは、[色収差補正] は表示されません。

回折補正

絞りの影響により画像の鮮鋭さが低下する「回折現象」を補正することができます。

⚠ 注意

- 撮影条件により、補正効果とともにノイズが強調されることがあります。
- ISO感度が高くなるほど、補正量が少なくなります。

📖 参考

- 「回折補正」では回折現象だけでなく、ローパスフィルターなどの影響による解像劣化も補正されます。そのため、開放絞り付近でも補正効果があります。
- [デジタルレンズオプティマイザ]を[する(標準)]に設定したときは、[回折補正]は表示されません。

⚠ 注意

各補正共通注意事項

- 撮影したJPEG画像に、後からレンズ光学補正することはできません。
- 他社製レンズ使用時は、[補正データあり]と表示されていても、[しない]に設定することをおすすめします。
- 距離情報を持たないレンズを使用したときは、補正量が少なくなります(回折補正を除く)。

📖 参考

各補正共通事項

- レンズ光学補正の効果は、使用レンズや撮影条件などにより異なります。また、使用レンズや撮影条件などにより、効果が分かりにくい場合があります。
- 補正の効果が分かりにくいときは、撮影後に画像を拡大して確認することをおすすめします。
- エクステンダーやライフサイズコンバーター装着時にも補正が行われます。
- 補正データがカメラに登録されていないレンズで撮影したときは、補正[しない]と同じ撮影結果になります(回折補正を除く)。
- 必要に応じて、EOS Utility使用説明書をあわせて参照してください。

記録画質

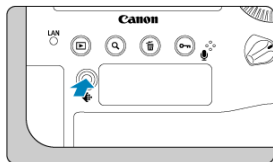
- ☑ [◀️ 画像サイズを選択](#)
- ☑ RAW画像
- ☑ [記録画質を選ぶときの目安](#)
- ☑ [連続撮影可能枚数（バースト枚数）](#)
- ☑ [JPEG/HEIF画質の設定](#)

◀️ 画像サイズを選択

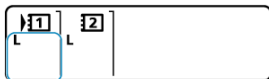
JPEG画像はL/M1/M2/S、HEIF画像はL、RAW画像はRAW/CRAWのいずれかを設定することができます。画像サイズは、次の2通りの方法で設定することができます。

背面表示パネルで設定

1. ◀️ ボタンを押す (🔍6)



2. 画像サイズを選ぶ



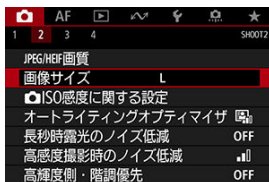
- を回して画像サイズを選びます。
- **RAW/CRAW**と、**L/M1/M2/S**が同時に表示されているときは、RAW画像と、JPEG画像がカードに同時記録されます。
- **RAW/CRAW**と**L/HEIF**が同時に表示されているときは、RAW画像と、HEIF画像がカードに同時に記録されます。
- を回すと、記録・再生するカードを選ぶことができます (☑)。

参考

- [☑: 記録機能とカード・フォルダ選択] の [📷記録機能] が [振り分け] に設定されているときは (☑)、 を回してカードを選び、カードごとに画像サイズを設定します。
- このガイドでは、画像サイズとJPEG/HEIF画質 (☑) を合わせて、「記録画質」と表記しています。
- HEIF画像は、[📷: HDR PQ設定] の [HDR撮影HDR PQ] を [する] に設定しているときに設定することができます。撮影後に、JPEG画像に変換することができます (☑)。

メニュー画面で設定

1. [📷: 画像サイズ] を選ぶ






- [☑: 記録機能とカード・フォルダ選択] の [📷記録機能] の設定によって、表示される画面が異なります。

2. 画像サイズを設定する





標準/カード自動切り換え/同一書き込み




- RAW画像は〈〉、JPEG画像は〈〉を回してサイズを選びます。
- 〈〉を押すと設定されます。

振り分け



- [: 記録機能とカード・フォルダ選択] の [ 記録機能] が [振り分け] に設定されているときは、〈〉を回して [**1**] または [**2**] を選び、〈〉を押します。なお、RAW画像のときは、**RAW**と**CRAW**を振り分けることはできません。



- 表示された画面で画像サイズを選び、〈〉を押します。

参考

- ファインダー内に表示される撮影可能枚数は、1999までです。
- RAW画像とJPEG/HEIF画像のサイズを両方 [—] にしたときは、**L**に設定されます。
- RAWとJPEG/HEIFの両方を選んだときは、1回の撮影で設定した記録画質の画像がカードに記録されます。2つの画像は同じ画像番号（拡張子はJPEG：.JPG、HEIF：.HIF、RAW：.CR3）で記録されます。
- JPEG画像またはRAW画像を選んだときは、ファインダー内の右側に〈**JPEG**〉〈**RAW**〉が点灯します。
- 画像サイズの読み方は、**RAW**（ロウ）、**CRRAW**（コンパクトロウ）、JPEG（ジェイペグ）、HEIF（ヒーフ）、**L**（ラージ）、**M1**（ミドル1）、**M2**（ミドル2）、**S**（スモール）です。

RAW画像

カードに記録されるRAW画像は、撮像素子から出力されたデータをデジタル変換してそのまま記録した「生（ロウ）データ」で、**RAW**、**CRAW**から選ぶことができます。なお、**CRAW**は**RAW**に比べてファイルサイズが小さいRAW画像です。

RAW画像は、**[▶] : RAW現像**で現像処理を行い（）、JPEG画像またはHEIF画像として保存することができます。なお、RAW画像そのものは何も変化しませんので、現像条件を変えたJPEG/HEIF画像を何枚でも作ることができます。

また、RAW画像は、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで現像処理を行うことができます。使用目的に応じてさまざまな画像調整を行い、その調整結果を反映したJPEG/HEIF画像などを生成することができます。

参考

- パソコンでRAW画像を表示するときは、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（以下DPP）の使用をおすすめします。
- 古いバージョンのDPP Ver.4.xでは、このカメラで撮影したRAW画像の表示や現像、編集などはできません。パソコンに古いバージョンのDPP Ver.4.xがインストールされているときは、キヤノンのホームページから最新のDPPを入手して、アップデート（上書きインストール）してください（）。なお、Ver.3.x以前のDPPでは、このカメラで撮影したRAW画像の表示や現像、編集などはできません。
- 市販のソフトウェアでは、このカメラで撮影したRAW画像を表示できないことがあります。対応状況については、ソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

記録画質を選ぶときの目安

ファイルサイズ、撮影可能枚数、連続撮影可能枚数などについては、[データシート](#)を参照してください。

連続撮影可能枚数（バースト枚数）



ファインダー内の右側、またはクイック設定画面、クイック設定カスタマイズ画面の下側の数値で、連続撮影できる枚数の目安が確認できます。

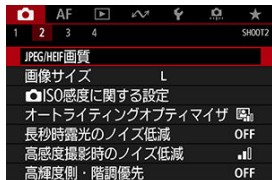
注意

- 連続撮影可能枚数は、カードが入っていないときにも表示されますので、カードが入っていることを確認してから撮影してください。

参考

- 連続撮影可能枚数が、「99」と表示されているときは、99枚以上の連続撮影ができます。98枚以下になると、数値が減っていき、内部メモリーがいっぱいになると、ファインダー内と上面表示パネルに「buSY」が表示され、一時的に撮影ができなくなります。撮影を中断すると数値が増えていきます。撮影した画像がすべてカードに書き込まれると、[データシート](#)の表に示した枚数の連続撮影ができるようになります。

1. [📷: JPEG/HEIF画質] を選ぶ



2. 画像サイズを選ぶ



- 画像サイズを選び、**<SET>**を押します。

3. 画質（圧縮）を設定する



- 数値を選び**<SET>**を押します。
- 大きな数値に設定するほど、高画質（低圧縮）で記録されます。
- 6~10は**<▲>**、1~5は**<■>**で表示されます。

 参考

- 大きな数値に設定するほど高画質になりますが、撮影可能枚数は少なくなります。逆に小さな数値に設定するほど画質は低下しますが、撮影可能枚数は多くなります。

静止画のISO感度を設定

☑ [ISO感度の手動設定範囲](#)

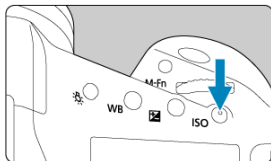
☑ [ISOオート時の自動設定範囲](#)

☑ [ISOオート時のシャッタースピードの低速限界](#)

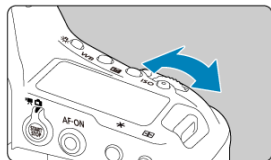
ISO感度（撮像素子の感度）は、撮影場所の明るさに応じて設定します。

なお、動画撮影時のISO感度については、[〈M〉](#) [〈TV〉](#) [〈Av〉](#) モード時のISO感度、[〈M〉](#) モード時のISO感度を参照してください。

1. 〈ISO〉 ボタンを押す (あ6)



2. ISO感度を設定する



- 上面表示パネルまたはファインダー内を見ながら [〈DISP〉](#) または [〈INFO〉](#) を回します。
- 「A」は「ISOオート」を表しています。ISO感度が自動設定されます。

ⓘ 注意

- H1(204800相当)、H2(409600相当)、H3(819200相当)は拡張ISO感度のため、通常よりもノイズ（輝点、縞）や色ムラが多くなり、解像感も低下します。
- L (ISO50相当) は拡張ISO感度のため、通常よりもダイナミックレンジがやや狭くなります。
- L (ISO50相当) 設定時は、ハイライト部分の階調がライブビュー映像で表示されていても、撮影した画像では階調が残らない（白とびする）ことがあります。
- [📷: 高輝度側・階調優先] を [する] [強] に設定すると (📷), L (ISO50相当)、ISO100/125/160、H1(204800相当)、H2(409600相当)、H3(819200相当)は選択できなくなります。
- 高ISO感度、高温、長秒時露光、多重露出撮影の条件などで撮影すると、画像のノイズ（ザラつき感、輝点、縞など）や色ムラ、色味の変化が目立つことがあります。
- 高ISO感度、高温、長秒時露光の組み合わせなど、ノイズが非常に多くなる条件で撮影したときは、正常な画像が記録できないことがあります。
- 高ISO感度で近距離の被写体をストロボ撮影すると、露出オーバーになることがあります。

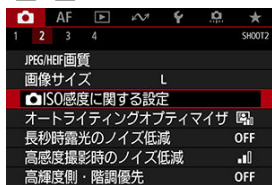
📖 参考

- ISO感度の数値が小さい（感度が低い）ほど、ノイズが少ない画像が撮影できますが、撮影シーンによっては、手ブレや被写体ブレが起きやすくなったり、ピントの合う範囲が狭く（被写界深度が浅く）なることがあります。
- ISO感度の数値が大きい（感度が高い）ほど、暗い場所で撮影できるようになったり、ピントの合う範囲を広く（被写界深度を深く）したり、ストロボ撮影時に遠くの被写体が撮影できるようになりますが、ノイズが多くなります。
- [📷: ISO感度に関する設定] の [ISO感度] の画面で設定することもできます。
- ISO感度の設定により、撮影終了時のシャッター音が異なることがあります。

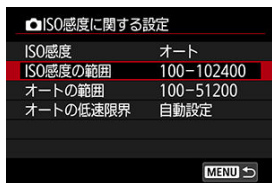
ISO感度の手動設定範囲

手動で設定できるISO感度の範囲（下限値／上限値）を設定することができます。下限値はL（ISO50相当）～H2（ISO409600相当）、上限値はISO100～H3（ISO819200相当）の範囲で設定することができます。

1. [📷:📷ISO感度に関する設定] を選ぶ



2. [ISO感度の範囲] を選ぶ

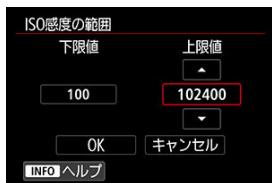


3. [下限値] を設定する



- [下限値] の枠を選び (SET) を押します。
- ISO感度を選び (SET) を押します。

4. [上限値] を設定する



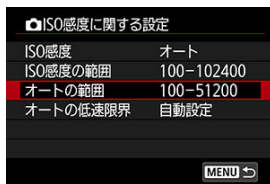
- [上限値] の枠を選び (SET) を押します。
- ISO感度を選び (SET) を押します。

5. [OK] を選ぶ

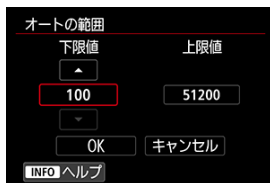
ISOオート時の自動設定範囲

ISOオート設定時に自動設定される感度を、ISO100～102400の範囲で設定することができます。下限値はISO100～51200の範囲、上限値はISO200～102400の範囲で、1段ステップで設定することができます。

1. [オートの範囲] を選ぶ

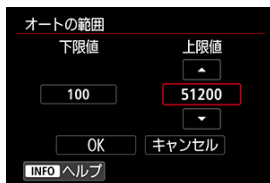


2. [下限値] を設定する



- [下限値] の枠を選び (SET) を押します。
- ISO感度を選び (SET) を押します。

3. [上限値] を設定する



- [上限値] の枠を選び (SET) を押します。
- ISO感度を選び (SET) を押します。

4. [OK] を選ぶ

参考

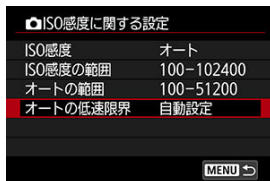
- [下限値] [上限値] は、ISO感度でセーフティシフト (S) が行われたときの下限感度、上限感度も兼ねています。

ISOオート時のシャッタースピードの低速限界

ISOオート設定時に、シャッタースピードが自動的に遅くならないように、低速限界（下限速度）を設定することができます。

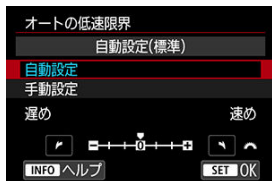
この機能は〈P〉〈Av〉モードで、広角レンズを使用して動いている被写体を撮影するときや、望遠レンズを使用するとき効果的です。手ブレや被写体ブレを軽減することができます。

1. [オートの低速限界] を選ぶ



2. 低速限界を設定する

自動設定



- [自動設定] を選んだときは、 を回して標準設定からの度合い(遅め/速め)を設定し、 を押します。

手動設定



- [手動設定] を選んだときは、 を回してシャッタースピードを選び、 を押します。

注意

- [オートの範囲] で設定した上限感度で適切な露出が得られないときは、標準露出で撮影できるように、[オートの低速限界] で設定した速度よりも遅いシャッタースピードが設定されます。
- ストロボ撮影時は機能しません。

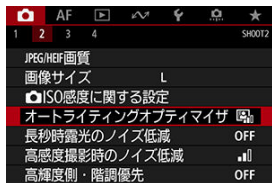
参考

- [自動設定(標準)] 設定時は、下限速度がおよそレンズ焦点距離分の1秒となります。なお、[遅め] から [速め] の1ステップは、シャッタースピード1段分です。

オートライティングオプティマイザ

撮影結果が暗いときや、コントラストが低いときまたは高いときに、明るさ・コントラストを自動的に補正することができます。

1. [📷: オートライティングオプティマイザ] を選ぶ




2. 補正内容を設定する



⚠ 注意

- 撮影条件により、ノイズが増えたり、解像感が変化することがあります。
- オートライティングオプティマイザの効果が強すぎて、好みの明るさにならないときは、**[弱め]** または **[しない]** に設定して撮影してください。
- **[しない]** 以外に設定したときは、露出補正、ストロボ調光補正で露出を暗めに設定しても、明るく撮影されることがあります。設定したとおりの明るさで撮影したいときは、**[しない]** に設定してください。

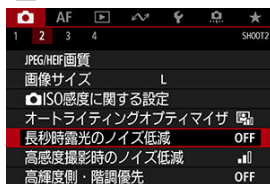
 参考

- 手順2で〈INFO〉ボタンを押して[M, Bulb時はOFF]の[✓]を外すと、〈M〉〈buLb〉モードでも[:オートライティングオプティマイザ]が設定できるようになります。

長秒時露光のノイズ低減

露光時間1秒以上で撮影した画像に対して、長秒時露光特有のノイズ（輝点、縞）を低減することができます。

1. [📷: 長秒時露光のノイズ低減] を選ぶ



2. 低減内容を設定する



- **自動**
露光時間1秒以上で撮影した画像に対し、長秒時露光特有のノイズが検出された場合に自動低減処理が行われます。通常はこの設定で十分な効果が得られます。
- **する**
露光時間1秒以上で撮影した画像に対し、常に低減処理が行われます。[自動]で検出できないノイズがあったときに[する]で撮影すると、ノイズを低減できることがあります。

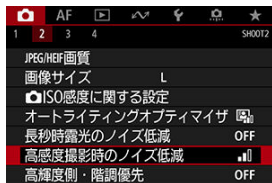
⚠ 注意

- [自動] [する] 設定時は、撮影後、ノイズ低減処理のために露光時間と同じ時間が必要となることがあります。
- [しない] [自動] 設定時よりも [する] 設定時の方が、画像のザラつきが多くなる場合があります。
- ノイズ低減処理中は、「buSY」が表示され、処理が終了するまでライブビュー映像は表示されません（次の撮影はできません）。

高感度撮影時のノイズ低減

画像に発生するノイズを低減することができます。特に高ISO感度撮影時に有効です。低ISO感度撮影時は、低輝度部（暗部）のノイズをさらに低減することができます。

1. [📷: 高感度撮影時のノイズ低減] を選ぶ



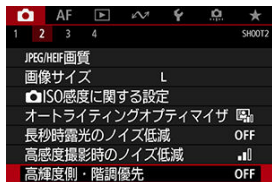
2. レベルを設定する



高輝度側・階調優先

画像のハイライト部分の白とびを緩和することができます。

1. [📷: 高輝度側・階調優先] を選ぶ



2. 内容を設定して撮影する



- [する] を選んだときは、高輝度（ハイライト）側の階調表現性が向上します。グレーからハイライトまでの階調がより滑らかになります。
- [強] 設定時は、撮影シーンによって [する] 設定時よりもさらに白とびを緩和することができます。

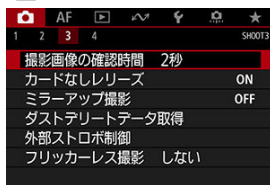
⚠ 注意

- ノイズが若干増えることがあります。
- ISO感度の設定範囲がISO200～になります。また、拡張ISO感度は設定できません。
- [強] に設定しても、撮影シーンによっては、思い通りの効果が得られないことがあります。

撮影画像の確認時間

撮影直後に、撮影画像を表示したままにするときは**〔ホールド〕**、撮影画像を表示しないようにするには**〔切〕**に設定します。

1. **〔📷: 撮影画像の確認時間〕**を選ぶ



2. 時間を設定する

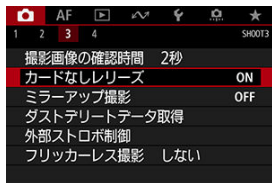
📖 参考

- **〔ホールド〕**に設定すると、**〔🔌: オートパワーオフ〕**で設定した時間まで画像が表示されます。

カードなしリリース

カードを入れ忘れた状態で、撮影できないようにすることができます。初期状態では「**する**」に設定されています。

1. [📷: カードなしリリース] を選ぶ

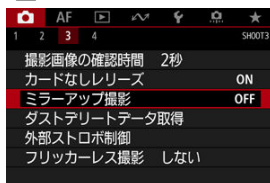


2. [しない] を選ぶ

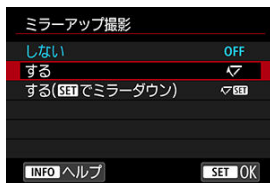
ミラーアップ撮影

ファインダー撮影時に、ミラーを上げた状態にしておくことで、ミラー動作のショックによるブレを低減することができます。近接（マクロ）撮影や超望遠レンズを使用した撮影、低速シャッターによる撮影などに効果的です。

1. [📷: ミラーアップ撮影] を選ぶ



2. 項目を選ぶ



- [する] または [する(SET)でミラーダウン)] を選び、<SET>を押します。

3. ピントを合わせ、シャッターボタンを全押しする



- ミラーが上がります。

4. もう一度シャッターボタンを全押しする

- 撮影が行われます。
- [する] 設定時は、撮影が終わるとミラーが下がります。
- [する(**SET**でミラーダウン)] 設定時は、撮影後もミラーが上がったままになります。ミラーを下げるときは **(SET)** を押します。

⚠ 注意

- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- 晴天の真夏の海岸や、スキー場のように極端に明るいところでミラーアップ撮影を行うときは、ミラーアップ安定後、速やかに撮影してください。
- ミラーアップ中は、撮影機能の設定やメニュー操作などはできません。

📖 参考

- [する] 設定時は、1枚撮影になります。[する(**SET**でミラーダウン)] 設定時は、設定したドライブモードで撮影されます。
- セルフタイマーを併用することもできます。
- ミラーアップしてから約30秒経過すると、ミラーが自動的に下がります。再度シャッターボタンを全押しすると、ミラーアップします。
- 三脚とリモートスイッチ RS-80N3（別売）、またはタイマーリモートコントローラー TC-80N3（別売）の使用をおすすめします (🔗)。

ダストデリートデータ取得

☑ 事前準備

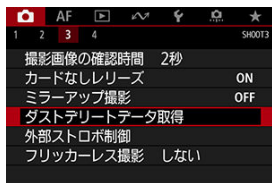
☑ ダストデリートデータの付加

センサークリーニングでゴミが除去しきれなかった場合に備えて、ゴミを消すための情報（ダストデリートデータ）を画像に付加することができます。付加された情報は、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで、自動ゴミ消し処理を行うときに使われます。

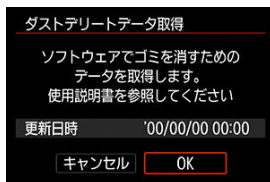
事前準備

- 白い無地の被写体（白紙など）を用意する。
- レンズの焦点距離を50mm以上にする。
- レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にして、無限遠（∞）に設定する。距離目盛のないレンズは、正面から見てフォーカスリングを時計方向に突き当たるまで回す。

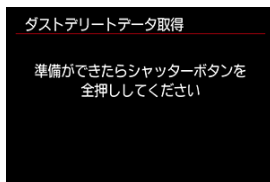
1. [📷: ダストデリートデータ取得] を選ぶ



2. [OK] を選ぶ

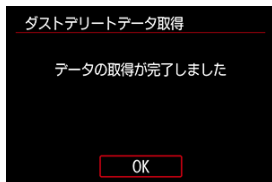


- 撮像素子の自動清掃が行われたあと、説明画面が表示されます。清掃中にシャッターの作動音がしますが、撮影は行われません。



3. 真っ白な無地の被写体を撮影する

- 20～30cmの距離で、真っ白な無地の被写体（未使用のコピー用紙など）を画面いっぱいに入れて撮影します。
- 画像は保存されませんので、カードが入っていないなくてもデータを取得することができます。



- 撮影を行うと、データの取得が始まります。取得が終わると、完了画面が表示されます。
- データが取得できなかったときは、その内容の画面が表示されます。[事前準備](#)の内容を確認し、[OK]を選んだあと、もう一度撮影します。

ダストデリートデータの付加

取得したダストデリートデータは、その後に撮影されるすべての静止画に付加されます。撮影の直前にデータを取得することをおすすめします。

なお、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalによる自動ゴミ消し処理については、Digital Photo Professional使用説明書を参照してください。

画像に付加されるダストデリートデータの容量は、画像のファイルサイズにはほとんど影響しません。

⚠ 注意

- 被写体に模様などがあると、その模様がゴミ情報として記録され、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional使用時に、正常なゴミ消し処理が行われなことがあります。




外部ストロボ撮影

- [EOS用EL/EXスピードライト](#)
- [EL/EX以外のキャノン製スピードライト](#)
- [汎用ストロボ](#)

EOS用EL/EXスピードライト

このカメラは、EL/EXシリーズスピードライト（別売）の機能を使用したストロボ撮影を行うことができます。
操作方法については、EL/EXスピードライトの使用説明書を参照してください。






● ストロボ調光補正

ストロボの発光量を調整する（調光補正を行う）ことができます。〈・〉ボタンを押したあと、ファインダー内、または上面表示パネルを見ながら〈〉を回します。




● FEロック

被写体の任意の部分に適正調光させるストロボ撮影方法です。被写体をファインダーの中央に置いて、カメラの〈M-Fn〉ボタンを押してから、構図を決めて撮影します。

⚠ 注意

- [ : オートライティングオフティマイザ] () が、[しない] 以外に設定されているときは、暗めにする調光補正（マイナス補正）を行っても、明るく撮影されることがあります。
- ストロボを使用してライブビュー撮影を行うときは、[ : シャッター方式] を [電子シャッター] 以外に設定してください ()。
- ライブビュー撮影時、外部ストロボからのAF補助光は投光されません。なお、LEDライト付きEXスピードライト使用時は、必要に応じてストロボのLEDライトからAF補助光が投光されます。
- スピードライト EL-100のストロボ自動発光機能には対応していません。〈〉モードに設定しても、常時発光します。また、電源連動機能にも対応していません。

📖 参考

- クイック設定 ()、または [ : 外部ストロボ制御] の [ストロボ機能設定] () で調光補正を行うこともできます。

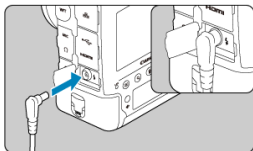
EL/EX以外のキヤノン製スピードライト

- EZ/E/EG/ML/TLスピードライトをA-TTLまたはTTL自動調光モードに設定して撮影すると、常時フル発光します。
カメラの撮影モードを〈**M**〉、または〈**Av**〉に設定して、絞り数値を変えて撮影してください。
- マニュアル発光機能を搭載したスピードライト使用時は、マニュアル発光モードで撮影してください。

● 同調シャッタースピード

小型の汎用ストロボは1/250秒以下で同調します。スタジオ用の大型ストロボは、小型の汎用ストロボに比べ閃光時間が長く、機種により閃光時間が異なります。1/60~1/30秒程度を目安に、あらかじめストロボが正しく同調するかどうか、確認してから撮影してください。

● シンクロ端子について



- シンクロ端子を利用して、シンクロコード付きのストロボを使用することができます。なお、端子にはコードの抜け落ちを防止するための、ロック用のねじ山が付いています。
- シンクロ端子には極性はありません。シンクロコードの極性に関わらず、そのまま使用することができます。

! 注意

- 他社製の特定カメラ専用のストロボ、およびストロボ用付属品を使用すると、カメラが正常な機能を発揮しないばかりでなく、故障の原因になります。
- シンクロ端子に250V以上の電圧がかかるストロボを使用しないでください。
- 高圧ストロボをアクセサリースューに取り付けて使用しないでください。発光しないことがあります。

参考

- アクセサリースューとシンクロ端子にそれぞれストロボを接続して、同時に使用することもできます。

ストロボメーターでマニュアル撮影について

手動で調光レベルを決める近距離撮影向けの機能です。マニュアル発光できるスピードライトと18%標準反射板を使って、次のように撮影します。

1. カメラとストロボの機能を設定する

- カメラの撮影モードを〈M〉、または〈Av〉にします。
- ストロボの発光モードをマニュアル発光にします。

2. 被写体にピントを合わせる

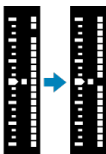
3. 18%標準反射板をセットする

- 標準反射板を被写体の位置に置きます。
- ファインダー内またはモニターに表示されるスポット測光範囲の領域全体に、標準反射板がくるようにします。

4. 〈M-Fn〉 ボタンを押す (☉16)

5. 調光レベルを設定する

- 調光レベルが標準露出指標の位置にくるように、ストロボのマニュアル発光量と、カメラの絞り数値を設定します。



6. 撮影する

- 標準反射板を取り除いて撮影します。

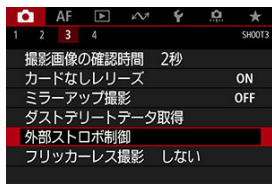
ストロボ機能の設定

- [ストロボの発光](#)
- [E-TTLテスト](#)
- [E-TTL II 調光方式](#)
- [連写時の調光制御](#)
- [Avモード時のストロボ同調速度](#)
- [ストロボ機能設定](#)
- [ストロボカスタム機能設定](#)
- [ストロボ機能設定初期化/ストロボカスタム機能一括解除](#)

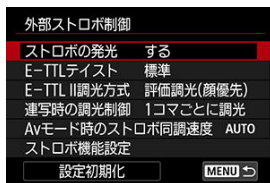
ストロボ機能設定に対応したEL/EXスピードライトを使用すると、カメラのメニュー画面からストロボの機能を設定することができます。設定を行う前にストロボをカメラに取り付け、ストロボの電源を入れておきます。

なお、ストロボの機能については、スピードライトの使用説明書を参照してください。

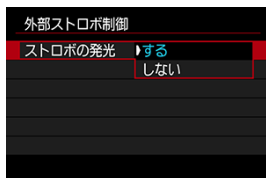
1. [📷: 外部ストロボ制御] を選ぶ



2. 項目を選ぶ

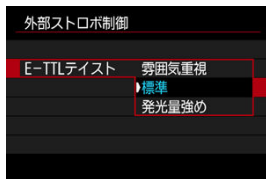


ストロボの発光



ストロボ撮影を行うときは、[する] に設定します。ストロボのAF補助光だけを利用したいときは、[しない] に設定します。

E-TTLテスト



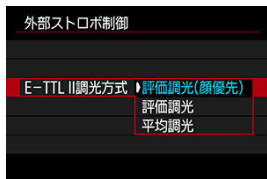
好みに応じてストロボ写真の仕上がり（テスト）を設定することができます。設定によって、環境光とストロボ光の光量比を変更することができます。

- **〔霧団気重視〕** は、ストロボ光の比率を下げ、環境光を活かした、より自然な霧団気を重視したライティングを想定したテストです。特に、室内などの暗いシーンでの撮影に効果的です。〈Av〉モードに設定の上、[📷：外部ストロボ制御]の〔Avモード時のストロボ同調速度〕を〔自動〕に設定し、スローシンクロ撮影することをおすすめします。
- **〔発光量強め〕** は、ストロボ光主体のテストです。環境光による被写体や背景の影などを軽減したいときに有効です。

⚠ 注意

- **〔霧団気重視〕** は暗いシーンで効果が得られますが、シーンによっては〔標準〕設定時との撮影結果に効果の差が得られないことがあります。

E-TTL II 調光方式



- **【評価調光(顔優先)】** に設定すると、人物の撮影に適した調光を行います。高速連続撮影時の連続撮影速度が、**【評価調光】** または **【平均調光】** よりも低下します。
- **【評価調光】** に設定すると、連続撮影時の発光を優先した調光を行います。
- **【平均調光】** に設定すると、測光領域全体を平均的に測光します。

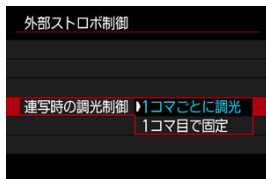
📖 参考

- 状況に応じてストロボ調光補正が必要です。

⚠️ 注意

- **【評価調光(顔優先)】** に設定しても、撮影条件や被写体によっては効果が得られないことがあります。

連写時の調光制御



[1コマごとに調光]に設定すると、撮影するごとに調光を行います。[1コマ目で固定]に設定すると、連続撮影する前に1度だけ調光を行います。1枚目の発光量で2枚目以降も撮影されます。構図を変えずに、連続撮影速度を優先して撮影したいときに有効です。

⚠ 注意

- 連続撮影中に被写体が動くと、露出が合わない場合があります。

Avモード時のストロボ同調速度

〈Av〉モードでストロボ撮影を行うときのストロボ同調速度を設定することができます。

Avモード時のストロボ同調速度	
自動	AUTO
1/250-1/60秒自動	1/250 -1/60 A
1/250秒固定	1/250

INFO ヘルプ SET OK

● AUTO : 自動

明るさに応じてシャッタースピードが1/250～30秒の範囲で自動設定されます。ハイスピードシンクロを行うこともできます。

● $\frac{1}{250}$ - $\frac{1}{60}$ A : 1/250-1/60秒自動

暗い場所でシャッタースピードが自動的に遅くならないようになります。被写体ブレや手ブレを防止したいときに有効です。ただし、被写体はストロボ光により標準露出になりますが、被写体の背景が暗くなることがあります。

● 1/250 : 1/250秒固定

シャッタースピードが1/250秒に固定されるため、[1/250-1/60秒自動] よりも被写体ブレや手ブレを抑えることができます。ただし、暗い場所では[1/250-1/60秒自動] よりも被写体の背景が暗くなります。

❗ 注意

- [1/250-1/60秒自動] [1/250秒固定] 設定時は、〈Av〉モードでハイスピードシンクロを行うことはできません。

ストロボ機能設定

画面に表示される内容や設定できる項目、項目の表示位置は、ストロボの機種や設定されている発光モード、ストロボカスタム機能の設定状態などにより異なります。使用するストロボの機能については、スピードライトの使用説明書を参照してください。

表示例



- (1) 発光モード
- (2) ワイヤレス機能/
光量比制御 (RATIO) 機能
- (3) ズーム (照射角)
- (4) シンクロ設定
- (5) 調光補正
- (6) FEB

注意

- ストロボ機能設定に対応していないEXスピードライト使用時は、設定できる機能が制限されます。

発光モード

撮影目的に応じて発光モードを選択します。



- **[E-TTL II]** は、ストロボの自動露出撮影ができる、EL/EXスピードライトの標準的なモードです。
- **[マニュアル発光]** は、ストロボの**[発光量]** を自分で決めて撮影するモードです。
- **[CSP]** (連写優先モード) は、対応する外部ストロボを使用したときに設定することができます。通常のストロボ撮影時と比べ、ストロボの発光量を自動的に1段下げ、代わりにISO感度を自動的に1段上げるモードです。連続撮影を行うときや、ストロボのバッテリーの消耗を抑えたいときに効果的です。
- その他の発光モードについては、各発光モードに対応したストロボの使用説明書を参照してください。

注意

- **<Tv>** **<M>** モードで、**[CSP]** の設定でストロボ撮影を行ったときに、撮影結果が露出オーバーになるときは、必要に応じて露出補正 (☑) を行ってください。

参考

- **[CSP]** 設定時は、ISO感度が自動的に**[オート]** に設定されます。

ワイヤレス機能



電波通信、または光通信によるワイヤレス多灯ライティング撮影を行うことができます。詳しくは、ワイヤレスストロボ撮影に対応したストロボの使用説明書を参照してください。

光量比制御機能 (RATIO)



マクロストロボ使用時に、発光部の光量比を設定することができます。詳しくは、光量比制御に対応したマクロストロボの使用説明書を参照してください。

ズーム (照射角)



ズーム機能を内蔵したストロボ使用時に、発光照射角を設定することができます。

シンクロ設定



通常は、撮影開始直後にストロボが発光する **[先幕シンクロ]** に設定します。
[後幕シンクロ] に設定すると、低速シャッター時に車のライトなどの軌跡を自然な感じで撮影できます。

[ハイスピード] に設定すると、ストロボ同調最高シャッタースピードよりも速いシャッタースピードで撮影することができます。日中の屋外などで、〈Av〉モードで絞りを開き、被写体の背景をぼかして撮影したいときに有効です。

⚠ 注意

- 後幕シンクロで撮影するときは、シャッタースピードを1/50秒以下の遅い速度に設定してください。1/60秒以上の速い速度のときは、**[後幕シンクロ]** に設定していても、自動的に先幕シンクロ撮影になります。

調光補正

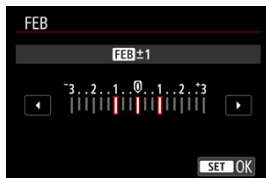


露出補正と同じ感覚で、ストロボの発光量を調整することができます。

📖 参考

- ストロボ側で調光補正を設定したときは、カメラ側から調光補正を行うことはできません。なお、同時に設定されているときは、ストロボ側の設定が優先されます。

FEB

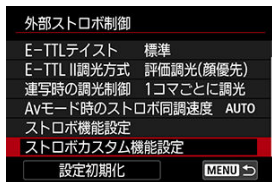


FEB（Flash Exposure Bracketting）機能を搭載した外部ストロボを使用すると、外部ストロボの発光量を自動的に変えながら3枚の撮影を行うことができます。

ストロボカスタム機能設定

ストロボのカスタム機能については、ストロボの使用説明書を参照してください。

1. [ストロボカスタム機能設定] を選ぶ



2. 機能を設定する

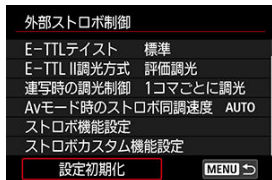


- 番号を選びます。
- 項目を選びます。

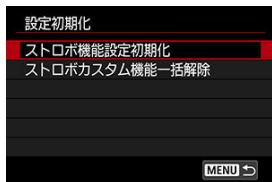
注意

- EXスピードライト使用時に、ストロボカスタム機能の[調光方式]を[TTL] (自動調光)に設定したときは、常時フル発光します。
- [外部ストロボ制御]の画面から、外部ストロボのパーソナル機能(P.Fn)の設定・解除はできません。外部ストロボを直接操作して設定してください。

1. [設定初期化] を選ぶ



2. 初期化する内容を選ぶ

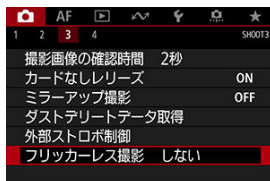


- [ストロボ機能設定初期化] [ストロボカスタム機能一括解除] のいずれかを選びます。
- 確認画面で [OK] を選ぶと、ストロボの設定が初期化、またはカスタム機能がすべて解除されます。

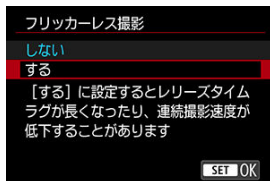
フリッカーレス撮影

蛍光灯などの光源下で、速いシャッタースピードで撮影を行うと、光源の点滅（明滅）によるちらつき（フリッカー）により、画面の上下で露出差が生じたり、連続撮影を行ったときに写真に露出差や色あいの差が生じることがあります。ファインダー撮影時にフリッカーレス撮影機能を使用すると、フリッカーによる露出や色あいへの影響が少ないタイミングで撮影することができます。

1. [📷: フリッカーレス撮影] を選ぶ



2. [する] を選ぶ



3. 撮影する

ⓘ 注意

- [する] 設定時にフリッカー光源下で撮影を行うと、リリースタイムラグが長くなることがあります。また、連続撮影速度が遅くなったり、連続撮影間隔にばらつきが生じることがあります。
- ミラーアップ撮影時、ライブビュー撮影時、動画撮影時は機能しません。
- 100Hz、120Hzの点滅周期以外は検出できません。また、連続撮影中に光源の点滅周期が変化したときは、フリッカーの影響は低減できません。
- (P) (Av) モードで連続撮影中にシャッタースピードが変化したときや、同一シーンでシャッタースピードを変えて複数枚の撮影を行ったときは、撮影画像の色あいが異なることがあります。色あいの変化が気になるときは、(M) (Tv) モードでシャッタースピードを一定にして撮影してください。
- [する] に設定したときと、[しない] に設定したときで、撮影画像の色あいが異なることがあります。
- AEロック撮影時を含む撮影開始時に、シャッタースピード、絞り数値、ISO感度が変化することがあります。
- 被写体の背景が暗いときや、画面内に輝度が高い光源などが含まれているときは、フリッカーを適切に検知できないことがあります。
- イルミネーションなどの特殊な光源下では、フリッカーの影響が低減できないことがあります。
- 光源によってはフリッカーを適切に検知できないことがあります。
- 光源や撮影条件などにより、この機能を使用しても効果が得られないことがあります。

📖 参考

- 事前にテスト撮影することをおすすめします。
- フリッカーの影響が低減された状態で撮影が行われるときは、(Flicker!) が点灯します。ファインダー内に (Flicker!) が表示されないときは、[📷: ファインダー内表示] の [ファインダー内表示設定] で [フリッカー検知] に [✓] を付けます (📷)。なお、フリッカーが発生しない光源下や、フリッカーを検知できないときは、(Flicker!) は表示されません。
- [フリッカー検知] に [✓] が付いている状態で、[📷: フリッカーレス撮影] を [しない] に設定し、フリッカー光源下で測光を行ったときは、ファインダー内の (Flicker!) が点滅して警告が行われます。
- ワイヤレスストロボ撮影時は効果が得られないことがあります。

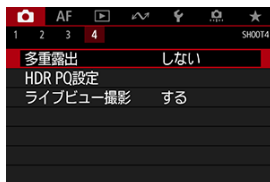
多重露出撮影

[カードに記録されているRAW画像に重ね合わせる](#)

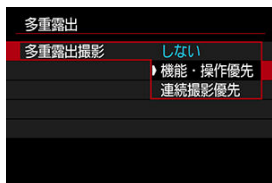
[撮影途中の画像確認と画像消去](#)

複数の画像（2～9枚）を重ね合わせた写真を撮影することができます。なお、ライブビュー撮影のときは、画像の重なり具合を確認しながら撮影することができます。

1. [📷: 多重露出] を選ぶ



2. [多重露出撮影] を設定する



- 内容を選び、**<SET>** を押します。
- 多重露出撮影をやめるときは、**[しない]** を選びます。
- **機能・操作優先**
画像の確認を行いながら、じっくり多重露出撮影を行いたいときに適しています。連続撮影時は連続撮影速度が大幅に遅くなります。
- **連続撮影優先**
動いている被写体を連続して重ね合わせるときに設定します。連続撮影を行うことができますが、撮影中に「メニュー画面の表示」「撮影直後の画像確認」「画像再生」「撮影のやり直し (🔄)」はできません。なお、撮影画像は多重露出画像のみ保存されます (多重露出画像を生成するために撮影した画像の保存はできません)。

3. [多重露出制御] を設定する



- 露出の重ね合わせ方を選び、**(SET)**を押します。

- **加算**

撮影した画像の露出を加算して重ね合わせます。[重ねる枚数]に応じて、マイナス補正を行ってください。露出補正量の目安は以下のとおりです。

重ねる枚数と露出補正量の目安

「2枚：-1段」「3枚：-1.5段」「4枚：-2段」

- **加算平均**

[重ねる枚数]に応じて自動的にマイナス補正を行いながら、画像を重ね合わせます。なお、同じ構図で撮影したときは、被写体の背景が標準露出になるように自動露出制御が行われます。

- **比較(明)/比較(暗)**

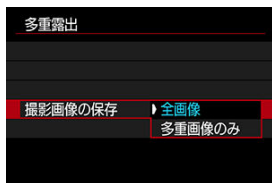
ベースになる画像と重ね合わせる画像を同じ位置で明るさ(暗さ)比較して、明るい(暗い)部分を残します。重なる色によっては、明るさ(暗さ)の割合に応じて、色が混ざり合うことがあります。

4. [重ねる枚数] を設定する



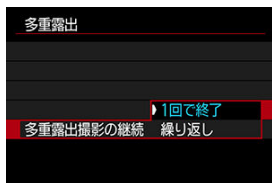
- 枚数を選び **(SET)**を押します。

5. 保存する画像を設定する



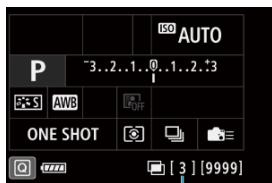
- 重ね合わせる画像と、多重露出画像の両方を保存するときは、[全画像]を選び、〈SET〉を押します。
- 多重露出画像だけを保存するときは、[多重画像のみ]を選び、〈SET〉を押します。

6. [多重露出撮影の継続]を設定する



- 内容を選び、〈SET〉を押します。
- [1回で終了]を選んだときは、撮影が終了すると、多重露出撮影が自動的に解除されます。
- [繰り返し]を選んだときは、手順2で[しない]を選ぶまで多重露出撮影が続きます。

7. 1枚目を撮影する



(1)

- [機能・操作優先] 設定時は、撮影した画像が表示されます。
- <[]> が点滅します。
- 多重露出撮影の残り枚数は、ファインダー内右側の数値、または画面に表示される数値 (1) で確認することができます。
- <[▶]> ボタンを押すと、撮影した画像を確認することができます (☑)。

8. 2枚目以降を撮影する

- ライブビュー撮影を行ったときは、そのときまでに撮影した画像が重なって表示されます。<[INFO]> ボタンを (何回か) 押すと、ライブビュー映像だけを表示することができます。
- ライブビュー撮影時は、絞り込みボタン、または [6: 操作ボタンカスタマイズ] で [絞り込み] 機能を割り当てたボタンを押している間、撮影途中の (多重) 画像が表示され、重なり具合や露出などを確認することができます。
- 設定した枚数を撮影すると、多重露出撮影が終了します。

参考

- [機能・操作優先] のときは、撮影途中で <[▶]> ボタンを押すと、そのときまでに撮影した多重露出画像を確認したり、直前に撮影した画像を消去することができます (☑)。
- 最後に撮影したときの撮影情報が多重露出画像に記録されます。

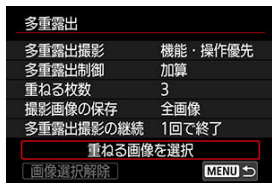
ⓘ 注意

- 記録画質、ISO感度、ピクチャースタイル、高感度撮影時のノイズ低減、色空間などは、1枚目と同じ設定で2枚目以降も撮影されます。
- [📷:ピクチャースタイル] が [オート] に設定されているときは、[スタンダード] で撮影されます。
- [機能・操作優先] + [加算] 設定時に、撮影途中に表示される画像のノイズ、色ムラ、縞などは、最終的に記録される多重露出画像と異なることがあります。
- 多重露出撮影は、重ねる枚数が多いほど、ノイズ、色ムラ、縞が目立つようになります。
- [加算] 設定時は、多重露出撮影を終了したときに画像処理に時間がかかります（アクセスランプが長く点灯します）。
- 手順8で撮影時に重なって表示される画像の明るさやノイズなどは、最終的に記録される多重露出画像とは異なります。
- 電源スイッチ〈OFF〉、バッテリー交換、カード交換、動画撮影への切り換えを行うと、多重露出撮影が解除されます。
- 撮影中に撮影モードを〈C1〉 〈C2〉 〈C3〉 にすると、多重露出撮影が終了します。
- カメラとパソコンを接続しているときは、多重露出撮影はできません。なお、撮影中に接続すると多重露出撮影が終了します。

カードに記録されているRAW画像に重ね合わせる

カードに記録されているRAW画像を1枚目に指定して、多重露出撮影を行うことができます。選択したRAW画像はそのまま残ります。

1. [重ねる画像を選択] を選ぶ



2. 1枚目の画像を選ぶ

- 〈〉を回して1枚目に設定する画像を選び、〈〉を押します。
- [OK] を選びます。
- 選択中の画像番号が、画面の下側に表示されます。

3. 撮影する

- 画像を選択すると、残り撮影枚数は[重ねる枚数]で設定した枚数よりも1枚少なくなります。

ⓘ 注意

- JPEG/HEIF画像は選択できません。
- [📷: 高輝度側・階調優先] を [する] [強] に設定して撮影した画像、トリミング情報が付加された画像は、1枚目に指定できません。
- [📷: レンズ光学補正] [📷: オートライティングオプティマイザ] は、1枚目に指定した画像の設定に関わらず、[しない] で撮影されます。
- ISO感度、ピクチャースタイル、高感度撮影時のノイズ低減、色空間などは、1枚目に指定した画像と同じ設定で撮影されます。
- 1枚目に指定した画像のピクチャースタイルが [オート] のときは、[スタンダード] で撮影されます。
- 他のカメラで撮影した画像は選択できません。
- 重ね合わせに使用できない画像が表示されることがあります。

📖 参考

- 多重露出撮影を行ったRAW画像を選ぶこともできます。
- [画像選択解除] を選ぶと、指定が解除されます。

撮影途中の画像確認と画像消去



【機能・操作優先】 設定時に、設定した枚数の撮影が完了する前に〈▶〉ボタンを押すと、撮影途中の（多重）画像が表示され、重なり具合や、露出などを確認することができます（**【連続撮影優先】**時不可）。

この状態で〈⏪〉ボタンを押すと、撮影途中に操作できる項目が表示されます。

項目	内容
⏪ 前の画面に戻る	〈⏪〉ボタンを押す前の画面に戻ります。
📷 1枚戻る	直前に撮影した画像を消去します（撮影のやり直し）。残り撮影枚数が1枚増えます。
📷 保存して終了	【撮影画像の保存：全画像】 設定時は、途中まで撮影した全画像と、多重露出画像を保存して終了します。 【撮影画像の保存：多重画像のみ】 設定時は、途中まで撮影した多重露出画像だけを保存して終了します。
📷 保存しないで終了	撮影した画像を保存しないで終了します。

⚠ 注意

- 多重露出撮影中は、多重露出画像以外の再生はできません。

?こんなときは

- **記録画質に制限はありますか？**

各撮影画像、多重露出画像とも、記録画質の設定通りに記録されます。

- **カードに記録されている画像に重ね合わせたい**

[**重ねる画像を選択**] で、多重露出1枚目の画像を選択することができます (☑)。カードに記録されている画像どうしを重ね合わせることはできません。

- **多重露出画像の画像番号はどうなりますか？**

全画像を保存する設定のときは、多重露出画像を生成するために撮影した最終画像の続き番号で、多重露出画像が保存されます。

- **多重露出撮影中にオートパワーオフ機能は作動しますか？**

多重露出撮影中にオートパワーオフは機能しません。なお、多重露出撮影を開始する前は、[**🔌 : オートパワーオフ**] の設定時間で自動的に電源が切れ、多重露出の設定は解除されます。

HDR PQ設定

HDR PQのPQはHDR画像を表示するための入力信号のガンマカーブのことを指します。
HDR PQ設定は、ITU-R BT.2100およびSMPTE ST.2084で定義されたPQ規格に準拠したHDR画像を生成します（実際に表示される画像は、モニター性能に依存します）。
撮影結果は、HEIF画像またはRAW画像で記録されます。

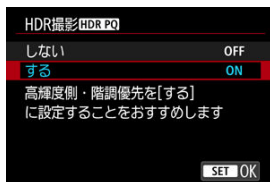
* 「HDR」はHigh Dynamic Rangeの略です。

* 「PQ」はPerceptual Quantizationの略です。

1. [📷: HDR PQ設定] を選ぶ

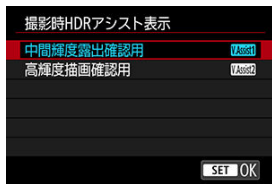


2. [HDR撮影HDR PQ] を選ぶ



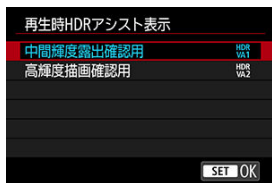
- 「する」を選びます。

3. [撮影時HDRアシスト表示] を設定する



- ライブビュー撮影時、HDR対応ディスプレイ表示時と印象が近づくように変換した画像がモニターに表示されます。
- [中間輝度露出確認用] または [高輝度描画確認用] を選びます。
- **[VAssist1] 中間輝度露出確認用**
中間輝度の被写体（人物など）の露出を優先した表示を確認することができます。
- **[VAssist2] 高輝度描画確認用**
高輝度の被写体（空など）の階調を優先した表示を確認することができます。

4. [再生時HDRアシスト表示] を設定する



- 再生時、HDR対応ディスプレイ表示時と印象が近づくように変換した画像がモニターに表示されます。
- [中間輝度露出確認用] または [高輝度描画確認用] を選びます。
- [HDR VA1] 中間輝度露出確認用
中間輝度の被写体（人物など）の露出を優先した表示を確認することができます。
- [HDR VA2] 高輝度描画確認用
高輝度の被写体（空など）の階調を優先した表示を確認することができます。

5. 記録画質を設定する

- [記録画質](#)を参照してください。

参考

- [撮影時HDRアシスト表示] の設定は、撮影直後にモニターに表示される画像にも反映されます。

注意

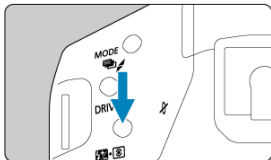
- HEIF画質で撮影したときは、Lサイズで記録されます。
- 拡張ISO感度（L、H1、H2、H3）でHDR撮影を行うことはできません。
- シーンによっては、HDR対応ディスプレイ表示時と印象が異なることがあります。
- [HDR撮影HDR PQ] を [する] に設定したときのヒストグラムはアシスト表示によって変化するものではありません。ヒストグラムでグレー表示されている領域は、使用されない信号値の目安になります。

測光モードの選択

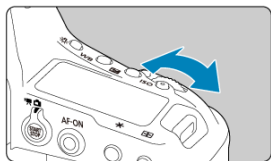
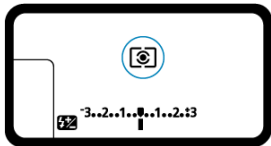
マルチスポット測光


被写体の明るさを測る機能の特性を4種類の中から選ぶことができます。

1. ボタンを押す (a6)



2. 測光モードを選ぶ



- 上面表示パネルまたはファインダー内を見ながら  を回します。

評価測光

逆光撮影を含む一般的な撮影に適しています。撮影シーンに応じてカメラが露出を自動補正します。

部分測光

逆光などで被写体の周辺に強い光があるときに有効です。









スポット測光

被写体の特定の部分を測光するときに有効です。ファインダー内にスポット測光範囲が表示されます。

中央部重点平均測光

ファインダー中央部に重点を置いて、画面全体を平均的に測光します。

参考

- カメラが初期状態のときは、以下のタイミングで露出が決まります。
〈〉は、シャッターボタン半押しでピントが合うと、半押ししている間、露出値が固定（AEロック）されます（ワンショットAF時）。〈〉 / 〈〉 / 〈〉は、撮影する瞬間に露出が決まります（半押しによる露出値の固定なし）。
- [ 1：測距点連動スポット測光] を [測距点に連動] に設定すると ()、すべてのAFフレームに連動したスポット測光を行うことができます。
- [ 2：合焦後AEロックする測光モード] () で、ワンショットAFでピントが合ったときに露出を固定（AEロック）するかどうかを、設定することができます。

マルチスポット測光

画面の複数の場所をスポット測光し、その場所が相対的にどのような露出になるかを考えながら、狙い通りの最終露出を決めることができます。〈P〉 〈Tv〉 〈Av〉モードのときにマルチスポット測光を行うことができます。

1. 〈〉 (スポット測光) にする








2. 〈M-Fn〉 ボタンを押す ()

- 相対的な露出レベルを知りたい場所にスポット測光範囲マークを合わせ、それぞれの場所で〈M-Fn〉ボタンを押します。
- ファインダー内の右側に、スポット測光を行った位置の相対的な露出レベルが表示されます。露出値は平均値が設定されます。



- この状態で露出補正を行うと、3点の露出レベル表示全体を見ながら、表現意図に合わせた最終露出を決めることができます。

参考

- 8点までスポット測光を行うことができます。
- 露出値の記憶は次の条件で解除されます。
 - スポット測光後、測光タイマー () が切れたとき
 - 〈MODE〉 〈DRIVE・AF〉 〈・〉 〈ISO〉 〈〉 〈〉 〈WB〉 ボタンを押したとき
- [ 1 : 測距点連動スポット測光] が [測距点に連動] に設定されているときも ()、マルチスポット測光を行うことができます。

自分の好みに露出を補正する

カメラが決めた標準的な露出に対して、明るめ（プラス補正）にしたり、暗め（マイナス補正）にして撮影することを「露出補正」といいます。

〈M〉モード+ISOオート設定時の露出補正については、[M：マニュアル露出](#)を参照してください。

1. 露出を確認する

- シャッターボタンを半押しして (6)、露出レベル表示を確認します。

2. 補正量を設定する

明るく（プラス）補正







暗く（マイナス）補正





- ファインダー内、または上面表示パネルを見ながら (7) を回します。
- 設定できないときは、電源スイッチを〈ON〉の位置にしてから (7) を回します。
- 補正範囲は、ファインダー撮影時は±5段、ライブビュー撮影時は±3段です。
- ファインダー内と上面表示パネルの露出補正表示は±3段までです。±3段を超える設定は、[クイック設定](#)で行うことができます。








3. 撮影する

- 露出補正を解除するときは、露出レベル〈 / 〉を標準露出指標〈 / 〉の位置に戻します。

⚠ 注意

- [ : オートライティング最適マイザ] () が、[しない] 以外に設定されているときは、暗めにする露出補正（マイナス補正）を行っても、明るく撮影されることがあります。

📖 参考

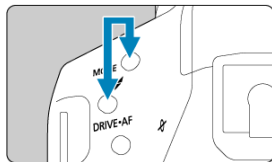
- 〈〉ボタンを押したあと、〈〉または〈〉を回して設定することもできます。
- 設定した補正量は、電源スイッチを〈OFF〉にしても記憶されています。
- 補正量を設定してから電源スイッチを〈LOCK〉の位置にすると、補正量が不用意に変わることを防止することができます。
- 露出補正量が±3段を超えるときは、露出レベル表示の端が〈 / 〉または〈 / 〉の表示になります。


露出を自動的に変えて撮る/AEB撮影

1/3段ステップ±3段の範囲で、自動的にシャッタースピード、または絞り数値を変えながら3枚の画像を撮影することができます。これを「AEB撮影」といいます。

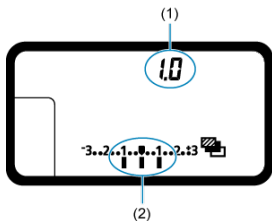
* AEBはAuto Exposure Bracketing（オートエクスポージャーブラケティング）の略です。

1. 〈MODE〉 ボタンと 〈DRIVE・AF〉 ボタンを同時に押す (ⓐ6)



- 上面表示パネルに  と 〈0.0〉 が表示されます。

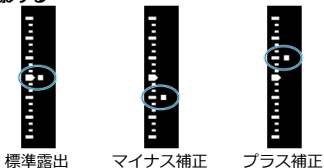
2. AEBレベルを設定する



- (1) AEBステップ量
- (2) AEBレベル










- 〈〉 または 〈〉 を回してAEBレベルを設定します。

3. 撮影する



- 設定しているドライブモードに従って、標準露出→マイナス補正→プラス補正の順に撮影されます。
- AEB撮影は自動解除されません。解除するときは、手順2の操作でAEBステップ量を「**0.0**」に戻します。

参考

- AEB撮影中は、ファインダー内の〈✳〉と上面表示パネルの〈〉が点滅します。
- ドライブモードが〈/S〉のときは、3回撮影してください。
〈H//L/S /S L〉のときは、シャッターボタンを全押ししたままにすると、3枚連続撮影して自動的に停止します。〈¹⁰/2〉のときは、約10秒後または約2秒後に3枚連続撮影されます。
- 露出補正と組み合わせて、AEB撮影を行うこともできます。
- AEBレベルが±3段を超えるときは、露出レベル表示の端が〈▶/▲〉または〈◀/▼〉の表示になります。
- ストロボ使用時、パルプ撮影時はAEB撮影できません。
- 電源スイッチ〈OFF〉、ストロボ充電完了で、AEB設定が自動解除されます。

露出を固定して撮る／AEロック撮影

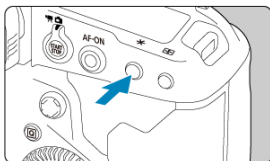
AEロックの効果

ピントと露出を別々に決めたいときや、同じ露出で何枚も撮影するときに使います。
〈*〉ボタンを押して露出を固定したあと、構図を変えて撮影します。これを「AEロック撮影」といいます。逆光下の撮影などで有効です。

1. ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- 露出値が表示されます。

2. 〈*〉ボタンを押す (⦿6)



- ファインダー内に〈*〉が表示され、露出が固定（AEロック）されます。
- 〈*〉ボタンを押すたびに、そのときの露出がAEロックされます。

3. 構図を決めて撮影する



- AEロックした露出値と新しい露出値がファインダー内の右側にリアルタイムで表示されます。
- 続けてAEロック撮影を行うときは、〈*****〉ボタンを押しながら、シャッターボタンを押します。

参考

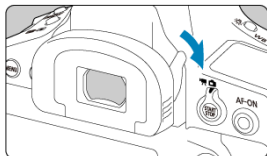
- バルブ撮影時はAEロックできません。

AEロックの効果

測光モードの選択	測距エリアとAFフレームの選択	
	自動選択	任意選択
	ピントを合わせたAFフレームを中心にした露出値でAEロック	選択されているAFフレームを中心にした露出値でAEロック
	中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロック	

* 〈〉設定時に、レンズのフォーカスモードスイッチが〈MF〉のときは、中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロックされます。

アイピースシャッターの使い方



セルフタイマー撮影やバルブ撮影、リモートスイッチを使った撮影など、ファインダーをのぞかずに撮影すると、ファインダーから入った光の影響で暗い写真（露出不足）になることがあります。このようなときは、アイピースシャッターレバーを矢印の方向に操作して、ファインダーを遮光します。

なお、ライブビュー撮影と動画撮影のときは、ファインダーを遮光する必要はありません。

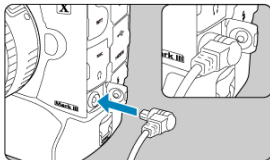
リモートスイッチ撮影

リモートスイッチ RS-80N3（別売）や、タイマーリモートコントローラー TC-80N3（別売）など、N3タイプの端子を備えたEOS用アクセサリーをカメラに取り付けて撮影することができます (📷)。

アクセサリーの操作方法については、各アクセサリーの使用説明書を参照してください。

1. 端子カバーを開ける

2. リモコン端子にプラグを取り付ける



- 図のように取り付けます。
- 取り外すときは、プラグの銀色の部分をつまんで引き抜きます。

静止画撮影（ライブビュー撮影）

- カメラのモニターに表示される映像を見ながら撮影することができます。この撮影方法を「ライブビュー撮影」といいます。
- [メニュー目次：静止画撮影（ライブビュー撮影）](#)
- [ライブビュー撮影](#)
- [シャッター方式](#)
- [露出Simulation](#)
- [測光タイマー](#)
- [ライブビュー撮影全般の注意事項](#)

メニュー目次：静止画撮影（ライブビュー撮影）

● 撮影1



- (1) [ホワイトバランス](#)
- (2) [MWBデータ登録](#)
- (3) [WB補正/BKT設定](#)
- (4) [色空間](#)
- (5) [ピクチャースタイル](#)
 - [ピクチャースタイルの選択](#)
 - [ピクチャースタイルの調整](#)
 - [ピクチャースタイルの登録](#)
- (6) [明瞭度](#)
- (7) [レンズ光学補正](#)

● 撮影2



- (1) [JPEG/HEIF画質](#)
- (2) [画像サイズ](#)
- (3) [ISO感度に関する設定](#)
- (4) [オートライティング最適マイザ](#)
- (5) [長秒時露光のノイズ低減](#)
- (6) [高感度撮影時のノイズ低減](#)
- (7) [高輝度側・階調優先](#)

● 撮影3



- (1) [撮影画像の確認時間](#)
- (2) [カードなしリリース](#)
- (3) [ダストデリートデータ取得](#)
- (4) [外部ストロボ制御](#)

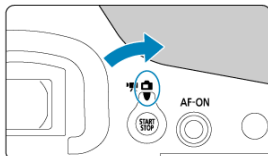
● 撮影4



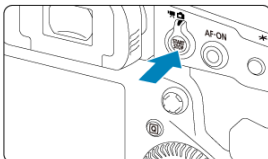
- (1) [シャッター方式](#)
- (2) [多重露出](#)
- (3) [HDR PQ設定](#)
- (4) [露出Simulation](#)
- (5) [測光タイマー](#)

ライブビュー撮影

1. ライブビュー撮影/動画撮影スイッチを にする



2. ライブビュー映像を表示する



-  ボタンを押します。
- ライブビュー映像は、実際の撮影結果に近い明るさで表示されます。

3. 撮影モードを選ぶ



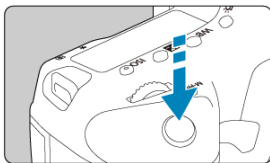
-  ボタンを押し、 または  を回して撮影モードを選びます。

4. ピントを合わせる



- シャッターボタンを半押しすると、設定されているAF方式 (AF) でピント合わせが行われます。
- 画面にタッチして人物の顔や被写体を選ぶこともできます。

5. 撮影する






- シャッターボタンを全押しします。
- 〈START/STOP〉ボタンを押すとライブビュー撮影が終了します。

⚠ 注意

- 明るい屋外で見るライブビュー映像は、実際に撮影される明るさや雰囲気と異なることがあります。[☑: 画面の明るさ] でモニターの明るさを目盛4の位置にして、周りの光の影響を受けないようにして映像を見てください。

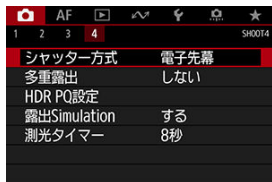
参考

- 映像の視野率は約100%（画像サイズ：JPEG/L（ラージ））です。
- カメラを操作しない状態が続くと、**[🔌：オートパワーオフ]** の設定時間で電源が自動的に切れます（）。**[しない]** に設定されているときは、約30分でライブビュー機能が自動的に終了します（電源は切れません）。
- HDMIケーブルHTC-100を使用すると、ライブビュー映像をテレビに表示することができます（）。ただし、音声は出力されません。
- ヒストグラムは、**[📷：露出Simulation]** が **[する]** に設定されているときに（） **<INFO>** ボタンを何回か押すと表示することができます。
- **[Exp.SIM]** が白く表示されているときは、実際の撮影結果に近い明るさでライブビュー映像が表示されています。
- **[Exp.SIM]** が点滅しているときは、低輝度、または高輝度条件下で映像が撮影結果と異なる明るさで表示されていることを示しています。ただし、撮影を行うと露出設定どおりに記録されます。また、実際に撮影される画像よりもノイズが多く見えることがあります。
- 撮影機能の設定条件によっては、露出シミュレーションが行われないことがあります。そのときは **[Exp.SIM]** とヒストグラムが灰色で表示されます。このとき画面に表示される映像は、標準的な明るさで表示されます。また、低輝度、高輝度条件下ではヒストグラムが適切に表示されないことがあります。

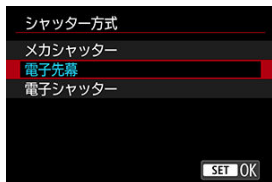
シャッター方式

シャッター方式を選ぶことができます。

1. [📷: シャッター方式] を選ぶ



2. 項目を選ぶ



- **メカシャッター**

撮影時にメカシャッターが作動します。明るいレンズの絞りを開いて撮影するときに選ぶことをおすすめします。

- **電子先幕**

撮影時に後幕のみ作動します。[メカシャッター] よりもシャッター作動音が静かになります。

- **電子シャッター**

シャッター作動音を鳴らさずに撮影することができます。
連続撮影設定時は、常に高速連続撮影（最高約20コマ/秒）で撮影されます。また、連続撮影中は、白枠の点灯/消灯を繰り返します。

ⓘ 注意

- 高速シャッタースピード、絞り開放付近で撮影したときは、撮影条件によりボケ像が欠けて写ることがあります。なお、ボケ像の写り方が気になるときは、以下のいずれかの方法で撮影すると改善することがあります。
 - [電子先幕] 以外で撮影する
 - シャッタースピードを遅くする
 - 絞り数値を大きくする

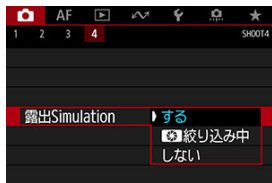
[電子シャッター] 設定時の注意事項

- 電子シャッター機能は、被写体の肖像権やプライバシーなどに十分配慮した上で、お客様の責任において使用してください。
- シャッタースピードが制限されます。0.5秒より遅いシャッタースピードを設定することはできません。
- 撮影条件により、連続撮影速度が低下することがあります。
- 動きの速い被写体を撮影すると、被写体が歪んで写ったり、サーボAFで連続撮影を行ったときに、ピントが合わないことがあります。
- 使用するレンズや撮影条件により、レンズのフォーカス駆動音や、絞りの駆動音がすることがあります。
- 電子シャッター撮影中に他のカメラのストロボが発光したときや、蛍光灯などのフリッカー光源下で電子シャッター撮影を行ったときは、画面に光の帯や、明暗差による縞が記録されることがあります。
- 連続撮影中にズーム操作を行うと、レンズによっては、F値が一定でも露出が変化することがあります。詳しくは、キヤノンのホームページを参照してください。
- バルブ撮影時は、[電子先幕] で撮影されます。
- AEB撮影、ストロボ撮影はできません。
- 一部機能が制限されますが、[電子シャッター] 以外に設定を変更したり、ファインダー撮影に切り換えると、元の設定に戻ります。

露出Simulation

露出Simulation（シミュレーション）は、実際の撮影結果（露出）に近い明るさをシミュレートして映像を表示する機能です。

1. [📷: 露出Simulation] を選ぶ



2. 内容を設定する

● する (Exp.SIM)

実際の撮影結果（露出）に近い明るさで表示されます。露出補正を行うと、補正量に応じて映像の明るさが変わります。

● 絞り込み中

通常は、ライブビュー映像が見やすいように、標準的な明るさで表示されます (DISP)。絞り込みボタンを押している間だけ、実際の撮影結果（露出）に近い明るさで表示されます (Exp.SIM)。

● しない (DISP)

ライブビュー映像が見やすいように、標準的な明るさで表示されます。露出補正を行っても、標準的な明るさで表示されます。

測光タイマー

シャッターボタンを半押ししたときなどに自動的に作動する「測光タイマー」の作動時間（露出値の表示時間／AEロック時の保持時間）を設定することができます。

1. [📷: 測光タイマー] を選ぶ



2. 時間を設定する

ライブビュー撮影全般の注意事項

⚠ 注意

- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。

画質について

- 高ISO感度で撮影すると、ノイズ（輝点、縞など）が目立つことがあります。
- 高温下で撮影すると、ノイズや色ムラが発生することがあります。
- ライブビュー撮影を長時間継続すると、カメラ内部の温度が上昇して、画質が低下することがあります。撮影しないときは、こまめにライブビュー撮影を終了してください。
- カメラ内部の温度が上昇した状態で長秒時露光を行うと、画質が低下することがあります。ライブビュー撮影を一旦終了し、数分間経ってから撮影してください。

カメラ内部の温度上昇に伴う、白い【H】と赤い【E】表示について

- ライブビュー撮影を長時間行ったり、高温下でライブビュー撮影を行うと、カメラ内部の温度が上昇し、白い【H】または赤い【E】が表示されます。
- 白い【H】は、静止画の画質が低下することを示しています。このため、カメラ内部の温度が下がるまで、ライブビュー撮影を一時休止することをおすすめします。
- 白い【H】が表示されたときは、高ISO感度を使用せず、低ISO感度での撮影をおすすめします。
- 赤い【E】は、もうすぐライブビュー撮影が自動的に終了することを示しています。そのときは、カメラ内部の温度が下がるまで撮影ができなくなるため、ライブビュー撮影を一時休止するか、一旦電源を切ってしまうとカメラを休止してください。
- 高温下でライブビュー撮影を長時間行うと、白い【H】または赤い【E】が表示されるタイミングが早くなります。撮影しないときは、こまめに電源を切ってください。
- 白い【H】が表示されていなくても、カメラ内部の温度が上昇している状態で、高ISO感度撮影、長秒時露光を行うと、画質が低下することがあります。

撮影結果について

- 拡大表示中は、シャッタースピードと絞り数値が赤色で表示されます。拡大表示の状態では撮影すると、意図した露出で撮影されないことがあります。通常表示に戻して撮影してください。
- 拡大表示の状態でも、通常表示の範囲が撮影されます。

ライブビュー映像について

- 低輝度、高輝度条件下では、映像が撮影結果に近い明るさで表示されないことがあります。
- ISO感度を低く設定しても、暗い場所ではライブビュー映像にノイズが多く表示されることがありますが、撮影を行うとノイズの少ない画質で撮影されます（ライブビュー映像と撮影した画像の画質は異なります）。
- 表示中に光源（照明光）が変化すると、画面がちらつくことがあります。そのときは、ライブビュー撮影を一旦終了し、撮影する光源下でライブビュー撮影を再開してください。
- カメラの向きを変えると、映像が一瞬適切な明るさで表示されないことがあります。適切な明るさに安定するのを待ってから撮影してください。
- 極端に明るい光源が画面内にあると、明るい部分が黒っぽくつぶれたように表示されることがあります。ただし、撮影すると、その部分は明るい状態で正しく記録されます。
- 暗い場所で【**Y**：画面の明るさ】を明るい設定にすると、ライブビュー映像にノイズや色ムラが発生することがあります。ただし、このノイズや色ムラは撮影画像には記録されません。
- 映像を拡大表示すると、シャープネスが実際の設定よりも強くかかって見えることがあります。

カスタム機能について

- ライブビュー撮影時は、一部のカスタム機能は機能しません（設定が無効になるカスタム機能があります）。

レンズとストロボについて

- 手ブレ補正機能を搭載したレンズ使用時は、手ブレ補正スイッチを（ON）にすると、シャッターボタンを半押ししなくても、常時手ブレ補正機能が作動します。そのため、バッテリーが消耗して撮影条件により撮影可能枚数が少なくなることがあります。三脚使用時など補正の必要がないときは、手ブレ補正スイッチを（OFF）にすることをおすすめします。
- 2011年下期以降に発売された、フォーカスプリセット機能を備えた（超）望遠レンズ使用時のみ、ライブビュー撮影時にフォーカスプリセットを行うことができます。
- 外部ストロボ使用時にモデリング発光はできません。

動画撮影



動画撮影を行うときは、ライブビュー撮影/動画撮影スイッチを〈〉にします。

⚠ 注意

- 静止画撮影から動画撮影に切り換えたときは、動画撮影を行う前にカメラの設定を再確認してください。

- [メニュー目次：動画撮影](#)
- [動画撮影](#)
- [動画記録画質](#)
- [録音](#)
- [タイムコード](#)
- [Canon Log設定](#)
- [動画電子IS](#)
- [その他のメニュー機能](#)
- [動画撮影全般の注意事項](#)

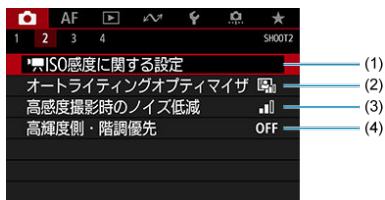
メニュー目次：動画撮影

● 撮影1



- (1) [ホワイトバランス](#)
- (2) [MWBデータ登録](#)
- (3) [WB補正](#)
- (4) [ピクチャースタイル](#)
 - [ピクチャースタイルの選択](#)
 - [ピクチャースタイルの調整](#)
 - [ピクチャースタイルの登録](#)
- (5) [明瞭度](#)
- (6) [レンズ光学補正](#)

● 撮影2



- (1) [ISO感度に関する設定](#)
 - [P/Tv/Avモード時のISO感度](#)
 - [Mモード時のISO感度](#)
- (2) [オートライティング最適マイザ](#)
- (3) [高感度撮影時のノイズ低減](#)
- (4) [高輝度側・階調優先](#)

● 撮影3







- (1) [動画記録画質](#)
- (2) [録音](#)
- (3) [Canon Log設定](#)
- (4) [動画電子IS](#)
- (5) [オートスローシャッター](#)

● 撮影4




- (1) [測光タイマー](#)
- (2) [タイムコード](#)
- (3) [HDMI接続時の表示](#)

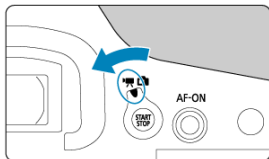
動画撮影

- ☑  [プログラムAE撮影](#)
- ☑  [シャッター優先AE撮影](#)
- ☑  [絞り優先AE撮影](#)
- ☑ [〈!\[\]\(572bcf30fdd4de64673b94584b7c6eca_img.jpg\)〉 〈!\[\]\(ba6dc7fecffbf82e7fd414c1c97a1ece_img.jpg\)〉 〈!\[\]\(7b0c59a8d567ae8f4c94e1b0dfc0504e_img.jpg\)〉 モード時のISO感度](#)
- ☑  [マニュアル露出撮影](#)
- ☑ [〈!\[\]\(f2e2aef7ad678fd5527dfd3a24e78b6d_img.jpg\)〉 モード時のISO感度](#)
- ☑ [シャッタースピード](#)
- ☑ [静止画撮影](#)
- ☑ [動画撮影時の情報表示](#)

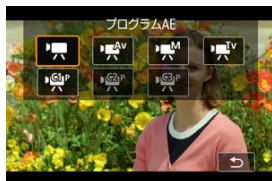
プログラムAE撮影

撮影モードが〈〉のときは、明るさに応じて自動露出制御が行われます。

1. ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈〉にする

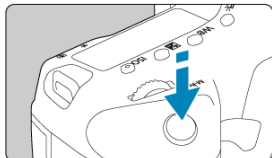





2. 撮影モードを〈P〉にする



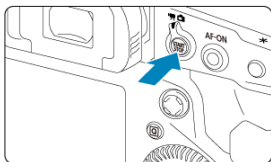
- 〈MODE〉ボタンを押し、〈〉または〈〉を回して選びます。

3. ピントを合わせる

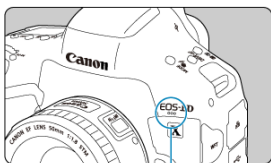
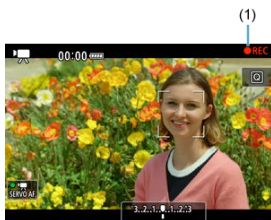


- 動画撮影を始める前に、AF () または手動 () でピントを合わせます。
- 初期状態では、[AF: 動画サーボAF] が [する] に設定されているため、常時ピント合わせが行われます ()。
- シャッターボタンを半押しすると、設定されているAF方式でピント合わせが行われます。

4. 動画を撮影する



- 〈START/STOP〉ボタンを押すと、動画撮影が始まります。
- 動画撮影中は画面右上に [●REC] (1) が表示されます。



- 音声は動画撮影用マイク (2) で記録されます。
- もう一度 〈START/STOP〉ボタンを押すと、動画撮影が終了します。

AV シャッター優先AE撮影

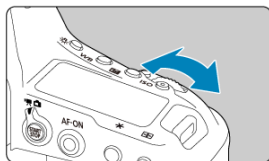
撮影モードを〈AV〉に設定すると、任意にシャッタースピードを設定して、動画撮影を行うことができます。なお、ISO感度、絞り数値は、標準露出になるように、明るさに応じて自動設定されます。

1. ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈AV〉にする
2. 撮影モードを〈AV〉にする



- 〈MODE〉ボタンを押し、〈〉または〈〉を回して選びます。

3. シャッタースピード (1) を設定する



(1)

- を回して設定します。
- 設定できるシャッタースピードは、フレームレートにより異なります。

4. ピントを合わせて撮影する



- [プログラムAE撮影](#)の手順3、4と同じです。

! 注意

- 動画撮影中にシャッタースピードの変更を行うと、露出変化が記録されるため、おすすめできません。
- 動きのある被写体を動画撮影するときは、1/25～1/125秒程度のシャッタースピードをおすすめします。シャッタースピードを速くするほど、被写体の動きが滑らかに再現されなくなります。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画撮影を行っているときに、シャッタースピードを変更すると、画面のちらつきが記録されることがあります。

撮影モードを〈絞り優先AE〉に設定すると、任意に絞り数値を設定して、動画撮影を行うことができます。なお、ISO感度、シャッタースピードは、標準露出になるように、明るさに応じて自動設定されます。

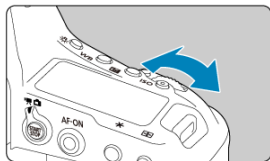
1. ライブビュー撮影/動画撮影スイッチを〈ライブビュー/動画撮影〉にする

2. 撮影モードを〈絞り優先AE〉にする



- 〈MODE〉ボタンを押し、〈絞り優先AE〉または〈絞り優先AE〉を回して選びます。

3. 絞り数値（1）を設定する



(1)

- 〈絞り優先AE〉を回して設定します。

4. ピントを合わせて撮影する



- プログラムAE撮影の手順3、4と同じです。

注意

- 動画撮影中に絞り数値の変更を行うと、絞りの駆動による露出変化が記録されるため、おすすめできません。

参考

〈M〉 〈Tv〉 〈Av〉モード共通事項

- 〈*〉ボタンを押すと、露出を固定（AEロック）することができます。動画撮影中にAEロックを行ったときは、〈Fn〉ボタンを押すと、AEロックを解除することができます（〈Fn〉ボタンを押すまで保持されます）。
- 〈Fn〉を回すと、±3段までの範囲で露出補正を行うことができます。
- 〈M〉モードのときは、動画の画像情報（Exif情報）にISO感度、シャッタースピード、絞り数値は記録されません。
- このカメラは、〈M〉 〈Tv〉 〈Av〉モードで動画を撮影する際、暗い場所でLEDライトが自動的に点灯する機能に対応しています。詳しくは、LEDライトを内蔵したEXスピードライトの使用説明書を参照してください。

〈P〉 〈Tv〉 〈Av〉モード時のISO感度

ISO感度は自動設定されます。[動画撮影時のISO感度](#)を参照してください。

M マニュアル露出撮影

任意にシャッタースピード、絞り数値、ISO感度を設定して、動画撮影を行うことができます。

1. ライブビュー撮影/動画撮影スイッチを「M」にする



2. 撮影モードを「M」にする



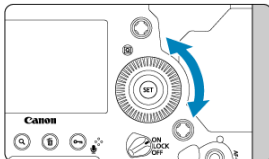
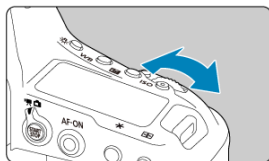
- 〈MODE〉 ボタンを押し、〈〉または〈〉を回して選びます。

3. ISO感度を設定する





- 〈ISO〉 ボタンを押します。
- 〈〉または〈〉を回して設定します。

4. シャッタースピード (1) と絞り数値 (2) を設定する



(1)

(2)

- シャッターボタンを半押しして、露出レベル表示を参考に設定します。
- シャッタースピードは〈〉、絞り数値は〈〉を回して設定します。
- 設定できるシャッタースピードは、フレームレートにより異なります。

5. ピントを合わせて撮影する

- [プログラムAE撮影](#)の手順3、4と同じです。

注意

- 動画撮影時は、L (ISO50相当)、H2 (409600相当)、H3 (819200相当) のISO感度拡張はできません。
- 動画撮影中にシャッタースピード、絞り数値やISO感度の変更を行うと、露出変化が記録されたり、高ISO感度でノイズが記録されることがあるため、おすすめできません。
- 動きのある被写体を動画撮影するときは、1/25~1/125秒程度のシャッタースピードをおすすめします。シャッタースピードを速くするほど、被写体の動きが滑らかに再現されなくなります。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画撮影を行っているときに、シャッタースピードを変更すると、画面のちらつきが記録されることがあります。

参考

- [点6：操作ボタン カスタマイズ] で [露出補正 (押しながら)] に設定すると、ISOオート設定時に±3段までの範囲で露出補正を行うことができます。
- ISOオート設定時に〈*〉ボタンを押すと、ISO感度を固定 (ロック) することができます。動画撮影中にISO感度を固定したときは、〈解除〉ボタンを押すと、ISO感度の固定を解除することができます (〈解除〉ボタンを押すまで保持されます)。
- 〈*〉ボタンを押して構図を変えると、〈*〉ボタンを押したときの露出差を露出レベル表示 (露出) で確認することができます。

〈M〉モード時のISO感度

ISO感度を任意に設定したり、[AUTO]（自動設定）を選ぶこともできます。ISO感度については、[動画撮影時のISO感度](#)を参照してください。

シャッタースピード

〈**TV**〉、〈**M**〉モード時に、設定できるシャッタースピードは、設定した動画記録画質のフレームレートによって異なります。

フレームレート	シャッタースピード (秒)	
	通常動画撮影	ハイフレームレート動画撮影
119.9P	-	1/4000~1/125
100.0P		1/4000~1/100
59.94P	1/4000~1/8	-
50.00P		
29.97P		
25.00P		
24.00P		
23.98P		

静止画撮影

動画撮影時に静止画は撮影できません。静止画を撮影するときは、動画撮影を終了して、フ
ァインダー撮影、またはライブビュー撮影を行ってください。

動画撮影時の情報表示

動画撮影画面に表示されるアイコン（マーク）については、[情報表示](#)を参照してください。

⚠ 注意

動画撮影時共通注意事項

- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- 細かいパターンの被写体を撮影すると、モアレや偽色が発生することがあります。
- 〈AWB〉 〈AWBW〉の設定で動画撮影中に、ISO感度や絞り数値が変わると、ホワイトバランスが変化することがあります。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画を撮影すると、画面にちらつきが発生することがあります。
- USMレンズを使用して暗い場所で動画撮影中にAFを行うと、動画に横縞状のノイズが記録されることがあります。なお、電子式フォーカスリングを備えた一部のレンズでは、手動ピント合わせ（MF）でも同様のノイズが記録されることがあります。
- 動画撮影中にズーム操作を行うときは、テスト撮影をおすすめします。ズーム操作を行うと、露出変化やレンズの作動音が記録されたり、録音される音量が不安定になったり、レンズ光学補正が正しく適用されなかったり、ピントがズレることがあります。
- 絞り数値が大きいときは、ピントが合うまでに時間がかかったり、適切なピント合わせができないことがあります。
- 動画撮影中にAFを行うと、「一時的にピントが大きくなる」「動画の明るさが変化して記録される」「動画が一瞬停止して記録される」「レンズの作動音が記録される」などの現象が起こることがあります。
- 動画撮影用の内蔵マイクを指などでふさがないようにしてください。
- 動画撮影中にHDMIケーブルの接続や取り外しを行うと、動画撮影が終了します。
- 『[動画撮影全般の注意事項](#)』もお読みください。
- 必要に応じて『[ライブビュー撮影全般の注意事項](#)』もお読みください。

動画撮影時共通事項

- 1回撮影するたびに、カードに新たな動画ファイルが作成されます。
- 映像の視野率は約100%です。
- 〈AF-ON〉ボタンでピントを合わせることもできます。
- [📷: 動画撮影時シャッターボタンの機能] の [全押し] を [動画撮影の開始/終了] に設定すると、シャッターボタンの全押しで、動画撮影を開始/終了することができます (🔗)。
- 音声はカメラに内蔵された動画撮影用のマイク (🔗) でモノラル録音されます。
- 外部マイク入力端子に、指向性ステレオマイクロホン DM-E1 (別売) などを接続すると、外部マイクが優先され、ステレオ録音することができます (🔗)。
- ミニプラグ (Φ3.5mm) を備えたマイクであれば、ほとんどの外部マイクが使用できます。
- 2011年下期以降に発売された、フォーカスプリセット機能を備えた (超) 望遠レンズ使用時は、動画撮影時にフォーカスプリセットを行うことができます。

動画記録画質

- ☑ [動画記録サイズ](#)
- ☑ [4K動画撮影](#)
- ☑ [撮影範囲](#)
- ☑ [動画が記録できるカード](#)
- ☑ [ハイフレームレート](#)
- ☑ [ファイルサイズが4GBを超える動画撮影](#)
- ☑ [動画の総記録時間と1分間あたりのファイルサイズの目安](#)
- ☑ [撮影時間の制限](#)

[📷: 動画記録画質] の [動画記録サイズ] で、画像サイズ、フレームレート、圧縮方式、記録形式を設定することができます。

なお、[動画記録サイズ] の画面に表示されるフレームレートは、[📺: ビデオ方式] の設定 (🔍) により、自動的に切り換わります。



- [📺: 記録機能とカード・フォルダ選択] の [📷記録機能] が [📷RAW] [📷MP4] に設定されているときは、画面が異なります。



- (1) 撮影可能時間が短い方のカードの時間が表示されます。
- RAW形式の動画は5472×2886、MP4形式の動画は、4096×2160 IPB (標準) で記録されます。

⚠ 注意

- 動画をカードに記録するときに必要なカードの書き込み/読み取り速度（要求カード性能）は、動画記録画質により異なります。動画撮影を行う前に[動画が記録できるカード](#)を参照して、要求カード性能を確認してください。

動画記録サイズ

画像サイズ

画像サイズ	縦横比	
4K-D	5472×2886	17 : 9
	4096×2160	17 : 9
4K-D* 5Crop	4096×2160	17 : 9
4K-U	3840×2160	16 : 9
FHD	1920×1080	16 : 9

* 撮影画面の中央部分をクロップした（望遠レンズで撮影したような）動画を撮影することができます。

⚠ 注意

- [📷 : ビデオ方式] の設定を変更したときは、[📷 : 動画記録画質] の再設定を行ってください。
- 4K動画、FHD 59.94P / 50.00P で撮影した動画、ハイフレームレート動画などは、再生時のデータ処理の負荷が高いため、他の機器で正常に再生できないことがあります。
- 動画記録画質の設定や、使用するレンズの設定により、解像感やノイズ感は多少異なります。

📖 参考

- カードの性能を発揮させるため、動画撮影を行う前にカメラでカードを初期化することをおすすめします (🔗)。
- HD画質、VGA画質の動画を撮影することはできません。

4K動画撮影

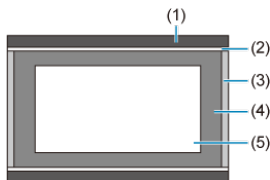
- 4K動画を撮影するには安定した高速書き込みが可能なカードが必要です。詳しくは、[動画が記録できるカード](#)を参照してください。
- 4K動画撮影時やハイフレームレート動画撮影時は、処理負荷が高いため、通常の動画撮影時に比べカメラ内部の温度が早く上昇したり、より温度が高くなることがあります。動画撮影時に赤い🔥が表示されたときは、カードが熱くなっていることがあるため、動画撮影を休止して、しばらく経ってからカードを取り出してください（すぐにカードを取り出さないでください）。
- 4K画質で撮影した動画から任意のフレームを選んで、JPEG画像（静止画）としてカードに保存することができます（📷）。

⚠ 注意

- 4K-D 59.94P / 50.00P、4K-U 59.94P / 50.00P設定時は、AFによるピント合わせはできません。AFフレームは表示されません。また、レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉に設定しても、フォーカスガイドは表示されません。

撮影範囲

動画記録画質の設定や、使用するレンズにより、動画撮影範囲が変わります。



- (1) 静止画 (5472×3648) (JPEG L)
- (2) FHD (1920×1080)
- (3) RAW動画 (5472×2886) / 4K-D (4096×2160)
- (4) 4K-U (3840×2160)
- (5) Fcrop (4096×2160)

⚠ 注意

- 動画電子IS機能設定時は (📷)、画面の中央部分がさらにクロップされます。

フレームレート (fps : frame per second)

- [119.9P] 119.9fps / [59.94P] 59.94fps / [29.97P] 29.97fps
テレビの映像方式が「NTSC」地域（北米、日本、韓国、メキシコなど）のときに設定します。119.9Pについては、[ハイフレームレート](#)を参照してください。
- [100.0P] 100.00fps / [50.00P] 50.00fps / [25.00P] 25.00fps
テレビの映像方式が「PAL」地域（ヨーロッパ、ロシア、中国、オーストラリアなど）のときに設定します。100.0Pについては、[ハイフレームレート](#)を参照してください。
- [23.98P] 23.98fps / [24.00P] 24.00fps
主に映画関連で使用します。23.98P (23.98fps) は、[📷 : ビデオ方式] を [NTSC] に設定したときに選択できます。

圧縮方式

- **[ALL-I]** **ALL-I** (編集用/I-only)
1フレーム単位で圧縮して記録します。IPB (標準) よりもファイルサイズが大きくなりますが、撮影後の編集作業に適しています。
- **[IPB]** **IPB** (標準)
複数のフレーム単位で効率的に圧縮して記録します。ALL-I (編集用) よりもファイルサイズが小さくなるため、(同じ容量のカードであれば) 撮影できる時間が長くなります。
- **[IPB]** **IPB** (軽量)
IPB (標準) よりもビットレートを低く抑えて記録するため、IPB (標準) よりもファイルサイズが小さく、再生互換性が高くなります。(同じ容量のカードであれば) IPB (標準) よりも撮影できる時間が長くなります。

動画記録形式

- **[RAW]** **RAW**
[RAW] を選択したときは、RAW形式の動画ファイルとして記録されます (拡張子: 「.CRM」)。
- **[MP4]** **MP4**
[ALL-I] **[IPB]** **[IPB]** を選択したときは、MP4形式の動画ファイルとして記録されます (拡張子: 「.MP4」)。MOV形式の動画よりも、再生互換性が高いファイル形式です。

RAW動画


カードに記録されるRAW動画は、撮像素子から出力されたデータをデジタル変換してそのまま記録した「生 (ロウ) データ」です。

RAW動画は、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで現像処理を行うことができます。使用目的に応じてさまざまな画像調整を行い、その調整結果を反映したJPEG/HEIF画像などを生成することができます。

⚠ 注意

- RAW動画は、**[▶] : RAW現像** で現像処理を行うことができません。

参考

- パソコンでRAW動画を表示するときは、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（以下DPP）の使用をおすすめします。
- 古いバージョンのDPP Ver.4.xでは、このカメラで撮影したRAW動画の表示や現像、編集などはできません。パソコンに古いバージョンのDPP Ver.4.xがインストールされているときは、キヤノンのホームページから最新のDPPを入手して、アップデート（上書きインストール）してください（）。なお、Ver.3.x以前のDPPでは、このカメラで撮影したRAW動画の表示や現像、編集などはできません。
- 市販のソフトウェアでは、このカメラで撮影したRAW動画を表示できないことがあります。対応状況については、ソフトウェアメーカーにお問い合わせください。
- 高輝度（ハイライト）側の階調表現性を優先したい場合はCanon Log設定を【入】にしてください。CINEMA EOSとRAW動画を併用するときにおすすめします。

動画が記録できるカード

各動画記録画質で記録できるカードの詳細は、キヤノンのホームページで確認してください。

なお、事前にテスト撮影を行い、設定した動画記録サイズ (📷) で正しく記録できることを確認してください。

⚠ 注意

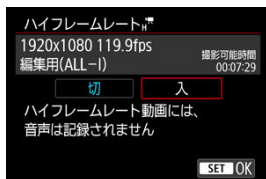
- 4K動画撮影を行うときは、撮影前に [📷 : カード初期化] の [物理フォーマット] でカードを初期化してください (📷)。
- 動画撮影時に書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画が正常に記録できないことがあります。また、動画再生時に読み取り速度が遅いカードを使用すると、動画が正常に再生できないことがあります。
- 動画撮影を行うときは、実際の書き込み速度がビットレートを十分に上回る、高性能なカードを使用してください。
- 正常に動画が記録できないときは、カードを初期化してから使用してください。なお、カードを初期化しても問題が改善しないときは、カードメーカーのホームページなどもあわせて確認してください。

📖 参考

- カードの性能を発揮させるため、動画撮影を行う前にカメラでカードを初期化することをおすすめします (📷)。

ハイフレームレート

フルハイビジョン（Full HD）画質で119.9fps/100.0fpsの高フレームレートの動画を撮影することができます。スローモーション再生用の映像素材の撮影に適しています。なお、1回に撮影できる時間は最長7分29秒です。



- [FHD 119.9P [ALL-]]、または[FHD 100.0P [ALL-]]で記録されます。
- ハイフレームレート動画に音声は記録されません。
- 動画撮影時にタイムコードを表示しているときは、実時間1秒で4秒分カウントアップします。
- ハイフレームレート動画は、29.97fps/25.00fpsの動画ファイルとして記録されるため、再生時は1/4倍速のスローモーションで再生されます。

⚠ 注意

【ハイフレームレート：入】設定時の注意事項

- [📷：タイムコード]の[カウントアップ]を[フリーラン]に設定したときは(📷)、タイムコードは記録されません。
- 設定を[切]に戻したときは、[動画記録サイズ]の設定を確認してください。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下でハイフレームレート動画を撮影すると、画面にちらつきが発生することがあります。
- ハイフレームレート動画撮影を開始したときや終了したときは、映像が一時的に更新されなくなります（一瞬フレームストップ）。外部記録機器でHDMI出力映像を記録するときは注意してください。
- ハイフレームレート動画撮影時に画面に表示される映像のフレームレートは、撮影した動画のフレームレートと異なります。
- ヘッドフォンは使用できません（音声は聞こえません）。

ファイルサイズが4GBを超える動画撮影

1回の撮影でファイルサイズが4GBを超える場合でも、一時中断することなく、動画撮影を続けることができます。

⚠ 注意

- 4GBを超える動画ファイルをパソコンに取り込むときは、EOS Utilityを使用するか、カードリーダーを使用してください (📁)。パソコン (OS) の機能を使って画像の取り込みを行うと、4GBを超える動画ファイルが取り込めないことがあります。

動画の総記録時間と1分間あたりのファイルサイズの目安

[動画の総記録時間と1分間あたりのファイルサイズの目安](#)を参照してください。

- **ハイフレームレート以外の動画撮影時**

1回撮影できる時間は最長29分59秒です。29分59秒に達した時点で動画撮影が自動的に終了します。〈START
STOP〉ボタンを押すと、動画撮影を再開することができます（新規ファイルとして記録されます）。

- **ハイフレームレート動画撮影時**

1回撮影できる時間は最長7分29秒です。7分29秒に達した時点で動画撮影が自動的に終了します。〈START
STOP〉ボタンを押すと、ハイフレームレート動画撮影を再開することができます（新規ファイルとして記録されます）。

録音

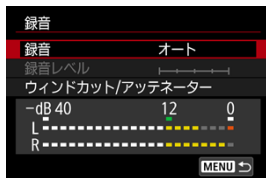
☑ [録音/録音レベル](#)

☑ [ウィンドカット](#)

☑ [アッテネーター](#)

内蔵のモノラルマイク、または外部ステレオマイクを使用して、動画撮影を行うことができます。また、録音レベルを任意に調整することもできます。

[📷: 録音] で録音に関する設定を行うことができます。



⚠ 注意

- 内蔵マイク/外部マイク使用時にWi-Fi（無線通信）機能を使用すると、ノイズが録音されることがあります。録音中は無線通信機能を使用しないことをおすすめします。
- カメラに外部マイクやヘッドフォンを接続するときは、プラグが根元までしっかりと差し込まれているか確認してください。
- 動画撮影中にAF動作を行ったり、カメラ/レンズの操作を行うと、カメラに内蔵されたマイクにより、レンズの作動音やカメラ/レンズの操作音が一緒に録音されることがあります。そのときは、外部マイクを使用すると、これらの音を低減できることがあります。なお、外部マイクを使用してもこれらの音が気になるときは、外部マイクをカメラから取り外し、カメラやレンズから遠ざけると、低減効果を高められることがあります。
- ライン入力時は最大+6dBVまでの音声を入力できますが、標準入力レベル（-8dBV）以上の音声を入力すると、ひずみ率が悪化することがあります。事前にテスト撮影することをおすすめします。
- ライン入力時は、必ず[録音]の設定を[ライン入力]に設定してください。[ライン入力]以外の設定で音声を入力すると、故障の原因になります。
- [ライン入力]設定時は、動画撮影用の内蔵マイクによる録音は行われません。また[ウィンドカット][アッテネーター]は設定できません。
- ヘッドフォン使用時の音声は、ノイズ低減処理が行われていません。そのため、実際に動画に記録される音声とは異なります。
- ヘッドフォンで音声を聴きながら、[マニュアル][ライン入力]の設定を切り換えしないでください。突然大きな音が流れて耳を痛める恐れがあります。

参考


- HDMIケーブルでカメラとテレビを接続したときは、音声も出力されます（[録音：しない] 設定時を除く）。なお、テレビから音を出したときにハウリングが起こったときは、カメラをテレビから離したり、テレビの音量を下げてください。
- L/R（左/右）の音量バランスを調整することはできません。
- サンプリング周波数48kHz/16bitで記録されます。

録音／録音レベル

● オート

録音レベルが自動調整されます。音の大きさに応じて、オートレベルコントロール機能が自動的に働きます。

● マニュアル

録音レベルを任意に調整することができます。[録音レベル] を選び、レベルメーターを見ながら（）を回すと、録音レベルを調整することができます。音量が大きいときに、レベルメーターの「12」（-12dB）の右側が、時々点灯するように、ピークホールド機能を参考にして調整します。「0」を超えると音が割れます。

● ライン入力

音声をライン入力することができます。入力された音声は映像とともに動画に記録されます。なお、録音レベルは64段階で任意に調整することができます。調整方法は[マニュアル]と同じです。

● しない

録音は行われません。

ウィンドカット

[入] に設定すると、屋外で撮影する際、風の影響により発生する「ボコボコ」という音を低減することができます。カメラに内蔵されたマイクを使用したときのみ機能します。なお、ウィンドカット機能が働くと、低い音の一部も低減されます。

アッテネーター

音割れを抑制する機能です。[録音]を[オート]または[マニュアル]に設定して撮影しても、大音響の環境では音割れすることがあります。そのときは[入]に設定することをおすすめします。

● マイク

通常は動画撮影用の内蔵マイクでモノラル録音されます。

外部マイク入力端子 (🔊) に、ミニプラグ (Φ3.5mm) を備えた外部マイクを接続すると、外部マイクが優先され、ステレオ録音することができます。指向性ステレオマイク ロホン DM-E1 (別売) などの使用をおすすめします。

● ライン入力

ミキサーなどからステレオでライン出力した音声を、カメラに直接入力することができます。ライン入力端子 (🔊) にミニプラグ (Φ3.5mm) を接続すると、音声ステレオで動画に記録されます。標準入力レベルは-8dBVです。ライン出力レベルに合わせて録音レベルの調整を行ってください。

● ヘッドフォン


ヘッドフォン端子 (🔊) に、ミニプラグ (Φ3.5mm) を備えた市販のヘッドフォンを接続すると、動画撮影時の音声を聴くことができます。外部マイクを使用したときは、ステレオで聴くことができます。ヘッドフォンの音量を調整するときは、<🔊> ボタンを押して <🔊> を選び、<🔊> を回して調整します (🔊)。

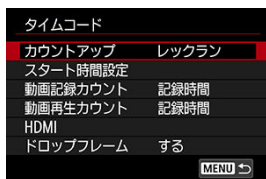
なお、動画再生時もヘッドフォンを使用することができます。

タイムコード

- [カウントアップ](#)
- [スタート時間設定](#)
- [動画記録カウント](#)
- [動画再生カウント](#)
- [HDMI](#)
- [ドロップフレーム](#)

タイムコードとは、動画撮影時に映像に同期して自動的に記録される時間軸のことです。「時/分/秒/フレーム」の単位で常時記録されます。主に撮影した動画を編集するときにご利用します。

[ : タイムコード] でタイムコードを設定することができます。



注意

- 撮影した動画をこのカメラ以外で再生したときは、タイムコードが適切に表示されないことがあります。

カウントアップ

- **レックラン**

動画撮影しているときだけ、タイムコードのカウントが進みます。撮影した動画ファイルの順でタイムコードが連続します。

- **フリーラン**

動画撮影をしていないときも、タイムコードのカウントが進みます。

⚠ 注意

- [フリーラン] の設定でハイフレームレート動画撮影を行ったときは、タイムコードは付加されません。
- [フリーラン] 設定時に時刻/エリア/サマータイムの設定を変更すると (🌐)、タイムコードに影響が生じます。

スタート時間設定

タイムコードの起点（スタート時間）を設定することができます。

- **手動入力設定**

「時：分：秒：フレーム」を任意に設定することができます。

- **リセット**

[手動入力設定] [カメラ時間に設定] で設定した時間がリセットされ、「00:00:00.」または「00:00:00:」になります (🔄)。

- **カメラ時間に設定**

カメラに設定されている「時：分：秒」に設定されます。「フレーム」は「00」に設定されます。

動画記録カウント

動画撮影画面に表示する内容を選ぶことができます。

- **記録時間**
動画撮影時に撮影開始からの経過時間が表示されます。
- **タイムコード**
動画撮影時にタイムコードが表示されます。



動画再生カウント

動画再生画面に表示する内容を選ぶことができます。

- **記録時間**
動画再生時に撮影時間または再生時間が表示されます。
- **タイムコード**
動画再生時にタイムコードが表示されます。



参考

- タイムコードは、[動画記録カウント] の設定に関わらず、動画ファイルに常時記録されます（ハイレームレート動画 + [フリーラン] 設定時を除く）。
- [📷 : タイムコード] の [動画再生カウント] と [▶ : 動画再生カウント] は、設定が連動して切り換わります。
- 動画撮影時、および動画再生中は、「フレーム」は表示されません。

● タイムコード

HDMI出力時の映像にタイムコードを付加することができます。

● 切

HDMI出力映像にタイムコードは付加されません。

● 入

HDMI出力映像にタイムコードが付加されます。[入] に設定すると、[記録コマンド] が表示されます。

● 記録コマンド

HDMI出力した映像を外部記録機器に記録する際に、カメラの動画撮影開始/停止と、外部記録機器の記録を同期させることができます。

● 切

外部記録機器側で記録開始/停止を行います。

● 入

動画撮影開始/停止と外部記録機器の記録が同期します。

❗ 注意

- ハイフレームレート動画撮影時に、[タイムコード] の [カウントアップ] を [フリーラン] に設定してHDMI出力を行ったときは、HDMI出力映像にタイムコードは付加されません。
- 使用する外部記録機器が [タイムコード] [記録コマンド] に対応しているかどうかについては、外部記録機器メーカーに確認してください。
- [タイムコード] を [切] に設定していても、外部記録機器側の仕様により、映像にタイムコードが付加されることがあります。HDMI入力時のタイムコードの仕様については、外部記録機器メーカーに確認してください。

ドロップフレーム

フレームレートの設定が、**119.9P** (119.9fps)、**59.94P** (59.94fps)、**29.97P** (29.97fps) のときに、タイムコードでフレームをカウントすると、実際の時間とタイムコードで差が生じます。[する] 設定時はこの差が自動的に補正されます。この機能を「ドロップフレーム」といいます。

- **する**

タイムコードを間引く補正が行われます (DF : ドロップフレーム)。

- **しない**

補正は行われません (NDF : ノンドロップフレーム)。
なお、タイムコードは次のように表示されます。

- **する (DF)**

00:00:00. (再生時 : 00:00:00.00)

- **しない (NDF)**

00:00:00. (再生時 : 00:00:00.00)



参考

- フレームレートが**100.0P** (100.0fps)、**50.00P** (50.00fps)、**25.00P** (25.00fps)、**24.00P** (24.00fps)、**23.98P** (23.98fps) のときは、ドロップフレームは行われません (**100.0P/50.00P/25.00P/24.00P/23.98P** 設定時、および [**▼** : **ビデオ方式**] が [**PAL**] に設定されているときは、[**ドロップフレーム**] の項目は表示されません)。

Canon Log設定

[撮影機能の設定](#)

[Canon Logの画質](#)

Canon Logは、撮像素子の特性を最大限に引き出し、動画記録時に広いダイナミックレンジを確保することを目的とした、ポストプロダクション処理を前提にしたガンマ特性です。黒つぶれや白飛びが少なく、シャドウからハイライトまでの情報を映像に取り入れることができます。

なお、Canon Logで記録した映像は、ルックアップテーブル（LUT）を適用してポストプロダクション処理を行うことができます。LUTデータは、キヤノンのホームページからダウンロードしてください。

1. [📷: Canon Log設定] を選ぶ



2. [Canon Log] を選ぶ



3. [入] を選ぶ (🔍)



4. 各項目の内容を設定する



- [\[ビューアシスト\]](#) [\[カラーマトリクス\]](#) [\[映像特性\]](#) [\[色空間\]](#) の内容を設定します。

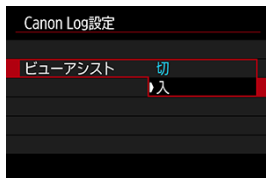
Canon Log



● 入

Canon Logで撮影した動画を10bitでカードに記録することができます。また、10bit記録に対応した外部記録機器にも記録することができます。

ビューアシスト



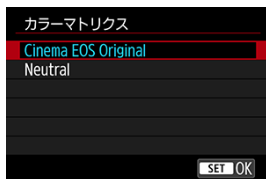
Canon Logは、広いダイナミックレンジを確保することを目的とした映像特性のため、モニターに表示される映像は、ピクチャースタイル設定時に比べ、低コントラストでやや暗い映像になります。【ビューアシスト】を【入】に設定すると、モニターに表示される映像が見やすい特性で（ビューアシスト）表示され、ディテールなどを確認しやすくなります。

- 【入】に設定しても、カードに記録される映像には影響しません（Canon Logの特性でカードに記録されます）。また、HDMI出力映像は、Canon Logの特性で出力されます（ビューアシストは行われません）。

参考

- ビューアシスト表示のときは、情報表示画面に【V Assist】が表示されます。
- 【入】設定時は、拡大表示を行ったときも、ビューアシスト表示が行われます。

カラーマトリクス



カラーマトリクスは、（ポストプロダクション処理を行ったときの）色の再現性を設定する機能です。

- **Cinema EOS Original**
EOS-1D Cと同等の色再現となります。
- **Neutral**
被写体の実際の色に近い色再現となります。

映像特性



必要に応じて調整します。項目（[シャープネス：強さ] [彩度] [色相]）を選び、効果の度合いを設定し、〈SET〉を押します。

シャープネス：強さ		0：輪郭強調・控えめ	7：輪郭強調・強め
彩度		-4：低い	+4：高い
色相*	赤色	-4：マゼンタ寄り	+4：黄色寄り
	緑色	-4：黄色寄り	+4：シアン寄り
	青色	-4：シアン寄り	+4：マゼンタ寄り

* 赤色、緑色、青色を個別に調整することはできません。

色空間



[Canon Log] を [入]、[カラーマトリクス] を [Neutral] に設定したときに、[色空間] の設定を行うことができます。HDMI出力時の色空間を、[BT.709] [BT.2020] から選ぶことができます。

撮影機能の設定

- ISO感度をISO100～320に手動設定したときは、ダイナミックレンジが狭くなります。
- Canon Log設定時のダイナミックレンジは、ISO400以上で約800%です。
- ISO100/125/160/200/250/320は、拡張感度です。ISO感度設定時に【L】と表示されます。

Canon Logの画質

- ノイズが若干増えることがあります。

注意

Canon Log撮影時全般の注意事項

- Canon Log撮影時は、通常の動画撮影時に比べ、低輝度下の被写体や、明暗差（コントラスト）の少ない被写体に対して、AFでピントが合いにくいことがあります。
- 「Canon Log 2」「Canon Log 3」には対応していません。

参考

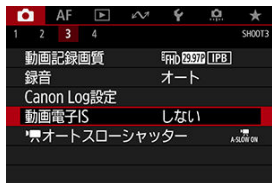
Canon Logで撮影した動画の再生について

- 動画再生時にビューアシスト表示は行われません。

動画電子IS

動画撮影時の手ブレを、カメラの「動画電子IS」機能で軽減することができます。手ブレ補正機能が搭載されていないレンズを使用したときでも、動画電子IS機能により、手ブレ補正効果が得られます。手ブレ補正機能が搭載されているレンズを使用するときは、レンズの手ブレ補正スイッチを〈ON〉にしてください。

1. [📷: 動画電子IS] を選ぶ



2. 項目を選ぶ



- **しない** (📷OFF)
動画電子ISによる手ブレ補正は行われません。
- **する** (📷ON)
手ブレ補正が行われます。映像がやや拡大されます。
- **強** (📷ON+)
[する] 設定時より、大きな手ブレを補正することができます。映像がさらに拡大されます。

ⓘ 注意

- レンズの（光学式）手ブレ補正スイッチが〈OFF〉のときは、動画電子ISは機能しません。
- [4Kp] 設定時も、動画電子IS機能を使用した動画撮影ができますが、撮影範囲がさらに狭くなります。
- レンズの焦点距離が800mmを超えると、動画電子ISは機能しません。
- 動画記録サイズの設定により、動画電子ISの手ブレ補正効果が小さくなる場合があります。
- 画角が広い（広角な）ほど手ブレ補正効果は大きくなり、画角が狭い（望遠な）ほど、手ブレ補正効果は小さくなります。
- 三脚使用時は[しない]に設定することをおすすめします。
- 被写体や撮影条件によっては、動画電子ISの効果により、被写体のブレが目立つ（被写体が一瞬ボケたように見える）ことがあります。
- TS-Eレンズや魚眼レンズ使用時、他社製レンズ使用時は、[しない]に設定することをおすすめします。
- 動画電子ISを使用すると、映像が拡大されるため、映像が粗くなります。また、ノイズや輝点などが目立つことがあります。

その他のメニュー機能

[\[カメラ1\]](#)

[\[カメラ2\]](#)

[\[カメラ3\]](#)

[\[カメラ4\]](#)

[カメラ1]

- **レンズ光学補正**

動画撮影時は、周辺光量補正、色収差補正、回折補正を行うことができます。レンズ光学補正については、[レンズ光学補正](#)を参照してください。

● 📷ISO感度に関する設定

● ISO感度

〈📷M〉モードのときに、ISO感度を任意に設定することができます。ISOオートを選ぶこともできます。

● ISO感度の範囲

〈📷M〉モード時のISO感度の手動設定範囲（下限値／上限値）を設定することができます。

● オートの上限

〈📷P〉 〈📷Tv〉 〈📷Av〉モード、または〈📷M〉モード+ISOオートの設定で動画撮影を行ったときに、自動設定されるISO感度の上限を設定することができます。

● 高輝度側・階調優先

ハイライト部分の白とびが緩和された動画を撮影することができます。高輝度側・階調優先については、[高輝度側・階調優先](#)を参照してください。

● 自動スローシャッター



暗い場所で動画撮影を行ったときに、シャッタースピードを自動的に遅くして、**[しない]** 設定時よりも明るくノイズを抑えた映像を記録するかどうかを選択することができます。

この機能は、撮影モードが **AV** (AV) (AV) のときに設定できます (機能します)。また、動画記録サイズのフレームレートが、**59.94P**、**50.00P** のときに機能します。

● しない

[する] 設定時よりも被写体のブレが少なく、自然でなめらかな動きが撮影できます。ただし、暗い場所では、**[する]** 設定時よりも映像が暗くなることがあります。

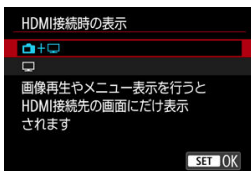
● する

暗い場所で動画撮影を行ったときに、シャッタースピードを自動的に1/30秒 (NTSC)、または1/25秒 (PAL) まで遅くして、**[しない]** 設定時よりも明るい映像を撮影することができます。

参考

- 暗い場所で動きのある被写体を撮影するときや、尾を引いたような残像が出るときは、**[しない]** に設定することをおすすめします。

● HDMI接続時の表示



外部記録機器でHDMI出力映像を記録するための機能です。[動画記録サイズ]の設定に応じて、4K画質、またはフルHD画質で出力されます。

なお、初期状態では [📷+📺] に設定されています。

● 📷+📺

- 映像をカメラの画面に表示しながら、HDMI出力による映像表示を行うことができます。
- 画像再生やメニュー表示を行ったときは、HDMI出力先に画像やメニューが表示され、カメラの画面には表示されません。

● 📺

- HDMI出力を行ったときは、カメラの画面が消灯します（何も表示されません）。
- HDMI出力した映像に撮影情報やAFフレームなどが表示されますが、外部記録機器に接続した外部モニターなどを見ながら〈INFO〉ボタンを押すと、情報なし出力を行うことができます。
- 外部記録機器に映像を記録するときは、外部モニターなどで撮影情報やAFフレームなどが表示されていない（情報なし出力が行われている）ことを確認してから記録してください。

? HDMI出力を長時間行いたい

30分以上連続してHDMI出力を行うときは、 を選び、 : オートパワーオフ を **[しない]** に設定してください (🔒)。

⚠ 注意

- 情報表示なしのHDMI出力を行ったときは、カード残量やバッテリー残量、内部温度上昇 (🔒) などの警告は、HDMI出力先の画面に表示されません。
- HDMI出力中に、動画記録画質やフレームレートを切り換えると、次の画像が表示されるまでに時間がかかることがあります。
- HDMI出力映像に情報が表示されることがあるため、外部記録機器で映像を記録しているときは、操作を行わないことをおすすめします。
- カメラで撮影した動画と、HDMI出力を外部記録機器で記録した映像の明るさと色味は、閲覧する環境により異なって見えることがあります。

📖 参考

- <INFO> ボタンを押すと、表示される情報を切り換えることができます。
- HDMI出力映像にタイムコードを付加することができます (🔒)。
- HDMI出力時に音声も出力されます (〔録音: しない〕 設定時を除く)。

❗ 注意

カメラ内部の温度上昇に伴う、赤い「REC」表示について

- 動画撮影を長時間行ったり、高温下で動画撮影を行うと、カメラ内部の温度が上昇し、赤い「REC」が表示されます。
- 赤い「REC」は、もうすぐ動画撮影が自動的に終了することを示しています。そのときは、カメラ内部の温度が下がるまで、撮影ができなくなりますので、一旦電源を切り、しばらく休止してください。なお、赤い「REC」が表示されてから動画撮影が自動的に終了するまでの時間は撮影状況によって異なります。
- 高温下で動画撮影を長時間行くと、赤い「REC」が表示されるタイミングが早くなります。撮影しないときは、こまめに電源を切ってください。

記録と画質について


- 手ブレ補正機能を搭載したレンズ使用時は、手ブレ補正スイッチを〈ON〉にすると、シャッターボタンを半押ししなくても、常時手ブレ補正機能が作動します。そのため、バッテリーが消耗し、撮影条件により動画撮影時間が短くなることがあります。三脚使用時など、補正の必要がないときは、手ブレ補正スイッチを〈OFF〉にすることをおすすめします。
- プログラムAE撮影、シャッター優先AE撮影で動画撮影中に明るさが変化すると、その場面の映像が一瞬止まって見えることがあります。このようなときは、マニュアル露出で撮影してください。
- 極端に明るい光源が画面内にあると、明るい部分が黒っぽくつぶれたように表示されることがあります。動画撮影時は、表示された映像とほぼ同じ状態で記録されます。
- 高ISO感度、高温、遅いシャッタースピード、暗い場所などの条件で撮影すると、映像にノイズや色ムラが発生することがあります。動画撮影時は、表示された映像とほぼ同じ状態で記録されます（Canon Logビューアシスト時を除く）。
- 撮影した動画を他の機器などで再生すると、画質や音質が悪くなったり、（このカメラの記録形式に対応していても）再生できないことがあります。
- 書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画撮影中に画面の右側にインジケータが表示されることがあります。インジケータは、カードにまだ書き込まれていないデータ量（内蔵メモリーの空き容量）を表し、遅いカードほど、段階が早く上がっていきます。インジケータ（1）がフルになると、動画撮影が自動的に停止します。



(1)

- 書き込み速度が速いカードは、インジケーターが表示されないか、表示されても段階はほとんど上がりません。そのため、事前にテスト撮影を行うことで、動画撮影に適したカードかどうかを判断することができます。
- インジケーターがフルになって動画撮影が自動的に終了したときは、映像の終端付近の音声は正常に記録されないことがあります。
- カードの（記憶領域の断片化により）書き込み速度が低下してインジケーターが表示されるようになったときは、カードの初期化を行うと、書き込み速度が改善することがあります。

音声の制約について

- [動画記録サイズ]の圧縮方式が[IPB]、[IPB]  のとき、または [7: 音声圧縮] が [する] のときは、以下の制約事項があります。ご了承ください。
 - 最後の約2フレームには、音声は記録されません。
 - Windowsで動画を再生すると、映像と音声若干ズレることがあります。

この章では、AF、ドライブモードに関する内容や、メニュー機能の「**AF**: AFタブ」に含まれる項目などについて説明しています。

❗ 注意

- 〈**AF**〉はAuto Focus（オートフォーカス）の略で自動ピント合わせのことです。
〈**MF**〉はManual Focus（マニュアルフォーカス）の略で手動ピント合わせのことです。

- [メニュー目次：AFタブ（ファインダー撮影）](#)
- [メニュー目次：AFタブ（ライブビュー撮影）](#)
- [メニュー目次：AFタブ（動画撮影）](#)
- [AF動作](#)
- [測距エリアとAFフレームの選択（ファインダー撮影）](#)
- [測距エリア選択モードの内容（ファインダー撮影）](#)
- [AF方式の選択（ライブビュー撮影）](#)
- [AIサーボAF/サーボAF特性](#)
- [AF機能のカスタマイズ](#)
- [AFマイクロアジャストメント](#)
- [手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス）](#)
- [ドライブモードの選択](#)
- [セルフタイマー撮影](#)

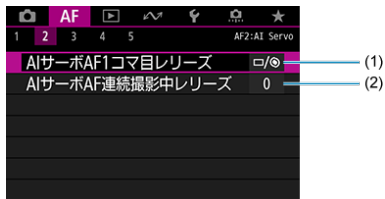
メニュー目次：AFタブ（ファインダー撮影）

● AF1



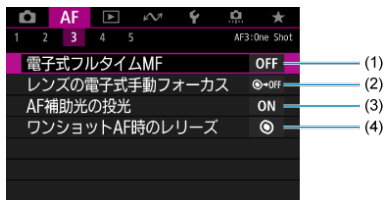
- (1) [Case1](#)
- (2) [Case2](#)
- (3) [Case3](#)
- (4) [Case4](#)
- (5) [CaseA](#)
- (6) [被写体追従特性](#)
- (7) [速度変化に対する追従性](#)

● AF2



- (1) [AIサーボAF1コマ目リリース](#)
- (2) [AIサーボAF連続撮影中リリース](#)

● AF3



- (1) [電子式フルタイムMF](#)
- (2) [レンズの電子式手動フォーカス](#)
- (3) [AF補助光の投光](#)
- (4) [ワンショットAF時のリリース](#)

● AF4



- (1) [被写体追尾の詳細設定](#)
- (2) [AF測距不能時のレンズ動作](#)
- (3) [任意選択可能なAFフレーム](#)
- (4) [測距エリア選択モードの限定](#)
- (5) [測距エリア/AF方式の切り換え](#)
- (6) [縦位置/横位置のAFフレーム設定](#)
- (7) [⊙/⊙時サーボAF開始測距点](#)

● AF5



- (1) [AFフレーム選択時の循環](#)
- (2) [測距時のAFフレーム表示](#)
- (3) [AFフレーム点灯輝度](#)
- (4) [ファインダー内のAF作動表示](#)
- (5) [AFマイクロアジャストメント](#)

メニュー目次：AFタブ（ライブビュー撮影）

● AF1



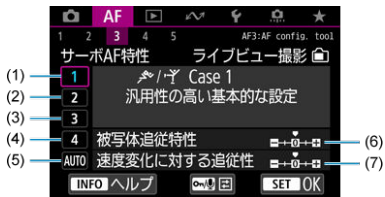
- (1) [AF動作](#)
- (2) [AF方式](#)
- (3) [瞳AF](#)
- (4) [コンティニュアスAF](#)

● AF2



- (1) [MFピーキング設定](#)
- (2) [フォーカスガイド](#)

● AF3



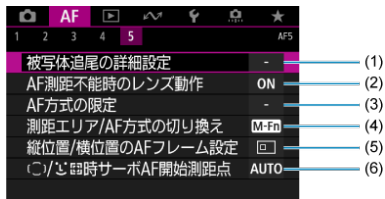
- (1) [Case1](#)
- (2) [Case2](#)
- (3) [Case3](#)
- (4) [Case4](#)
- (5) [CaseA](#)
- (6) [被写体追従特性](#)
- (7) [速度変化に対する追従性](#)

● AF4



- (1) [電子式フルタイムMF](#)
- (2) [レンズの電子式手動フォーカス](#)
- (3) [ワンショットAF時のリリース](#)

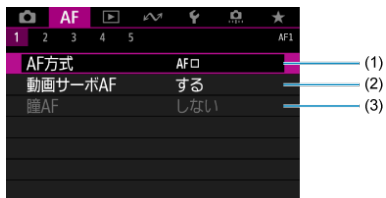
● AF5



- (1) [被写体追尾の詳細設定](#)
- (2) [AF測距不能時のレンズ動作](#)
- (3) [AF方式の限定](#)
- (4) [測距エリア/AF方式の切り換え](#)
- (5) [縦位置/横位置のAFフレーム設定](#)
- (6) [○/∞時サーボAF開始測距点](#)

メニュー目次：AFタブ（動画撮影）

● AF1



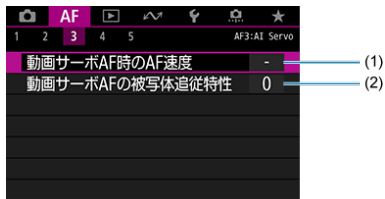
- (1) [AF方式](#)
- (2) [動画サーボAF](#)
- (3) [瞳AF](#)

● AF2



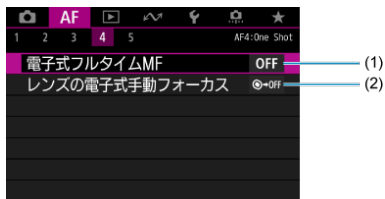
- (1) [MFピーキング設定](#)
- (2) [フォーカスガイド](#)

● AF3



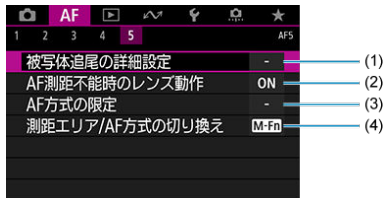
- (1) [動画サーボAF時のAF速度](#)
- (2) [動画サーボAFの被写体追従特性](#)

● AF4



- (1) [電子式フルタイムMF](#)
- (2) [レンズの電子式手動フォーカス](#)

● AF5



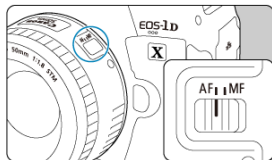
- (1) [被写体追尾の詳細設定](#)
- (2) [AF測距不能時のレンズ動作](#)
- (3) [AF方式の限定](#)
- (4) [測距エリア/AF方式の切り換え](#)

AF動作

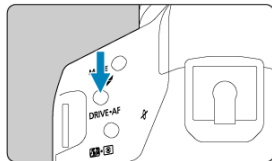
- [止まっている被写体を撮る：ワンショットAF](#)
- [動いている被写体を撮る：AIサーボAF／サーボAF](#)
- [AF作動表示（ファインダー撮影）](#)

撮影状況や被写体にあわせて、AFの作動特性を選ぶことができます。

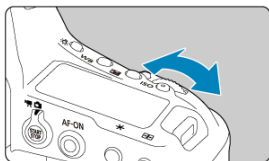
1. レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする




2. 〈DRIVE・AF〉 ボタンを押す (6)



3. AF動作を選ぶ




- 上面表示パネルまたはファインダー内を見ながら、を回します。

ONE SHOT : ワンショットAF

AI SERVO : AIサーボAF



- ライブビュー撮影時は、を回します。

ONE SHOT : ワンショットAF

SERVO : サーボAF

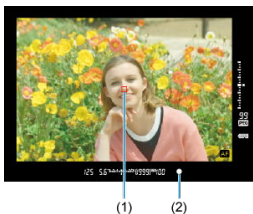
参考

- **〈AF-ON〉** ボタンでAFを行うこともできます。
- ライブビュー撮影時は、**[AF : AF動作]** からAF動作を選択することもできます。

止まっている被写体を撮る：ワンショットAF

止まっている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると、1回だけピント合わせを行います。

● ファインダー撮影



- 被写体にピントが合うと、ピント合わせを行ったAFフレーム (1) が赤く光り、ファインダー内に合焦マーク (2) く●) が点灯し、電子音が鳴ります。ピントが合わないときは、合焦マーク く●) が点滅します。

● ライブビュー撮影

- 被写体にピントが合うと、ピント合わせを行ったAFフレームが緑色に変わり、電子音が鳴ります。ピントが合わないときは、AFフレームがオレンジ色に変わります。

参考

- [🔊: 電子音] を [切] に設定すると、ピントが合ったときに電子音が鳴らないようになります。
- シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定され、構図を変えて撮影することができます。これを「フォーカスロック撮影」といいます。
- 電子式手動フォーカス機能を備えたレンズ使用時は、[レンズの電子式手動フォーカス](#)を参照してください。

動いている被写体を撮る：AIサーボAF／サーボAF

動いている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押ししている間、被写体にピントを合わせ続けます。

● ファインダー撮影（AIサーボ）

- 被写体にピントが合うと、ピント合わせを行ったAFフレームが表示されます。ピントが合っても、ファインダー内の合焦マーク（●）は点灯しません。
- ピントが合っても電子音は鳴りません。
- 露出は撮影の瞬間に決まります。

● ライブビュー撮影（サーボAF）

- 被写体にピントが合うと、ピント合わせを行ったAFフレームが青色に変わります。
- ピントが合っても電子音は鳴りません。
- 露出は撮影の瞬間に決まります。

⚠ 注意

- 使用するレンズや被写体との距離、被写体の動く速さによっては、適切なピント合わせができないことがあります。
- 連続撮影中にズーム操作を行うと、ピントがズレることがあります。ズーム操作を行い構図を決めてから撮影してください。

AF作動表示（ファインダー撮影）



シャッターボタンを半押しして、AFでピント合わせを行っているとき（AF作動中）は、ファインダー視野内の右下に「AF」が表示されます。
なお、ワンショットAF時は、ピントが合ったあと、シャッターボタンを半押ししている間も表示されます。

参考

- AF作動表示の表示位置を、ファインダーの視野外に変更することができます (📍)。

測距エリアとAFフレームの選択（ファインダー撮影）

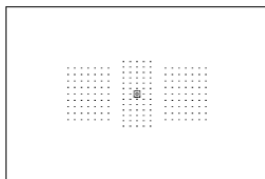
- [測距エリア選択モード](#)
- [測距エリア選択モードの選択](#)
- [AFフレーム／ゾーンの任意選択](#)
- [AFフレームの点灯／点滅](#)
- [AFフレームの登録](#)

使用するレンズにより、使用可能な測距点の数や、測距パターン、エリアAFフレームの形などが異なります。詳しくは[使用レンズとAF測距（ファインダー撮影）](#)を参照してください。

測距エリア選択モード

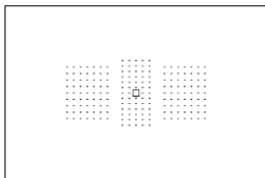
測距エリア選択モードを7種類の中から選ぶことができます。選択方法は[測距エリア選択モードの選択](#)を参照してください。

回 スポット1点AF（任意選択）



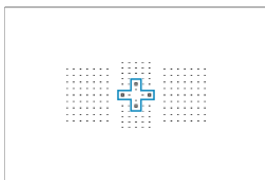
狭い部分にピントを合わせることができます。

□ 1点AF（任意選択）



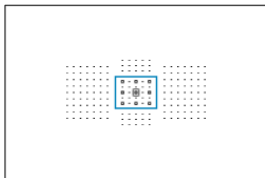
ピント合わせに使うAFフレーム1点を選択します。

⊕ 領域拡大AF（任意選択）



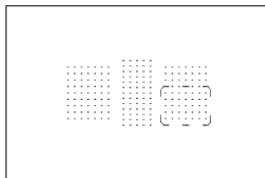
任意に選択した1点（□）を含む、青枠で囲んだAFフレームでピント合わせを行います。

⊞ 領域拡大AF（任意選択周囲）



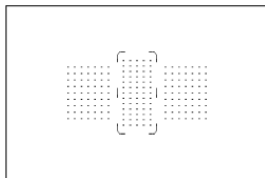
任意に選択した1点（□）を含む、青枠で囲んだAFフレームでピント合わせを行います。

ゾーンAF (ゾーン任意選択)



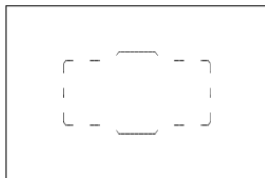
AF領域を9つの測距ゾーンに分けてピント合わせを行います。

ラージゾーンAF (ゾーン任意選択)



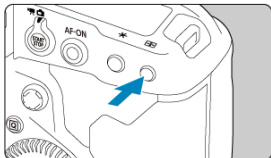
AF領域を左/中/右の3つの測距ゾーンに分けてピント合わせを行います。

自動選択AF

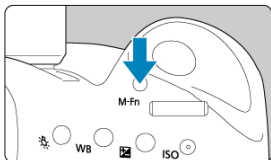


エリアAFフレーム (AF領域全体) でピント合わせを行います。

1. <AF-ON> ボタンを押す (6)



2. <M-Fn> ボタンを押す

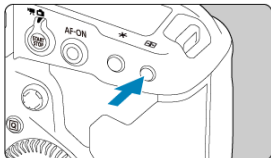


- ファインダーをのぞきながら <M-Fn> ボタンを押します。
- <M-Fn> ボタンを押すたびに、測距エリア選択モードが切り換わります。

参考

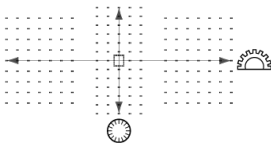
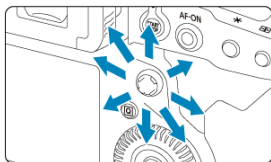
- [AF: 測距エリア選択モードの限定] で、使用する測距エリア選択モードだけに限定することができます (6)。
- [AF: 測距エリア/AF方式の切り換え] を [AF]→メイン電子ダイヤル] に設定すると、<AF-ON> ボタンを押したあと <メイン電子ダイヤル> で測距エリア選択モードを選ぶことができます (6)。







1. <AF-ON> ボタンを押す (6)











- ファインダー内にAFフレームが表示されます。
- 領域拡大AFのときは、周囲のAFフレームも表示されます。
- ゾーンAF、ラージゾーンAFのときは、選択されているゾーンが表示されます。

2. AFフレーム/ゾーンを選択する




- 〈〉を操作すると、押した方向のAFフレームが選択されます。〈〉をまっすぐに押すと、中央のAFフレーム（または中央のゾーン）が選択されます。
- スマートコントローラーを指でスライドして、AFフレームを選択することもできます。
- 〈〉で横方向、〈〉で縦方向のAFフレームを選択することもできます。
- ゾーンAF、ラージゾーンAFのときは、〈〉または〈〉を回すと、ゾーンが切り換わります（ゾーンAF時は循環）。



参考

- [AF:  /  時サーボAF開始測距点] を [ /  時の開始測距点] に設定したときは 、この方法でAIサーボAFの開始位置を任意選択することができます。
-  ボタンを押したときに、上面表示パネルに表示される内容は、次のとおりです。
 - ゾーンAF、ラージゾーンAF、自動選択AF:  AF
 - スポット1点AF、1点AF、領域拡大AF: SEL  (中央) / SEL AF (中央以外)








AFフレームの点灯／点滅

〈〉 ボタンを押したときに、「点灯」しているAFフレームは、高精度なピント合わせができる「クロス測距点」です。「点滅」しているAFフレームは、横線または縦線を検出できる測距点です。


AFフレームの登録

使用頻度が高いAFフレームをカメラに登録することができます。[ 6 : 操作ボタン カスタマイズ] () の [測光・AF開始] [登録AFフレームに切り換え] [AFフレームダイレクト選択] [撮影機能の登録と呼出] の詳細設定画面で設定したボタンを操作すると、そのとき使用しているAFフレームから登録したAFフレームに瞬時に切り換えることができます。なお、AFフレームの登録方法については[操作ボタンカスタマイズ](#)を参照してください。



測距エリア選択モードの内容（ファインダー撮影）

-  スポット1点AF（任意選択）
-  1点AF（任意選択）
-  領域拡大AF（任意選択）
-  領域拡大AF（任意選択周囲）
-  ゾーンAF（ゾーン任意選択）
-  ラージゾーンAF（ゾーン任意選択）
-  自動選択AF
- ピントが合いにくい撮影条件

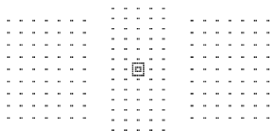
注意

- 自動選択AF、またはラージゾーンAF、ゾーンAFで、AIサーボAFに設定したときは、ピント合わせを行うAFフレーム（）が被写体に追従して移動しますが、被写体が小さいときなど、撮影条件によっては追従しないことがあります。
- スポット1点AF設定時は、EOS用外部ストロボのAF補助光でピントが合いにくいことがあります。
- 外側寄りのAFフレームを選択しているときや、広角／望遠レンズを使用しているときは、EOS用外部ストロボのAF補助光でピントが合いにくいことがあります。そのときは、中央AFフレーム、または中央寄りのAFフレームを選択してください。
- 偏光サングラスなどをかけてファインダーをのぞくと、AFフレームが見えにくいことがあります。

参考

- **[AF：縦位置/横位置のAFフレーム設定]** で、測距エリア選択モード+AFフレーム、またはAFフレームを、縦位置撮影と横位置撮影で別々に設定することができます（）。
- **[AF：任意選択可能なAFフレーム]** で、任意選択できるAFフレームの数を変更することができます（）。

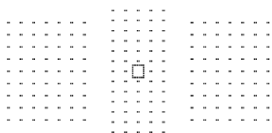
回 スポット1点AF（任意選択）




1点AFよりも狭い範囲にピントを合わせることができます。ピント合わせに使うAFフレーム1点（回）を選択します。ピンポイントでピントを合わせたいときや、おりの中の動物などを撮影するときなどに効果的です。


なお、スポット1点AFは測距範囲が狭いため、手持ち撮影のときや動きのある被写体に対しては、ピントが合いにくいことがあります。


□ 1点AF（任意選択）





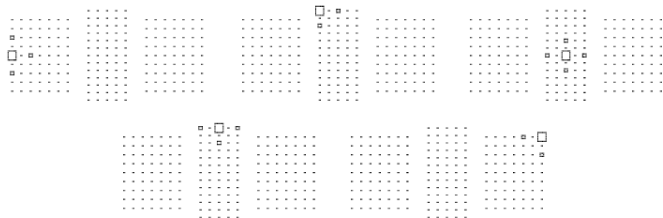
ピント合わせに使うAFフレーム1点（）を選択します。

領域拡大AF（任意選択）



任意に選択したAFフレーム（）および周囲のAFフレームでピント合わせを行います。1点AFでは被写体の追従が難しい、動きのある被写体を撮影するときに有効です。



AIサーボAFのときは、初めに任意選択したAFフレーム（）で被写体を捉える必要がありますが、ゾーンAFよりも狙った被写体にピントを合わせやすい特性をもっています。

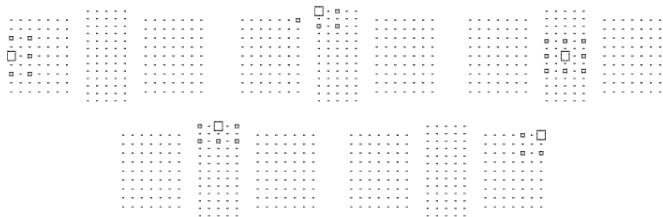
ワンショットAFのときは、領域拡大したAFフレームでピントが合うと、任意選択したAFフレーム（）に加えて、そのAFフレームも（）で表示されます。



領域拡大AF（任意選択周囲）

任意に選択したAFフレーム（）および周囲のAFフレームでピント合わせを行います。領域拡大AF（任意選択 ）より、さらに広い範囲でピント合わせを行います。1点AFでは被写体の追従が難しい、動きのある被写体を撮影するときに有効です。

AIサーボAF、ワンショットAF時の動作は、領域拡大AF（任意選択 ）と同じです（）。

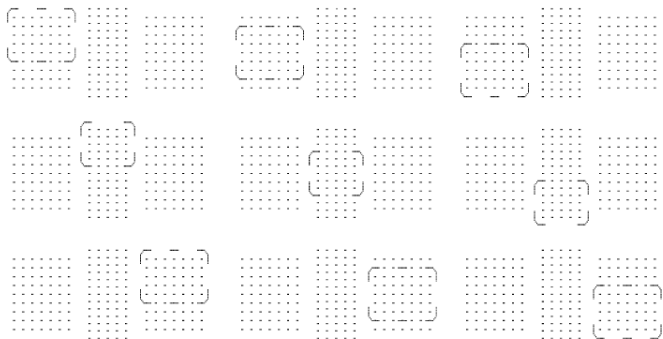


☐ ゾーンAF (ゾーン任意選択)

AF領域を9つの測距ゾーンに分けてピント合わせを行います。選択したゾーンの全AFフレームで自動選択AFを行うため、1点AFや領域拡大AFよりも被写体を捉えやすく、動きのある被写体を撮影するときにも有効です。

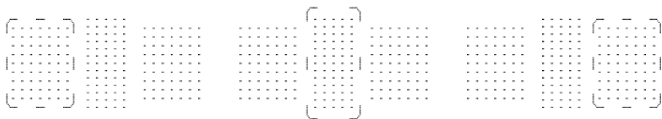
最も近距離の被写体に限らず、動いている被写体や顔、被写体距離などのさまざまな条件によってピント合わせの領域を決定します。なお、ゾーンAFフレーム内に、人物がいる場合は顔を優先してピントを合わせます。

ピントが合ったAFフレームは〈☐〉で表示されます。




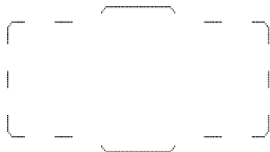
□ ラージゾーンAF (ゾーン任意選択)


AF領域を左/中/右の3つの測距ゾーンに分けてピント合わせを行います。ゾーンAFよりも範囲が広く、選択したゾーンの全AFフレームで自動選択AFを行うため、1点AFや領域拡大AFよりも被写体を捉えやすく、動きのある被写体を撮影するときに有効です。最も近距離の被写体に限らず、動いている被写体や顔、被写体距離などのさまざまな条件によってピント合わせの領域を決定します。なお、ゾーンAFフレーム内に、人物がいる場合は顔を優先してピントを合わせます。ピントが合ったAFフレームは〈□〉で表示されます。

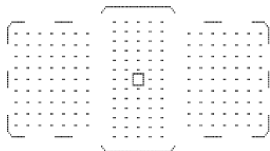



○ 自動選択AF

エリアAFフレーム（AF領域全体）でピント合わせを行います。ピントが合ったAFフレームは、で表示されます。



ワンショットAFのときは、シャッターボタンを半押しすると、ピントの合ったAFフレーム（）が表示されます。複数のAFフレームが表示されるときは、そのすべてにピントが合っています。最も近距離の被写体に限らず、顔、被写体距離などのさまざまな条件によってピント合わせの領域を決定します。



AIサーボAFのときは、**[AF: (○) / (Ⓜ) 時サーボAF開始測距点]** () で、AIサーボAFを開始する位置を設定することができます。撮影中はエリアAFフレームで被写体を捉えていれば、継続してピント合わせが行われます。最も近距離の被写体に限らず、動いている被写体や顔、被写体距離などのさまざまな条件によってピント合わせの領域を決定します。

ピントが合いにくい撮影条件

- 明暗差（コントラスト）が極端に低い被写体
（例：青空、単色の平面など）
- 非常に暗い場所にある被写体
- 強い逆光状態、または光の反射が強い被写体
（例：反射光の強い車のボディなど）
- 遠いところと近いところにある被写体がAFフレームの近くにある場合
（例：おりの中の動物など）
- 点状の光源などがAFフレームの近くにある場合
（例：夜景など）
- 繰り返し模様の被写体
（例：ビルの窓やパソコンのキーボードなど）
- AFフレームに対してパターンが細かい被写体
（例：AFフレームと同じサイズ、または小さいサイズの顔や花など）

これらの場合は、次のいずれかの方法でピントを合わせます。

1. ワンショットAFのときは、被写体とほぼ同じ距離にあるものにピントを固定し、構図を決めなおして撮影する (📷)
2. レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にして手動ピント合わせを行う (📷)。

参考

- 被写体によっては、構図をわずかにずらして再度AFを行うと、ピント合わせができることがあります。



AF方式の選択（ライブビュー撮影）

- [AF方式](#)
- [AF方式の選択](#)
- [!\[\]\(6302aad5aed157b291fddf37b4870784_img.jpg\)（顔）+追尾優先AF：!\[\]\(a9ca2c237943a6d0a9f22252f295b6f3_img.jpg\)](#)
- [スポット1点AF／1点AF／領域拡大AF（!\[\]\(9a01a64e0b4ff865df7d32ee7991fe8b_img.jpg\)）／領域拡大AF（周囲）／ゾーンAF／ラージゾーンAF（縦）／ラージゾーンAF（横）](#)
- [拡大表示](#)
- [AF撮影のヒント](#)
- [ピントが合いにくい撮影条件](#)
- [AF範囲](#)

AF方式

：顔+追尾優先AF



人の顔を検知してピント合わせを行います。顔を検知すると、ピント合わせを行うAFフレーム（）が顔の部分に表示され、顔を追尾します。顔を検知しないときは、最も近距離の被写体に限らず、動いている被写体、被写体距離などのさまざまな条件によってピント合わせの領域を決定します。サーボAFのときは、サーボAFを開始する位置を設定することができます（）。撮影中はエリアAFフレームで被写体を捉えていれば、継続してピント合わせが行われます。

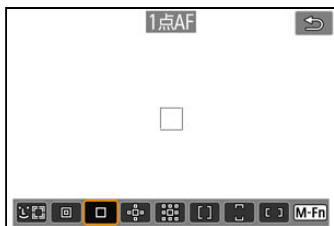
回：スポット1点AF



1点AFよりも狭い範囲でピント合わせを行います。
ピンポイントでピントを合わせたいときや、おりの中の動物などを撮影するときなどに効果的です。

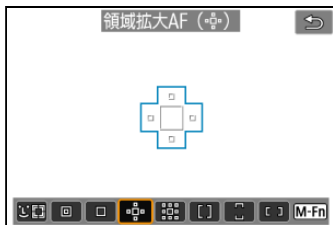
なお、スポット1点AFは測距範囲が狭いため、手持ち撮影のときや動きのある被写体に対しては、ピントが合いにくいことがあります。

□：1点AF



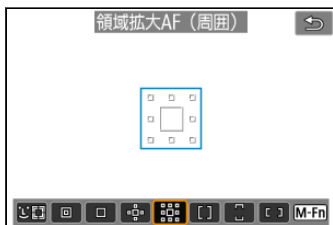
1つのAFフレーム〈□〉でピント合わせを行います。

☒ : 領域拡大AF (☒)



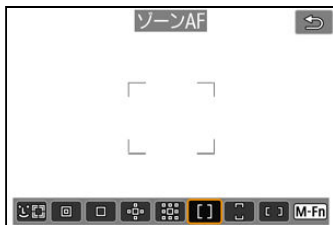
1つのAFフレーム〈☒〉を含む、青枠で囲んだAFフレームでピント合わせを行います。1点AFでは被写体の追従が難しい、動きのある被写体を撮影するときに有効です。ゾーンAFよりも狙った被写体にピントを合わせやすい特性を持っています。サーボAFのときは、初めにAFフレーム〈☒〉で被写体を捉えます。

☒☒ : 領域拡大AF (周囲)



1つのAFフレーム〈☒〉を含む、青枠で囲んだAFフレームでピント合わせを行なうため、領域拡大AF (☒) より、動きのある被写体を捉えやすくなります。サーボAF時の動作は、領域拡大AF (☒) と同じです。

[]: ゾーンAF

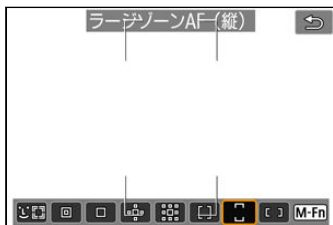


領域拡大AFよりもAF範囲が広い「ゾーンAFフレーム」で自動選択AFを行うため、領域拡大AFよりも被写体を捉えやすくなります。

最も近距離の被写体に限らず、動いている被写体や顔、被写体距離などのさまざまな条件によってピント合わせの領域を決定します。

ピントが合ったAFフレームは〈□〉で表示されます。

[]: ラージゾーンAF（縦）



ゾーンAFよりもさらにAF範囲が広い、縦長の「ラージゾーンAFフレーム」で自動選択AFを行うため、1点AFや領域拡大AFよりも被写体を捉えやすく、動きのある被写体を撮影するときに有効です。

最も近距離の被写体に限らず、動いている被写体や顔、被写体距離などのさまざまな条件によってピント合わせの領域を決定します。

ピントが合ったAFフレームは〈□〉で表示されます。

□: ラージゾーンAF (横)

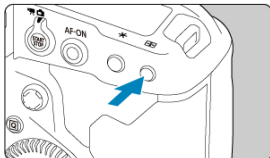


ゾーンAFよりもさらにAF範囲が広い、横長の「ラージゾーンAFフレーム」で自動選択AFを行うため、1点AFや領域拡大AFよりも被写体を捉えやすく、動きのある被写体を撮影するときに有効です。

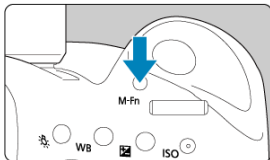
最も近距離の被写体に限らず、動いている被写体や顔、被写体距離などのさまざまな条件によってピント合わせの領域を決定します。

ピントが合ったAFフレームは〈□〉で表示されます。

1. <AF-ON> ボタンを押す



2. AF方式を選ぶ



- <M-Fn> ボタンを押すたびに、AF方式が切り換わります。



参考

- [AF: AF方式] から選択することもできます。
- 以降の項目は、AF動作が [ワンショットAF] (📷) に設定されていることを前提に説明しています。[サーボAF] (📷) に設定しているときは、被写体にピントが合うとAFフレームが青色に変わります。

人の顔を検知してピント合わせを行います。顔が動くとAFフレーム〈☺〉も動いて顔を追尾します。

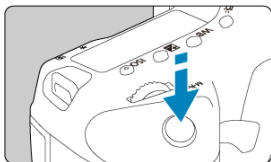
[AF: 瞳AF] を [する] に設定すると、目にピントが合うように撮影することができます(☺)。

1. AFフレームを確認する



- 顔を検知すると、AFフレーム〈☺〉が表示されます。
- 〈☺〉が表示されるときは、〈☺〉でピントを合わせたい顔を選ぶことができます。
- 〈☺〉を押すと、画面中央にAFフレームが移動します。

2. ピントを合わせて撮影する



- シャッターボタンを半押しして、ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。ピントが合わないときは、エリアAFフレームがオレンジ色で表示されます。

AFフレームの表示



カメラが顔を自動検出したとき
(一重の枠)



顔を任意選択したとき
(二重の枠)

参考

- 画面をタッチ、または $\langle \text{AF-ON} \rangle$ を操作して、顔を任意選択したときは、その被写体を追尾対象としてロックし、画面内で被写体が動いても追尾します。追尾のロックを解除したいときは、 $\langle \text{OFF} \rangle$ をタッチします。

注意

- 画面にタッチしてピント合わせを行うときは、AF動作の設定にかかわらず、**ワンショットAF**でピント合わせが行われます。
- ピントが大きく外れていると顔を検知できません。顔が検知できる位置まで手でピントを動かしてから $\langle \text{AF-ON} \rangle$ 、AFを行ってください。
- 顔以外の被写体を顔として検知することがあります。
- 「顔が画面に対して極端に小さい/大きい」「顔が明るすぎる/暗すぎる」「顔の一部が隠れている」ときは、顔を検知できません。
- 画面の端のほうにある顔や被写体に対してはAFできないことがあります。被写体が中央または中央寄りになるように構図を変えて撮影してください。
- サーボAFに設定したときは、ピント合わせを行うAFフレームが被写体に追従して移動しますが、被写体が小さいときなど、撮影条件によっては追従しないことがあります。

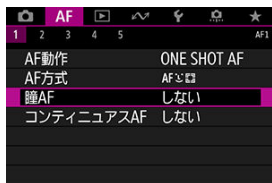
 参考

- ピント合わせを行う〈[]〉が、顔全体ではなく、顔の一部分にだけ表示されることがあります。
- AFフレームは被写体により大きさが変化します。

瞳AF

AF方式が [瞳+追尾優先AF] のとき、人物の目にピントが合うように撮影することができます。

1. [瞳AF] を選ぶ



2. [する] を選ぶ



3. 被写体にカメラを向ける




- 目の周囲にAFフレームが表示されます。
- 画面にタッチして、ピントを合わせたい目を選ぶことができます。なお、選んだ目が検出できなくなった場合は、ピントを合わせる目はカメラが自動的に選びます。
- 複数の瞳を検出している場合は、<⦿>でピントを合わせたい目を選ぶことができます。

4. 撮影する



⚠ 注意


- 撮影シーンや被写体によっては、被写体の目が正しく検出されないことがあります。

📖 参考

- 〈〉ボタン、〈INFO〉ボタンの順に押すと、メニューを操作しなくても【瞳AF：しない】に変更できます。もう一度〈INFO〉ボタンを押すと、【瞳AF：する】に設定することができます。



サーボAFの開始位置の設定

[AF: (○)/時サーボAF開始測距点] が [(○)/時の開始測距点] のときは (🔗)、サーボAFの開始位置を任意に設定することができます。

1. AF方式を [+追尾優先AF] にする (🔗)
2. AF動作を [サーボAF] にする (🔗)
3. AFフレームを設定する



(1)

-  を操作するか、画面にタッチしてAFフレーム (1) を移動します。
-  または (SET) (🔍) ボタンを押すと、AFフレームが画面中央に戻ります。

スポット1点AF／1点AF／領域拡大AF (AF-L)／領域拡大AF (周囲)／ゾーンAF／ラージゾーンAF (縦)／ラージゾーンAF (横)

AFフレーム、またはゾーンAFフレームを任意設定することができます。ここでは、1点AF時の画面を例に説明します。

1. AFフレームを確認する



(1)

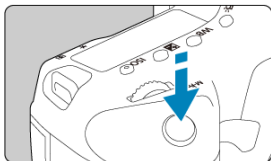
- AFフレーム (1) が表示されます。
- 領域拡大AF (AF-L)、領域拡大AF (周囲) のときは、隣接するAFフレームも表示されます。
- ゾーンAF、ラージゾーンAF (縦)、ラージゾーンAF (横) のときは、設定されているゾーンAFフレームが表示されます。

2. AFフレームを移動する



- $\langle \text{AF} \rangle$ を操作して、ピントを合わせたい位置にAFフレームを移動します (使用するレンズによっては、画面の一番端まで動かないことがあります)。
- ピントを合わせたい位置にタッチして、ピントを合わせることもできます。
- $\langle \text{AF} \rangle$ または $\langle \text{SET} \rangle$ $\langle \text{HOME} \rangle$ ボタンを押すと、AFフレームまたはゾーンAFフレームが画面中央に戻ります。

3. ピントを合わせて撮影する



- AFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
- ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- ピントが合わないときは、AFフレームまたはゾーンAFフレームがオレンジ色に変わります。

注意

- ゾーンAF、ラージゾーンAF（縦）、ラージゾーンAF（横）で、サーボAFに設定したときは、ピント合わせを行うAFフレーム〔□〕が被写体に追従して移動しますが、被写体が小さいときなど、撮影条件によっては追従しないことがあります。
- 外側寄りのAFフレームを選択しているときは、ピントが合いにくいことがあります。そのときは、中央のAFフレームを選択してください。
- 画面にタッチしてピント合わせを行うときは、AF動作の設定にかかわらず、[ワンショットAF] でピント合わせが行われます。

参考

- [□：縦位置/横位置のAFフレーム設定] で、AFフレームを、縦位置撮影と横位置撮影で別々に設定することができます (☑)。

拡大表示

[**L**+追尾優先AF]以外のときに〈Q〉ボタンを押すと（または画面の〈Q〉をタッチすると）、映像を約5倍、約10倍に拡大してピントを確認することができます。

- [スポット1点AF] [1点AF] [領域拡大AF (⦿)] [領域拡大AF (周囲)] 設定時はAFフレームの位置、[ゾーンAF] [ラージゾーンAF (縦)] [ラージゾーンAF (横)] 設定時は、ゾーンAFフレームの中央部が拡大表示されます。
- シャッターボタンを半押しすると、[スポット1点AF] [1点AF] 設定時は拡大表示のままAFが行われます。[スポット1点AF] [1点AF] 以外を設定しているときは、通常表示に戻って、AFが行われます。
- サーボAF時に、拡大表示を行った状態でシャッターボタンを半押しすると、通常表示に戻ってピント合わせが行われます。

⚠ 注意

- 拡大表示の状態ではピントが合いにくいときは、通常表示に戻してAFを行ってください。
- 通常表示の状態ではAFを行ったあとに拡大表示を行うと、正確にピントが合っていないことがあります。
- AFの速度は通常表示と拡大表示の状態では異なります。
- 拡大表示中、コンティニューAF、動画サーボAFは行われません。
- 拡大表示のときは、手ブレによりピントが合いにくくなります。三脚の使用をおすすめします。

AF撮影のヒント

- ピントが合った状態でも、シャッターボタンを半押しすると、もう一度ピント合わせが行われます。
- AFの前後で、映像の明るさが変わることがあります。
- 被写体や撮影条件により、ピント合わせに時間がかかったり、連続撮影速度が低下することがあります。
- 撮影中に光源（照明光）が変化すると、画面がちらついてピントが合いにくいことがあります。そのときは、電源を入れ直し、撮影する光源下でAFを行ってください。
- AFでピントが合わないときは、手動でピント合わせを行ってください (M/AF-L)。
- 画面の端のほうにある被写体を撮影したときに、わずかにピントがズれているときは、被写体（またはAFフレーム/ゾーンAFフレーム）を画面の中央寄りにして、再度ピント合わせを行ってから撮影してください。
- 使用するレンズによっては、AFでピントが合うまでに時間がかかったり、適切なピント合わせができないことがあります。

ピントが合いにくい撮影条件

- 青空、単色の平面、画面上で被写体が白とびや黒つぶれしているときなど、明暗差（コントラスト）のない被写体
- 暗い場所にある被写体
- 縞模様など、水平方向のコントラストしかない被写体
- 繰り返し模様の被写体（例：ビルの窓やパソコンのキーボードなど）
- 細い線、被写体の輪郭部分
- 明るさや色、パターンが変化する光源
- 夜景など、点状の光源
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で、映像がちらついている場合（フリッカー）
- 被写体が極端に小さい場合
- 画面の端のほうにある被写体
- 強い逆光状態、または光の反射が強い被写体（例：反射光の強い車のボディなど）
- 近くと遠くにある被写体が、AFフレームの中に入っている場合（例：おりの中の動物など）
- 手ブレや被写体ブレで、AFフレーム内の被写体が揺れ動いて、静止しない場合
- 大きくピントがぼけた状態からAFを行った場合
- ソフトフォーカスレンズで、ソフトフォーカス撮影する場合
- 特殊効果フィルターを使用している場合
- AF中に画面にノイズ（輝点、縞など）が表示されている場合

AF範囲

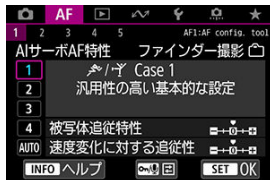
使用するレンズや記録サイズ、動画電子ISなどの設定によって、AF可能な範囲は変わります。

AIサーボAF/サーボAF特性

- ☑ [各ケースの内容](#)
- ☑ [Case1：汎用性の高い基本的な設定](#)
- ☑ [Case2：障害物が入るときや、被写体がAFフレームから外れやすいとき](#)
- ☑ [Case3：急に現れた被写体に素早くピントを合わせたいとき](#)
- ☑ [Case4：被写体が急加速/急減速するとき](#)
- ☑ [CaseA：被写体の動きの変化に応じて追従特性を自動で切り換えたいとき](#)
- ☑ [各特性](#)
- ☑ [各ケースの設定内容を変更する](#)


撮影する被写体や撮影シーンにあわせて「Case*」を選ぶだけで、被写体や撮影シーンに適したAIサーボAF/サーボAF撮影を簡単に行うことができます。この機能を「AFカスタム設定ガイド機能」といいます。

1. [AF1] タブを選ぶ








- ライブビュー撮影時は [AF3] タブを選びます。

2. ケースを選ぶ

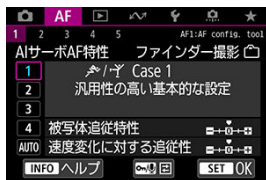
- 〈〉を回してケース（マーク）を選び、〈SET〉を押します。
- 選択したケースに設定されます。選択したケースは青色で表示されます。

各ケースの内容

「Case1」～「CaseA」は、「[被写体追従特性](#)」「[速度変化に対する追従性](#)」の組み合わせを5種類用意したものです。表の内容から、被写体や撮影シーンに適したケースを選びます。

ケース	マーク	内容	撮影シーン例
Case1		汎用性の高い基本的な設定	動きのある被写体全般
Case2		障害物が入るときや、被写体がAFフレームから外れやすいとき	テニス、フリースタイルスキーなど
Case3		急に現れた被写体に素早くピントを合わせたいとき	自転車ロードレースのスタート、アルペン滑降スキーなど
Case4		被写体が急加速/急減速するとき	サッカー、新体操、モータースポーツ、バスケットボールなど
CaseA		被写体の動きの変化に応じて追従特性を自動で切り換えたいとき	動きのある被写体全般で、特に撮影シーンがさまざまに変化するとき

Case1 : 汎用性の高い基本的な設定



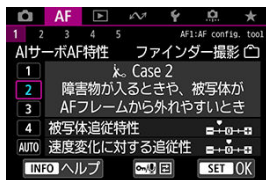
初期設定

- 被写体追従特性 : 0
- 速度変化に対する追従性 : 0

動きのある被写体全般に適応する、標準的な設定です。多くの被写体、撮影シーンに対応しています。

障害物がAFフレームを横切るときやAFフレームが被写体から外れやすいとき、急に現れた被写体にピントを合わせたいとき、被写体の速度が急激に変わるときは、[Case2] ~ [Case4] を選んでください。

Case2 : 障害物が入るときや、被写体がAFフレームから外れやすいとき



初期設定

- 被写体追従特性：粘る：-1
- 速度変化に対する追従性：0

障害物がAFフレームを横切ったときや、AFフレームが被写体から外れたときでも、できるだけ狙っている被写体にピントを合わせ続けようとする設定です。障害物や（ピント抜けで）背景にピントを合わせたくないときに有効です。

参考

- 障害物がAFフレームに入り込んでいる時間、またはAFフレームが被写体から外れている時間が長く、初期設定では狙った被写体からピントが外れてしまうときは、**[被写体追従特性]**を **[-2]** に設定すると、改善することがあります (🔗)。

Case3 : 急に現れた被写体に素早くピントを合わせたいとき



初期設定

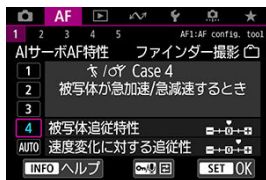
- 被写体追従特性 : 俊敏 : +1
- 速度変化に対する追従性 : +1

AFフレームで捉えた、距離の異なる被写体に、次々にピントを合わせることができる設定です。狙っていた被写体の手前に、新たな被写体が入り込んだときは、新たな被写体にピントを合わせます。最も近い被写体にピントを合わせたいときにも有効です。

参考

- 急に現れた被写体により素早くピントを合わせたいときは、[被写体追従特性]を [+2] に設定すると、改善することがあります (👍)。

Case4 : 被写体が急加速/急減速するとき



初期設定

- 被写体追従特性：俊敏：0
- 速度変化に対する追従性：+1

被写体の動く速さが瞬時に大きく変化しても、その速度変化に追従してピントを合わせようとする設定です。

急な動き出しや、急加速、急減速、急停止する被写体に適しています。

参考

- 瞬時に速さが大きく変化するときは、[速度変化に対する追従性]を [+2] に設定すると、改善することがあります (🔗)。

CaseA : 被写体の動きの変化に応じて追従特性を自動で切り換えたいとき



被写体の変化に応じた特性の設定をカメラまかせで撮影するときに有効です。
被写体追従特性、速度変化に対する追従性が自動設定されます。

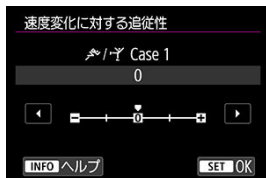
被写体追従特性



AIサーボAF/サーボAFで測距中に、障害物がAFフレームを横切ったときや、AFフレームが被写体から外れたときの、被写体に対する追従性の設定です。

- **0**
標準的な設定です。動いている一般的な被写体に適しています。
- **粘る：-2/粘る：-1**
障害物がAFフレームを横切ったときや、AFフレームが被写体から外れたときでも、できるだけ狙っている被写体にピントを合わせ続けようとしします。-1よりも-2のほうが、狙っている被写体を長く捉え続けようとしします。
その反面、意図しない被写体にピントが合ったときは、狙っている被写体に対するピント合わせに、やや時間がかかることがあります。
- **俊敏：+2/俊敏：+1**
AFフレームで捉えた、距離の異なる被写体に、次々にピントを合わせることができません。最も近い被写体にピントを合わせたいときにも有効です。+1よりも+2のほうが、異なる被写体にレスポンス良く反応します。
その反面、意図しない被写体にピントが合いやすくなります。

速度変化に対する追従性



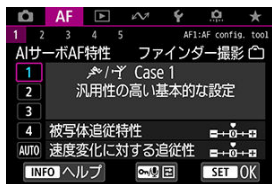
被写体が急に動き出したときや、急に止まったときなど、速さが瞬時に大きく変化したときの、被写体に対する追従性の設定です。

- **0**
移動速度がほぼ一定の（速度変化が少ない）被写体に適しています。
- **-2/-1**
移動速度がほぼ一定の（速度変化が少ない）被写体に適しています。0の設定でも被写体のわずかな動きや手前の障害物に影響されてピントが不安定なときに効果的です。
- **+2/+1**
急な動き出し、急加速、急減速、急停止する被写体に適しています。被写体の速さが瞬時に大きく変化しても、狙っている被写体にピントを合わせ続けます。例として、向かってくる被写体の急な動き出しに対しては「後ピン」、急な停止に対しては「前ピン」になりにくくなります。+1よりも+2のほうが、大きい速度変化に追従することができます。その反面、被写体のわずかな動きに影響されやすくなり、ピントが一時的に不安定になることがあります。

各ケースの設定内容を変更する

「Case1」～「Case4」に設定されている、「①被写体追従特性」、「②速度変化に対する追従性」を、任意に調整することができます。

1. ケースを選ぶ

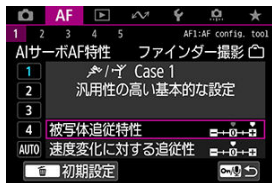


- ◀(○) を回して調整したいケース（番号）を選びます。

2. ◀On/🔊▶ ボタンを押す

- 項目に紫色の枠が付きます。

3. 調整したい項目を選ぶ



4. 調整する



- 初期設定は [] の薄い灰色で表示されます。
- 調整確定後、〈SET〉を押します。
- 〈on/🎤〉ボタンを押すと、手順1の状態に戻ります。

参考

- 手順2で〈on/🎤〉ボタンを押したあと、〈🏠〉ボタンを押すと、ケースごとに①②の設定を初期状態に戻すことができます。
- マイメニューに①②を登録することもできます (🔖)。そのときは、選択しているケースの設定変更になります。
- 調整したケースで撮影するときは、調整したケースを選択してから撮影します。

AF機能のカスタマイズ

- [ファインダー撮影](#)
- [その他のメニュー機能](#)



撮影スタイルや被写体に応じて、AFに関連する機能を細かく設定することができます。

[AF2]

AIサーボAF1コマ目リリース

AIサーボAFで1コマ目を撮影するときの、AFの作動特性とリリースタイミングを設定することができます。



- **[ロ/◎] バランス重視**
ピントとリリースタイミングのバランスをとった設定です。
- **[ロ] レリーズ優先**
シャッターボタンを押すと、ピントが合っていないとでもすぐに撮影されます。ピントよりも一瞬の撮影チャンスを優先したいときに有効です。
- **[◎] ピント優先**
シャッターボタンを押しても、ピントが合うまで撮影されません。被写体にピントを合わせてから撮影したいときに有効です。

AIサーボAF連続撮影中リリース

AIサーボAF+連続撮影で1コマ目を撮影したあと、連続撮影を続けているときの、AFの作動特性とリリースタイミングを設定することができます。



- **[0] バランス重視**

ピントと連続撮影速度のバランスをとった設定です。暗いときや被写体のコントラストが低いときは、連続撮影速度が遅くなることがあります。

- **[-2] / [-1] 連続撮影速度優先**

ピントよりも連続撮影速度を優先します。-1よりも-2のほうが連続撮影速度が低下しにくくなります。

- **[+2] / [+1] ピント優先**

連続撮影速度よりもピントを優先します。ピントが合うまで撮影されません。+1よりも+2のほうが暗い場所でピントが合いやすくなりますが、連続撮影速度が遅くなることがあります。

注意

- [-1] [-2] に設定しても、フリッカー低減処理が行われる撮影条件のときは 、連続撮影速度が遅くなったり、連続撮影間隔にばらつきが生じることがあります。

参考

- **[0 : バランス重視]** 設定時に暗い場所でピントが合わないときは、**[+1] [+2]** に設定すると改善することがあります。

[AF3]

電子式フルタイムMF

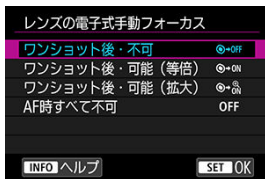
特定のレンズを装着した時の、電子式フォーカスリングによる手動ピント調整の動作を設定できます。動作するレンズはキヤノンのホームページで確認してください。



- **無効**
手動ピント調整は、[レンズの電子式手動フォーカス] で設定されている動作になりません。
- **有効**
カメラ操作可能な状態で、常に手動ピント調整が可能です（フルタイムマニュアルフォーカス）。

レンズの電子式手動フォーカス

電子式の手動フォーカス機能を備えたEFレンズを使用して、ワンショットAFを行ったときの手動ピント調整の設定ができます。



- **[☞→OFF] ワンショット後・不可**
AF動作を行ったあとの、手動ピント調整を禁止します。
- **[☞→ON] ワンショット後・可能（等倍）**
AF動作を行ったあと、シャッターボタン半押しを続けていれば、手動でピント調整ができます。

- **[ ワンショット後・可能（拡大）]**

AF動作を行ったあと、シャッターボタン半押しを続けていれば、手動でピント調整ができます。ライブビュー撮影時は、レンズのフォーカスリングを回すと、ピント位置が拡大され、手動でピント調整ができます。

- **[OFF] AF時すべて不可**

レンズのフォーカスモードスイッチが〈AF〉に設定されているときは、手動ピント調整を禁止します。

! 注意

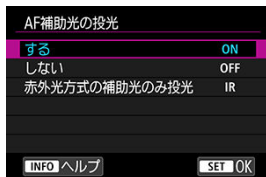
- **[ワンショット後・可能（拡大）]** 設定時、撮影後、すぐにシャッターボタンを半押ししたときは、レンズのフォーカスリングを回しても拡大表示されないことがあります。そのときは、シャッターボタンから一旦指を離し、画面に〈Q〉が表示されたから、シャッターボタンを半押ししたまま、フォーカスリングを回すと拡大表示されます。

📖 参考

- お使いのレンズの手動フォーカス機能の仕様は、レンズの使用説明書でご確認ください。

AF補助光の投光

EOS用の外部ストロボから、AF補助光の投光を行うかどうかを設定することができます。



- **[ON] する**
必要に応じてAF補助光が投光されます。
- **[OFF] しない**
AF補助光は投光されません。AF補助光を投光したくないときに設定します。
- **[IR] 赤外光方式の補助光のみ投光**
赤外光方式のAF補助光機能を搭載した外部ストロボ使用時は、赤外光によるAF補助光が投光されます。

⚠ 注意

- 外部ストロボのカスタム機能の **[AF補助光の投光]** が **[しない]** に設定されているときは、外部ストロボからAF補助光は投光されません。

ワンショットAF時のリリース

ワンショットAFで撮影するときの、AFの作動特性とリリースタイミングを設定することができます。



- **[◎] ピント優先**

ピントが合うまで撮影されません。被写体にピントを合わせてから撮影したいときに有効です。

- **[□] リリース優先**

ピントよりも撮影タイミングを優先します。一瞬の撮影チャンスを優先したいときに有効です。

ピントが合っていない場合でも撮影されますので、注意してください。

[AF4]

被写体追尾の詳細設定

追尾による主被写体の自動選択条件と、他の被写体への測距点の乗り移りやすさを設定することができます。

ファインダー撮影時は測距エリア選択モードが、ゾーンAF/ラージゾーンAF/自動選択AFのとき、ライブビュー撮影時はAF方式が \downarrow +追尾優先AF/ゾーンAF/ラージゾーンAF（縦）/ラージゾーンAF（横）のときに機能します。

● 人物優先



● しない

被写体の情報をもとに、追尾する主被写体を決定します。

● する

被写体の情報をもとに、追尾する主被写体として人物の顔・頭部を優先します。人物の顔・頭部が検出できない場合は、人物の体の一部を追尾する場合があります。

● 被写体乗り移り



● しない

最初にAF対象とした被写体を、できる限り追尾し続けます。

● 緩やか

基本的に最初にAF対象とした被写体を追尾し続けます。なお、現在の被写体がAF対象として相応しくなくなった場合には他の被写体に乗り移ることがあります。

● する

状況に応じて、追尾対象が他の被写体に乗り移ります。

❗ 注意

● [しない] 設定時の注意事項

被写体の条件によっては、被写体を追尾し続けられない場合があります。

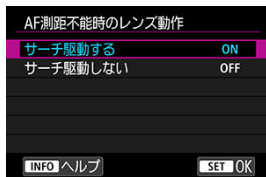
- 被写体の動きが激しい場合
- 被写体の向きや姿勢が変わった場合
- AFフレームが被写体から外れたり、または被写体が障害物に隠れたりして、被写体を見失った場合

[人物優先] が [する] のときは、被写体の条件によっては顔・頭部に乗り移ることがあります。

- タッチ操作で被写体を選択したときは、[被写体追尾の詳細設定] の設定にかかわらず、選択した被写体をできる限り追尾し続けます。

AF測距不能時のレンズ動作

AFでピントが合わせられなかったときのレンズの動作を設定することができます。



- **[ON] サーチ駆動する**

AFでピントが合わせられないときは、レンズを駆動させて、ピントの合う位置を探します。

- **[OFF] サーチ駆動しない**

AFを開始するときにピントが大きくボケているときや、AFでピントが合わせられないときは、レンズの駆動を行いません。サーチ駆動により、ピントが大きくボケることを防止します。






! 注意

- 超望遠レンズなど、ピント駆動範囲が大きいレンズを使用したときにサーチ駆動を行うと、ピントが大きくボケて次のピント合わせに時間がかかることがあるため、**[サーチ駆動しない]** に設定することをおすすめします。

任意選択可能なAFフレーム

任意選択できるAFフレームの数を変更することができます。なお、ゾーンAF、ラージゾーンAF、自動選択AF設定時は、[任意選択可能なAFフレーム]の設定に関わらず、選択した測距エリア選択モード（ゾーンAF、ラージゾーンAF、自動選択AF）でAFが行われます。





- **【】 全点**
すべてのAFフレームが任意選択できます。
- **【】 クロス測距点のみ**
クロス測距点のみ任意選択できます。AFフレームの数は、使用するレンズにより異なります。
- **【】 61点**
主要な61点の任意選択ができます。
- **【】 15点**
主要な15点の任意選択ができます。
- **【】 9点**
主要な9点の任意選択ができます。

⚠ 注意

- レンズによっては、任意選択できるAFフレームの数が少なくなります。

📖 参考

- [全点] 以外に設定しても、領域拡大AF（任意選択）、領域拡大AF（任意選択周囲）、ゾーンAF、ラージゾーンAFを行うことができます。
- **()** ボタンを押したときに、任意選択できないAFフレームはファインダー内に表示されません。

測距エリア選択モードの限定

測距エリア選択モードを、使用するモードだけに限定することができます。測距エリア選択モードを選び、 $\langle \text{SET} \rangle$ を押して $[\checkmark]$ を付けます。 $[\text{OK}]$ を選ぶと設定されます。なお、測距エリア選択モードについては、[測距エリア選択モードの内容（ファインダー撮影）](#) を参照してください。



⚠ 注意

- [1点AF（任意選択）] の $[\checkmark]$ を外すことはできません。
- [測距エリア選択モードの限定] で $[\checkmark]$ を付けても、レンズによっては使用できない測距エリア選択モードがあります。

測距エリア/AF方式の切り換え

測距エリアまたはAF方式選択モードの切り換え方法を設定することができます。



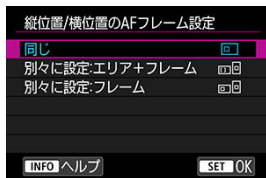
- **☰ M-Fn ☰→M-Fnボタン**
〈☰〉ボタンを押したあと、〈M-Fn〉ボタンを押すと、測距エリア/AF方式選択モードが切り換わります。
- **☀ ☰→メイン電子ダイヤル**
〈☰〉ボタンを押したあと、〈☀〉を回すと、測距エリア/AF方式選択モードが切り換わります。

📖 参考

- **☰→メイン電子ダイヤル** 設定時に、AFフレームを横方向へ移動するときは、〈☀〉を操作してください。

縦位置/横位置のAFフレーム設定

縦位置撮影と横位置撮影で、測距エリア選択モード+AFフレーム、またはAFフレームを別々に設定することができます。



- **[同じ]** 同じ

縦位置撮影、横位置撮影とも、同じ測距エリア選択モードと任意選択AF フレーム（またはゾーン）になります。

- **[別々に設定:エリア+フレーム]**

カメラの姿勢（①横位置状態、②グリップを上にした縦位置状態、③グリップを下にした縦位置状態）ごとに、測距エリア選択モードとAFフレーム（またはゾーン）を設定することができます。

①②③のそれぞれの姿勢で、測距エリア選択モードとAFフレーム（またはゾーン）を任意選択すると記憶されます。撮影時はカメラの姿勢に応じて、設定した測距エリア選択モードと任意選択したAFフレーム（またはゾーン）に切り換わります。なお、ライブビュー撮影時は**【別々に設定:フレーム】**と同じ動作になります。

- **[別々に設定:フレーム]**

カメラの姿勢（①横位置状態、②グリップを上にした縦位置状態、③グリップを下にした縦位置状態）ごとに、AFフレーム（またはゾーン）の位置を設定することができます。姿勢に応じて自動的にAFフレーム（またはゾーン）の位置を切り換えたいときに有効です。

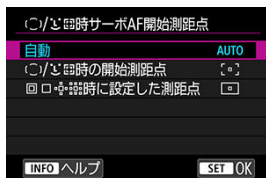
①②③のそれぞれの姿勢で設定した、AFフレーム（またはゾーン）の位置が記憶されます。

⚠ 注意

- **[🔍: カメラの初期化]** で **【設定項目を選んで初期化】** の **【基本設定】** を選ぶと (🔍)、設定が **【同じ】** になります。また、①②③の姿勢で設定した内容が解除され、1点AFで中央のAFフレームが選択された状態になります。
- 設定後に、レンズを交換すると、設定した内容が解除されることがあります。

○/⌂時サーボAF開始測距点

測距エリア選択モードを [自動選択AF] に設定したとき、またはAF方式を [⌂+追尾優先AF] に設定したときに、AIサーボAF/サーボAFをどのAFフレーム（測距点）から開始するかを設定することができます。



- **AUTO : 自動**

撮影状況に応じてAIサーボAF/サーボAFを開始するAFフレームが自動的に決まります。

- **[○/⌂] ○/⌂時の開始測距点**

測距エリア選択モードが [自動選択AF]、またはAF方式が [⌂+追尾優先AF] に設定されているときに、任意選択したAFフレームからAIサーボAF/サーボAFが始まります。

- **[□□□□] □□□□時に設定した測距点**

スポット1点AF、1点AF、領域拡大AF（任意選択□□□□）、領域拡大AF（任意選択周囲）から、[自動選択AF]、または [⌂+追尾優先AF] に切り換えたときに、それまで任意選択していたAFフレームからAIサーボAF/サーボAFが始まります。[自動選択AF]、または [⌂+追尾優先AF] に切り換える前に設定していたAFフレームからAIサーボAF/サーボAFを開始したいときに有効です。

📖 参考

- **[□□□□時に設定した測距点]** 設定時に、測距エリア選択モードをゾーンAF、ラージゾーンAFに切り換えたとき、またはAF方式をゾーンAF、ラージゾーンAF（縦）、ラージゾーンAF（横）に切り換えたときも、それまで任意選択していたAFフレームに対応するゾーンからAIサーボAF/サーボAFが始まります。

[AF5]

AFフレーム選択時の循環

AFフレーム選択時に、一番端のAFフレームで選択を止めるか、循環して反対側のAFフレームが選択できるようにするかを設定することができます。



- [しない (端で突き当たり)]
一番端のAFフレームを頻繁に使用するとき有効です。
- [する]
一番端のAFフレームで止まらずに反対側のAFフレームが選択できます。

参考

- [AF : () / () 時サーボAF開始測距点] が [() / () 時サーボAF開始測距点] に設定されているときは、AIサーボAFの開始測距点を選択するときにも機能します。

測距時のAFフレーム表示

AF開始時、AF中、合焦時、合焦後の測光タイマー作動中にAFフレームを表示するかどうかを設定することができます。



○：表示／×：非表示

測距時のAFフレーム表示	AFフレーム 選択時	AF開始前 (撮影準備状態)	AF開始時
選択AFフレーム	○	×	○
全AFフレーム	○	×	○
選択フレーム (合焦時/AF中)	○	×	○
選択AFフレーム (合焦時表示)	○	×	○
表示しない	○	×	×

測距時のAFフレーム表示	AF中	合焦時	合焦後の測光 タイマー作動中
選択AFフレーム	○	○	○
全AFフレーム	○	○	○
選択フレーム (合焦時/AF中)	×	○	○
選択AFフレーム (合焦時表示)	×	○	×
表示しない	×	×	×

注意

- ゾーンAF、ラージゾーンAF、自動選択AF設定時は、ゾーンAFフレーム、ラージゾーンAFフレーム、エリアAFフレームが表示されるため、AFフレームの表示/非表示は、表の内容と異なります。

AFフレーム点灯輝度



ファインダー内のAFフレームの点灯輝度を設定することができます。



ファインダー内のAF作動表示

AFが作動していることを示すマーク（AF作動表示）を、ファインダーの視野内に表示するか、視野外に表示するかを選ぶことができます。



-  **視野内に表示**
ファインダー視野内の右下に **AF** が表示されます。
-  **視野外に表示**
ファインダー視野外の合焦マーク **●** の下に **▲** が表示されます。

参考

- AF作動表示については、[AF作動表示（ファインダー撮影）](#)を参照してください。

AFマイクロアジャストメント

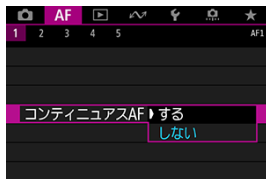
AFでピントが合う位置を微調整することができます。詳しくは、[AFマイクロアジャストメント](#)を参照してください。

ライブビュー撮影

ライブビュー撮影時のみ有効なメニューについて説明します。

[AF1]

コンティニュアスAF



常に被写体に対しておおまかにピントを合わせ続ける機能です。シャッターボタンを半押ししたときに素早くピントが合います。なお、[する]設定時は、常にレンズが動作してバッテリーを消耗するため、撮影可能枚数が少なくなります。

[AF5]

AF方式の限定



AF方式の選択項目を、使用するAF方式だけに限定することができます。AF方式を選び、 $\langle \text{SET} \rangle$ を押して[✓]を付けます。[OK]を選ぶと設定されます。なお、AF方式については、[AF方式の選択 \(ライブビュー撮影\)](#)を参照してください。

ⓘ 注意

- [1点AF]の[✓]を外すことはできません。

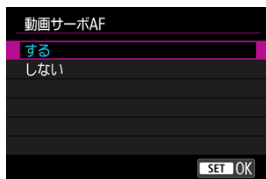
動画撮影

動画撮影時のみ有効なメニューについて説明します。



[AF1]

動画サーボAF

動画撮影時に被写体に対して常にピントを合わせ続ける機能です。



● [する]

- シャッターボタンを半押ししなくても、被写体に対して常にピントを合わせ続けます。
- 狙った位置でピントを止めたいときや、レンズの作動音などが記録されるのが気になるときは、画面左下の【SEVOAF】をタッチすると、動画サーボAFを一時的に停止することができます。
- [**6** : 操作ボタン カスタマイズ] で [動画サーボAF一時停止] () を割り当てたときは、そのボタンを押すと動画サーボAFが停止します。もう一度ボタンを押すと動画サーボAFが再開します。
- [AF停止] () を割り当てたときは、そのボタンを押している間、動画サーボAFが停止します。ボタンを離すと動画サーボAFが再開します。
- 動画サーボAFが停止しているときに、〈MENU〉ボタンや〈▶〉ボタンを押したり、AF方式を変更するなどの操作を行ったあと、動画撮影に戻ると、動画サーボAFが再開します。

● [しない]

シャッターボタンを半押しするか、〈AF-ON〉ボタンを押すと、ピント合わせが行われます。

ⓘ 注意

【動画サーボAF：する】設定時の注意事項

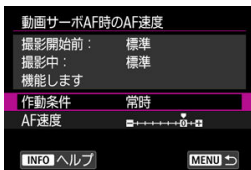
- **ピントが合いにくい撮影条件**
 - 速い速度で近づく、または遠ざかる被写体
 - 近距離で動いている被写体
 - 絞り数値が大きいとき
 - 測距エリア選択モードの内容（ファインダー撮影）の『**ピントが合いにくい撮影条件**』も参照してください。
- 常にレンズが作動してバッテリーを消耗するため、動画撮影できる時間 (🔋) が短くなります。
- 動画撮影中にAF動作を行ったり、カメラ/レンズの操作を行うと、カメラに内蔵されたマイクにより、レンズの作動音やカメラ/レンズの操作音が一緒に録音されることがあります。そのときは、外部マイクを使用すると、これらの音を低減できることがあります。なお、外部マイクを使用してもこれらの音が気になるときは、外部マイクをカメラから取り外し、カメラやレンズから遠ざけると、低減効果を高められることがあります。
- ズーム操作中や拡大表示を行っているときは、動画サーボAFが一時停止します。
- 動画撮影中に被写体が近づいたり/遠ざかったり、カメラを上下/左右に動かすと（パンニング）、映像が一瞬伸縮（像倍率変化）して記録されることがあります。

[AF3]

動画サーボAF時のAF速度

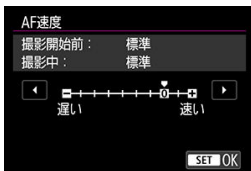
動画サーボAFのAF速度とその作動条件を設定することができます。この機能は「動画撮影時の低速ピント送り」に対応しているレンズ*使用時に機能します。

● 作動条件



設定したAF速度を動画撮影時（撮影開始前、撮影中）に常に有効にするか（**[常時]**）、動画撮影中のみ有効にするか（**[撮影中]**）を設定することができます。

● AF速度



作画意図に合わせてAF速度（ピント送り）を、標準の速さ（0）から遅い方向に7段階（-1~-7）、速い方向に2段階（+1,+2）の調整を行うことができます。

*「動画撮影時の低速ピント送り」対応レンズについて

2009年以降に発売されたUSMレンズ、およびSTMレンズが対応しています。詳しくはキャノンのホームページでご確認ください。

⚠ 注意

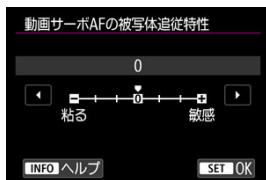
- 使用するレンズによっては、AF速度を調整しても、速度が変わらないことがあります。

参考

- **[AF：動画サーボAF]** が **[する]**、**[AF：AF方式]** が **[スポット1点AF]** **[1点AF]** のときに設定することができます。
- **[AF：AF方式]** が **[スポット1点AF]** **[1点AF]** 以外の場合は、**[AF速度]** を **[標準 (0)]** に設定したときと同じ動作になります。
- 設定内容が、初期状態から変更されているときは、**[AF：動画サーボAF時のAF速度]** の右端に「*」が表示されます。

動画サーボAFの被写体追従特性

動画サーボAF中にパンニングを行ったり、障害物がAFフレームを横切ったときなど、被写体がAFフレームから外れたときの動画サーボAFの応答特性を、7段階で調整することができます。



- **粘る：-3/-2/-1**

被写体がAFフレームから外れたときに、別の被写体に対して敏感に反応しない設定です。マイナスの数値が大きいほど、より敏感に反応しなくなります。パンニングを行ったり、障害物がAFフレームを横切ったときに、意図しない別の被写体に、すぐにピントが移らないようにしたいときに有効です。

- **敏感：+1/+2/+3**

AFフレームで捉えている被写体に機敏に反応する設定です。プラスの数値が大きいほど、より敏感に反応します。動いている（撮影距離が変化する）被写体にピントを合わせ続けたいときや、別の被写体にすぐにピントを合わせたいときに有効です。

参考

- **[AF：動画サーボAF]** が **[する]**、**[AF：AF方式]** が **[スポット1点AF]** **[1点AF]** のときに設定することができます。
- **[AF：AF方式]** が **[スポット1点AF]** **[1点AF]** 以外の場合は、**[0]** に設定したときと同じ動作になります。

AFマイクロアジャストメント

- [全レンズ一律調整](#)
- [レンズごとに調整](#)
- [AFマイクロアジャストメントの一括解除](#)

ファインダー撮影でAFを行ったときの、ピントの合う位置を微調整することができます。調整を行う前に、[AFマイクロアジャストメント全般の注意事項](#)、[AFマイクロアジャストメント共通事項](#)をあわせてお読みください。

注意

- 通常はこの機能でピント合焦位置を調整する必要はありません。必要な場合のみ、調整を行ってください。なお、調整により適切なピントで撮影できなくなる恐れがありますので、十分に注意してください。

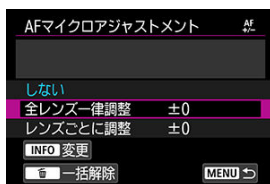
全レンズ一律調整

「調整→撮影→確認」を繰り返して、調整値を手動で設定します。AF撮影のときは、使用するレンズに関わらず、常に調整値分、ピント合焦位置がシフトします。

1. [AF: AFマイクロアジャストメント] を選ぶ



2. [全レンズ一律調整] を選ぶ

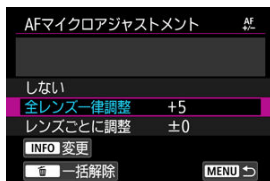


3. <INFO> ボタンを押す

4. 調整する



- 調整値を設定します。調整範囲は±20ステップです。
- 「- : 🗑️」側に設定すると、合焦位置が基準から手前側（前方）に調整されます。
- 「+ : ▲」側に設定すると、合焦位置が基準から奥側（後方）に調整されます。
- 調整が終わったら <SET> を押します。
- [全レンズ一律調整] を選び <SET> を押します。



5. 調整結果を確認する

- 撮影を行い、画像を再生して (🔄)、調整結果を確認します。
- 撮影結果が狙った位置よりも手前にピントが合っているときは「+ : ▲」側、奥側にピントが合っているときは「- : 📷」側に調整します。
- 必要に応じて調整を繰り返します。

⚠ 注意

- [全レンズ一律調整] のときは、ズームレンズの広角側と望遠側で、別々にAF調整を行うことはできません。

レンズごとに調整

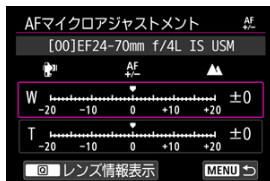
レンズごとに調整を行い、調整結果をカメラに登録することができます。登録できるレンズ本数は最大40本です。登録したレンズを使用してAF撮影を行うと、常に調整値分、ピント合焦位置がシフトします。

「調整→撮影→確認」を繰り返して、調整値を手動で設定します。使用レンズがズームレンズのときは、広角側（W）、望遠側（T）の調整値を設定します。

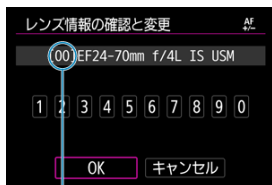
1. [レンズごとに調整] を選ぶ



2. <INFO> ボタンを押す



3. レンズ情報を確認/変更する



(1)

(1)登録番号

レンズ情報表示

- 〈Q〉 ボタンを押します。
- レンズ名と10桁のシリアル番号が表示されます。シリアル番号が表示されているときは、[OK] を選び手順4に進みます。
- レンズのシリアル番号が認識できないときは、「0000000000」と表示されますので、手動で番号を入力します。
- 番号の先頭に表示される「*」については「[レンズのシリアル番号について](#)」を参照してください。

シリアル番号の入力



- 入力する桁を選び 〈SET〉 を押して 〈0〉 の状態にします。
- 数値を入力し 〈SET〉 を押します。
- すべての桁の入力が終わったら [OK] を選びます。

レンズのシリアル番号について

- 手順3で10桁の番号の先頭に「*」が表示されたレンズは、同じ種類のレンズを複数登録することはできません。なお、番号を入力しても「*」の表示は消えません。
- レンズに記載されているシリアル番号と、手順3で表示されるシリアル番号が異なることがあります。故障ではありません。
- レンズのシリアル番号にアルファベットが含まれているときは、アルファベットを除く数字を入力してください。
- レンズのシリアル番号が11桁以上のときは、「下10桁」の番号を入力してください。
- シリアル番号が記載されている位置は、レンズによって異なります。
- レンズによっては、シリアル番号がレンズに記載されていないことがあります。番号の記載がないレンズを登録するときは、任意の番号を入力してください。



参考

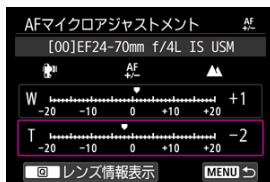
- [レンズごとに調整]を選んだときに、エクステンダーを使用しているときは、「レンズ+エクステンダー」の組み合わせで登録されます。
- すでに40本登録されているときは、メッセージが表示されます。上書き消去するレンズを選ぶと、登録することができます。



4. 調整する

単焦点レンズ



ズームレンズ



- ズームレンズのときは、広角側（W）または望遠側（T）を選びます。〈SET〉を押すと紫色の枠が消え、調整ができるようになります。
- 調整値を設定し〈SET〉を押します。調整範囲は±20ステップです。
- 「- : 」側に設定すると、合焦位置が基準から手前側（前方）に調整されます。
- 「+ : 」側に設定すると、合焦位置が基準から奥側（後方）に調整されます。
- ズームレンズのときは、この手順を繰り返して、広角側（W）、望遠側（T）の調整値をそれぞれ設定します。
- 調整が終わったら、〈MENU〉ボタンを押して手順1の画面に戻ります。



- [レンズごとに調整] を選び (SET) を押します。


5. 調整結果を確認する

- 撮影を行い、画像を再生して (Ⓜ)、調整結果を確認します。
- 撮影結果が狙った位置よりも手前にピントが合っているときは「+ : ▲」側、奥側にピントが合っているときは「- : ▼」側に調整します。
- 必要に応じて調整を繰り返します。

参考

- ズームの中間（焦点距離）位置で撮影を行ったときは、広角側と望遠側の調整結果に基づいて自動的に補正されます。なお、片側だけ調整を行ったときも、中間位置に対して自動補正が行われません。

AFマイクロアジャストメントの一括解除

画面の下に【一括解除】が表示されているときに、ボタンを押すと、[全レンズ一律調整] [レンズごとに調整] で調整した内容をすべて解除することができます。


⚠ 注意

AFマイクロアジャストメント全般の注意事項

- AFによる合焦位置は、被写体条件や明るさ、ズーム位置などの撮影条件により、わずかに変動します。そのため、この機能で調整を行っても、適切な位置でピントが合わないことがあります。
- 1ステップあたりの調整幅は、使用するレンズの開放絞り数値によって異なります。「調整→撮影→確認」を繰り返してピント調整を行ってください。
- 調整した内容は、ライブビュー撮影時、動画撮影時のAFには反映されません。
- 調整結果を確認するときは、ワンショットAFに設定し、[AF: ワンショットAF時のリリース] で [ピント優先] に設定してから、ピント合わせを行ってください。

📖 参考

AFマイクロアジャストメント共通事項

- 実際に撮影する環境下で調整を行うことをおすすめします。より適確なピント調整を行うことができます。
- 調整を行うときは三脚の使用をおすすめします。
- 調整結果を確認するときは、画像サイズ: JPEG、 (ラージ)、JPEG/HEIF画質 (圧縮): 8以上で撮影することをおすすめします。

手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス）

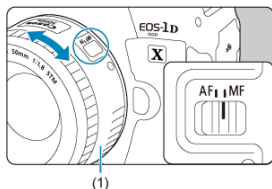
☑ [ファインダー撮影](#)

☑ [ライブビュー撮影](#)

AFでピント合わせができないときは、以下の操作で手動ピント合わせを行うことができます。

ファインダー撮影

1. レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にする



2. ピントを合わせる

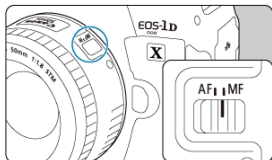
- ファインダー内の被写体がはっきり見えるまで、レンズのフォーカスリング (1) を回します。

参考

- シャッターボタンを半押ししながら手動ピント合わせを行うと、ピントが合ったときに合焦マーク〈●〉が点灯します。
- 自動選択AF時は、中央のAFフレームでピントが合ったときに合焦マーク〈●〉が点灯します。

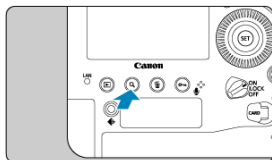
映像を拡大表示して、ピントを合わせることができます。

1. レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にする



- レンズのフォーカスリングを回して、おおまかにピントを合わせておきます。

2. 映像を拡大する







- 〈Q〉ボタンを押すたびに、次のように画面が切り換わります。


→ x5 → x10 → x1 →

3. 拡大位置を移動する



- 〈〉を操作して、ピントを合わせたい位置に移動します。
- 〈〉をまっすぐに押すか、または〈〉 〈〉ボタンを押すと、拡大位置が画面中央に戻ります。

4. 手動でピントを合わせる

- 拡大された映像を見ながら、レンズのフォーカスリングを回してピントを合わせます。
- ピント合わせが終わったら、〈〉ボタンを押して通常表示にします。

参考

- 拡大表示中は露出が固定されます。

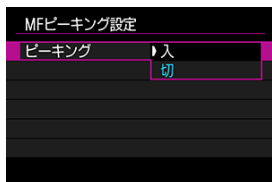
MFピーキング設定（輪郭強調）

ライブビュー撮影時に、ピントが合った被写体の輪郭を色つきの強調表示にすることでピント合わせをやすくすることができます。また、輪郭の検出感度（レベル）や輪郭の色を変えることもできます。

1. [AF: MFピーキング設定] を選ぶ



2. [ピーキング] を選ぶ





- [入] を選びます。

3. レベル、色を設定する



- 必要に応じて設定します。

注意

- 拡大表示中、ピーキング表示は行われません。
- HDMI出力時、HDMI出力先にピーキング表示は行われません。なお、 : **HDMI 接続時の表示** で  を設定しているときは、カメラの画面にはピーキングが表示されます。
- 高ISO感度設定時（特に拡張ISO感度設定時など）は、MFピーキングが分かりにくい場合があります。必要に応じてISO感度を下げるか、**[ピーキング]** を **[切]** に設定してください。

参考

- モニターに表示される輪郭は、撮影画像には記録されません。
- Canon Log設定時は、MFピーキングが分かりにくい場合があります。必要に応じて **[ビューアシスト]** を **[入]** に設定してください。

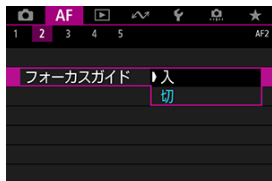
フォーカスガイド

ライブビュー撮影時に、**【フォーカスガイド】**を**【入】**にすると、現在のフォーカス位置から合焦位置への調整方向と調整量が、ガイド枠で視覚的に表示されます。**【AF：AF方式】**が**【+追尾優先AF**、**【AF：瞳AF】**が**【する】**に設定時、被写体の目を検出したときは、ガイド枠が主被写体と判断した顔の目の付近に表示されます。

1. **【AF：フォーカスガイド】**を選ぶ



2. **【入】**を選ぶ



- を操作すると、押した方向にガイド枠を移動することができます。
- 画面にタッチして、ガイド枠を移動することもできます。
- をまっすぐに押すか、または ボタンを押すと、ガイド枠が画面中央に戻ります。

ガイド枠の意味（現在のフォーカス位置、調整量）は以下のとおりです。



注意

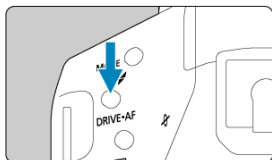
- AFでピントが合いにくい撮影条件 (☑) では、ガイド枠が正しく表示されないことがあります。
- ガイド枠の表示中は、AFフレームは表示されません。
- MP-E65mm F2.8 1-5×マクロフォト使用時に、絞り数値がF8より暗いときや、MP-E65mm F2.8 1-5×マクロフォト以外のレンズ使用時に、絞り数値がF11より暗いときは、「調整情報検出不可」の表示になります。
- 以下のときは、ガイド枠は表示されません。
 - レンズのフォーカスモードスイッチが〈AF〉に設定されているとき
 - 拡大表示時
- TS-Eレンズを使用してシフトやティルトを行っているときは、ガイド枠が正しく表示されません。

参考

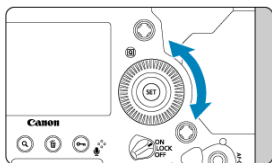
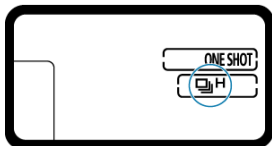
- 電子式フォーカスリングを備えたレンズで、ピント合わせを行っているときは、オートパワーオフまでの時間が延長されます。

ドライブモードの選択

1. 〈DRIVE・AF〉 ボタンを押す (♫6)



2. ドライブモードを選ぶ



- 上面表示パネルまたはファインダー内を見ながら (♫6) を回します。

● [□] 1枚撮影

シャッターボタンを全押しすると、1枚だけ撮影します。

● [H] (H) 高速連続撮影


シャッターボタンを全押しすると、押している間、最高約16コマ/秒 (ライブビュー撮影時は最高約20コマ/秒) の連続撮影を行うことができます (LP-E19/DR-E19+ AC-E19使用時)。

● [H] 連続撮影

シャッターボタンを全押しすると、押している間、最高約10コマ/秒 (ライブビュー撮影時 [H : シャッター方式] を [メカシャッター] に設定したときは最高約8.0コマ/秒) の連続撮影を行うことができます。



● **[] 低速連続撮影**



シャッターボタンを全押しすると、押している間、**最高約3.0コマ/秒**の連続撮影を行うことができます。

● **[] 1枚：ソフト動作**



ファインダー撮影時にミラー動作とシャッターチャージ動作を、通常撮影よりも低速で行うことができます*。シャッターボタンを半押しの位置に戻すまで、内部機構の動作は行われません。


* 作動音は通常撮影とほとんど変わりません。

● **[] () ソフト連続撮影**



ファインダー撮影時にミラー動作とシャッターチャージ動作を () 設定時に比べて) 低速で行うことができます*。**最高約8.0コマ/秒** (ライブビュー撮影時は**最高約10コマ/秒**)。なお、**[：シャッター方式]**を**[メカシャッター]**に設定したときは**最高約8.0コマ/秒**の連続撮影を行うことができます。


* 作動音は通常撮影とほとんど変わりません。

● **[] () ソフト低速連続撮影**

ファインダー撮影時にミラー動作とシャッターチャージ動作を () 設定時に比べて) 低速で行うことができます*。**最高約3.0コマ/秒**の連続撮影を行うことができます。

* 作動音は通常撮影とほとんど変わりません。

● **[] () セルフタイマー：10秒**

[] セルフタイマー：2秒

セルフタイマー撮影については、[セルフタイマー撮影](#)を参照してください。

注意

- 高速連続撮影時の最高連続撮影速度は、バッテリーパック：フル充電、シャッター速度：1/1000秒以上、絞り開放（レンズの種類により異なる*）、常温（+23℃）、フリッカー低減処理：なしの条件で連続撮影を行ったときの最高速度です。
*詳しくはキヤノンのホームページを参照してください。
- 外部ストロボ使用時は、最高連続撮影速度が遅くなります。
- ライブビュー撮影時、およびミラーアップ撮影 [する(SETでミラーダウン)] 設定時に、〈S〉 〈S_Q〉 〈S_{QL}〉 に設定しても、作動音は通常撮影とほとんど変わりません。
- 〈M〉 高速連続撮影時の連続撮影速度は、電源の種類、温度、ISO感度、フリッカー低減処理、シャッター速度、絞り数値、被写体条件、明るさ、レンズの種類、ストロボ使用、撮影機能の設定などの条件により低下することがあります。
- [📷：フリッカーレス撮影] を [する] に設定して (🔗)、フリッカー光源下で撮影を行うと、最高連続撮影速度が遅くなります。また、連続撮影間隔にばらつきが生じたり、シャッターが切れるまでのタイムラグが長くなることがあります。
- AIサーボAF/サーボAF時は、被写体条件や使用レンズにより、最高連続撮影速度が低下することがあります。
- 暗い場所で撮影を行ったときは、最高連続撮影速度が低下することがあります。
- カメラ内部の温度が高くなり、ドライブモードのマークが点滅しているときは、内部機構の損傷を防止するため、最高連続撮影速度が低下します。撮影を継続しカメラ内部の温度がさらに上昇したときは、最高連続撮影速度が大幅に低下したり、内部の温度が下がるまで一時的に撮影できなくなることがあります。ドライブモードのマークが点滅したときは、電源スイッチを〈OFF〉にして、しばらく撮影を休止することをおすすめします。
- 低温下でバッテリー自体の温度が極端に低くなり、ドライブモードのマークが点滅しているときは、最高連続撮影速度が低下します。
- 〈S〉 〈S_Q〉 〈S_{QL}〉 設定時は、シャッターボタンを全押ししてからシャッターが切れるまでのタイムラグが通常よりも長くなります。
- 連続撮影中に内部メモリーがいっぱいになると、一時的に撮影ができなくなるため (🔗)、連続撮影速度が途中から遅くなることがあります。

参考

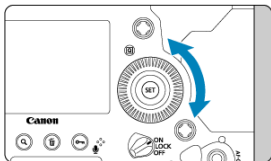
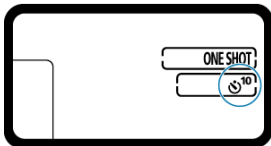
- 各ドライブモードに記載している連続撮影速度は、カメラが初期状態のときの数値です。[📷4：連続撮影速度] で各ドライブモードの連続撮影速度を設定することができます (🔗)。


セルフタイマー撮影

1. 〈DRIVE・AF〉 ボタンを押す (あ6)

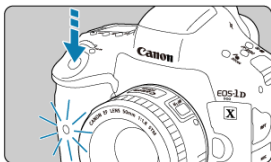


2. セルフタイマーを選ぶ



- 上面表示パネルまたはファインダー内を見ながら〈〉を回します。
 - ⌚¹⁰ : 約10秒後に撮影
 - ⌚₂ : 約2秒後に撮影

3. 撮影する



- ファインダーをのぞいてピントを合わせ、シャッターボタンを全押しします。
- セルフタイマーランプの点滅と、上面表示パネルに表示される秒数の減算表示で作動を確認することができます。
- 撮影の約2秒前にセルフタイマーランプの点滅が速くなります。

⚠ 注意

- ファインダーから目を離してシャッターボタンを押すときは、アイピースシャッターを閉じてから撮影してください (🔒)。ファインダーに光が入ると、適切な露出が得られないことがあります。

📖 参考

- 〈📷 2〉は、三脚を使用した静物撮影や長秒時露光などで、撮影を開始する際、カメラから手を離しておきたいとき（カメラブレ防止）に使用します。
- セルフタイマー撮影した画像は、その場で再生して (🔍)、ピントや露出を確認することをおすすめします。
- 自分一人だけをセルフタイマーで写すときは、自分が入る位置とほぼ同じ距離にあるものにフォーカスロックして撮影します (🔒)。
- [🔊: 電子音] が [入] に設定されていても、セルフタイマー撮影時に電子音は鳴りません。
- セルフタイマー撮影を途中で中止するときは、電源スイッチを〈OFF〉にします。

再生

この章では、撮影した画像（静止画／動画）を再生する方法や、メニュー機能の「▶：再生タブ」に含まれる項目など、再生に関連する内容について説明しています。

⚠ 注意

- 他のカメラで撮影した画像や、このカメラで撮影したあと、パソコンなどで画像を加工したり、ファイル名を変更した画像は、カメラで正常に表示／設定できないことがあります。
- 再生機能に使用できない画像が表示されることがあります。

📖 参考

- 再生時、⏸（一時停止）ボタンを押すと、**【画面の明るさ】** (🔊) を設定することができます。

- [メニュー目次：再生タブ](#)
- [画像の再生](#)
- [画像の拡大表示](#)
- [インデックス表示（複数画像表示）](#)
- [音声メモを記録／再生](#)
- [動画の再生](#)
- [動画の前後部分のカット](#)
- [4K動画からフレーム切り出し](#)
- [テレビで見る](#)
- [画像プロテクト](#)
- [画像回転](#)
- [画像消去](#)
- [印刷指定／DPOF](#)
- [画像コピー](#)
- [HEIF画像をJPEG画像に変換](#)
- [RAW現像](#)
- [JPEG画像のトリミング](#)
- [JPEG画像のリサイズ](#)
- [レーティング](#)
- [スライドショー](#)
- [画像検索の条件設定](#)
- [メイン電子ダイヤルでの画像送り](#)
- [再生する情報の設定](#)

- [ハイライト警告を表示](#)
- [AFフレーム表示](#)
- [再生時のグリッド](#)
- [HDMI HDR出力](#)

メニュー目次：再生タブ

● 再生1



- (1) [画像プロテクト](#)
- (2) [画像回転](#)
- (3) [画像消去](#)
- (4) [印刷指定](#)
- (5) [画像コピー](#)
- (6) [HEIF→JPEG変換](#)

● 再生2



- (1) [RAW現像](#)
- (2) [トリミング](#)
- (3) [リサイズ](#)
- (4) [レーティング](#)
- (5) [スライドショー](#)
- (6) [画像検索の条件設定](#)
- (7) [🌞での画像送り](#)

● 再生3



- (1) [再生情報表示設定](#)
- (2) [ハイライト警告表示](#)
- (3) [AFフレーム表示](#)
- (4) [再生時のグリッド](#)
- (5) [動画再生カウント](#)
- (6) [拡大倍率設定 \(約\)](#)
- (7) [HDMI HDR出力](#)

画像の再生

- ☑ [1枚表示](#)
- ☑ [撮影情報表示](#)
- ☑ [タッチ再生](#)

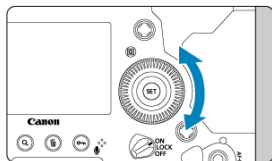
1枚表示

1. 画像を再生する

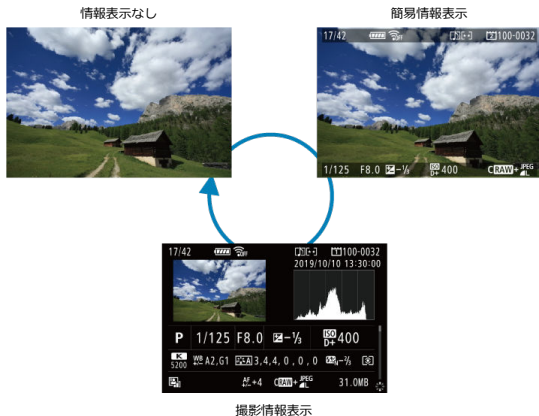


- 〈▶〉 ボタンを押します。
- 最後に撮影した画像、または最後に再生した画像が表示されます。

2. 画像を選ぶ



- 〈○〉を左に回すと、最後に撮影した画像から新しい順に画像が表示されます。右に回すと、古い画像から順に新しい画像が表示されます。
- 〈INFO〉ボタンを押すたびに、表示形式が切り換わります。



注意

- [7: トリミング情報の付加] を [しない(比率3:2)] 以外に設定して (☑) 撮影した画像は、再生したときに撮影範囲を示す線が表示されます。

3. 再生を終了する

- <▶> ボタンを押すと再生が終了し、撮影準備状態に戻ります。

撮影情報表示

撮影情報表示の画面 (📷) が表示されている状態で (🔍) を上下に操作すると、表示される情報が切り換わります。なお、表示する情報は、[▶️: 再生情報表示設定] で任意に設定することができます (📷)。

タッチ再生

カメラのモニターは、タッチ機能を備えています。スマートフォンなどと同じように、指で操作することができます。〈▶〉ボタンを押して画像を再生した状態で操作します。

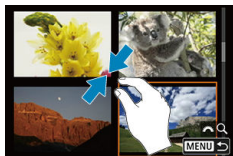
画像送り



ジャンプ表示



インデックス表示



拡大表示



参考

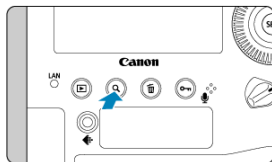
- 画面を指1本で素早く2回触れても（ダブルタップ）拡大表示ができます。

画像の拡大表示

[拡大開始倍率／拡大開始位置を設定する](#)

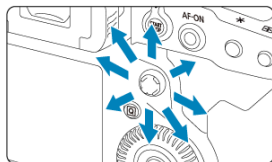
撮影した画像を約1.5倍～10倍に拡大して表示することができます。



1. 画像を拡大する




- ①画像再生中（1枚表示）、②撮影直後の画像表示中、③撮影準備状態から拡大することができます。
- 〈Q〉ボタンを押します。
- 拡大表示になります。画面右下に拡大位置（1）と [🔍Q] が表示されます。
- 〈🔍〉を右に回すたびに拡大します。約10倍まで拡大することができます。
- 〈🔍〉を左に回すたびに縮小します。さらに回していくと、インデックス表示 (🔍) になります (①③のみ)。

2. 表示位置を移動する

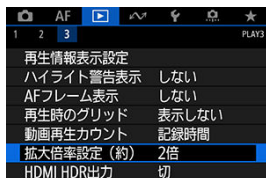


- 〈〉を操作した方向に表示位置が移動します。
- スマートコントローラーで拡大位置を移動することもできます。
- 〈Q〉ボタンまたは〈〉ボタンを押すと、拡大表示が終了します。

参考

- 〈〉を回すと、拡大表示のまま画像が切り換わります (①③のみ)。
- 動画は拡大表示できません。

拡大開始倍率／拡大開始位置を設定する



〔▶〕: **拡大倍率設定 (約)** を選ぶと、拡大表示を開始したときの表示倍率、拡大位置を設定することができます。



- **1倍 (拡大なし)**

拡大表示は行われません。1枚表示の状態から拡大表示が始まります。

- **2倍／4倍／8倍／10倍 (中央から)**

選択した倍率で画面中央から拡大表示が始まります。

- **等倍 (任意選択合焦点から)**

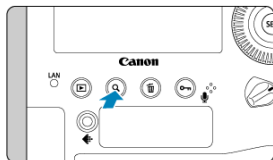
記録画像の画素を約100%で表示します。ピントが合ったAFフレームの位置から拡大表示が始まります。なお、手動ピント合わせで撮影した画像は、画面中央から拡大表示が始まります。


- **前回と同じ倍率 (中央から)**

前回、〈▶〉 〈Q〉 ボタンを押して拡大表示を終了したときと同じ倍率で、画面中央から拡大表示が始まります。

インデックス表示（複数画像表示）



1. 〈Q〉ボタンを押す

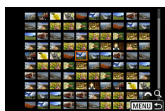
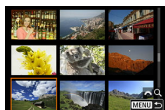


- 画像を再生した状態で〈Q〉ボタンを押します。
- 画面右下に [ Q] が表示されます。

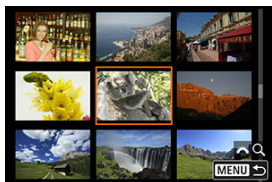
2. インデックス表示にする









- 〈  〉を左に回していきます。
- 4枚表示になります。選択されている画像にオレンジ色の枠が付きます。
- 〈  〉をさらに左に回すと、9枚→36枚→100枚表示になります。右に回すと、100枚→36枚→9枚→4枚→1枚表示になります。



3. 画像を選ぶ



- 〈〉または〈〉を操作してオレンジ色の枠を移動させ、画像を選びます。
- 〈〉ボタンを押して [Q] が表示されていない状態で 〈〉を回すと、1画面分先、または1画面分前の画像が表示されます。
- インデックス表示の状態で 〈〉を押すと、選んだ画像が1枚表示されます。

音声メモを記録／再生

[音声メモを記録](#)


[音声メモを再生](#)

撮影した画像に音声メモを付加する（記録する）ことができます。音声メモは、画像と同じ画像番号で音声ファイル（WAV形式）として記録されます。カメラやパソコンなどで再生することができます。

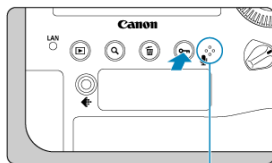
音声メモを記録

1. 画像を再生する

2. 音声メモを付加する画像を選ぶ



-  を回して音声メモを付加する画像を選びます。

3. 音声メモを記録する



(1)



- 〈〉 ボタンを約2秒間押したままにします。
- [音声メモ記録中...] が表示されたら、ボタンを押したまま、音声メモ用マイク (1) に向かって話します。一回に記録できる時間は最大約30秒です。
- 話し終わったら、ボタンから指を離します。
- 画面の上に [] が表示されます。

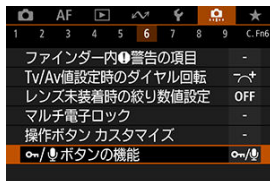
注意

- 動画やプロテクトされている画像に、音声メモを付加することはできません。
- 外部マイクで音声メモを記録することはできません。

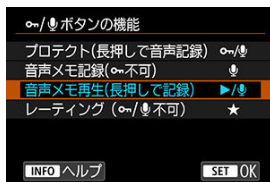
参考

- [設定：音声メモの音質] で記録するときの音質を変更することができます。
- 30秒以上記録するときは、手順2を繰り返します。
- 撮影直後の画像表示中に、手順2の操作で1回だけ音声メモを記録することができます。
- FTPサーバーへの画像転送中も、再生画面から音声メモを画像に付加することができます。ただし、転送中の画像には付加できません。

1. [Fn6 : On/Offボタンの機能] を選ぶ



2. [音声メモ再生(長押しで記録)] を選ぶ

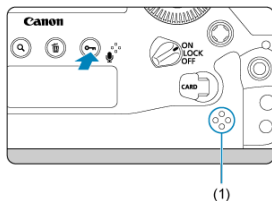


3. 音声メモを再生する画像を選ぶ



- <▶> ボタンを押して画像を再生します。
- <⦿> を回して画面の上に [[J]] が表示されている画像を選びます。

4. 音声メモを再生する



(1) スピーカー

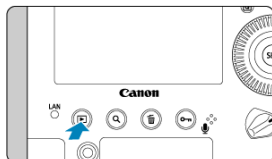
- 〈/🔊〉 ボタンを押すと、音声メモが再生されます。
- 〈〉 を回すと、音量を調整することができます。
- 再生を中止するときは、〈/🔊〉 ボタンを押します。

参考

- 画像に複数の音声メモが付加されているときは、連続して再生されます。
- 画像に付加した音声メモだけを、このカメラで消去することはできません。
- 画像を消去すると ()、その画像に付加されている音声メモも消去されます。

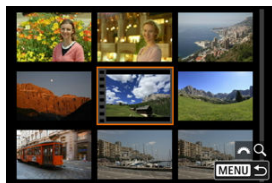
動画の再生

1. 画像を再生する



- 〈▶〉 ボタンを押します。

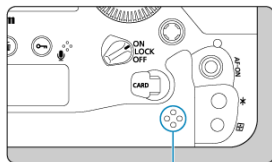
2. 動画を選ぶ



- 〈○〉 を回して再生する動画を選びます。
- 1枚表示のときに、画面左上に 〈SET 1枚表示〉 が表示されている画像が動画です。
- インデックス表示のときは、画面左側に縦帯の付いた画像が動画です。インデックス表示からは再生できませんので、〈SET〉 を押して1枚表示にします。

3. 1枚表示の状態で <▶> をタッチするか、<SET> を押す

4. <SET> を押して動画を再生する


























(1)



(1) スピーカー

- 動画再生が始まります。
- 再生中に <SET> を押すと、再生が一時停止し、動画再生パネルが表示されます。もう一度押すと再開します。
- <🔊> を回すと、再生中でも音量を調整することができます。

動画再生パネル

項目	再生内容
 再生	〈  SET〉を押すたびに再生／一時停止を繰り返します。
 スロー再生	〈  SLOW〉を回すとスロー再生の速さを変えることができます。画面右上に速さの割合が表示されます。
 前スキップ	〈  SET〉を押すたびに約4秒戻します。
 フレーム戻し	〈  SET〉を押すたびに1コマ戻します。〈  SET〉を押し続けると早戻しします。
 フレーム送り	〈  SET〉を押すたびに1コマ送ります。〈  SET〉を押し続けると早送りします。
 次スキップ	〈  SET〉を押すたびに約4秒送ります。
 編集	編集画面を表示します ( EDIT)。
 フレーム切り出し	4K動画再生時に選択することができます。画面に表示しているフレームを切り出して、静止画 (JPEG画像) として保存することができます ( CROP)。
	再生位置
mm' ss"	再生時間 (mm' : 分、ss" : 秒) / [動画再生カウント : 記録時間] 設定時
hh:mm:ss.ff (DF) hh:mm:ss.ff (NDF)	タイムコード (hh : 時、mm : 分、ss : 秒、ff : フレーム) / [動画再生カウント : タイムコード] 設定時
 音量	〈  VOLUME〉を回すと、内蔵スピーカー ( SPEAKER) またはヘッドフォンの音量を調整することができます。
 MENU	〈MENU〉ボタンを押すと1枚表示に戻ります。

ⓘ 注意

- カメラをテレビに接続して動画を再生するときは (TV)、テレビ側で音量の調整を行ってください (〈VOLUME〉を回しても音量は変わりません)。
- カードの読み取り速度が遅いとき、動画ファイル内のフレームが壊れているときは、動画再生が終了することがあります。
- カメラ内部の温度が高いときは、動画再生ができないことがあります。また、動画再生中にカメラ内部の温度が上昇したときは、動画再生が終了することがあります。

動画の前後部分のカット

撮影した動画の前後部分を約1秒単位で削除することができます。

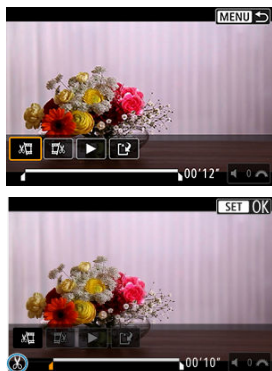
1. 1枚表示の状態でも(SET)を押す



2. 動画再生パネルで[✂]を選ぶ



3. 削除する範囲を指定する



- [X] (前部を削除) か、[X] (後部を削除) を選びます。
- <⏮> を左右に押すとフレームが送られます。押したままにすると早送りになります。<⏪> を回すと1フレームずつ送られます。
- 削除する範囲が決まったら、<SET> を押します。画面下部に線で表示された範囲が残ります。

4. 編集内容を確認する



- [▶] を選ぶと、編集した動画が再生されます。
- 削除する範囲を変更するときは、手順3の操作を行います。
- 編集を中止するときは、<MENU> ボタンを押します。

5. 保存する



(1)

- [] (1) を選びます。
- 保存画面が表示されます。
- 別のファイルとして保存するときは **【新規保存】**、編集前の動画を残さないときは **【上書き保存】** を選びます。
- 確認画面で **【OK】** を選ぶと、編集した動画が保存され、再生画面に戻ります。

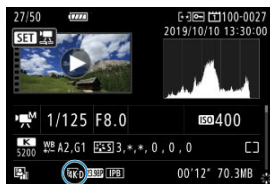
⚠ 注意

- 約1秒単位（画面下部に [✂] が表示される位置）で削除されるため、実際にカットされる位置が指定した位置と異なることがあります。
- RAW動画、他のカメラで撮影した動画はこのカメラで編集できません。
- カメラとパソコンを接続しているときは編集できません。

4K動画からフレーム切り出し

4K動画から任意のフレームを選び、静止画（JPEG画像）として保存することができます。この機能を「フレーム切り出し（4Kフレームキャプチャー）」と言います。

1. 4K動画を選ぶ



- 〈〉を回して4K画質で撮影した動画を選びます。
- 撮影情報表示の画面（）で「4K-D」「4K-P」「4K-U」と表示されている画像が4K動画です。
- インデックス表示のときは、〈〉を押して1枚表示にします。

2. 1枚表示の状態ですべてのフレームを選び

- 動画再生パネルが表示されます。

3. 切り出すフレームを選ぶ



- 動画再生パネルを操作して、静止画として切り出したいフレームを選びます。
- 動画再生パネルの操作方法は、[動画再生パネル](#)を参照してください。

4. [切り出し] を選ぶ



5. 保存する



- [OK] を選ぶと、画面に表示されているフレームが静止画 (JPEG画像) として保存されます。
- 保存先のフォルダと画像番号を確認します。

6. 表示する画像を選ぶ

- [元の動画] または [切り出した静止画] を選びます。

注意

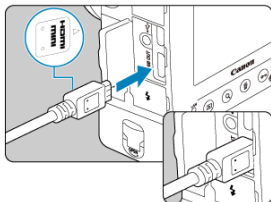
- 下記の4K動画からは、フレームを切り出すことはできません。
 - RAW動画
 - [📷: Canon Log設定] を [入] に設定して撮影した動画
 - 他のカメラで撮影した動画
- カメラとパソコンを接続しているときはフレーム切り出しできません。

テレビで見る

カメラとテレビをHDMIケーブルで接続して、撮影した静止画や動画をテレビで見ることができます。HDMIケーブルは、別売のHTC-100の使用をおすすめします。

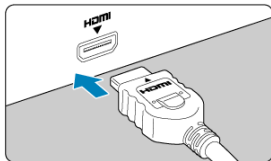
なお、テレビに映像が表示されないときは、[📺：ビデオ方式]の[NTSC][PAL]の設定を確認してください（テレビが対応している方式に合わせてください）。

1. HDMIケーブルをカメラに接続する



- プラグの〈▲ HDMI MINI〉がカメラの前面に向くようにして、〈HDMI OUT〉端子に差し込みます。

2. テレビにHDMIケーブルを接続する

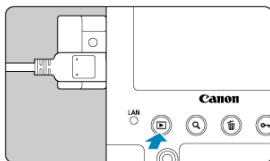


- HDMIケーブルを、テレビのHDMI入力端子に接続します。

3. テレビの電源を入れ、テレビの入力切り換えて接続した端子を選ぶ

4. カメラの電源スイッチを〈ON〉にする

5. <▶> ボタンを押す



- 画像がテレビに表示されます (カメラのモニターには何も表示されません)。
- 接続したテレビに合わせて、自動的に最適な解像度で画像が表示されます。

⚠ 注意

- 動画再生時の音量はテレビ側で調整します。カメラ側から音量の調整はできません。
- ケーブルの取り付け/取り外しを行うときは、カメラとテレビの電源を切った状態で行ってください。
- 使用するテレビにより、表示内容の一部が欠けて表示されることがあります。
- 他の機器からの出力をカメラの<HDMI OUT>端子に入力しないでください。故障の原因になります。
- テレビとの相性により、映像が表示されないことがあります。
- 映像が再生されるまでに時間がかかることがあります。この現象が気になるときは、[🔧 : HDMI出力解像度]を[1080p]に設定してください (🔗)。
- カメラとテレビを接続したときは、画面にタッチして操作することはできません。

画像プロテクト

- [〈Om/🎤〉ボタンで1枚ずつプロテクト](#)
- [メニューから1枚ずつプロテクト](#)
- [範囲を指定してプロテクト](#)
- [フォルダ内/カード内全画像プロテクト](#)

大切な画像を誤って消去しないように、プロテクト（保護）することができます。

⚠ 注意

- カードを初期化すると (🗑)、プロテクトされた画像も消去されます。

📖 参考

- プロテクトした画像は、カメラの消去機能で消去できません。画像を消去するときは、プロテクトを解除してください。
- 必要な画像をプロテクトしてから全画像消去 (🗑) を行うと、プロテクトした画像以外はすべて消去されます。不要な画像を一度にまとめて消去するときに便利です。

〈Om/🎤〉ボタンで1枚ずつプロテクト

1. プロテクトする画像を選ぶ

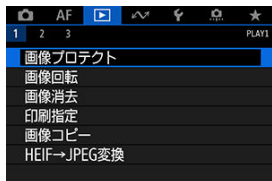
- 〈○〉を回してプロテクトする画像を選びます。

2. プロテクトする



- 〈Om/📷〉 ボタンを押すと、画像がプロテクトされ、画面の上に〈🔒〉 (1) が表示されます。
- もう一度 〈Om/📷〉 ボタンを押すと、プロテクトが解除され〈🔒〉が消えます。
- 他にプロテクトしたい画像があるときは、手順 1、2を繰り返します。

1. [] : 画像プロテクト] を選ぶ



2. [画像を選択] を選ぶ



3. プロテクトする画像を選ぶ

- ◀▶ を回してプロテクトする画像を選びます。

4. プロテクトする



- 〈SET〉を押すと画像がプロテクトされ、画面の上に〈(1)〉が表示されます。
- もう一度〈SET〉を押すと、プロテクトが解除され〈(1)〉が消えます。
- 他にプロテクトしたい画像があるときは、手順3、4を繰り返します。

範囲を指定してプロテクト

インデックス表示された画像を見ながら、プロテクトする範囲（始点／終点）を指定して、まとめてプロテクトすることができます。

1. 【範囲指定】を選ぶ



2. 範囲を指定する



- 始めの画像（始点）を選びます。
- 続けて終わりの画像（終点）を選びます。指定した範囲の画像がプロテクトされ、が表示されます。
- 他にプロテクトしたい画像があるときは、手順2を繰り返します。

フォルダ内／カード内全画像プロテクト

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめてプロテクトすることができます。



- [▶: 画像プロテクト] で [フォルダ内・全画像] または [カード内・全画像] を選ぶと、その中のすべての画像がプロテクトされます。
- 解除するときは [フォルダ内・全解除] または [カード内・全解除] を選びます。
- [▶: 画像検索の条件設定] で検索条件が設定されているときは (🔍)、表示される内容が [検索結果・全画像] [検索結果・全解除] に変わります。



- [検索結果・全画像] を選ぶと、検索条件で絞り込まれたすべての画像がプロテクトされます。
- [検索結果・全解除] を選ぶと、絞り込まれた画像のプロテクトがすべて解除されます。

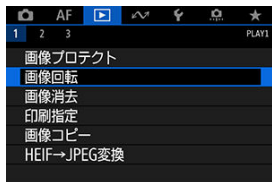
📖 参考

- [カード内・全画像] [カード内・全解除] を選んだときに画像がプロテクト／解除されるカードは、[👉: 記録機能とカード・フォルダ選択] の [📷記録・再生] [🔍記録・再生] または [📷再生] [🔍再生] で選択しているカードです。

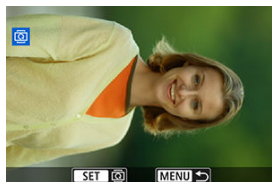
画像回転

画像が表示される向きを変えたいときは、この方法で回転させることができます。

1. [] : 画像回転] を選ぶ

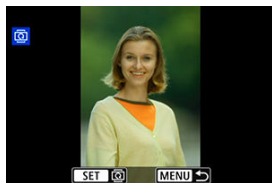



2. 回転させる画像を選ぶ



- 〈〉を回して画像を選びます。

3. 回転させる



- 〈〉を押すたびに、時計方向に回転（90°→270°→0°）します。
- 他に回転したい画像があるときは、手順2、3を繰り返します。

参考

- [📷: 縦位置画像回転表示] を [する📷📺] (🔒) に設定して撮影すると、この機能で画像を回転させる必要がなくなります。
- 回転した画像が再生時に回転した向きで表示されないときは、[📷: 縦位置画像回転表示] を [する📷📺] に設定します。
- 動画は回転できません。

画像消去




- [1枚ずつ消去](#)
- [チェック \[✓\] を付けてまとめて消去](#)
- [範囲を指定して消去](#)
- [フォルダ内/カード内全画像消去](#)

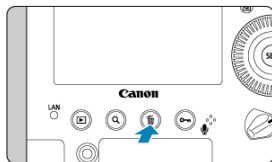
不要な画像を1枚ずつ選んで消去したり、まとめて消去することができます。なお、プロテクト (🔒) をかけた画像は消去されません。

⚠ 注意

- 消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。また、大切な画像は、誤って消去しないようプロテクトをかけてください。

1枚ずつ消去

1.  ボタンを押します。
2. 消去する画像を選ぶ
 -  を回して消去する画像を選びます。
3.  ボタンを押す



4. 消去する

JPEG画像／HEIF画像／RAW画像／動画



- 「消去」を選びます。

RAW+JPEG画像／RAW+HEIF画像

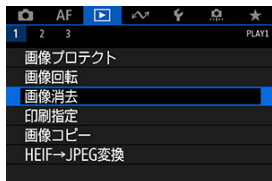


- 項目を選びます。

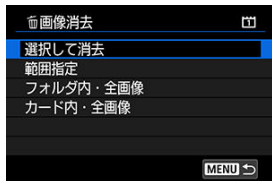
チェック [✓] を付けてまとめて消去

消去したい画像にチェックを付けて、まとめて消去することができます。

1. [] : 画像消去] を選ぶ



2. [選択して消去] を選ぶ

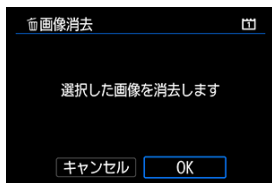



3. 画像を選ぶ



- 〈〉を回して消去する画像を選び、〈〉を押します。
- 他に消去したい画像があるときは、手順3を繰り返します。

4. 消去する

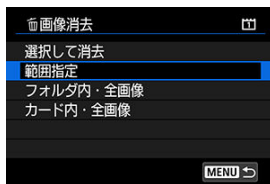


- 〈〉 ボタンを押して [OK] を選びます。

範囲を指定して消去

インデックス表示された画像を見ながら、消去する範囲（始点／終点）を指定して、まとめて消去することができます。

1. 【範囲指定】を選ぶ



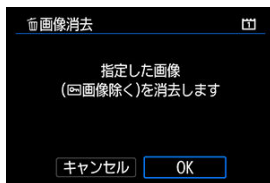
2. 範囲を指定する



- 始めの画像（始点）を選びます。
- 続けて終わりの画像（終点）を選びます。
- 他に消去したい画像があるときは、手順2を繰り返します。

3. 〈〉ボタンを押す

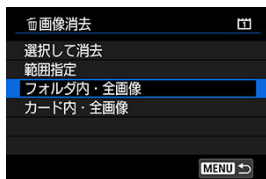
4. 消去する



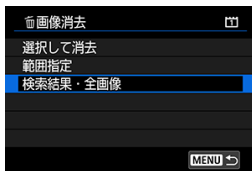
- [OK] を選びます。

フォルダ内／カード内全画像消去

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめて消去することができます。



- [▶: 画像消去] で [フォルダ内・全画像] または [カード内・全画像] を選ぶと、その中のすべての画像が消去されます。
- [▶: 画像検索の条件設定] で検索条件が設定されているときは (🔍)、表示される内容が [検索結果・全画像] に変わります。



- [検索結果・全画像] を選ぶと、検索条件で絞り込まれたすべての画像が消去されます。

📄 参考

- プロテクトがかけられた画像を含め、すべての画像を消去したいときは、カード初期化を行います (🗑️)。
- [カード内・全画像] を選んだときに画像が消去されるカードは、[🔊: 記録機能とカード・フォルダ選択] の [📷記録・再生] [🔊記録・再生] または [📷再生] [🔊再生] で選択しているカードです。

印刷指定／DPOF

☑ [印刷内容の設定](#)

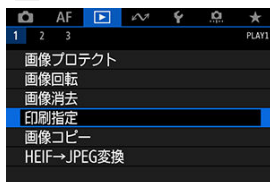
☑ [印刷する画像の指定](#)

カードに記録されている画像の中から、印刷したい画像と印刷枚数などを指定することができるDPOF (Digital Print Order Format) 機能に対応しています。複数の画像を一度に印刷したいときや、写真店に印刷注文する際に使います。

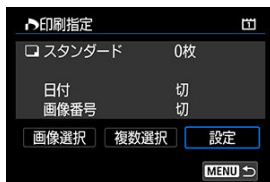
印刷タイプや日付、画像番号の入／切といった印刷内容の設定を行います。この設定は、印刷指定したすべての画像に対して、一律に適用されます（1画像ごとに別々の設定はできません）。

印刷内容の設定

1. [] : 印刷指定] を選ぶ






2. [設定] を選ぶ

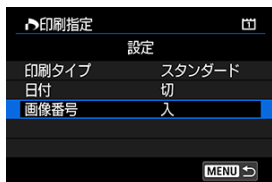


3. 項目の内容を設定する

- [印刷タイプ] [日付] [画像番号] の内容を設定します。

印刷タイプ		スタンダード	用紙1枚に1画像を印刷します。
		インデックス	用紙1枚に縮小画像を複数印刷します。
		両方	スタンダードとインデックスの両方を印刷します。
日付	入	[入] にすると、撮影画像に記録されている日付情報を入れて印刷します。	
	切		
画像番号	入	[入] にすると、画像番号を付けて印刷します。	
	切		

4. 設定を終了する

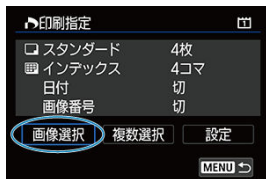


- 〈MENU〉 ボタンを押します。
- 次に印刷指定画面の [画像選択] [複数選択] で、印刷する画像を指定します。

ⓘ 注意

- 画像サイズが大きい画像を [インデックス] [両方] の設定で印刷すると (☑)、プリンターにより、インデックス印刷が行われないことがあります。そのときは、画像をリサイズしてから (☑) インデックス印刷を行ってください。
- [日付] [画像番号] を [入] にしても、印刷タイプの設定やプリンターにより、印刷されないことがあります。
- [インデックス] に設定したときは、[日付] と [画像番号] を同時に [入] にできません。
- 印刷するときは、印刷指定を行ったカードを使用してください。画像データだけをカードから抜き出して印刷すると、指定した内容で印刷できません。
- DPOFに対応したプリンターの機種や、写真店の機器により、指定内容が反映されないことがあります。プリンターの場合は、プリンターの使用説明書を参照してください。写真店の場合は、事前にお店に確認してください。
- 他のカメラで印刷指定した画像を、このカメラに入れて再度印刷指定しないでください。印刷指定されている内容が、意図せずすべて書き換えられることがあります。また、画像の種類により、印刷指定できないことがあります。

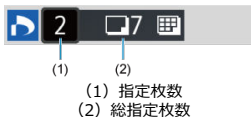
画像選択



画像を1枚ずつ選んで指定します。

〈MENU〉ボタンを押すと、指定した内容がカードに保存されます。

● スタンダード／両方



〈SET〉を押すと、表示されている画像が1枚印刷指定されます。続けて〈◀〉を回すと、枚数を最大99枚に設定することができます。

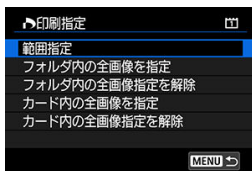
● インデックス



〈SET〉を押して [✓] を付けた画像が、インデックス印刷用の画像として指定されます。

複数選択

● 範囲指定



【複数選択】の【範囲指定】を選びます。始めの画像（始点）と終わりの画像（終点）を選べると、始点から終点までの範囲の画像に【✓】が表示され、1画像1枚で印刷指定されます。

● フォルダ内の全画像

【フォルダ内の全画像を指定】を選び、フォルダを選択すると、フォルダ内のすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。

【フォルダ内の全画像指定を解除】を選び、フォルダを選択すると、フォルダ内の印刷指定がすべて解除されます。

● カード内の全画像

【カード内の全画像を指定】を選べると、カードに記録されているすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。

【カード内の全画像指定を解除】を選べると、カード内の印刷指定がすべて解除されます。

【▶】：画像検索の条件設定で検索条件が設定されているときは（☑）、【複数選択】を選んだときに、表示される内容が【検索結果の全画像を指定】【検索結果の全画像の指定解除】に変わります。

● 検索結果の全画像

【検索結果の全画像を指定】を選べると、検索条件で絞り込まれたすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。

【検索結果の全画像の指定解除】を選べると、絞り込まれた画像の印刷指定がすべて解除されます。

⚠ 注意

- RAW画像と動画は印刷指定できません。また、【複数選択】でまとめて印刷指定を行っても、RAW画像と動画は指定されません。
- PictBridgeに対応したプリンターで印刷するときは、一度に印刷指定する画像を400画像以下にしてください。それ以上指定すると、すべての画像を印刷できないことがあります。

画像コピー

[1枚ずつコピー](#)

[範囲を指定してコピー](#)

[フォルダ内/カード内全画像コピー](#)

カードに記録されている画像を、もう一方のカードにコピー（複製保存）することができます。

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめてコピーすることもできます。

注意

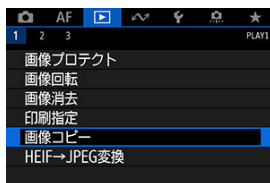
- コピー先のフォルダ/カードに、同じ画像番号の画像が記録されているときは、**[スキップしてコピー]** **[上書きコピー]** **[コピー中止]** が表示されます。コピー方法を選んで **(Ⓢ)** を押します。
 - **[スキップしてコピー]**：画像番号が重複する画像だけコピーされません。
 - **[上書きコピー]**：画像番号が重複する画像は、コピー画像に書き換えられます（プロテクト画像を含む）。
- なお、印刷指定 **(☑)** されている画像に対して上書きコピーを行ったときは、再度印刷指定を行ってください。
- 印刷指定情報、画像転送情報はコピーされません。
 - コピー実行中は撮影できません。**[キャンセル]** を選んでから撮影してください。

参考

- コピー元は、**[📷：記録機能とカード・フォルダ選択]** の **[📷記録・再生]** **[🔊記録・再生]** または **[📷再生]** **[🔊再生]** で選択しているカードです。
- オリジナルの画像と同じファイル名でコピーされます。
- **[画像選択]** のときに、複数フォルダ内の画像を同時にコピーすることはできません。フォルダごとに画像を選んでコピーしてください。
- 音声メモが付加されている画像は、音声メモもコピーされます。

1枚ずつコピー

1. [] : 画像コピー] を選ぶ



2. [画像選択] を選ぶ



- コピー元のカード番号、コピー先のカード番号と空き容量を確認します。
- [画像選択] を選び、〈SET〉を押します。

3. フォルダを選ぶ



- (1) フォルダ内画像数
- (2) 最小番号画像
- (3) フォルダ名
- (4) 最大番号画像

- コピーしたい画像が入っているフォルダを選び、**<SET>**を押します。
- 画面右側に表示される画像を参考にして、フォルダを選びます。

4. コピーする画像を選ぶ



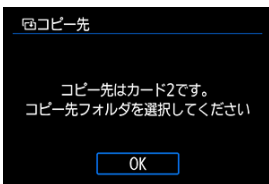
- (1) 総指定枚数

- **<DISP>**を回してコピーする画像を選び、**<SET>**を押します。
- 他にコピーしたい画像があるときは、手順4を繰り返します。

5. 〈On/Ⓜ〉ボタンを押す

- 画像を選び終わったら、〈On/Ⓜ〉ボタンを押します。

6. [OK] を選ぶ



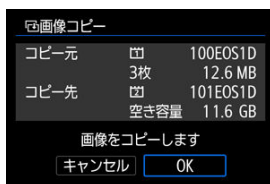
- コピー先のカードを確認して [OK] を選びます。

7. コピー先のフォルダを選ぶ

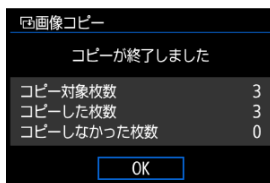


- 画像をコピー保存するフォルダを選び、〈SET〉を押します。
- [フォルダ作成] を選ぶと、新しいフォルダを作成することができます。

8. [OK] を選ぶ



- コピー元とコピー先の情報を確認して [OK] を選びます。

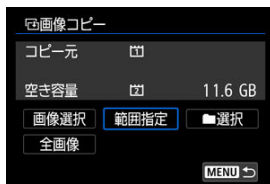


- コピーが終了すると、結果が表示されます。[OK] を選ぶと手順2の画面に戻ります。

範囲を指定してコピー

インデックス表示された画像を見ながら、コピーする画像の範囲（始点／終点）を指定して、まとめてコピーすることができます。

1. 【範囲指定】を選ぶ



2. フォルダを選ぶ



- コピーしたい画像が入っているフォルダを選び、〈SET〉を押します。
- 画面右側に表示される画像を参考にして、フォルダを選びます。



3. 範囲を指定する



- 最初の画像（始点）を選びます。
- 続けて終わりの画像（終点）を選びます。始点から終点までの範囲の画像に [✓] が表示されます。
- 他にコピーしたい画像があるときは、手順3を繰り返します。

フォルダ内/カード内全画像コピー

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめてコピーすることができます。

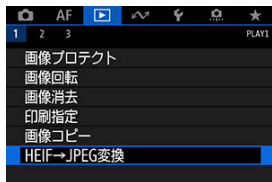
[]: 画像コピー] の [ 選択] または [全画像] を選ぶと、その中のすべての画像がコピーされます。



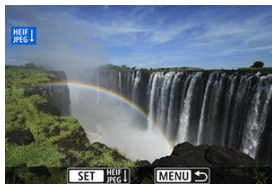
HEIF画像をJPEG画像に変換

HDR設定で撮影したHEIF画像を、JPEG画像に変換して保存することができます。
なお、JPEG画像への変換の際は、HEIF画像をHDR対応ディスプレイで表示したときと印象が近づくように変換されます。

1. [] : HEIF→JPEG変換] を選ぶ



2. 画像を選ぶ



- < () を回してJPEGに変換するHEIF画像を選びます。
- < (SET) を押すと、JPEGに変換処理されます。

3. 保存する



- [OK] を選ぶと、JPEG画像が保存されます。
 - 保存先のフォルダと画像番号を確認して [OK] を選びます。
 - 他に交換したい画像があるときは、手順2、3を繰り返します。

参考

- シーンによっては、元画像と交換した画像を比べたときに、印象が異なることがあります。

RAW現像

[拡大表示](#)

[現像処理の項目](#)

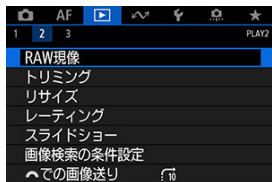
RAWまたは**CRAW**で撮影した画像をカメラで現像して、JPEG画像やHEIF画像を作ることができます。RAW画像はそのままなので、条件を変えて現像したJPEG画像やHEIF画像を作ることができます。

RAW画像はEOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで現像処理を行うこともできます。

注意

- 多重露出、拡張ISO感度（L、H）、電子シャッターで撮影した**RAW**、**CRAW**はHEIFに現像できません。

1. [] : RAW現像] を選ぶ

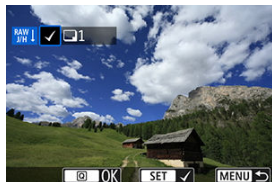


2. 項目を選び、画像を選択する



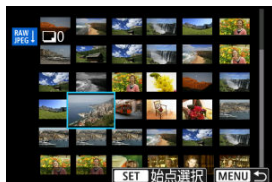
- RAW現像を行う画像をまとめて選択（指定）することができます。

画像を選択



- $\langle \text{OK} \rangle$ を回して現像する画像を選び、 $\langle \text{SET} \rangle$ を押します。
- $\langle \text{Q} \rangle$ ボタンを押します。

範囲指定



- 始めの画像（始点）を選びます。
- 続けて終わりの画像（終点）を選びます。
- $\langle \text{Q} \rangle$ ボタンを押します。
- 他に現像したい画像があるときは、この手順を繰り返します。

3. 現像条件を設定する

撮影時の設定で現像

- 撮影を行ったときの画像設定の条件で現像されます。
- HDR撮影したRAW画像はHEIFに、HDR撮影ではないRAW画像はJPEGに現像されます。

細かく設定してJPEGに現像／細かく設定してHEIFに現像



- 〈〉で項目を選びます。
- 〈〉 〈〉を回すと、設定が切り換わります。
- 〈〉を押すと、機能の設定画面が表示されます。
- 〈〉ボタンを押すと、撮影時の設定に戻ります。

比較画面について

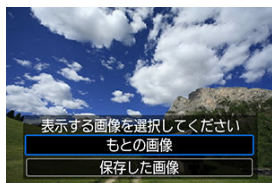
- 〈〉ボタンを押して 〈〉を回すと、[変更後] と [撮影時設定] を切り換えることができます。
- [変更後] のときは、撮影時の設定から変更した項目がオレンジ色で表示されます。
- 〈〉ボタンを押します。

4. 保存する



- [細かく設定してJPEGに現像] [細かく設定してHEIFに現像] のときは [保存] (保存) を選びます。
- 内容を確認し、[OK] を選びます。
- 他に現像したい画像があるときは [はい] を選び、手順2~4を繰り返します。

5. 表示する画像を選ぶ



- [もとの画像] または [保存した画像] を選びます。


拡大表示

【細かく設定してJPEGに現像】【細かく設定してHEIFに現像】を選んだあと、表示された画面で〈Q〉ボタンを押すと、画像を拡大することができます。拡大率は、【記録画質】の設定により異なります。〈⌕〉で拡大表示位置を変えることができます。もう一度〈Q〉ボタンを押すと、拡大表示が終了します。


⚠ 注意

- 【デジタルレンズオブティマイザ】を【強め】に設定して現像を行ったときの効果は、拡大表示時のみ反映されます。通常表示には反映されません。


現像処理の項目

-  ±0 明るさ補正

1/3段ステップ±1段の範囲で明るさを補正することができます。

-  ホワイトバランス (🔗)

ホワイトバランスを選ぶことができます。[AWB] を選んだときは、[オート(雰囲気優先)] [オート(ホワイト優先)] を選ぶことができます。[K] を選んだときは、色温度を設定することができます。

-  ピクチャースタイル (🔗)

ピクチャースタイルを選ぶことができます。シャープネス、コントラストなどの調整を行うことができます。

* [細かく設定してHEIFに現像] 設定時は [A] [1] [2] [3] は選択できません。

-  ±0 明瞭度 (🔗)

明瞭度を、-4~+4の範囲で変更することができます。

* [細かく設定してHEIFに現像] 設定時は選択できません。

-  オートライティング最適マイザ (🔗)

オートライティング最適マイザの内容を設定することができます。


* [細かく設定してHEIFに現像] 設定時は選択できません。

-  高感度撮影時のノイズ低減 (🔗)

ノイズ低減処理の内容を設定することができます。効果が分かりにくいときは、拡大表示 (🔗) で確認してください。

-  記録画質 (🔗)

JPEG画像是生成する際の記録画質(画像サイズ、JPEG画質)を設定することができます。()を上下に操作すると、画像サイズとJPEG画質の項目を選ぶことができます。HEIF画像是生成する際は、HEIF画質のみ設定することができます。

-  sRGB 色空間 (🔗)

sRGBとAdobe RGBが選択できます。カメラのモニターはAdobe RGBに対応していないため、どちらを選んでも画像の見えかたはほとんど変わりません。

* [細かく設定してHEIFに現像] 設定時は [HDR PQ] が表示されますが、選択はできません。

● 設定 レンズ光学補正

● OFF 周辺光量補正 (🔍)

レンズの特性によって画像の四隅が暗くなる現象を補正することができます。[する]を選ぶと補正された画像が表示されます。効果が分かりにくいときは、拡大表示 (🔍) で画面の四隅を確認してください。なお、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional (🔍) で最大補正を行ったときよりも、控えめに補正されます。補正効果が確認できないときは、Digital Photo Professionalで周辺光量補正を行ってください。

● OFF 歪曲収差補正

レンズの特性によって起こる画像の「ゆがみ」を補正することができます。[する]を選ぶと補正された画像が表示されます。なお、画像処理の都合上、画像の周辺部がカットされます。

解像感が少し低下することがあるため、必要に応じてピクチャースタイルのシャープネスで調整してください。

● OFF デジタルレンズオプティマイザ

レンズの収差、回折現象、ローパスフィルターに起因した解像劣化を、光学設計値を利用して補正することができます。[強め] [標準] 設定時の効果は拡大表示 (🔍) で確認してください。[強め] 設定時に画像全体を表示しているときは、デジタルレンズオプティマイザの効果は反映されません。なお、[強め] [標準] を選んだときは、色収差補正、回折補正の項目は表示されませんが、ともに [する] で現像されます。

● OFF 色収差補正 (🔍)

レンズの特性によって起こる色収差 (被写体の輪郭部分に現れる色ズレ) を補正することができます。[する]を選ぶと補正された画像が表示されます。効果が分かりにくいときは、拡大表示 (🔍) で確認してください。

● OFF 回折補正

レンズの絞りの影響によって画像の鮮鋭さが低下する現象を補正することができます。[する]を選ぶと補正された画像が表示されます。効果が分かりにくいときは、拡大表示 (🔍) で確認してください。

ⓘ 注意

- カメラで行うRAW現像の結果と、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで行うRAW現像の結果は、完全に同じにはなりません。
- [明るさ補正] を行ったときは、補正効果とともにノイズや縞などが強調されることがあります。
- [デジタルレンズオブティマイザ] 設定時は、補正効果とともにノイズが強調されることがあります。
- [デジタルレンズオブティマイザ] 設定時は、撮影条件により画像に輪郭強調が強くなる場合があります。必要に応じてピクチャースタイルのシャープネスの調整を行ってください。
- [デジタルレンズオブティマイザ] を [強め] に設定しているときは、現像に時間がかかります。
- [歪曲収差補正] を [する] に設定して現像を行ったときは、ダストデリートデータ (👤) は画像に付加されません。

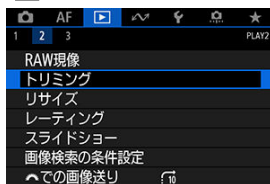
📖 参考

- レンズ光学補正に対応しているレンズの補正用データは、カメラに登録（保存）されています。
- レンズ光学補正の効果は、使用レンズや撮影条件などにより異なります。また、使用レンズや撮影条件などにより、効果が分かりにくい場合があります。
- デジタルレンズオブティマイザ用の補正データについては、[デジタルレンズオブティマイザ](#)を参照してください。
- RAW動画の現像はできません。EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで現像処理を行ってください。

JPEG画像のトリミング

撮影したJPEG画像を部分的に切り抜いて、別画像として保存することができます。トリミングは、JPEGで撮影した画像で行うことができます。HEIF、RAWで撮影した画像や、4K動画からフレーム切り出しした画像は、トリミングできません。

1. []: トリミング] を選ぶ







2. 画像を選ぶ



- < [] > を回してトリミングする画像を選びます。
- < [SET] > を押すと、トリミング枠が表示されます。


3. トリミング枠の設定を行う



- 枠で囲まれた範囲が切り抜かれます。
- **枠の大きさを変える**
〈〉を回すと、枠の大きさが変わります。枠を小さくするほど拡大してトリミングされます。
- **枠のアスペクト比と縦横を変える**
〈〉を回すと、枠のアスペクト比と縦横が変わります。
- **枠を移動する**
〈〉を操作すると、枠が上下左右に移動します。
- **傾きを補正する**
±10°の範囲で傾きを補正することができます。〈INFO〉ボタンを押します。画面に表示されるグリッドで傾きを確認しながら、〈〉を回すか（0.1°単位）、画面左上に表示された左右の矢印にタッチして（0.5°単位）、傾きを補正します。補正が終わったら〈SET〉を押します。

4. トリミング範囲を確認する



- 〈〉ボタンを押します。トリミングされる範囲が表示されます。

5. 保存する



- $\langle \text{SET} \rangle$ を押して [OK] を選ぶと、トリミングされた画像が保存されます。
- 保存先のフォルダと画像番号を確認して [OK] を選びます。
- 他にトリミングしたい画像があるときは、手順2~5を繰り返します。

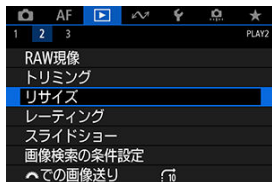
⚠ 注意

- 傾き補正の角度によっては、トリミング枠の位置や大きさが変わることがあります。
- トリミング保存した画像を再度トリミングしたり、リサイズすることはできません。
- トリミングを行った画像には、AFフレーム表示用の情報 (AF) 、ダストデリートデータ (DD) は付加されません。
- 選択できるアスペクト比は、[▶] : トリミング] と [点7 : トリミング情報の付加] で異なります。

JPEG画像のリサイズ

撮影したJPEG画像の画素数を少なくして、別画像として保存することができます。リサイズは、JPEGのL/M1/M2で撮影した画像で行うことができます。JPEGのS、HEIF、RAWで撮影した画像や、4K動画からフレーム切り出しした画像は、リサイズできません。

1. [] : リサイズ] を選ぶ



2. 画像を選ぶ



- 〈 〉 を回してリサイズする画像を選びます。

3. 画像サイズを選ぶ



- 〈SET〉を押すと、画像サイズが表示されます。
- リサイズする画像サイズ (1) を選びます。

4. 保存する



- [OK] を選ぶと、リサイズされた画像が保存されます。
- 保存先のフォルダと画像番号を確認して [OK] を選びます。
- 他にリサイズしたい画像があるときは、手順2~4を繰り返します。

レーティング

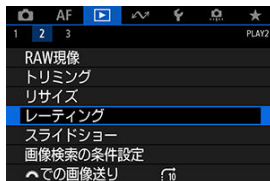
- [1枚ずつレーティング](#)
- [範囲を指定してレーティング](#)
- [フォルダ内/カード内全画像レーティング](#)

撮影した画像に、5種類のお気に入りマーク ([+]/[+]/[+]/[+]/[+]) を付加することができます。この機能を「レーティング」といいます。

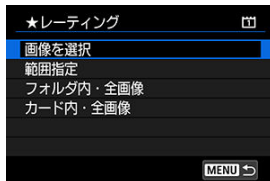
* レーティングは「評価」や「等級」などの意味です。

1枚ずつレーティング

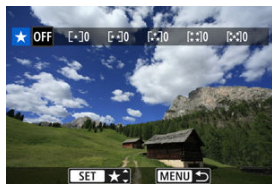
1. []:レーティング] を選ぶ



2. [画像を選択] を選ぶ



3. レーティングする画像を選ぶ



- 〈○〉を回してレーティングする画像を選びます。

4. レーティングを設定する



- 〈SET〉を押すと、図の位置に青い枠が表示されます。
- 〈○〉を回してお気に入りマークを選び、〈SET〉を押します。
- お気に入りマークを付けると、そのマークの横にある数値がカウントされます。
- 他にレーティングを行いたい画像があるときは、手順3、4を繰り返します。

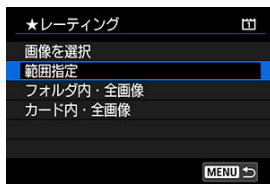
参考

- 画像再生時に 〈ON/🔊〉ボタンでレーティングを行うことができます (🔗)。

範囲を指定してレーティング

インデックス表示された画像を見ながら、レーティングする範囲（始点／終点）を指定して、まとめてレーティングすることができます。

1. 「範囲指定」を選ぶ



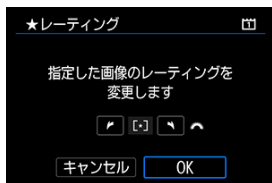
2. 範囲を指定する




- 始めの画像（始点）を選びます。
- 続けて終わりの画像（終点）を選びます。
始点から終点までの範囲の画像に [✓] が表示されます。

3. 〈Q〉ボタンを押す

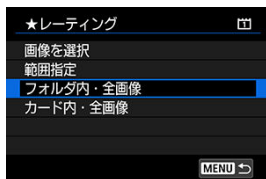
4. レーティングを設定する



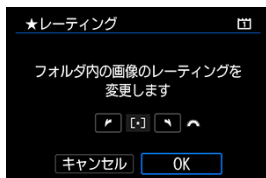
-  お気に入りマークを選び、[OK] を選びます。
指定した範囲の画像に対して、まとめて（同一の）レーティングが行われます。

フォルダ内/カード内全画像レーティング

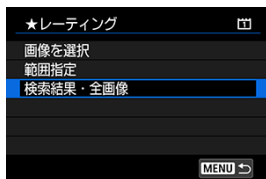
フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめてレーティングすることができます。



- [] : レーティング] で [フォルダ内・全画像] または [カード内・全画像] を選ぶと、その中のすべての画像がレーティングされます。






- () でレーティングを選び、[OK] を選びます。
- レーティングを行わないときや、解除するときは [OFF] を選びます。
- [] : 画像検索の条件設定] で検索条件が設定されているときは ()、表示される内容が [検索結果・全画像] に変わります。



- [検索結果・全画像] を選ぶと、検索条件で絞り込まれたすべての画像が、指定した内容でレーティングされます。

 参考

- お気に入りマークの横に表示される数値が1000（枚）を超えると「###」と表示されます。
- ：画像検索の条件設定 ：での画像送りで、特定のお気に入りマークを付けた画像だけを表示することができます。

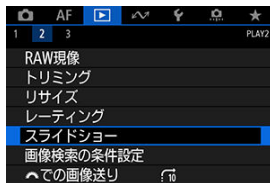
スライドショー

カードに記録されている画像を自動で連続再生することができます。

1. 再生する画像を指定する

- カード内の全画像を再生するときは、手順2に進みます。
- スライドショーで再生する画像を指定したいときは、[▶: 画像検索の条件設定] で絞り込みます (🔍)。

2. [▶: スライドショー] を選ぶ

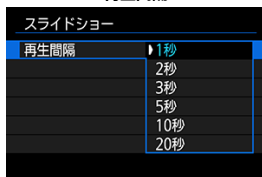


3. 再生内容を設定する

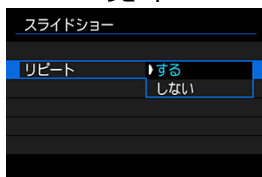


- [設定] を選びます。
- 静止画の [再生間隔] と [リピート] (繰り返し再生) を設定します。
- 設定が終わったら、〈MENU〉ボタンを押します。

再生間隔



リピート



4. スライドショーを開始する



- [スタート] を選びます。
- [画像読み込み中...] が表示されたあと、スライドショーが始まります。

5. スライドショーを終了する

- 〈MENU〉 ボタンを押すと、スライドショーが終了し、設定画面に戻ります。

参考

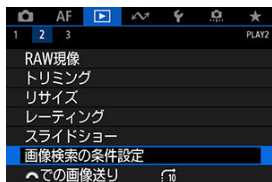
- 一時停止したいときは〈SET〉を押します。一時停止中は画面左上に [] が表示されます。再度〈SET〉を押すと再開します。
- 静止画を自動再生しているときに〈INFO〉ボタンを押すと、表示形式を切り換えることができます ()。
- 動画再生中に〈) を回すと、音量を調整することができます。
- 自動再生中、または一時停止中に〈) を回すと、画像が切り換わります。
- 自動再生中にオートパワーオフは機能しません。
- 画像により表示時間が異なることがあります。

画像検索の条件設定

[検索条件の解除](#)

再生する画像を条件で絞り込むことができます。検索条件を設定して画像を再生すると、条件に該当する画像だけが表示されます。なお、画像の絞り込みを行った状態で、プロテクト、レーティング、スライドショー、消去などを行うこともできます。



1. [▶] : 画像検索の条件設定] を選ぶ



2. 検索条件を設定する

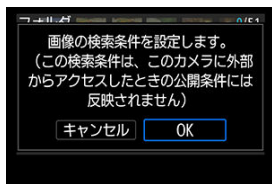


(1)

- 〈〉を回して項目を選びます。
- 〈〉を回して内容を設定します。
- 項目の左端に〔✓〕(1) が付きます (検索条件として指定されます)。
- 項目を選び 〈INFO〉 ボタンを押すと、〔✓〕が消えます (指定が解除されます)。

項目	内容
★ レーティング	選択した (レーティング) 条件の画像を表示します。
☑ 日付	選択した撮影日の画像を表示します。
■ フォルダ	選択したフォルダ内にある画像を表示します。
🔒 プロテクト	選択した (プロテクト) 条件の画像を表示します。
📁 ファイルの種類1	選択した種類の画像ファイルを表示します。
📁 ファイルの種類2	選択した種類の画像ファイルを表示します。

3. 検索条件を確定する



- 〈SET〉を押して、表示されるメッセージを確認します。
- [OK] を選びます。
検索条件が設定されます。

4. 検索した画像を表示する



(2)

- <▶> ボタンを押します。
検索条件に該当する（絞り込まれた）画像だけが再生されます。
絞り込まれた状態で画像が表示されているときは、画面の外側に黄色い枠 (2) が付きます。

⚠ 注意

- 設定した検索条件に該当する画像がないときは、手順3で <SET> は押せません。

📖 参考

- 電源やカード、画像編集、画像の追加や削除などに関連した操作を行うと、検索条件の設定が解除されることがあります。
- [▶ : 画像検索の条件設定] の画面を表示しているときは、オートパワーオフまでの時間が延長されることがあります。

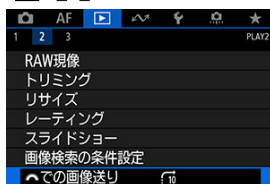
検索条件の解除

手順2の画面で <⏏> ボタンを押すと、すべての検索条件が解除されます。

メイン電子ダイヤルでの画像送り

1枚表示のときに(🔍)を回すと、指定した方法で前後に画像を飛ばして表示(ジャンプ表示)することができます。

1. [🔍: 🔍での画像送り]を選ぶ



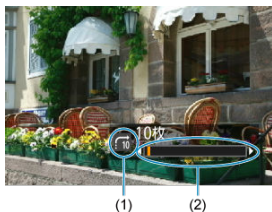
2. ジャンプ方法を選ぶ



📖 参考

- [指定した枚数ごとに画像を表示]を選んだときは、(🔍)でジャンプする枚数を設定します。
- [指定したレーティングの画像を表示]を選んだときは、(🔍)でレーティング(🔍)を指定します。★を選んだときは、画像送りを行うと、レーティングが設定されているすべての画像が表示されます。

3. 画像送りをする



- (1) ジャンプ方法
- (2) 再生位置

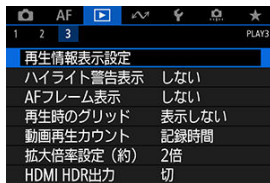
- 〈▶〉 ボタンを押します。
- 1枚表示の状態で 〈🌀〉 を回します。
設定した方法でジャンプ表示が行われます。

再生する情報の設定

[ヒストグラム](#)

画像の再生時に表示する画面と、表示する内容（情報）を任意に設定することができます。

1. : 再生情報表示設定] を選ぶ

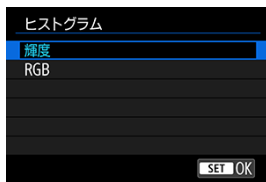


2. 表示する画面の番号に [✓] を付ける



- 〈〉で番号を選びます。
- 〈〉を押すと [✓] が付きます。
- この手順を繰り返して、表示する画面の番号に [✓] を付け、[OK] を選びます。
- 画像を再生して、〈**INFO**〉ボタンを押したり、撮影情報表示画面で〈〉を操作したときに、設定した内容が表示されます。

ヒストグラム



ヒストグラムは、各階調の信号量を表示するものです。露出レベルの傾向と全体の階調を確認できる輝度表示と、色の飽和と階調を確認できるRGB表示があります。[]: 再生情報表示設定] の画面の左下に [**INFO**] が表示されているときに、〈**INFO**〉ボタンを押すと、表示するヒストグラムを切り換えることができます。

● 【輝度】表示

このヒストグラムは、横軸に明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、画像の輝度分布を表しています。画面の中の「暗い成分」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るい成分」ほどグラフの右寄りに積み上げられて表示されます。横軸の左端に積み上げられた成分は黒くつぶれ、右端に積み上げられた成分は白くとびます（ハイライト）。その他の成分は階調が再現されます。再生画像とそのヒストグラムを見ることで、露出レベルの傾向と全体の階調を確認することができます。

ヒストグラム例



暗い成分が多い



普通の明るさ



明るい成分が多い

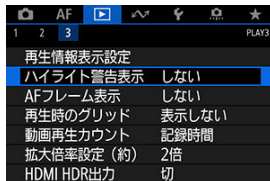
● 【RGB】表示

このヒストグラムは、横軸に色の明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に色の明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、R（赤）／G（緑）／B（青）別に色の輝度分布を表しています。画面の中の「暗く薄い色」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るく濃い色」ほどグラフの右寄りに積み上げられます。横軸の左端に積み上げられた成分は色の情報がなく、右端に積み上げられた色は飽和して階調がありません。RGBのヒストグラムを見ることで、色の飽和と階調の状態や、ホワイトバランスの傾向を確認することができます。

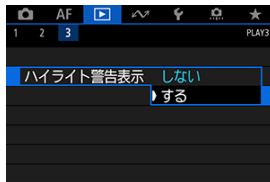
ハイライト警告を表示

再生画面に、露出オーバーで白とびした部分を点滅表示することができます。階調を再現させたい部分が点滅しているときは、露出をマイナス補正して、もう一度撮影すると良い結果が得られます。

1. []: ハイライト警告表示] を選ぶ



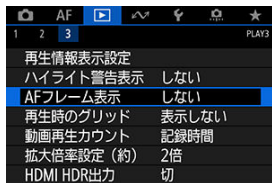
2. [する] を選ぶ



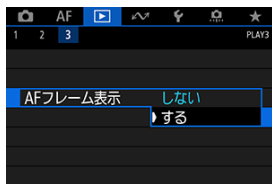
AFフレーム表示

再生画面に、ピント合わせを行ったAFフレームを赤い枠で表示することができます。なお、AFフレーム自動選択のときは、AFフレームが複数表示されることがあります。

1. [▶ : AFフレーム表示] を選ぶ



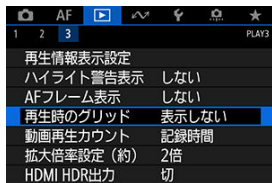
2. [する] を選ぶ



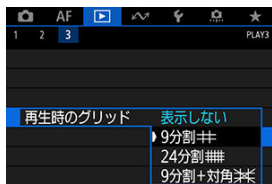
再生時のグリッド

静止画を1枚表示するときに、再生画像に重ねてグリッド（格子線）を表示することができます。撮影画像の水平／垂直の傾きや、構図を確認するときに便利です。

1. [再生時のグリッド] を選ぶ



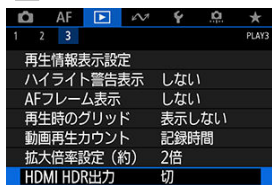
2. 項目を選ぶ



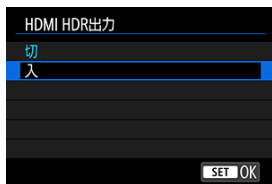
HDMI HDR出力

HDR対応テレビにカメラをつないで、RAW画像やHEIF画像をHDR表示で見ることができます。

1. [] : HDMI HDR出力] を選ぶ



2. [入] を選ぶ



注意

- [HDR PQ設定] を [しない] に設定して撮影したRAW画像は、HDMI出力時にHDR表示は行われません。

参考

- HDR対応テレビの設定が、HDR入力になっていることを確認してください。お使いになるテレビの入力の切り換え方法は、テレビの使用説明書を参照してください。
- お使いのテレビによっては、思いどおりの効果で表示されないことがあります。
- HDRテレビに表示しているときは、一部の情報が表示されないことがあります。
- HDMI HDR出力された映像を見ながらRAW現像を行うときは、画像を再生した状態で、クイック設定でRAW現像を行うことをおすすめします。

この章では、通信機能を使用して、カメラとスマートフォンやパソコンなどとWi-Fiまたは有線LANで接続して、画像の送信やカメラの操作などを行う方法について説明しています。

❗ 注意

必ずお読みください

- このカメラを使用するために、誤ったネットワークの設定を行った結果生じた損害に対して、弊社では補償できませんので、あらかじめご了承ください。また、このカメラを使用した結果生じた損害に対しても、弊社では補償できませんので、併せてご了承ください。
ネットワークを使用する際には、お客様の責任と判断で必要なセキュリティーを設定してご使用ください。不正侵入等によって生じた損害に対して、弊社では補償できませんので、あらかじめご了承ください。
- 本機は電気通信事業者の通信回線に直接接続することができません。本機をインターネットに接続する場合は、必ずルーター等を経由し接続してください。

- [メニュー目次：通信機能タブ](#)
- [通信機能でできること](#)
- [Camera Connectでスマートフォンと通信](#)
- [EOS UtilityでパソコンとWi-Fi接続](#)
- [通信機能の基本設定](#)
- [FTPサーバーへの画像転送](#)
- [EOS Utilityでリモート操作](#)
- [Browser Remoteでカメラ操作](#)
- [接続の終了と再接続](#)
- [ネットワーク設定の確認と操作](#)
- [カメラ間時刻同期](#)
- [GPS機能](#)
- [資料](#)
- [トラブルシューティング](#)
- [通信の設定初期化](#)

メニュー目次：通信機能タブ



- (1) [ネットワーク設定](#)
- (2) [Bluetooth設定](#)
- (3) [ニックネーム](#)
- (4) [GPSの設定](#)
- (5) [画像転送](#)
- (6) [通信の設定初期化](#)

⚠ 注意

- インターフェースケーブルでカメラとパソコンなどを接続しているときは、Wi-Fi接続はできません。
- Wi-Fi接続中は、カメラとパソコンなどを、インターフェースケーブルで接続して使用することはできません。
- カメラの電源を〈OFF〉にしたときや、カードスロットカバーを開けたときは、ネットワークとの接続を終了します。
- ネットワークに接続中は、カメラのオートパワーオフ機能は動きません。

通信機能でできること

Smartphone (📱)

スマートフォンやタブレット（以降は「スマートフォン」と記載）にインストールした専用アプリケーションCamera Connectを使用して、カメラ内の画像の閲覧やリモート撮影などを行うことができます。なお、カメラとBluetooth low energy technology（以降は「Bluetooth」と記載）対応スマートフォンをBluetooth接続しておく、スマートフォンのみの操作によりWi-Fi接続を行うことができます。

EOS Utility

パソコンにインストールしたEOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使用して、カメラ内の画像の取り込みやリモート撮影などを行うことができます。

- WPS（PBC方式）に対応したアクセスポイントを利用してカメラとパソコンを無線LAN接続する方法については、[EOS UtilityでパソコンとWi-Fi接続](#)を参照してください。
- それ以外の方法でカメラとパソコンを無線または有線LAN接続する方法については、[通信機能の基本設定](#)以降を参照してください。

FTP転送 (📁)

撮影した画像をFTPサーバーに転送することができます。
撮影時に自動転送できるほか、撮影後に画像を選択して転送することもできます。

Browser Remote (📱)

Webのホームページにアクセスする感覚で、パソコンやスマートフォンなどのWebブラウザからカメラに接続し、本格的なリモート撮影や、カメラ内の画像の閲覧、FTP転送関連の設定を行うことができます。

カメラ間時刻同期 (📱)

複数のEOS-1D X Mark IIIを有線LANで接続して、カメラの時刻を同期させることができます。

ワイヤレスファイルトランスミッター

別売のワイヤレスファイルトランスミッターWFT-E9を取り付けて、無線LAN機能を使用することができます。詳しくはWFT-E9の使用説明書を参照してください。
なお、WFT-E9の無線LANでは、Camera Connectによるスマートフォンとの通信はできません。

GPS (📱)

内蔵のGPS機能を使用して、位置情報を画像に付加したり、移動ルートを記録したりすることができます。

通信機能で利用できる機能と接続方法（GPS以外）

利用できる機能	接続方法		
	有線LAN	Wi-Fi (カメラ内蔵)	無線LAN (ワイヤレスファイル トランスミッター WFT-E9)
Camera Connectでスマートフォンと通信		○	
EOS Utilityの使用	○	○	○
FTPサーバーへの画像転送	○	○	○
Browser Remoteの使用	○		○
カメラ間時刻同期	○		○

Camera Connectでスマートフォンと通信

- [Bluetooth対応スマートフォンとWi-Fi接続する](#)
- [Camera Connectの機能](#)
- [ペアリングの解除](#)
- [Bluetooth機能を使用せずWi-Fi接続する](#)
- [撮影画像の自動送信](#)
- [カメラからスマートフォンへ画像を送信](#)
- [スマートフォンに公開する画像の設定](#)
- [『Camera Connectでスマートフォンと通信』全般の注意事項](#)

スマートフォンやタブレット（以降は「スマートフォン」と記載）にインストールした専用アプリケーション「Camera Connect（カメラコネクト）」を使って、カメラとスマートフォンをBluetooth接続またはWi-Fi接続することができます。

Bluetooth接続でできること

- スマートフォンのみの操作でWi-Fi接続することができます。
- スマートフォンをリモコンにして、静止画または動画を撮影することができます。

Wi-Fi接続でできること

- スマートフォンでカメラ内の画像を閲覧したり、カメラ内の画像をスマートフォンに保存することができます。
- スマートフォンでカメラをリモート操作することができます。
- カメラを操作してスマートフォンへ画像を送信することができます。
- AndroidまたはiOSがインストールされたスマートフォンに、専用アプリケーションのCamera Connect（無料）をインストールします。Camera Connectは、Google Play またはApp Storeからインストールすることができます。

注意

- スマートフォンのOSは、最新のバージョンを使用してください。

参考

- Google PlayまたはApp Storeは、スマートフォンとのペアリング時に表示されるQRコードからもアクセスできます。
- Camera Connectが対応しているOSのバージョンについては、Camera Connectのダウンロードサイトでご確認ください。
- カメラのファームウェアアップデートやCamera Connect、Android、iOSなどのバージョンアップにより、本ガイドの記載と実際の画面例などが異なることがあります。

Bluetooth対応スマートフォンとWi-Fi接続する

ここではカメラとBluetooth対応スマートフォンをWi-Fi接続して、Camera Connectでカメラを操作する方法について説明します。

注意

- カメラが他の機器とWi-Fi接続しているときや、WFTを使用して無線LANに接続しているときは、カメラとスマートフォンをBluetooth接続することはできません。
[ネットワーク設定]で[接続設定]を選び、[通信切]を選んで、Wi-Fi接続または無線LANとの接続を終了させてください。

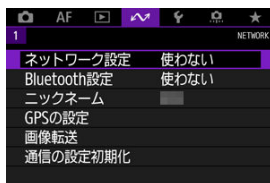
スマートフォン側の操作-1

スマートフォンの設定画面で、Bluetooth機能とWi-Fi機能をONにしておきます。なお、スマートフォンのBluetooth機能設定画面では、カメラとのペアリングはできません。

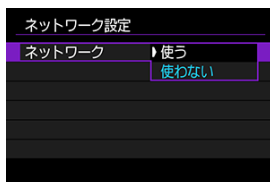
カメラ側の操作-1

1. カメラの〈MENU〉ボタンを押す

2. [📶: ネットワーク設定] を選ぶ



3. [使う] を選ぶ



4. [Bluetooth設定] を選ぶ



5. [Bluetooth] を [使う] に設定する



6. [ペアリング] を選ぶ



7. 項目を選ぶ

- Camera Connectをインストール済みのときは、[表示しない] を選びます。
- Camera Connectがインストールされていないときは、[Android] または [iOS] を選んで表示されるQRコードをスマートフォンで読み取り、Google PlayまたはApp StoreにアクセスしてCamera Connectをインストールします。



スマートフォン側の操作-2

8. Camera Connectを起動する



9. ペアリングするカメラをタッチする



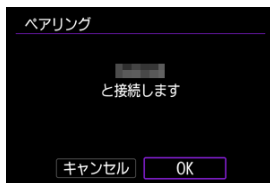
- Androidの場合は手順11に進みます。

10. [ペアリング] をタッチする (iOSのみ)

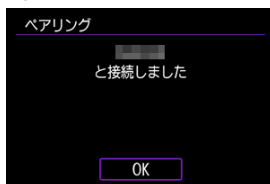


カメラ側の操作-2

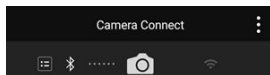
11. [OK] を選ぶ



12. <SET> を押す



- ペアリングが完了して、スマートフォンとBluetooth接続されます。
- Camera Connectのトップ画面にBluetooth接続中の図が表示されず。



⚠ 注意

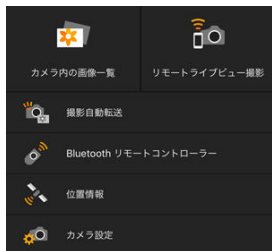
- Bluetooth接続中は、カメラのオートパワーオフ中もバッテリーを消耗するため、カメラを使用するときにバッテリーの残量が少なくなっていることがあります。
- カメラとペアリング可能なスマートフォンは1台です。ペアリングするスマートフォンを変更するときは、ペアリング中のスマートフォンの登録を解除してください (🗑)。
- スマートフォン側に、前回ペアリングしたときのカメラの登録が残っていると、ペアリングすることができません。スマートフォンのBluetooth設定画面で、前回ペアリングしたカメラの登録を解除してから、ペアリングをやり直してください。

 参考

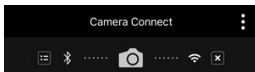
- Bluetooth接続中は、Camera Connectの「Bluetoothリモートコントローラー」にタッチすると、スマートフォンをリモコンにして、カメラの操作を行うことができます。
- Androidでは、カメラを操作してスマートフォンへ画像を送信できます (📷)。

スマートフォン側の操作-3

13. Camera Connectの機能をタッチする



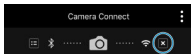
- iOSの場合は、カメラへの接続を確認する画面が表示されたら【接続】をタッチします。
- Wi-Fi接続が完了すると、スマートフォンには選んだ機能の画面が表示されます。
- Camera Connectのトップ画面に戻ると、BluetoothおよびWi-Fi接続中の図が表示されます。



- カメラの〈LAN〉ランプが緑色に点灯します。

Wi-Fi接続を終了する

- Camera Connectの画面で【x】をタッチしてください。



- Wi-Fi接続が終了すると、Bluetooth接続に切り換わります。

再接続する

- 再度Wi-Fi接続するときには、Camera Connectを起動して、使用したい機能をタッチします。

カメラ内の画像一覧

- 画像の閲覧、削除、レーティングを行うことができます。
- スマートフォンに画像を保存することができます。

リモートライブビュー撮影

- スマートフォンでライブビュー映像を見ながらリモート撮影することができます。

撮影自動転送

- 撮影画像の自動送信時 (📧) のカメラやアプリケーションの設定を変更することができます。

Bluetoothリモートコントローラー

- Bluetooth接続中のスマートフォンをリモコンにして、カメラの操作を行うことができます。なお、Wi-Fi接続中は使用できません。
- Bluetoothリモートコントローラーの使用中は、カメラのオートパワーオフ機能は働きません。

位置情報

- このカメラでは使用できません。

カメラ設定

- カメラの設定を変更することができます。

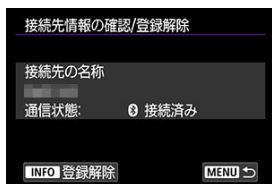
ペアリングの解除

カメラとスマートフォンのペアリングを解除するときは、次の手順で行います。

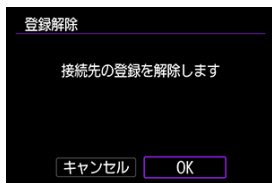
1. [接続先情報の確認/登録解除] を選ぶ



2. <INFO> ボタンを押す



3. [OK] を選ぶ



4. スマートフォン側の登録を解除する

- スマートフォンのBluetooth設定画面で、カメラの登録を解除します。

 参考

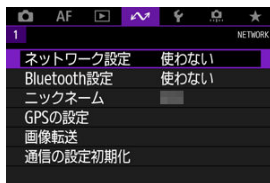
- [Bluetoothアドレス] を選ぶと、カメラのBluetoothアドレスを確認できます。

Bluetooth機能を使用せずWi-Fi接続する

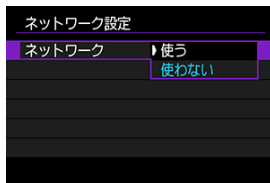
ここではカメラとスマートフォンを直接Wi-Fi接続して、Camera Connectでカメラを操作する方法について説明します。

カメラ側の操作-1

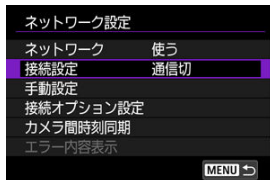
1. カメラの〈MENU〉ボタンを押す
2. [W: ネットワーク設定] を選ぶ



3. [使う] を選ぶ



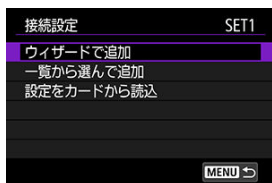
4. [接続設定] を選ぶ



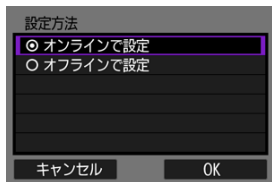
5. [SET* 未設定] を選ぶ



6. [ウィザードで追加] を選ぶ



7. [オンラインで設定] を選ぶ



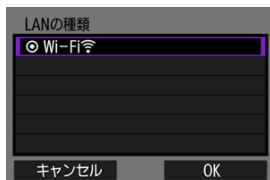
- [OK] を選びます

8. [Smartphone] を選ぶ



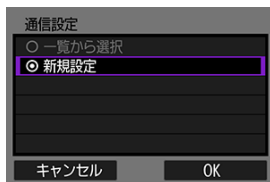
- [OK] を選びます

9. <SET> を押す



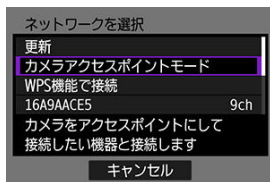
- [OK] を選びます

10. [新規設定] を選ぶ

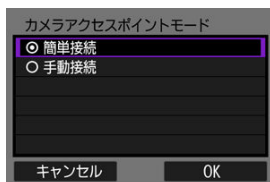


- [OK] を選びます

11. [カメラアクセスポイントモード] を選ぶ

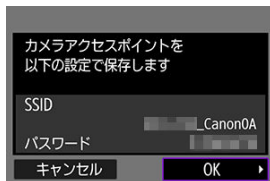


12. [簡単接続] を選ぶ



- [OK] を選びます

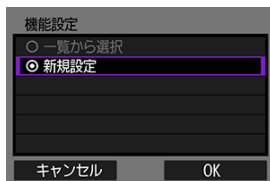
13. [OK] を選ぶ



14. を押す



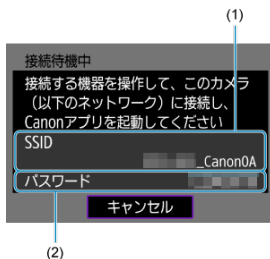
15. [新規設定] を選ぶ



- [OK] を選びます

16. SSID (ネットワーク名) とパスワードを確認する

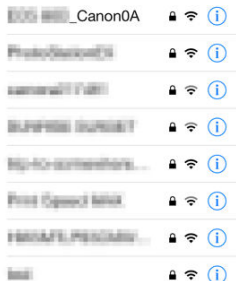
- カメラのモニターに表示されるSSID (1) とパスワード (2) を確認します。



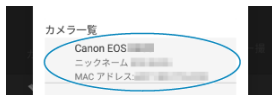
スマートフォン側の操作

17. スマートフォンを操作してWi-Fi接続する

- スマートフォンのWi-Fi機能をONにして、手順16で確認したSSID（ネットワーク名）をタッチします。
- パスワード欄には、手順16で確認したパスワードを入力して、**[接続]**をタッチします。

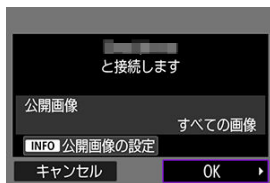


18. Camera Connectを起動してWi-Fi接続するカメラをタッチする



カメラ側の操作-2

19. [OK] を選ぶ



- 公開する画像を設定するときは、〈INFO〉ボタンを押します。公開する画像の条件については[スマートフォンに公開する画像の設定](#)を参照してください。

20. 〈SET〉を押す



21. を押す



- スマートフォンに、Camera Connectのメイン画面が表示されます。
- カメラの〈LAN〉ランプが緑色に点灯します。
これでスマートフォンとのWi-Fi接続は完了です。



- Camera Connectを使用してカメラを操作します (🔗)。
- Wi-Fi接続中に、再生時のクイック設定画面からスマートフォンに画像を送信できます (🔗)。

Wi-Fi接続を終了する (🔗)

再接続する (🔗)

撮影画像の自動送信

撮影しながらスマートフォンに画像を自動送信することができます。あらかじめ、カメラとスマートフォンをWi-Fi接続しておきます。

1. [ネットワーク設定] を選ぶ



2. [接続オプション設定] を選ぶ

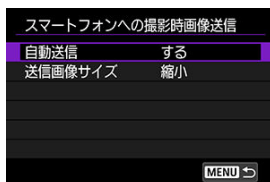


3. [Smartphoneの設定] を選ぶ



4. [自動送信] で [する] を選ぶ

- 必要に応じて、[送信画像サイズ] を設定します。



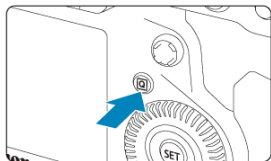
カメラからスマートフォンへ画像を送信

カメラとスマートフォンがBluetooth接続（Androidのみ）またはWi-Fi接続された状態で、カメラを操作してスマートフォンへ画像を送信することができます。

1. 画像を再生する



2. <Q>を押す



3. [スマートフォンへ画像を送信]を選ぶ







- Bluetooth接続中にこの操作を行ったときは、メッセージが表示され、Wi-Fi接続に切り換わります。

4. 送信方法を選んで送信する

1枚ずつ送信

1. 送信する画像を選ぶ



- 〈〉を回して送信する画像を選び、〈〉を押します。
- 〈〉ボタンを押して〈〉を左に回すとインデックス表示にして選ぶことができます。

2. 「この画像を送信」を選ぶ



- 「送信画像サイズ」で送信する画像サイズを選ぶことができます。

複数の画像を選んで送信

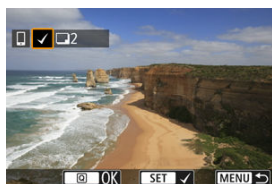
1. 〈〉を押す



2. 「選んで送信」を選ぶ







3. 送信する画像を選ぶ

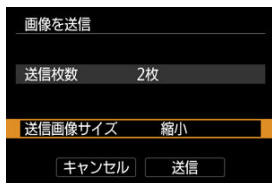


- 〈〉を回して送信する画像を選び、〈〉を押します。



- 〈〉ボタンを押して〈〉を左に回すと3枚表示にして選ぶことができます。1枚表示に戻すときは〈〉ボタンを押します。
- 送信する画像の選択が終わったら、〈〉ボタンを押します。

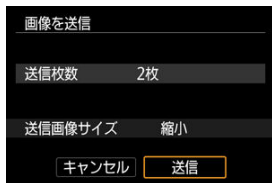
4. [送信画像サイズ] を選ぶ



- 表示される画面で画像サイズを選びます。



5. [送信] を選ぶ



範囲を指定して送信

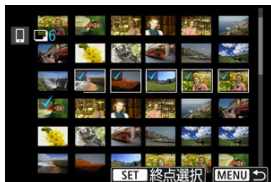
1. 〈SET〉を押す




2. [範囲指定で送信] を選ぶ



3. 画像の範囲を指定する



- 最初の画像（始点）を選びます。
- 最後の画像（終点）を選びます。
- 指定を解除するときは、この操作を繰り返します。
- 〈Q〉ボタンを押して〈〉を回すとインデックス表示の枚数を変えることができます。

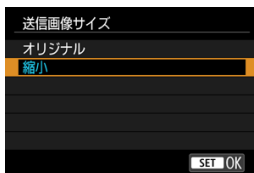
4. 範囲を確定する

- 〈Q〉 ボタンを押します。

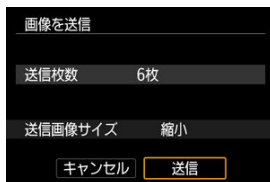
5. [送信画像サイズ] を選ぶ



- 表示される画面で画像サイズを選びます。



6. [送信] を選ぶ



カード内の画像をすべて送信

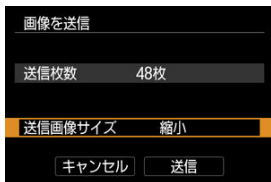
1. <SET> を押す



2. [カード内全送信] を選ぶ



3. [送信画像サイズ] を選ぶ



- 表示される画面で画像サイズを選びます。



4. [送信] を選ぶ



検索条件が設定された画像を送信

[画像検索の条件設定] で検索条件が設定された画像をまとめて送信します。[画像検索の条件設定] については、[画像検索の条件設定](#)を参照してください。

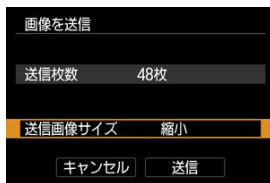
1. <SET> を押す



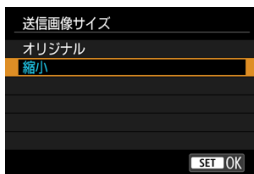
2. [検索結果全送信] を選ぶ



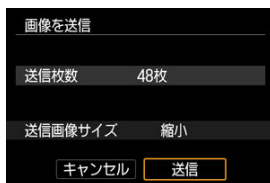
3. [送信画像サイズ] を選ぶ



- 表示される画面で画像サイズを選びます。



4. [送信] を選ぶ



画像の送信の終了 (🔒)

⚠ 注意

- 画像送信の操作中は、カメラのシャッターボタンを押しても撮影できません。

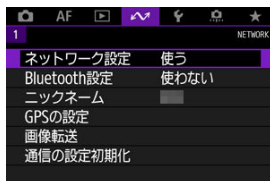
参考

- 画像の送信中に **キャンセル** を選ぶと、送信をキャンセルすることができます。
- 一度に999ファイルまで選択できます。
- Wi-Fi接続中は、スマートフォンの節電機能をオフにしておくことをおすすめします。
- 静止画を縮小するときは、同時に送信する静止画がすべて縮小されます。なお、**S**サイズの静止画は縮小されません。
- カメラの電源にバッテリーを使用するときは、フル充電してから使用してください。

スマートフォンに公開する画像の設定

Wi-Fi接続を終了してから設定します。

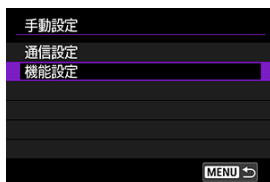
1. [ネットワーク設定] を選ぶ



2. [手動設定] を選ぶ



3. [機能設定] を選ぶ



4. [Smartphone] を選ぶ



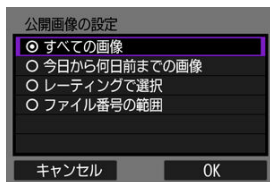
5. [設定変更] を選ぶ



6. [公開画像の設定] を選ぶ



7. 項目を選ぶ

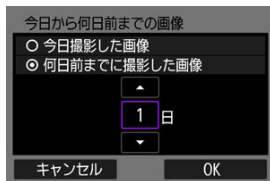


- [OK] を選ぶと、設定画面が表示されます。

[すべての画像]

カード内のすべての画像を公開します。

[今日から何日前までの画像]



撮影日で公開する画像を指定します。最大で9日前までの画像を指定できます。

- [何日前までに撮影した画像] のときは、今日から何日前までに撮影した画像を公開するかを指定します。〈▲〉 〈▼〉で日数を指定し、〈SET〉を押して確定します。
- [OK] を選ぶと、公開する画像が設定されます。

ⓘ 注意

- [公開画像の設定] で [すべての画像] 以外を設定しているときは、リモート撮影はできません。

[レーティングで選択]



レーティングを付加した画像（または付加していない画像）やレーティングの種類で公開する画像を指定します。

- レーティングの種類を選ぶと、公開する画像が設定されます。

[ファイル番号の範囲]（範囲で指定）



(1)



(2)

ファイル番号順に並んだ画像の開始と終了の画像を選んで、公開する画像を指定します。

1. $\langle \text{SET} \rangle$ を押して、画像の選択画面を表示します。
 $\langle \text{○} \rangle$ で画像を選びます。
 $\langle \text{Q} \rangle$ ボタンを押して $\langle \text{☀} \rangle$ を左に回すと、インデックス表示にして選ぶことができます。
2. 始点 (1) の画像を選びます。
3. $\langle \text{○} \rangle$ で終点 (2) の画像を選びます。
4. $[\text{OK}]$ を選びます。

『Camera Connectでスマートフォンと通信』全般の注意事項

⚠ 注意

- リモート撮影で動画を記録中に、Wi-Fi接続が切断されたときの動作は、以下のようになります。
 - ライブビュー撮影／動画撮影スイッチが  のときは、動画撮影が継続します。
 - ライブビュー撮影／動画撮影スイッチが  のときは、動画撮影が終了します。
- スマートフォンとWi-Fi接続中は、操作できない機能があります。
- リモート撮影では、AF速度が遅くなることがあります。
- 通信状態によっては、映像の表示が遅れたり、リリースのタイミングが遅れることがあります。
- スマートフォンへの画像保存中は、カメラのシャッターボタンを押しても撮影できません。また、カメラのモニターが消灯することがあります。

📖 参考

- Wi-Fi接続中は、スマートフォンの節電機能をオフにしておくことをおすすめします。

EOS UtilityでパソコンとWi-Fi接続

☑ パソコンとWi-Fi接続する

EOS Utilityを利用して、カメラ内の画像を閲覧したり、パソコンへ保存することができます。また、EOS Utilityでカメラをリモート操作して撮影したり、カメラの設定を変更することができます。

- あらかじめ、パソコンにEOS UtilityをインストールしてからWi-Fi接続を行ってください (☑)。

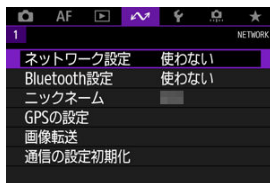
パソコンとWi-Fi接続する

ここでは、WPS (PBC方式) に対応したアクセスポイントを利用して、カメラとパソコンをWi-Fi接続し、EOS Utilityと連携する方法について説明しています。

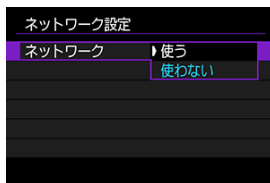
- あらかじめ、WPS用ボタンの場所と押す時間を確認しておいてください。
- Wi-Fi接続の開始から完了まで1分程度かかる場合があります。
- パソコンの操作方法については、パソコンの使用説明書を参照してください。
- 有線LANでの接続や、WPS (PBC方式) 以外のアクセスポイントを使用する方法については、[通信機能の基本設定](#)からの説明を参照してください。

カメラ側の操作-1

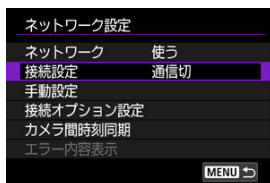
1. カメラの〈MENU〉ボタンを押す
2. [Wi-Fi: ネットワーク設定] を選ぶ



3. [使う] を選ぶ



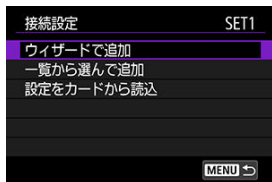
4. [接続設定] を選ぶ



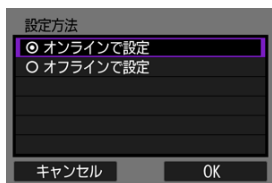
5. [SET* 未設定] を選ぶ



6. [ウィザードで追加] を選ぶ



7. [オンラインで設定] を選ぶ



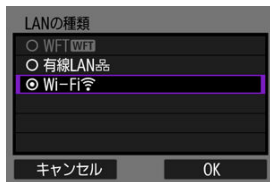
- [OK] を選びます。

8. [EOS Utility] を選ぶ



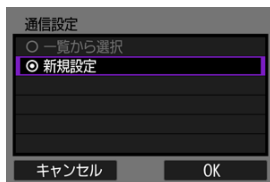
- [OK] を選びます。

9. [Wi-Fi] を選ぶ



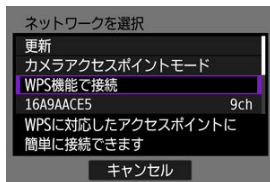
- [OK] を選びます。

10. [新規設定] を選ぶ

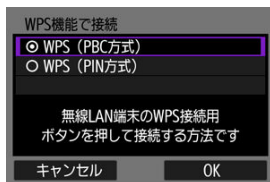


- [OK] を選びます。

11. [WPS機能で接続] を選ぶ



12. [WPS (PBC方式)] を選ぶ



- [OK] を選びます。

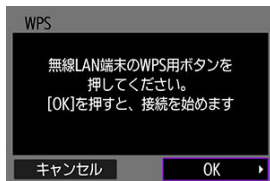
アクセスポイント側の操作

13. アクセスポイントにWi-Fi接続する

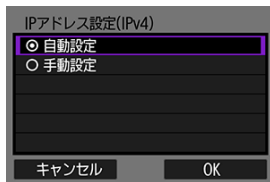
- アクセスポイントのWPS用ボタンを押します。

カメラ側の操作-2

14. [OK] を選ぶ

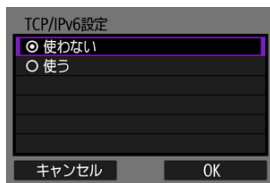


15. [自動設定] を選ぶ



- [OK] を選びます。

16. [使わない] を選ぶ

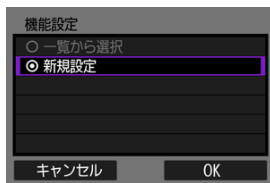


- [OK] を選びます。

17. <SET> を押す



18. [新規設定] を選ぶ



- [OK] を選びます。

これ以降の操作は[EOS Utilityの接続設定を行う](#)を参照してください。

Wi-Fi接続を終了する (🗑️)

再接続する (🗑️)

通信機能の基本設定

- [事前準備](#)
- [接続ウィザードを表示する](#)
- [アクセスポイントの種類を確認する](#)
- [WPS（PBC方式）で接続する場合](#)
- [WPS（PIN方式）で接続する場合](#)
- [検出したネットワークに手動で接続する場合](#)
- [ネットワークに手動で接続する場合](#)
- [インフラストラクチャーで接続する場合](#)
- [カメラアクセスポイントモードで接続する場合](#)
- [IPアドレスを設定する](#)
- [通信機能に応じた設定を行う](#)

カメラの通信機能で以下の機能を使用するときは、事前準備以降を参照して、カメラやパソコンなどの設定を行ってください。

- FTPサーバーへの画像転送
- EOS Utilityでリモート操作
- Browser Remoteでカメラ操作

注意

- 複数経路の設定は、無線使用時のインフラストラクチャー設定のみ可能となります。有線LANまたはカメラアクセスポイントの設定は複数経路設定できません。

● [FTP転送]

以下のOSがインストールされたパソコンが必要です。また、そのパソコンをあらかじめFTPサーバーとして機能させておく必要があります。

- Windows 10 (ver.1607以降)
- Windows 8.1、Windows 8.1 Pro

パソコンをFTPサーバーとして機能させる方法については、お使いの機器の各メーカーへお問い合わせください。

● [EOS Utility]

EOS用ソフトウェアのEOS Utilityがインストールされたパソコンが必要です。EOS Utilityのインストール方法などについては、キヤノンのホームページを参照してください。

● [Browser Remote]

[Browser Remote] を使用するためには、以下のブラウザがインストールされた機器が必要です。

- iOS13 : Safari 13
- iPadOS13 : Safari 13
- Android 8、9、10 : Chrome
- macOS : Safari 13
- Windows 10 : Chrome
- Windows 10 : Edge

* 上記のWebブラウザでの動作は、すべての端末に対して保証するものではありません。

* WebブラウザでCookieを無効にしていると、使用できません。

* WebブラウザでJavaScriptを使用しない設定にしていると、使用できません。

* WebブラウザがHTML5に対応していないときは、動画の再生はできません。

● カメラ間時刻同期

[カメラ間時刻同期](#)を参照してください。

● GPS

[GPS機能](#)を参照してください。

Wi-Fiで接続する場合

あらかじめ、カメラとWi-Fi接続するパソコンをアクセスポイントに接続しておいてください。

❗ 注意

動画の転送について

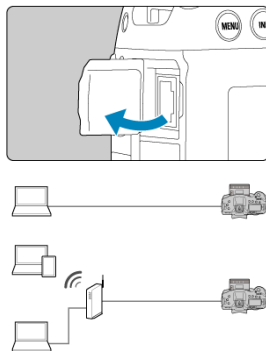
- 動画は1ファイルあたりの容量が大きく、Wi-Fiでは大容量ファイルの送信に時間がかかります。[通信機能での注意事項](#)の記載内容を参考にして、各機器がアクセスポイントや本機と安定して通信できる環境を構築しておいてください。

有線LANで接続する場合

有線LANの接続で以下の機能を使用するときは、カメラのEthernet用端子とパソコンまたはアクセスポイントのEthernet用端子をLANケーブルで接続します。

- FTPサーバーへの画像転送
- EOS Utilityの使用
- Browser Remoteの使用

LANケーブルはギガビット対応でシールド性能の高い、カテゴリ5e以上のSTP (Shielded Twisted Pair) ケーブルを使用してください。



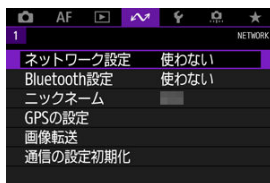
接続ウィザードを表示する

この項では、接続ウィザードの流れに沿って接続設定を追加する方法を説明します。途中、エラーが表示されたときは、[トラブルシューティング](#)を参照して、設定内容を見直してください。

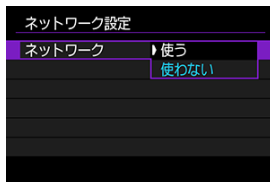
- 接続ウィザードでの設定中にシャッターボタンなどを押すと、接続ウィザードが終了します。設定が終わるまでシャッターボタンなどを押さないよう注意してください。
- [🌐: ネットワーク設定] は、[📷: 多重露出] が [しない] のときのみ選択できます。

1. カメラの〈MENU〉ボタンを押す

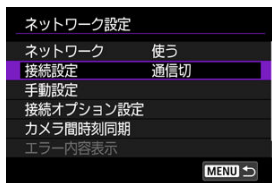
2. [🌐: ネットワーク設定] を選ぶ



3. [使う] を選ぶ



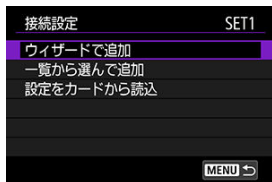
4. [接続設定] を選ぶ



5. [SET*] を選ぶ

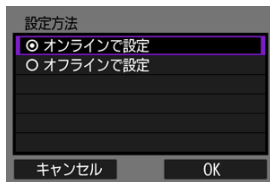


6. [ウィザードで追加] を選ぶ



- カメラに複数の通信設定と機能設定が登録されている場合、[一覧から選んで追加] を選ぶと、登録済みの設定を組み合わせ、新しい接続設定を追加することができます。
- カードに保存されている接続設定を使用して、接続設定を追加することもできます。[設定をカードから読込] を選んで設定します (📄)。

7. 設定方法を選ぶ



- 項目を選んで [OK] を選ぶと、次の画面に進みます。
- [オンラインで設定] を選ぶと、接続設定とネットワーク接続が同時に行えます。
- [オフラインで設定] を選ぶと、[FTP転送] [Browser Remote] の接続設定のみ行えます。

8. 通信機能を選ぶ

[オンラインで設定] の場合

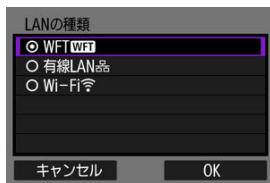


[オフラインで設定] の場合



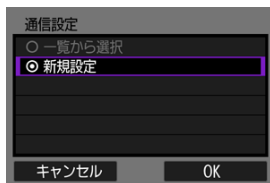
- [事前準備](#) を参考にして、通信機能を選びます。
- 項目を選んで [OK] を選ぶと、次の画面に進みます。

9. 項目を選ぶ



- [通信機能の選択] の設定によって、表示されない項目があります。
- [OK] を選びます。

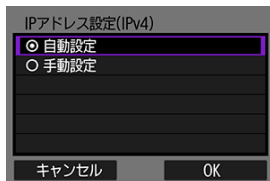
10. [新規設定] を選ぶ



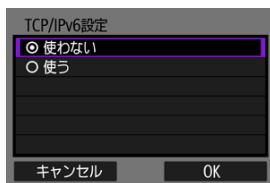
- [OK] を選びます。
- カメラに通信設定が登録されている場合、[一覧から選択] を選ぶと、登録済みの設定を適用することができます。

【オンラインで設定】の場合

手順9で【有線LAN】を選んだときは、以下の手順で設定します。

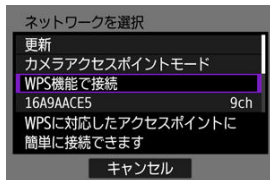


- 項目を選んで【OK】を選びます。
- IPアドレスの設定については、[IPアドレスを設定する](#)を参照してください。



- 項目を選んで【OK】を選びます。
- IPv6アドレスの設定については、[IPv6アドレスを設定する](#)を参照してください。

手順9で【Wi-Fi】を選んだときは、以下の手順で設定します。



- アクセスポイントを介して各機器と接続するときは、[アクセスポイントの種類を確認する](#)に進んでください。
- カメラと各機器を直接接続するときは、[カメラアクセスポイントモードで接続する場合](#)に進んでください。

【オフラインで設定】の場合

手順9で【有線LAN】を選んだときは、以下の手順で設定します。

IPアドレス設定(IPv4)

自動設定

手動設定

キャンセル OK

- 項目を選んで【OK】を選びます。
- IPアドレスの設定については、[IPアドレスを設定する](#)を参照してください。

TCP/IPv6設定

使わない

使う

キャンセル OK

- 項目を選んで【OK】を選びます。
- IPv6アドレスの設定については、[IPv6アドレスを設定する](#)を参照してください。

手順9で【Wi-Fi】を選んだときは、以下の手順で設定します。

接続方法

インフラストラクチャー

カメラアクセスポイントモード

キャンセル OK

- アクセスポイントを介して各機器とWi-Fi接続するときは、[インフラストラクチャーで接続する場合](#)に進んでください。
- カメラと各機器を直接Wi-Fi接続するときは、[カメラアクセスポイントモードで接続する場合](#)に進んでください。

アクセスポイントの種類を確認する

アクセスポイントを使用して接続するときは、お使いのアクセスポイントが、Wi-Fi機器同士を簡単に接続することができるWPS*に対応しているか確認してください。お使いのアクセスポイントがWPSに対応しているか分からないときは、アクセスポイントの使用説明書などを参照して確認してください。

* Wi-Fi Protected Setup (ワイファイ プロテクトド セットアップ) の略

● WPSに対応している場合

下記の2種類の接続方法が選択できます。WPS (PBC方式)の方が簡単に接続できます。

- WPS (PBC方式) で接続する場合 (🔗)
- WPS (PIN方式) で接続する場合 (🔗)

● WPSに対応していない場合

- 検出したネットワークに手動で接続する場合 (🔗)
- ネットワークに手動で接続する場合 (🔗)

アクセスポイントの暗号化について

本機は、下記の [認証方式] と [暗号化の設定] に対応しています。そのため、検出したネットワークに手動で接続する場合は、アクセスポイントの暗号化は、下記のいずれかの設定になっている必要があります。

- [認証方式]: オープン、共有キー、WPA/WPA2-PSK
- [暗号化の設定]: WEP、TKIP、AES

⚠ 注意

- アクセスポイントのステルス機能を有効にしていると、接続できない場合があります。ステルス機能を無効にしてください。
- ネットワーク管理者がいるネットワークに接続するときは、ネットワーク管理者に設定の詳細をお問い合わせください。

📖 参考

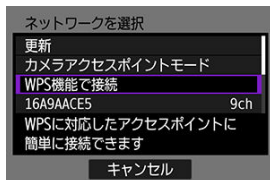
- お使いのネットワークでMACアドレスのフィルタリングをしているときは、アクセスポイントに本機のMACアドレスを登録してください。MACアドレスは [MACアドレス] 画面で確認できます (🔗)。

WPS (PBC方式) で接続する場合

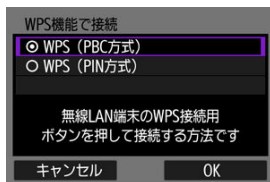
この項では、[アクセスポイントの種類を確認する](#)からの続きを説明しています。
WPSに対応したアクセスポイント使用時の接続方法です。PBC方式（プッシュボタン接続方式）では、アクセスポイントのWPS用ボタンを押すことで、カメラとアクセスポイントを簡単に接続することができます。

- 周囲に複数のアクセスポイントが稼働していると、うまく接続できないことがあります。このような場合は、**[WPS (PIN方式)]** で接続してください。
- アクセスポイントに付いているWPS用ボタンの場所を、あらかじめ確認しておいてください。
- 接続開始から完了まで1分程度かかる場合があります。

1. [WPS機能で接続] を選ぶ

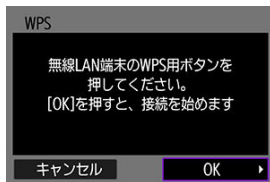


2. [WPS (PBC方式)] を選ぶ

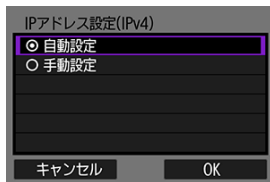


- **[OK]** を選びます。

3. アクセスポイントに接続する



- アクセスポイントのWPS用ボタンを押します。ボタンの場所とボタンを押す時間は、アクセスポイントの使用説明書を参照してください。
- [OK] を選ぶと、アクセスポイントとの接続を開始します。
- アクセスポイントとの接続が完了すると、次の画面に進みます。



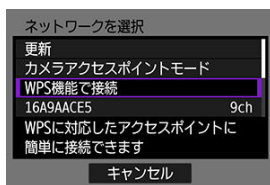
[IPアドレスを設定する](#)に進んでください。

WPS（PIN方式）で接続する場合

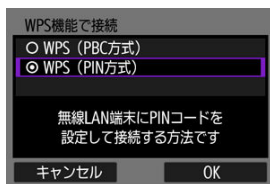
この項では、[アクセスポイントの種類を確認する](#)からの続きを説明しています。
WPSに対応したアクセスポイント使用時の接続方法です。PIN方式（ピンコード接続方式）では、カメラが指定する8桁の識別番号をアクセスポイントに設定して接続します。

- 周囲に複数のアクセスポイントが稼動している状況でも、共通の識別番号で比較的確実に接続することができます。
- 接続開始から完了まで1分程度かかる場合があります。

1. [WPS機能で接続] を選ぶ



2. [WPS（PIN方式）] を選ぶ



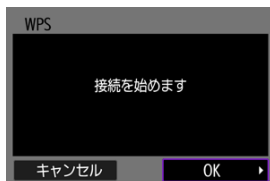
- [OK] を選びます。

3. PINコードを設定する

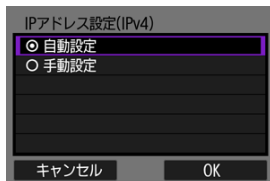


- カメラのモニターに表示される8桁のPINコードをアクセスポイントに設定します。
- アクセスポイントへのPINコードの入力方法は、アクセスポイントの使用説明書を参照してください。
- PINコードを設定したら [OK] を選びます。

4. アクセスポイントに接続する



- [OK] を選ぶと、アクセスポイントとの接続を開始します。
- アクセスポイントとの接続が完了すると、次の画面に進みます。



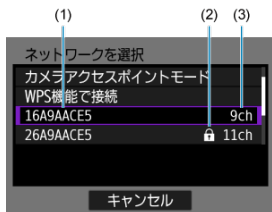
[IPアドレスを設定する](#)に進んでください。

検出したネットワークに手で接続する場合


この項では、[アクセスポイントの種類を確認する](#)からの続きを説明しています。近くで稼働中のアクセスポイントの一覧から、接続するアクセスポイントのSSID（またはESS-ID）を選んで接続します。

アクセスポイントを選ぶ

1. アクセスポイントを選ぶ



- (1) SSIDを表示
- (2) アクセスポイントが暗号化されているときはアイコンを表示
- (3) 使用しているチャンネルを表示

-  で、アクセスポイントの一覧から接続するアクセスポイントを選びます。

参考

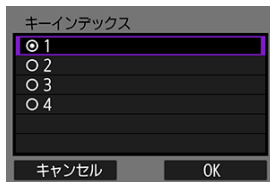
【更新】について

- **【更新】** は、手順1の画面をスクロールすると表示されます。
- **【更新】** を選ぶと、アクセスポイントを再検索します。

アクセスポイントの暗号キーを入力する

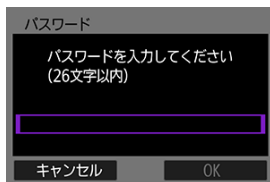
- アクセスポイントに設定されている暗号キー（パスワード）を入力します。設定されている暗号キーについては、アクセスポイントの使用説明書を参照してください。
- 下記の手順2～3で表示される画面は、アクセスポイントに設定されている認証方式と暗号方式によって異なります。
- 手順2～3が表示されずに、**[IPアドレス設定]**画面が表示されたときは、[IPアドレスを設定する](#)に進んでください。

2. キーインデックスを選ぶ

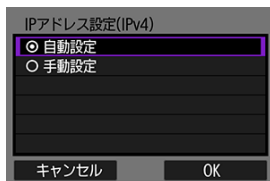


- **[キーインデックス]**の画面は、アクセスポイントの暗号方式がWEPのときに表示されます。
- アクセスポイントに設定されているキーインデックスの番号を選びます。
- **[OK]**を選びます。

3. 暗号キーを入力する



- <Ⓢ> を押して仮想キーボード (Ⓢ) を表示し、暗号キーを入力します。
- [OK] を選ぶと、アクセスポイントとの接続を開始します。
- アクセスポイントとの接続が完了すると、次の画面に進みます。



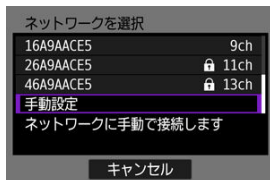
[IPアドレスを設定する](#)に進んでください。

ネットワークに手動で接続する場合

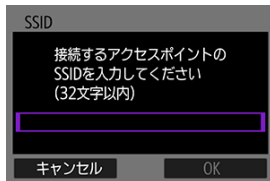
この項では、[アクセスポイントの種類を確認する](#)からの続きを説明しています。
接続するアクセスポイントのSSID（またはESS-ID）を入力して接続します。

SSIDを入力する

1. [手動接続] を選ぶ



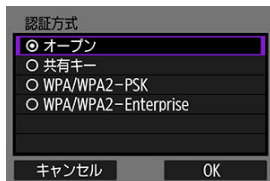
2. SSID (ネットワーク名) を入力する



- $\langle \text{SET} \rangle$ を押して仮想キーボード ($\langle \text{ON} \rangle$) を表示し、暗号キーを入力します。
- [OK] を選びます。

アクセスポイントの認証方式を設定する

3. 認証方式を選ぶ

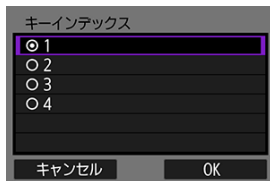


- 項目を選んで [OK] を選ぶと、次の画面に進みます。
- [オープン] を選ぶと [暗号化の設定] 画面が表示されるので、[しない] または [WEP] を選びます。

アクセスポイントの暗号キーを入力する

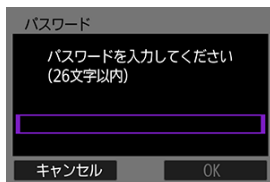
- アクセスポイントに設定されている暗号キー（パスワード）を入力します。設定されている暗号キーについては、アクセスポイントの使用説明書を参照してください。
- 下記の手順4～5で表示される画面は、アクセスポイントに設定されている認証方式と暗号方式によって異なります。
- 手順4～5が表示されずに、[IPアドレス設定] 画面が表示されたときは、[IPアドレスを設定する](#)に進んでください。

4. キーインデックスを選ぶ

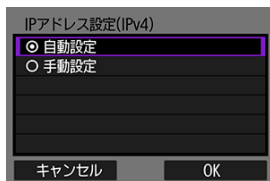


- [キーインデックス] の画面は、手順3で [共有キー] [WEP] を選んだときに表示されます。
- アクセスポイントに設定されているキーインデックスの番号を選びます。
- [OK] を選びます。

5. 暗号キーを入力する



- <SET> を押して仮想キーボード (📄) を表示し、暗号キーを入力します。
- [OK] を選ぶと、アクセスポイントとの接続を開始します。
- アクセスポイントとの接続が完了すると、次の画面に進みます。



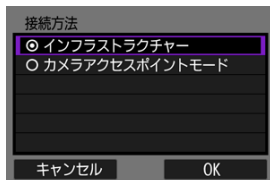
[IPアドレスを設定する](#)に進んでください。

インフラストラクチャーで接続する場合

この項では、[接続ウィザードを表示する](#)からの続きを説明しています。
接続するアクセスポイントのSSID（またはESS-ID）を入力して接続します。

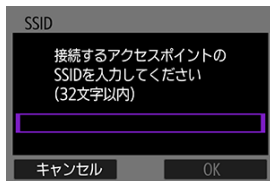
SSIDを入力する

1. [インフラストラクチャー] を選ぶ



- [OK] を選びます。

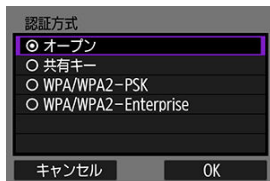
2. SSID (ネットワーク名) を入力する



- <SET> を押して仮想キーボード (📄) を表示し、暗号キーを入力します。
- [OK] を選びます。

アクセスポイントの認証方式を設定する

3. 認証方式を選ぶ

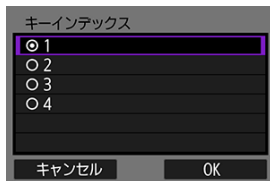


- 項目を選んで [OK] を選ぶと、次の画面に進みます。
- [オープン] を選ぶと [暗号化の設定] 画面が表示されるので、[しない] または [WEP] を選びます。

アクセスポイントの暗号キーを入力する

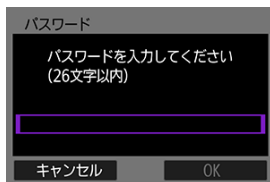
- アクセスポイントに設定されている暗号キー（パスワード）を入力します。設定されている暗号キーについては、アクセスポイントの使用説明書を参照してください。
- 下記の手順4～5で表示される画面は、アクセスポイントに設定されている認証方式と暗号方式によって異なります。
- 手順4～5が表示されずに、[IPアドレス設定] 画面が表示されたときは、[IPアドレスを設定する](#)に進んでください。

4. キーインデックスを選ぶ

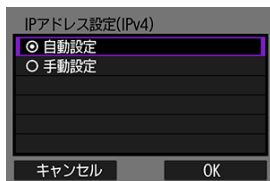


- [キーインデックス] の画面は、手順3で [共有キー] [WEP] を選んだときに表示されます。
- アクセスポイントに設定されているキーインデックスの番号を選びます。
- [OK] を選びます。

5. 暗号キーを入力する



- $\langle \text{SET} \rangle$ を押して仮想キーボード (Ⓜ) を表示し、暗号キーを入力します。
- [OK] を選ぶと、アクセスポイントとの接続を開始します。
- アクセスポイントとの接続が完了すると、次の画面に進みます。



[IPアドレスを設定する](#)に進んでください。

カメラアクセスポイントモードで接続する場合

この項では、[接続ウィザードを表示する](#)からの続きを説明しています。
カメラアクセスポイントモードは、アクセスポイントを使用せず、カメラと各機器を直接Wi-Fiで接続する接続方法です。以下の2種類の接続方法が選択できます。

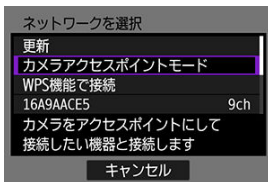
簡単接続で接続

カメラアクセスポイントモードのネットワーク設定を自動で行います。

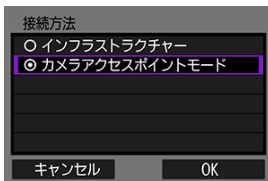
- 接続するためにはパソコンやスマートフォンなどの操作が必要です。詳しくは、各機器の使用説明書を参照してください。

1. [カメラアクセスポイントモード] を選ぶ

[オンラインで設定] の場合

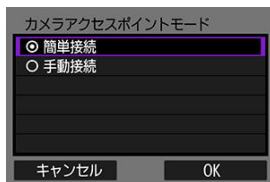


[オフラインで設定] の場合



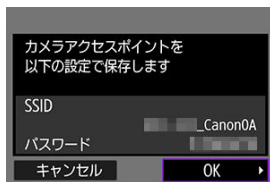
- [接続方法] 画面では [OK] を選ぶと、次の画面に進みます。

2. [簡単接続] を選ぶ



- [OK] を選びます。

3. [OK] を選ぶ



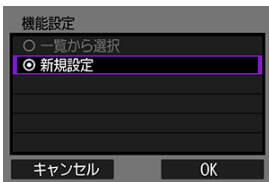
- 次の画面に進みます。

4. [OK] を選ぶ



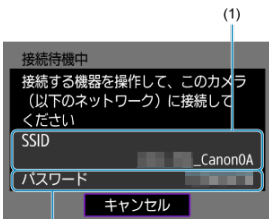
- 次の画面に進みます。

5. [新規設定] を選ぶ



- [OK] を選びます。
- [オンラインで設定] の場合は、手順6に進んでください。
- [オフラインで設定] の場合は、[通信機能に応じた設定を行う](#)の手順2に進んでください。
- カメラに通信機能の設定が登録されている場合、[一覧から選択] を選ぶと、登録済みの設定を適用することができます。

6. 接続する機器を操作してカメラに接続する

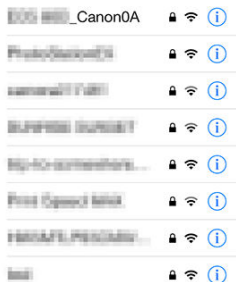


- (1) SSID (ネットワーク名)
- (2) 暗号キー (パスワード)

パソコンの画面例



スマートフォンの画面例



- 接続する機器のWi-Fi機能をONにして、カメラのモニターに表示されているSSID（ネットワーク名）を選びます。
- パスワード欄には、カメラのモニターに表示されている暗号キー（パスワード）を入力します。
- 接続が完了すると、通信機能に応じた設定画面に進みます。

[通信機能に応じた設定を行う](#)の手順2に進んでください。

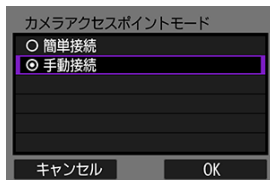
参考

- **【簡単接続】**を選んで接続するときのSSIDは、末尾に「_Canon0A」と表示されます。

手動接続で接続

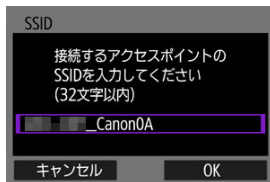
カメラアクセスポイントモードのネットワーク設定を手動で行います。表示される画面に従って、カメラの [SSID]、[チャンネル設定]、[暗号化の設定] を設定します。

1. [手動接続] を選ぶ



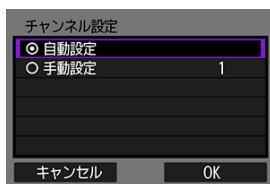
- [OK] を選びます。


2. SSID (ネットワーク名) を入力する



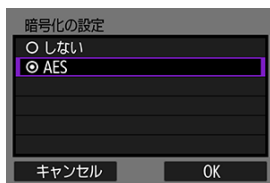
- 〈SET〉を押して仮想キーボード (☞) を表示し、SSIDを入力します。入力したら〈MENU〉ボタンを押します。
- [OK] を選びます。




3. チャンネル設定を選ぶ



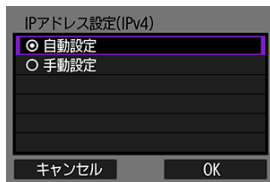
- 手で設定するときは、[手動設定] を選び、 で設定します。
- [OK] を選ぶと、アクセスポイントとの接続を開始します。

4. 暗号化の設定を選ぶ



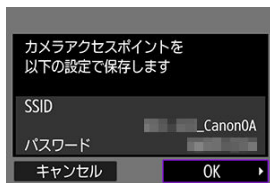
- 暗号化するときは [AES] を選びます。
- [OK] を選びます。
- [AES] を選んだときは、[パスワード] 画面が表示されます。 を押して仮想キーボード  を表示し、暗号キーを入力します。入力したら  ボタンを押します。

5. [自動設定] を選ぶ



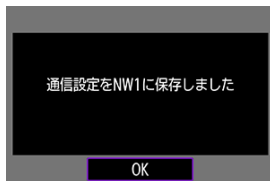
- [OK] を選びます。
- [自動設定] でエラーが表示されたときは、IPアドレスを手動で設定してください (🔗)。

6. [OK] を選ぶ



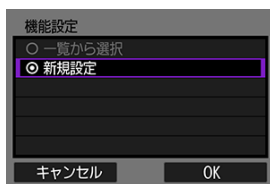
- 次の画面に進みます。

7. [OK] を選ぶ



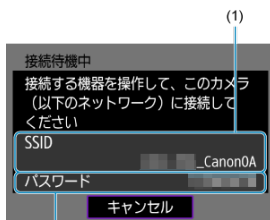
- 次の画面に進みます。

8. [新規設定] を選ぶ



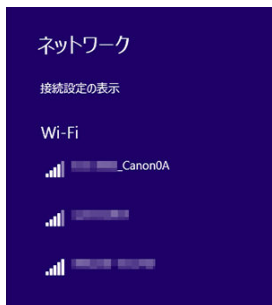
- [OK] を選びます。
- [オンラインで設定] の場合は、手順9に進んでください。
- [オフラインで設定] の場合は、[通信機能に応じた設定を行う](#)の手順2に進んでください。
- カメラに通信機能の設定が登録されている場合、[一覧から選択] を選ぶと、登録済みの設定を適用することができます。

9. 接続する機器を操作してカメラに接続する

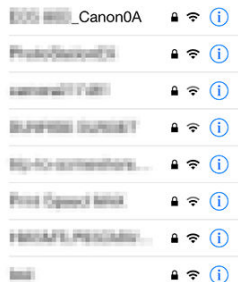


- (1) SSID (ネットワーク名)
- (2) 暗号キー (パスワード)

パソコンの画面例



スマートフォンの画面例



- 接続する機器のWi-Fi機能をONにして、カメラのモニターに表示されているSSID（ネットワーク名）を選びます。
- パスワード欄には、カメラのモニターに表示されている暗号キー（パスワード）を入力します。
- 接続が完了すると、通信機能に応じた設定画面に進みます。

[通信機能に応じた設定を行う](#)の手順2に進んでください。

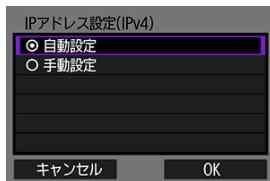
IPアドレスを設定する

この項では、[アクセスポイントを利用する接続設定](#)からの続きを説明しています。IPアドレスの設定方法を選択し、カメラにIPアドレスを設定します。IPv6を使用するときは、IPv6のみで接続します。IPv4での接続はできません。

IPアドレスを自動で設定する場合

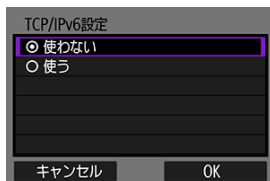
IPアドレス設定を自動で行います。

1. [自動設定] を選ぶ



- [OK] を選びます。
- [自動設定] でエラーが表示されたときは、IPアドレスを手動で設定してください (🔗)。

2. IPv6設定を選ぶ

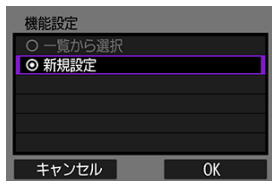


- 項目を選んで [OK] を選ぶと、次の画面に進みます。
- [使う] を選んだ場合は、すべての設定が終了したあとIPv6の設定を行ってください (🔗)。
- 設定が終了すると、次の画面に進みます。

3. [OK] を選ぶ



- 次の画面に進みます。

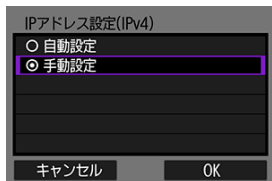


[通信機能に応じた設定を行う](#)に進んでください。

IPアドレスを手動で設定する場合

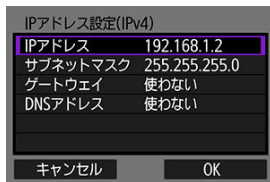
IPアドレス設定を手動で行います。なお、表示される項目は通信機能によって異なります。

1. [手動設定] を選ぶ

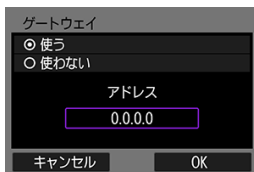


- [OK] を選びます。

2. 設定する項目を選ぶ






- 項目を選ぶと、数値の入力画面が表示されます。
- ゲートウェイ、DNSアドレスを使う場合は、[使う]を選んでから[アドレス]を選びます。

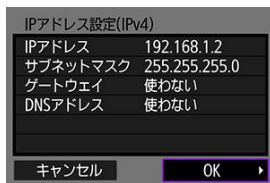


3. 数値を入力する



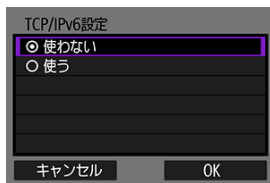
- 〈〉で上側の入力場所を選び、〈〉で入力する数値を選びます。
〈〉を押すと選んだ数値が入力されます。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、入力を確定して手順2の画面に戻ります。

4. [OK] を選ぶ



- 必要な項目の設定が完了したら [OK] を選びます。次の画面に進みます。
- 設定する内容が分からない場合は、[ネットワークの設定を確認する](#)を参照するか、ネットワーク管理者などに問い合わせてください。

5. IPv6設定を選ぶ

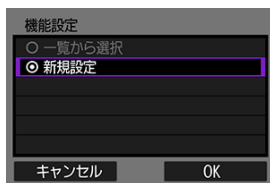


- 項目を選んで [OK] を選ぶと、次の画面に進みます。
- [使う] を選んだ場合は、すべての設定が終了したあとIPv6の設定を行ってください (☑)。
- 設定が終了すると、次の画面に進みます。

6. [OK] を選ぶ



- 次の画面に進みます。

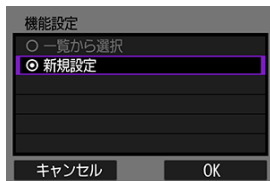


[通信機能に応じた設定を行う](#)に進んでください。

通信機能に応じた設定を行う

ここからは、通信機能に応じた設定になります。選択した通信機能の説明ページに進んでください。

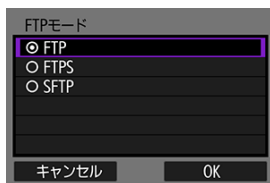
1. [新規設定] を選ぶ



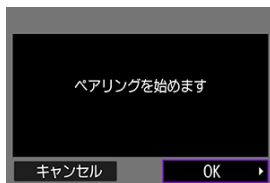
- [OK] を選ぶと、次の画面に進みます。
- カメラに通信機能の設定が登録されている場合、[一覧から選択] を選ぶと、登録済みの設定を適用することができます。

2. 通信機能に応じて接続設定を行う

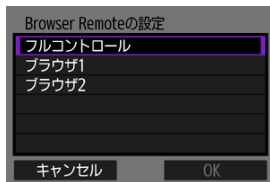
FTP転送 (🔒)



EOS Utility (🔒)



Browser Remote (🔒)



FTPサーバーへの画像転送

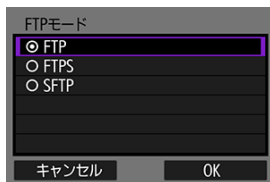
- [FTPサーバーの接続設定を行う](#)
- [1枚ずつ転送する](#)
- [まとめて転送する](#)
- [キャプション付きで転送する](#)
- [転送失敗画像の自動再転送について](#)
- [転送された画像を見る](#)

FTPサーバーに接続して、カメラ内の画像をパソコンに転送することができます。FTP転送では、撮影時にFTPサーバーへ自動転送できるほか、撮影後にまとめて転送することもできます。

FTPサーバーの接続設定を行う

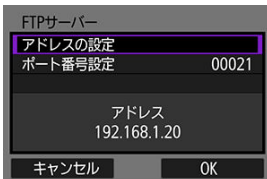
この項では、[通信機能に応じた設定を行う](#)からの続きを説明しています。

1. FTPモードを選ぶ



- Wi-Fiで接続するときは、[SFTP] は表示されません。
- ルート証明書を使用してFTP転送をセキュアに行うときは、[FTPS] を選びます。ルート証明書の設定については、[FTPS用のルート証明書の読み込み](#)を参照してください。
- SSH接続でFTP転送をセキュアに行うときは、[SFTP] を選びます。手順5でログイン設定を行います。
- [OK] を選ぶと、次の画面に進みます。

2. [アドレスの設定] を選ぶ



- [OK] を選ぶと、次の画面に進みます。
- IPアドレスを [自動設定] にしているときやDNSアドレスを [手動設定] にしているときは、仮想キーボードが表示されます。
- DNSアドレスを [使わない] 設定のときは、数値の入力画面が表示されます。

3. FTPサーバーのIPアドレスを入力する

仮想キーボードの場合



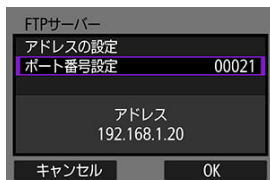
- 仮想キーボード (☑) を操作し、IPアドレスを入力します。DNSを使用する場合は、ドメイン名を入力します。
- <MENU> ボタンを押すと、入力を確定して手順2の画面に戻ります。

数値の入力画面の場合



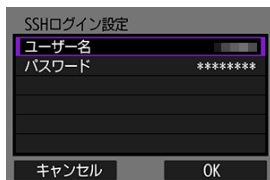
- <☑> で上側の入力場所を選び、<○> で入力する数値を選びます。<SET> を押すと選んだ数値が入力されます。
- <MENU> ボタンを押すと、入力を確定して手順2の画面に戻ります。

4. ポート番号を設定する



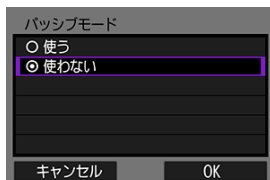
- [ポート番号設定] は、通常00021 (FTP/FTPS) または00022 (SFTP) を設定します。
- [OK] を選ぶと、次の画面に進みます。
- 手順1で [FTP] [FTPS] を選んだ場合は、手順6に進んでください。 [SFTP] を選んだ場合は、手順5に進んでください。

5. SSHログインの認証設定をする



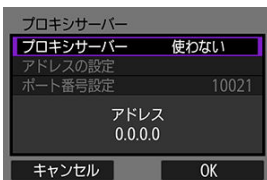
- [ユーザー名] [パスワード] を選んで仮想キーボード (⌨) を表示し、SSHパスワード認証用のユーザ名とパスワードを入力します。
- [OK] を選ぶと、次の画面に進みます。

6. パッシブモードを設定する



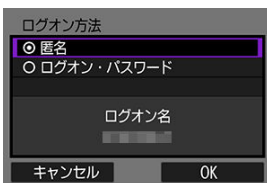
- 手順1で [SFTP] を選んだときは表示されません。
- [OK] を選ぶと、次の画面に進みます。
- 手順9で「エラー41：FTPサーバーに接続できません」が表示されたときは、[パッシブモード] を [使う] 設定にすると解決することがあります。

7. プロキシサーバーを設定する



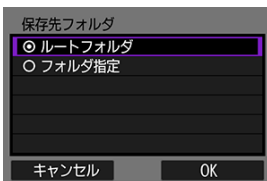
- 手順1で **[FTPS]** **[SFTP]** を選んだときは表示されません。
- **[OK]** を選ぶと、次の画面に進みます。

8. ログオン方法を設定する

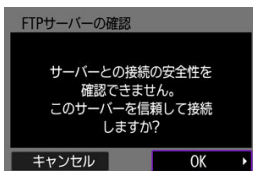


- 手順1で **[SFTP]** を選んだときは表示されません。
- **[OK]** を選ぶと、次の画面に進みます。

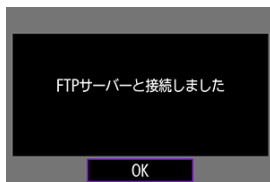
9. 保存先フォルダを設定する



- [ルートフォルダ] を選択すると、FTPサーバーで設定したルートフォルダの中に保存されます (☑)。
- [フォルダ指定] を選択すると、ルートフォルダの中にある保存先フォルダを指定することができます。フォルダがないときは、自動作成されます。
- [OK] を選ぶと、次の画面に進みます。
- カメラの〈LAN〉ランプが緑色に点灯します。
- 以下の画面が表示されたときに、送信先サーバーを信頼する場合は、[OK] を選びます。



10. [OK] を選ぶ



- オフラインの設定では表示されません。

11. [OK] を選ぶ



12. [OK] を選ぶ



- [ネットワーク設定] 画面に戻ります。

これでFTP転送の接続設定は完了です。

画像転送中は、カメラの〈LAN〉ランプが緑色に点滅します。

FTPS用のルート証明書の読み込み

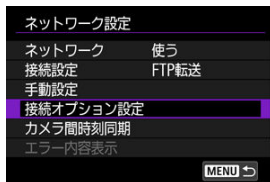
接続設定時に、FTPモードを【FTPS】に設定したときは、接続するFTPSサーバーに対応したルート証明書をカメラに読み込む必要があります。

- カメラに読み込むことができるのは、ファイル名が「**ROOT.CER**」、「**ROOT.CRT**」、「**ROOT.PEM**」のルート証明書のみです。
- カメラに読み込むことができるルート証明書ファイルは1つだけです。あらかじめ、ルート証明書ファイルの入ったカードを入れてから操作してください。
- 証明書を読み込むことができるカードは、【**🔒：記録機能とカード・フォルダ選択**】の【**記録・再生**】または【**再生**】で優先設定しているカードです。
- 自己署名証明書を使用したFTPS接続を行う場合に、接続先サーバーを信頼できないことがあります。

1. 【🌐：ネットワーク設定】を選ぶ



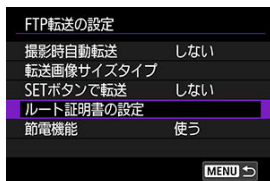
2. 【接続オプション設定】を選ぶ



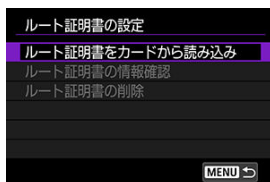
3. 【FTP転送の設定】を選ぶ



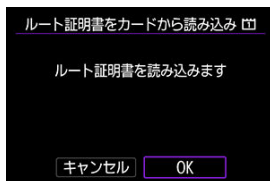
4. [ルート証明書の設定] を選ぶ



5. [ルート証明書をカードから読み込み] を選ぶ



6. [OK] を選ぶ



- ルート証明書が読み込まれます。
- 確認画面で [OK] を選ぶと、[ルート証明書の設定] 画面に戻ります。

参考

- 手順5の画面で [ルート証明書の削除] を選ぶと、カメラに読み込んだルート証明書を削除することができます。また、[ルート証明書の情報確認] を選ぶと、発行者や発行先、有効期限などの情報が確認できます。

1枚ずつ転送する

- [撮影時に自動転送する](#)
- [再生して転送する](#)
- [転送する画像のサイズとタイプを設定する](#)

撮影時に自動転送する

撮影した画像をすぐにFTPサーバーへ自動転送します。なお、転送中も通常どおり静止画撮影を行うことができます。

- 必ずカードを入れて撮影してください。画像が記録されない状態で撮影すると、画像が転送されません。
- 動画は撮影時に自動転送できません。撮影後、[まとめて転送する](#)または[キャプション付きで転送する](#)を参照し、転送してください。

1. [M:ネットワーク設定] を選ぶ



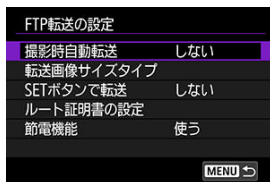
2. [接続オプション設定] を選ぶ



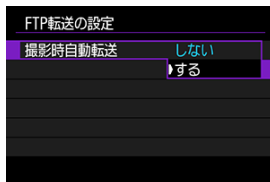
3. [FTP転送の設定] を選ぶ



4. [撮影時自動転送] を選ぶ



5. [する] を選ぶ



6. 撮影する

- 撮影した画像がFTPサーバーに転送されます。

⚠ 注意

- 画像転送中に画像を消去することはできません。
- [撮影時自動転送] が [する] のときは、音声メモを付与することはできません。

参考

- 連続撮影したときは、撮影した順にFTPサーバーへ画像が転送されます。
- 撮影した画像は、カードにも記録されます。
- 転送が中断した画像や転送に失敗した画像は、通信状態が回復すると自動的に再転送されます (🔄)。なお、あとからまとめて再転送することもできます (🔄)。
- FTP自動再転送が開始される前に、FTP接続先サーバー等のネットワーク設定を変更したときは、FTP自動再転送は行われません。

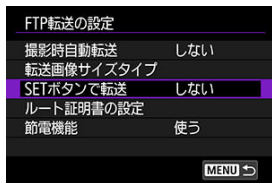
再生して転送する

画像を再生して、(SET) を押すだけで転送することができます。なお、転送中も通常どおり静止画撮影を行うことができます。

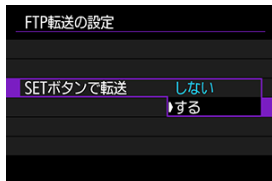
1. [FTP転送の設定] 画面を表示する

- [撮影時に自動転送する](#)の手順1～3の操作を行います。

2. [SETボタンで転送] を選ぶ



3. [する] を選ぶ



4. 画像を選ぶ

- カメラの (▶) ボタンを押します。
- 転送する画像を選び、(SET) を押すとその画像が転送されます。
- 再生した画像は、転送する前に音声メモを付加することができます。詳しくは[音声メモを記録](#)を参照してください。
- 動画は転送できません。動画を選んで (SET) を押すと、動画再生パネルが表示されます。

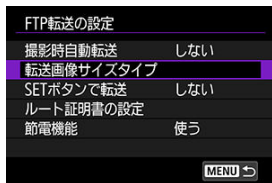
転送する画像のサイズとタイプを設定する

CFexpressカードに異なるサイズの画像を同時記録したときや、RAW+JPEGまたはRAW+HEIFで撮影した画像をどのように転送するか、設定することができます。

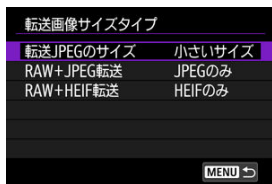
1. [FTP転送の設定] 画面を表示する

- [撮影時に自動転送する](#)の手順1～3の操作を行います。

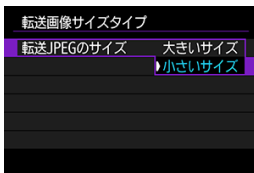
2. [転送画像サイズタイプ] を選ぶ



3. 転送する画像のサイズを選ぶ

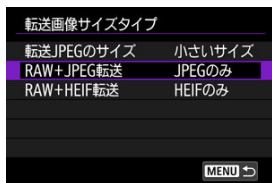


- [転送JPEGのサイズ] を選び、[大きいサイズ] [小さいサイズ] から選びます。

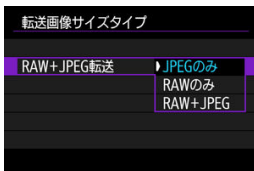


- CFexpressカードの一方にJPEGラージを、もう一方のカードにJPEGスモールを記録する設定でJPEGスモールの方を転送したいときは、[転送JPEGのサイズ：小さいサイズ] に設定します。

4. 転送する画像のタイプを選ぶ

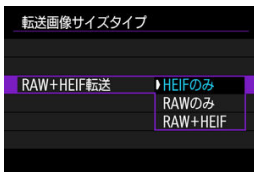


● RAW+JPEG転送



- [RAW+JPEG転送] を選び、[JPEGのみ] [RAWのみ] [RAW+JPEG] から選びます。

● RAW+HEIF転送



- [RAW+HEIF転送] を選び、[HEIFのみ] [RAWのみ] [RAW+HEIF] から選びます。

参考

- CFexpressカードの一方にRAWを、もう一方のカードにJPEGまたはHEIFを記録する設定のときは、[RAW+JPEG転送] [RAW+HEIF転送] の設定で転送する画像を決めます。カード1枚にRAW+JPEGまたはRAW+HEIFの同時記録を行うときも、同様に設定します。
- 撮影した画像は、カードにも記録されます。
- 同じサイズの画像がカード2枚に同時記録される場合は、[📁：記録機能とカード・フォルダ選択] で、[📷記録・再生] または [📺再生] で優先設定しているカードに記録される画像が転送されます。

まとめて転送する

[転送する画像を選択する](#)



[複数選択](#)

[RAW+JPEG/RAW+HEIFで撮影した画像を転送するとき](#)

撮影後に、複数の画像を任意に選択しての転送や、未転送画像、転送失敗画像の一括転送を行うことができます。

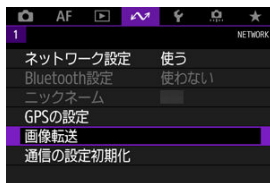
また、転送中も通常どおりに静止画撮影を行うことができます。

注意

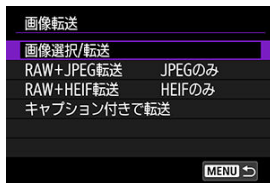
- 画像転送中に、ライブビュー撮影/動画撮影スイッチを「」にすると、その間は画像転送が中断されます。「」にすると、画像転送を再開します。

転送する画像を選択する

1. [📶: 画像転送] を選ぶ



2. [画像選択/転送] を選ぶ



3. [FTP転送] を選ぶ





4. [画像選択] を選ぶ



5. 転送する画像を選ぶ

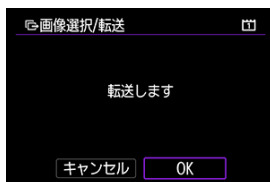


- 〈○〉で転送する画像を選び、〈SET〉を押します。
- 〈○〉で画面の左上に [✓] を表示させ、〈SET〉を押します。
- 〈Q〉ボタンを押して〈〉を左に回していくと、3画像表示になります。〈〉を右に回すと、1枚表示に戻ります。
- 他に転送したい画像があるときは、手順5を繰り返します。
- 画像の選択が終了したら〈MENU〉を押します。

6. [転送] を選ぶ



7. [OK] を選ぶ



- 選択した画像がFTPサーバーに転送されます。

複数選択

選択方法を選んで、複数の画像を転送することができます。なお、転送中も通常どおり静止画撮影を行うことができます。

1. [画像選択/転送] 画面を表示する

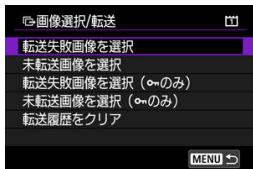
- [転送する画像を選択する](#)の手順1～3の操作を行います。

2. 選択方法を選ぶ



フォルダ内

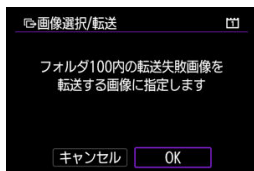
- [] を選びます。
- 使用したい選択方法を選びます。



- [転送失敗画像を選択] を選ぶと、選択したフォルダに入っている、転送に失敗した画像が選択されます。
 - [未転送画像を選択] を選ぶと、選択したフォルダに入っている、未転送画像が選択されます。
 - [転送失敗画像を選択 (o-mのみ)] を選ぶと、選択したフォルダに入っている、転送に失敗したプロテクト画像が選択されます。
 - [未転送画像を選択 (o-mのみ)] を選ぶと、選択したフォルダに入っている、未転送のプロテクト画像が選択されます。
 - [転送履歴をクリア] を選ぶと、選択したフォルダに入っている画像の転送履歴が消去されます。
 - 転送履歴を消去してから [未転送画像を選択] を選ぶと、フォルダに入っているすべての画像をもう一度転送することができます。
 - 転送履歴を消去してから [未転送画像を選択 (o-mのみ)] を選ぶと、フォルダに入っているすべてのプロテクト画像をもう一度転送することができます。
- フォルダを選びます。

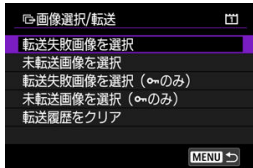


- [OK] を選ぶと、選択した画像がFTPサーバーに転送されます。

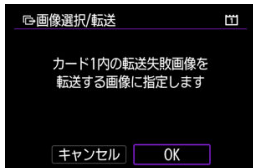


カード内

- [全画像] を選びます。
- 使用したい選択方法を選びます。



- [転送失敗画像を選択] を選ぶと、カードに記録されている、転送に失敗した画像が選択されます。
 - [未転送画像を選択] を選ぶと、カードに記録されている、未転送画像が選択されます。
 - [転送失敗画像を選択 (onのみ)] を選ぶと、カードに記録されている、転送に失敗したプロテクト画像が選択されます。
 - [未転送画像を選択 (onのみ)] を選ぶと、カードに記録されている、未転送のプロテクト画像が選択されます。
 - [転送履歴をクリア] を選ぶと、カードに記録されている画像の転送履歴が消去されます。
 - 転送履歴を消去してから [未転送画像を選択] を選ぶと、カードに記録されているすべての画像をもう一度転送することができます。
 - 転送履歴を消去してから [未転送画像を選択 (onのみ)] を選ぶと、カードに記録されているすべてのプロテクト画像をもう一度転送することができます。
- [OK] を選ぶと、選択した画像がFTPサーバーに転送されます。

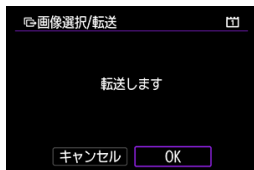


範囲指定

- 【範囲指定】を選びます。
- 始めの画像（始点）と終わりの画像（終点）を選ぶと、始点から終点までの範囲の画像に [✓] が表示され、1画像1枚で転送指定されます。
- 画像の選択が終了したら「MENU」を押します。



- 【OK】を選ぶと、選択した画像がFTPサーバーに転送されます。



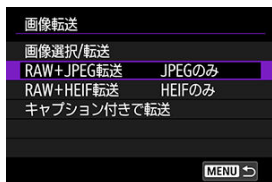
RAW+JPEG／RAW+HEIFで撮影した画像を転送するとき

RAW+JPEGやRAW+HEIFで撮影した画像をどのように転送するか、設定することができます。

1. [📶: 画像転送] を選ぶ



2. 転送する画像のタイプを選ぶ



- RAW+JPEG転送



- [RAW+JPEG転送] を選び、[JPEGのみ] [RAWのみ] [RAW+JPEG] から選びます。

- RAW+HEIF転送



- [RAW+HEIF転送] を選び、[HEIFのみ] [RAWのみ] [RAW+HEIF] から選びます。

⚠ 注意

- 画像転送中は操作できないメニュー項目があります。

📖 参考

- この設定は、[転送画像サイズタイプ] 画面の [RAW+JPEG転送] [RAW+HEIF転送] の設定と連動して切り換わります (🔗)。

キャプション付きで転送する

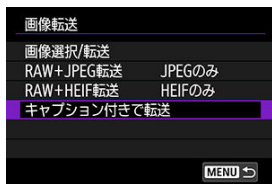
登録したキャプションを画像に付加して、1枚ずつ転送することができます。印刷する枚数などを画像転送先に伝えたいときなどに便利です。なお、カメラに保存された画像にもキャプションが付加されます。

- 画像に付加されたキャプションは、Exif情報のユーザーコメント欄で確認することができます。
- キャプションの作成と登録は、EOS Utility (📷) またはBrowser Remote (📷) を使用して行います。

1. [📶: 画像転送] を選ぶ



2. [キャプション付きで転送] を選ぶ

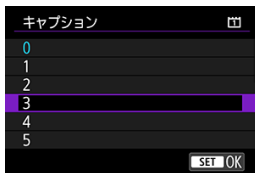


- 最後に再生した画像が表示されます。

3. キャプションを設定する



- [キャプション] を選んで、表示される画面でキャプションの内容を選びます。



4. [転送] を選ぶ



- 画像がキャプション付きで送信されます。送信が終了すると [画像転送] 画面に戻ります。

⚠ 注意

- [キャプション付きで転送] 画面では、画像を任意に選択することはできません。ほかの画像をキャプション付きで転送するときは、その画像を再生してからこの操作を行ってください。

転送失敗画像の自動再転送について



転送に失敗すると、カメラの〈LAN〉ランプが赤色に点滅します。この場合は、〈MENU〉ボタンを押して [**M**: ネットワーク設定] を選ぶと、下記の画面が表示されます。エラー表示への対応については、[トラブルシューティング](#)を参照してください。



エラーの原因が取り除かれると、転送に失敗した画像が自動的に再転送されます。この自動再転送機能は、撮影時自動転送のときだけでなく、撮影後の画像をFTP転送するときも働きます。なお、転送をキャンセルしたり、カメラの電源を切ったときは、自動再転送されません。

[まとめて転送する](#)を参照して転送してください。

参考

- [FTP転送の設定] 画面 () で節電機能を設定すると、FTP転送後、FTPサーバーからログオフしてLAN接続を休止させることができます。
- LANを休止させたくないときは、[FTP転送の設定] 画面 () で [節電機能] を [使わない] に設定してください。

転送された画像を見る

FTPサーバーに転送された画像は、FTPサーバーで設定した下記のフォルダに保存されています。

FTPサーバーの転送先フォルダについて

- FTPサーバーを初期設定で使用しているときは、[Cドライブ] → [Inetpub] フォルダ → [ftproot] フォルダの中に画像、または画像が保存されているフォルダが入っています。
- FTPサーバーの設定で転送先のルートフォルダが変更されているときは、FTPサーバーの管理者に問い合わせてください。

EOS Utilityでリモート操作

[EOS Utilityの接続設定を行う](#)

[EOS Utilityを使う](#)

[ダイレクト転送](#)

[キャプションの作成と登録](#)

EOS Utilityを利用して、カメラ内の画像を閲覧したり、パソコンへ保存することができます。また、EOS Utilityでカメラをリモート操作して撮影したり、カメラの設定を変更することができます。

- あらかじめ、パソコンにEOS Utilityをインストールしてから接続設定を行ってください(📎)。
- WPS (PBC方式) に対応したアクセスポイントを利用して、カメラとパソコンをWi-Fi接続し、EOS Utilityと連携する方法については、[EOS UtilityでパソコンとWi-Fi接続](#)を参照してください。

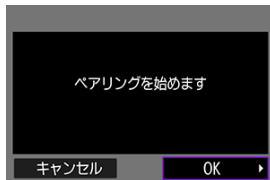
EOS Utilityの接続設定を行う

この項では、[通信機能に応じた設定を行う](#)からの続きを説明しています。

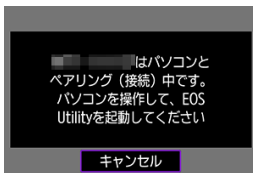
- 接続するためにはパソコンの操作が必要です。詳しくは、パソコンの使用説明書を参照してください。

カメラ側の操作-1

1. [OK] を選ぶ



- 下記のメッセージ画面が表示されます。



2. パソコンでEOS Utilityを起動する
3. EOS Utilityの [Wi-Fi/LAN接続ペアリング] をクリックする



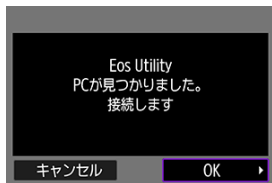
- ファイアウォールに関するメッセージが表示されたときは、[はい] を選びます。

4. パソコンで [接続] をクリックする



- 接続するカメラを選択して、[接続] をクリックします。
- 複数のカメラが表示されるときは、カメラのモニターに表示されたMACアドレスで接続するカメラを特定します。
- 本機のMACアドレスは、[MACアドレス] 画面でも確認できます (P. 27)。

5. [OK] を選ぶ



- 手順4で [接続] 操作をしたパソコンが見つかると、上記の画面が表示されます。
- [OK] を選びます。

6. [OK] を選ぶ



7. [OK] を選ぶ



- [ネットワーク設定] 画面に戻ります。
- カメラの〈LAN〉ランプが緑色に点灯します。
- 設定した内容はカメラに保存されます。

これでEOS Utilityとの接続設定は完了です。

- 一度ペアリングを行った「カメラとパソコンの組み合わせ」で、設定を変えずに使い続ける場合、次回からはペアリングを行う必要はありません。

EOS Utilityを使う

EOS Utilityの操作方法については、EOS Utility使用説明書を参照してください。リモート撮影だけでなく、さまざまなカメラ操作が可能です。



⚠ 注意

- ネットワークと接続中は操作できないメニュー項目があります。
- リモート撮影では、AF速度が遅くなる場合があります。
- 通信状態によっては、映像の表示が遅れたり、レリーズのタイミングが遅れることがあります。
- リモートライブビュー撮影では、インターフェースケーブル接続時よりも通信速度が遅くなるため、動きのある被写体を滑らかに表示することはできません。

ダイレクト転送

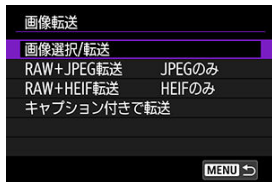
EOS Utilityと接続された状態で、EOS Utilityのメイン画面が表示されているときは、カメラを操作してパソコンへ画像を転送することができます。

転送する画像を選択する

1. [📶: 画像転送] を選ぶ



2. [画像選択/転送] を選ぶ



3. [ダイレクト転送] を選ぶ





4. [画像選択] を選ぶ



5. 転送する画像を選ぶ

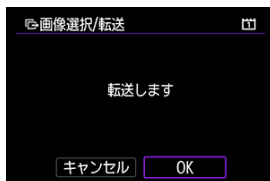


- 〈○〉で転送する画像を選び、〈SET〉を押します。
- 〈○〉で画面の左上に[✓]を表示させ、〈SET〉を押します。
- 〈Q〉ボタンを押して〈〉を左に回していくと、3画像表示になります。〈〉を右に回すと、1枚表示に戻ります。
- 他に転送したい画像があるときは、手順5を繰り返します。
- 画像の選択が終了したら〈MENU〉を押します。

6. [転送] を選ぶ



7. [OK] を選ぶ



- 選択した画像がパソコンに転送されます。

複数選択

選択方法を選んで、複数の画像を転送することができます。

1. [画像選択/転送] 画面を表示する

- [転送する画像を選択する](#)の手順1～3の操作を行います。

2. 選択方法を選ぶ



フォルダ内

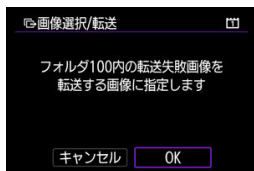
- [] を選びます。
- 使用したい選択方法を選びます。



- [転送失敗画像を選択] を選ぶと、選択したフォルダに入っている、転送に失敗した画像が選択されます。
 - [未転送画像を選択] を選ぶと、選択したフォルダに入っている、未転送画像が選択されます。
 - [転送失敗画像を選択 (o-mのみ)] を選ぶと、選択したフォルダに入っている、転送に失敗したプロテクト画像が選択されます。
 - [未転送画像を選択 (o-mのみ)] を選ぶと、選択したフォルダに入っている、未転送のプロテクト画像が選択されます。
 - [転送履歴をクリア] を選ぶと、選択したフォルダに入っている画像の転送履歴が消去されます。
 - 転送履歴を消去してから [未転送画像を選択] を選ぶと、フォルダに入っているすべての画像をもう一度転送することができます。
 - 転送履歴を消去してから [未転送画像を選択 (o-mのみ)] を選ぶと、フォルダに入っているすべてのプロテクト画像をもう一度転送することができます。
- フォルダを選びます。

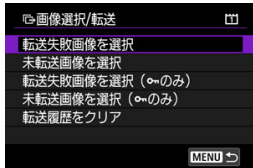


- [OK] を選ぶと、選択した画像がパソコンに転送されます。

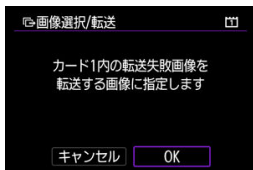


カード内

- [全画像] を選びます。
- 使用したい選択方法を選びます。



- [転送失敗画像を選択] を選ぶと、カードに記録されている、転送に失敗した画像が選択されます。
 - [未転送画像を選択] を選ぶと、カードに記録されている、未転送画像が選択されます。
 - [転送失敗画像を選択 (0nのみ)] を選ぶと、カードに記録されている、転送に失敗したプロテクト画像が選択されます。
 - [未転送画像を選択 (0nのみ)] を選ぶと、カードに記録されている、未転送のプロテクト画像が選択されます。
 - [転送履歴をクリア] を選ぶと、カードに記録されている画像の転送履歴が消去されます。
 - 転送履歴を消去してから [未転送画像を選択] を選ぶと、カードに記録されているすべての画像をもう一度転送することができます。
 - 転送履歴を消去してから [未転送画像を選択 (0nのみ)] を選ぶと、カードに記録されているすべてのプロテクト画像をもう一度転送することができます。
- [OK] を選ぶと、選択した画像がパソコンに転送されます。

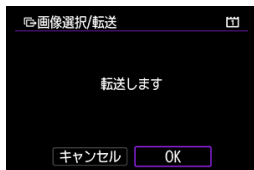


範囲指定

- 【範囲指定】を選びます。
- 始めの画像（始点）と終わりの画像（終点）を選ぶと、始点から終点までの範囲の画像に [✓] が表示され、1画像1枚で転送指定されます。
- 画像の選択が終了したら「MENU」を押します。



- 【OK】を選ぶと、選択した画像がパソコンに転送されます。



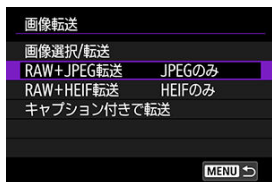
RAW+JPEG／RAW+HEIFで撮影した画像を転送するとき

RAW+JPEGやRAW+HEIFで撮影した画像をどのように転送するか、設定することができます。

1. [📶: 画像転送] を選ぶ



2. 転送する画像のタイプを選ぶ



● RAW+JPEG転送



- [RAW+JPEG転送] を選び、[JPEGのみ] [RAWのみ] [RAW+JPEG] から選びます。

● RAW+HEIF転送




- [RAW+HEIF転送] を選び、[HEIFのみ] [RAWのみ] [RAW+HEIF] から選びます。

⚠ 注意

- 画像転送中は操作できないメニュー項目があります。

📖 参考

- この設定は、[転送画像サイズタイプ] 画面の [RAW+JPEG転送] [RAW+HEIF転送] の設定と連動して切り換わります (🔗)。
- ライブビュー撮影/動画撮影スイッチを「」にすると、その間、画像転送が中断されます。

キャプションの作成と登録

[キャプション付きで転送する](#)で利用するキャプションを作成し、カメラに設定することができます。

1. EOS Utilityを起動して【カメラの設定】を選ぶ



2. 【WFTキャプション】を選ぶ



3. キャプションを入力する

「キャプション付きで転送」に使用する文字列を登録します。

1	<input type="text" value="Canon"/>
2	<input type="text" value="1"/>
3	<input type="text" value="2"/>
4	<input type="text" value="3"/>

- ASCII (アスキー) 文字を31文字まで入力できます。
- 【設定取得】を選ぶと、カメラに設定されているキャプションデータを取得します。

4. キャプションをカメラに設定する

13 12
14 13
15 14

設定取得 **カメラに登録** 閉じる

- **【カメラに登録】** を選ぶと、作成したキャプションがカメラに設定されます。

Browser Remoteでカメラ操作

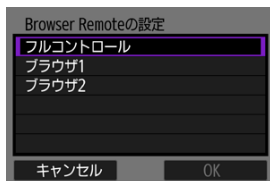
- [Browser Remoteの接続設定を行う](#)
- [Browser Remoteを表示する](#)
- [画像を閲覧する](#)
- [リモート撮影する](#)
- [IPTC情報を登録する](#)
- [FTPサーバーの設定を行う](#)
- [キャプションの作成と登録](#)

Webブラウザを利用して、パソコンやスマートフォンなどでカメラ内の画像の閲覧や保存、カメラのリモート撮影などができます。

Browser Remoteの接続設定を行う

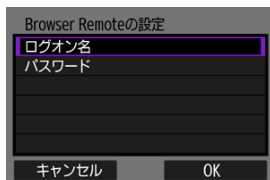
この項では、[通信機能に応じた設定を行う](#)からの続きを説明しています。パソコンからカメラに接続するための、ログオン名とパスワードを設定します。ここで設定したログオン名とパスワードは、カメラに接続する際に使用します。

1. [フルコントロール] または [ブラウザ*] を選ぶ



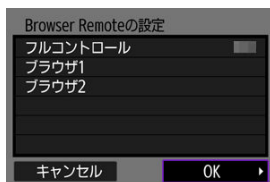
- Browser Remoteには、同時に3台のパソコンから接続できます。
- **[フルコントロール]** は、Browser Remoteのすべての機能が使用できるアカウントです。1台のみ利用できます。
- **[ブラウザ*]** は、カメラ内の画像の閲覧とパソコンへの保存のみ利用できるアカウントです。最大2台まで利用できます。

2. [ログオン名] または [パスワード] を設定する



- [ログオン名] または [パスワード] を選んで仮想キーボード (⌨) を表示し、ログオン名とパスワードを入力します。
- [OK] を選ぶと、手順1の画面に戻ります。利用するアカウントに対して、手順1～2の操作を行います。

3. [OK] を選ぶ



4. [OK] を選ぶ



5. [OK] を選ぶ



- [ネットワーク設定] 画面に戻ります。
- 設定した内容はカメラに保存されます。

これでBrowser Remoteの接続設定は完了です。

参考

- WFTアカウントの設定は [接続オプション設定] で [Browser Remoteの設定] を選び、[WFTアカウント] 画面 (🔗) で変更することができます。また、ポート番号の設定は、[Browser Remoteの設定] 画面で [ポート番号(HTTP)] または [ポート番号(HTTPS)] を選ぶと変更することができます。なお、通常、ポート番号 (HTTP : 80、HTTPS : 443) の変更は必要ありません。

Browser Remoteを表示する

Webブラウザからカメラ内の「Browser Remote」にログオンします。あらかじめカメラとパソコンを有線LANで接続しておきます。

カメラのIPアドレスを確認する

Webブラウザからカメラに接続するためには、手順5で表示されるカメラのIPアドレスを、WebブラウザのURL入力欄に設定する必要があります。

1. [ネットワーク設定] を選ぶ



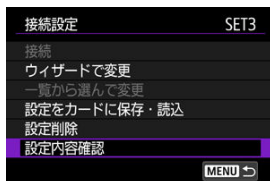
2. [接続設定] を選ぶ



3. [SET* Browser Remote] を選ぶ

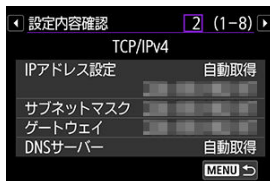


4. 「設定内容確認」を選ぶ



- 設定内容が表示されます。

5. 設定内容を確認する



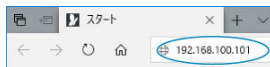
- <⏪> でページを切り換えます。
- IPアドレスを書きとめておきます。
- 確認したら、<MENU> ボタンを押して確認画面を終了します。

Browser Remoteにログオンする

6. Webブラウザを起動する

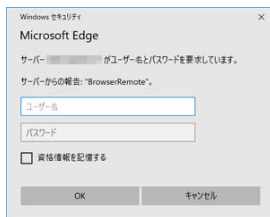
- パソコンのWebブラウザを起動します。

7. URLを入力する



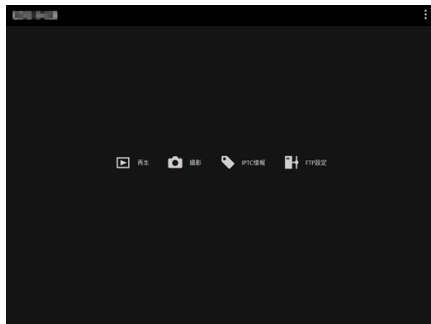
- URLの入力欄に、手順5で書きとめたIPアドレスを入力します。
- <Enter> キーを押します。

8. [ログオン名] と [パスワード] を入力する



- [Browser Remoteの接続設定を行う](#) で設定した [ログオン名] (ユーザー名) と [パスワード] を入力します。
- [OK] を押すとBrowser Remoteのトップメニュー画面が表示されます。

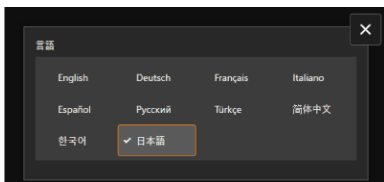
9. 必要に応じて初期設定を行う



- [⋮] を選ぶと、メニューが表示されます。

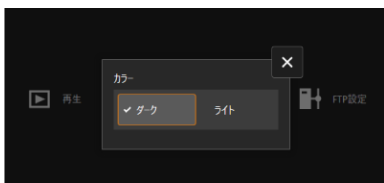


- 言語



表示言語を選ぶことができます。

- スタイル



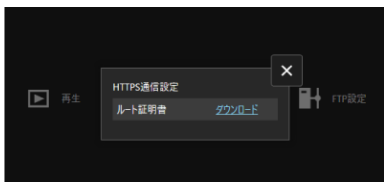
Browser Remoteの背景色を設定することができます。[ダーク] [ライト] から選びます。

- 静止画撮影時のAF



手順9の画面で [撮影] を選んだときに表示されます。静止画撮影時のオートフォーカスの操作方法を設定することができます。[AFボタン] [シャッターボタンでAF/撮影] から選びます。

- セキュリティー通信



HTTPS通信でFTPサーバーと接続している場合に、ルート証明書のダウンロードやFTPサーバーへのアクセス確認を行うことができます。

- ログアウト

Browser Remoteへの接続を終了するときに押します。

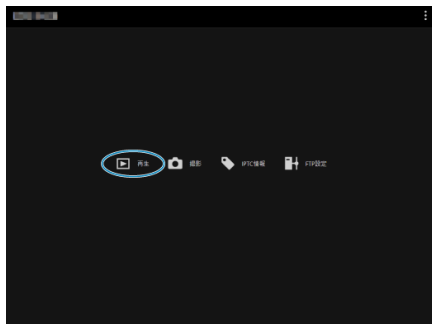
! 注意

- WebブラウザがJavaScriptに非対応のときは、Browser Remoteは使用できません。
- 接続中は操作できないメニュー項目があります。

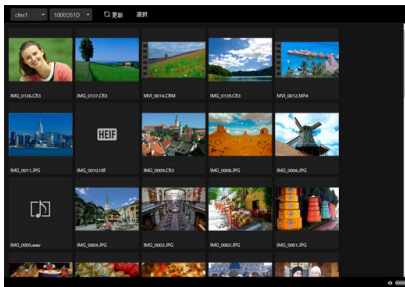
画像を閲覧する

カメラ内のカードに入っている画像を閲覧することができます。

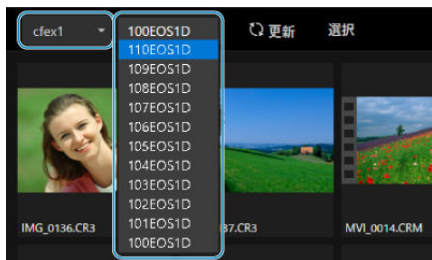
1. [再生] を選ぶ



- 画像の閲覧画面が表示されます。

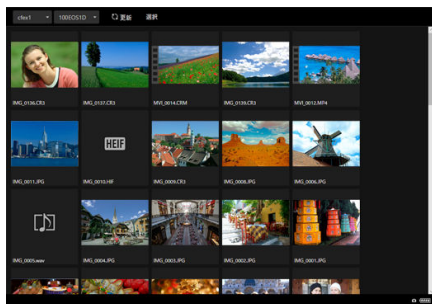


2. カードとフォルダを選ぶ

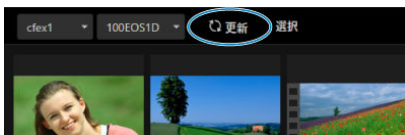


- 左側のプルダウンからカードを選びます。
- 右側のプルダウンからフォルダを選びます。

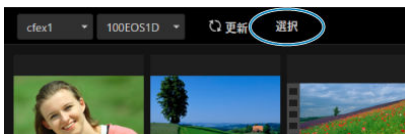
3. 画像を操作する



- **[更新]** を選ぶと、追加された画像が表示されます。



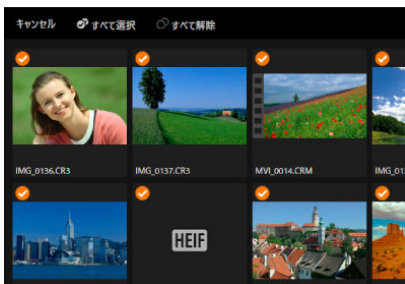
- **[選択]** を選ぶと、複数の画像を選択できる状態になります。



サムネイルを選ぶと、個別に画像を選択します。もう一度サムネイルを選ぶと、選択を解除します。

[すべて選択] を選ぶと、閲覧画面内のすべての画像を選択します。

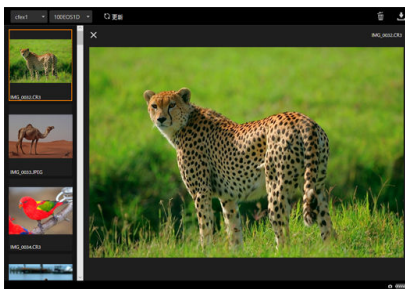
[すべて解除] を選ぶと、選択をすべて解除します。



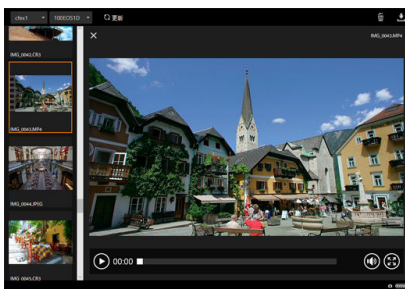
[キャンセル] を選ぶと、閲覧画面に戻ります。

- サムネイル画像を選ぶと、再生画面に切り替わり画像が大きく表示されます。

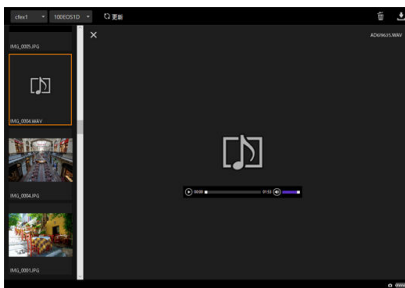
静止画の再生画面



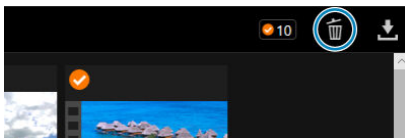
動画の再生画面



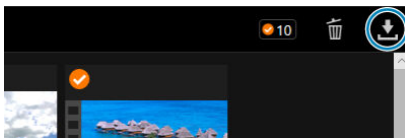
音声の再生画面



- 画像を選んで [🗑️] を選ぶと削除します。



- 画像を選んで [📄] を選ぶと、パソコンにファイルをダウンロードします。



📄 参考

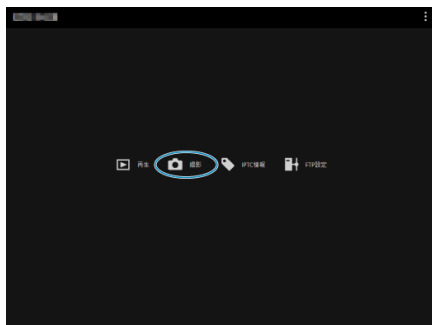
- パソコンの性能や、使用するブラウザーなどによっては、「映像が表示できない」「映像の表示速度が遅い」「画像を機器に取り込むことができない」場合があります。

リモート撮影する

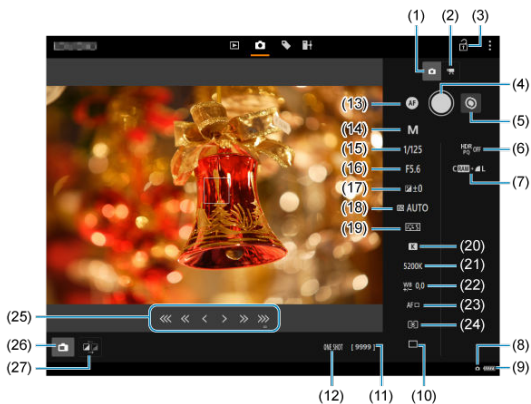
Browser Remoteでリモート撮影を行うことができます。

静止画を撮影する

1. [撮影] を選ぶ

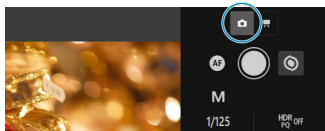


- リモート撮影画面が表示されます。



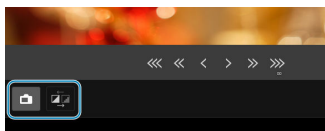
-
- (1) 静止画撮影ボタン
 - (2) 動画撮影ボタン
 - (3) マルチ電子ロックアイコン
 - (4) シャッターボタン
 - (5) MF切り換えボタン
 - (6) HDR撮影
 - (7) 記録画質
 - (8) Browser Remote接続
 - (9) バッテリー残量
 - (10) ドライブモード
 - (11) 撮影可能枚数
 - (12) AF動作
 - (13) AFボタン
 - (14) 撮影モード
 - (15) シャッター速度
 - (16) 絞り数値
 - (17) 露出補正
 - (18) ISO感度
 - (19) ピクチャースタイル
 - (20) ホワイトバランス
 - (21) 色温度数値
 - (22) ホワイトバランス補正
 - (23) AF方式
 - (24) 測光モード
 - (25) MFボタン
 - (26) ライブビュー撮影ボタン
 - (27) ライブビュー画質切り換えボタン
-

2. 「(1) 静止画撮影ボタン」を選ぶ



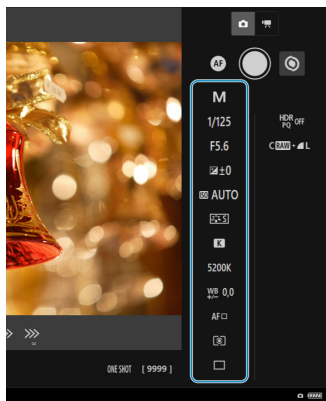
3. レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉に設定する

4. ライブビュー映像を表示する



- 「(26) ライブビュー撮影ボタン」を選んで、ライブビューの表示/非表示を切り換えることができます。
- ライブビュー映像の応答性を速くしたいときは、「(27) ライブビュー画質切り換えボタン」を選ぶと、ライブビュー映像の画質が下がり、応答性が速くなります。もう一度選ぶと元の画質に戻ります。

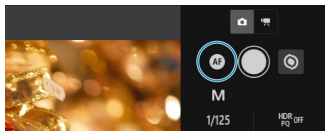
5. 撮影機能を設定する



- 記録画質などの項目を選ぶと、その内容が表示され、設定を行うことができます。
- 必要な設定を行います。

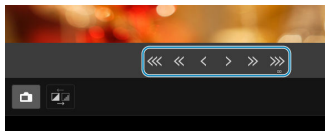
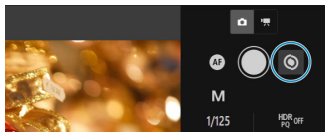
6. ピントを合わせる

自動でピントを合わせる場合



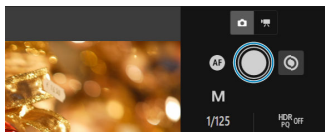
- メニューの「静止画撮影時のAF」で「AFボタン」が選択されている場合は、「(13) AFボタン」を選ぶとAFが行われます。
- メニューの「静止画撮影時のAF」で「シャッターボタンでAF/撮影」が選択されている場合は、撮影時に「(4)シャッターボタン」を選んで「離すと」、AFが行われます。

手動でピントを合わせる場合




- 「(5) MF切り換えボタン」を選んで、「(25) MFボタン」の表示/非表示を切り換えることができます。
- 「(25) MFボタン」を選んでピント合わせを行います。[<<< < > >>>] は近距離側、[> >>>] は遠距離側にピントが移動します。
- ピントの移動量は3段階から選ぶことができます。
 - [<<<] [>>>] : 大
 - [<<] [>>] : 中
 - [<] [>] : 小

7. 撮影する



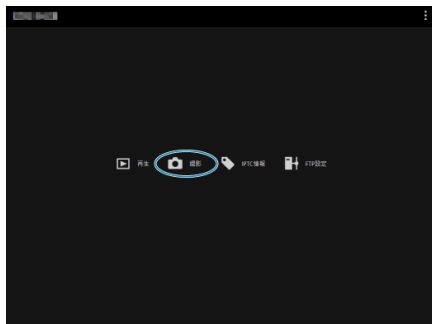
- 「(4) シャッターボタン」を選んで「離すと」、撮影されます。
- 撮影した画像は、カメラ内のカードに保存されます。
- 画像を閲覧したり取り込むときは、[画像を閲覧する](#)を参照してください。

⚠ 注意

- 通信状態によっては、映像の表示が遅れたり、リリースのタイミングが遅れることがあります。
- カメラのライブビュー撮影／動画撮影スイッチが「」のときは、静止画撮影はできません。

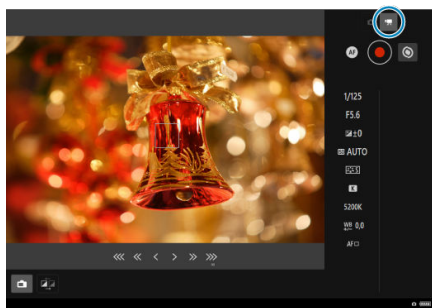
動画を撮影する

1. 「撮影」を選ぶ



- リモート撮影画面が表示されます。

2. 「(2) 動画撮影ボタン」を選ぶ

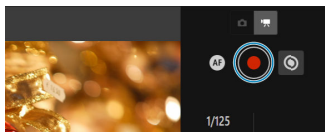


3. 必要な設定を行う

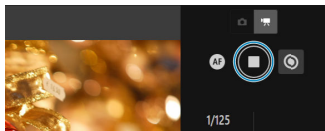
- [静止画を撮影する](#)の手順3～6の操作を行います。

4. 撮影する

動画撮影待機中



動画撮影中



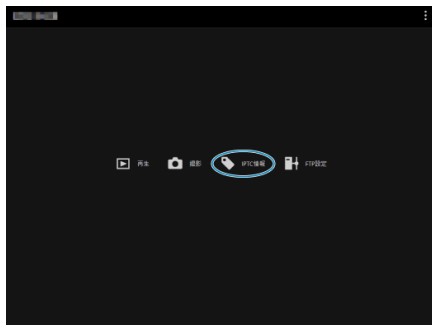
- 「(4) シャッターボタン」を選んで「離すと」、動画撮影が始まります。
- 動画撮影中は、「(4) シャッターボタン」の表示が赤い [○] から白い [□] に変わります。
- もう一度「(4) シャッターボタン」を選んで「離すと」、動画撮影が終了します。

IPTC情報を登録する

カメラ内のIPTC*情報（キャプションやクレジット、撮影場所などのコメント情報）を編集して登録することができます。カメラに登録したIPTC情報は、撮影した画像に付加することができます。

* International Press Telecommunications Council : 国際新聞通信委員会

1. [IPTC情報] を選ぶ



- IPTC情報の編集画面が表示されます。

A screenshot of the IPTC information editing screen. It is divided into two main sections: '画像の内容' (Image Content) and '画像の権利' (Image Rights).
Under '画像の内容':

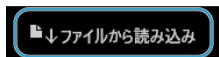
- 題名 (Title): []
- 撮影日 (Date): []
- 撮影場所 (Location): []
- キーワード (Keywords): []
- 人物 (People): []
- IPTCキーワード (IPTC Keywords): []

Under '画像の権利':

- 作成者 (Author): []
- 作成者ID (Author ID): []
- 著作権 (Copyright): []
- 権利者ID (Rights Holder ID): []
- 著作権者 (Copyright Holder): []
- 著作権者ID (Copyright Holder ID): []

At the bottom, there is a field for '保存時に実行する操作' (Operation to perform when saving): []

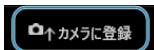
2. [ファイルから読み込み] を選ぶ



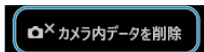
- [ファイルから読み込み] を選ぶと、EOS Utilityで保存したIPTC情報（XMP形式）を読み込むことができます。

3. 必要に応じて編集と登録を行う

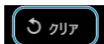
- [カメラに登録] を選ぶと、IPTC情報の編集内容がカメラに反映されません。



- [ON : IPTC情報の付加] も [ON] に設定されます。
- [カメラ内データを削除] を選ぶと、カメラに登録されているすべてのIPTC情報が削除されます。



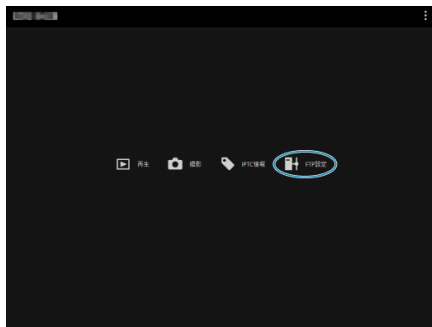
- [ON : IPTC情報の付加] も [OFF] に設定されます。
- [クリア] を選ぶと、IPTC情報がすべて空欄になります。



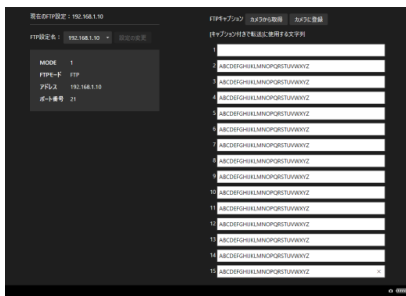
FTPサーバーの設定を行う

リモート撮影時にFTP転送を行う場合、カメラの接続設定 (🔗) を利用して転送先のFTPサーバーを変更することができます。

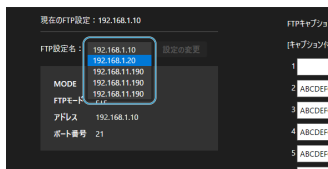
1. [FTP設定] を選ぶ



- FTP設定の画面が表示されます。



2. 利用したいFTPサーバーが登録されている接続設定を選ぶ



3. [設定の変更] を選ぶ

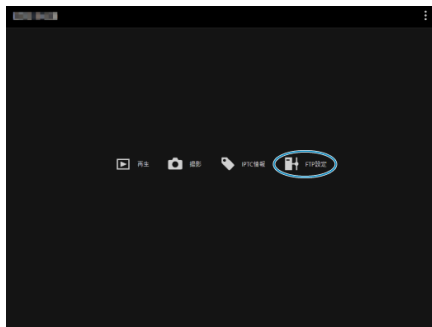


- カメラの接続設定が、選択した設定に切り替わります。

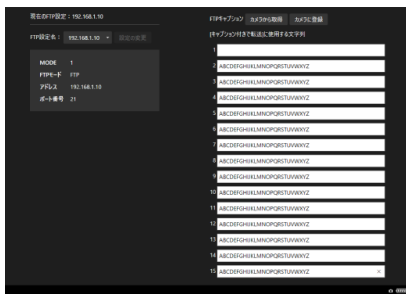
キャプションの作成と登録

[キャプション付きで転送する](#)で利用するキャプションを作成し、カメラに設定することができます。

1. [FTP設定] を選ぶ



- FTP設定の画面が表示されます。



2. キャプションを入力する



- ASCII（アスキー）文字を31文字まで入力できます。
- [カメラから取得] を選ぶと、カメラに設定されているキャプションデータを取得します。

3. キャプションをカメラに設定する



- [カメラに登録] を選ぶと、作成したキャプションがカメラに設定されます。

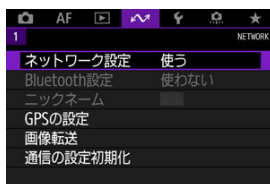
接続の終了と再接続

[接続を終了する](#)

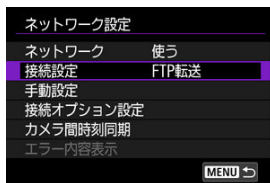
[再接続する](#)

接続を終了する

1. [ネットワーク設定] を選ぶ



2. [接続設定] を選ぶ

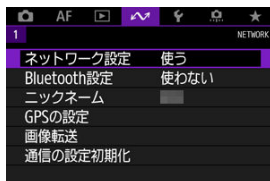


3. [通信切] を選ぶ

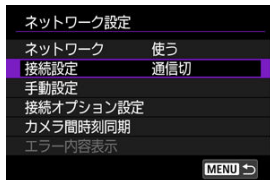


- 接続が終了します。

1. [W: ネットワーク設定] を選ぶ



2. [接続設定] を選ぶ

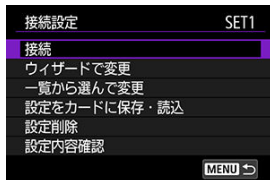


3. [SET*] を選ぶ

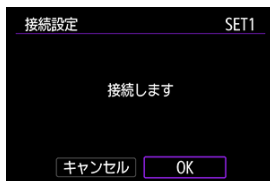


- 保存した設定の中から、接続する設定を選びます。

4. [接続] を選ぶ



5. [OK] を選ぶ



- 再接続します。
- 接続先の機器で設定を変更しているときは、カメラに接続するように設定し直してください。

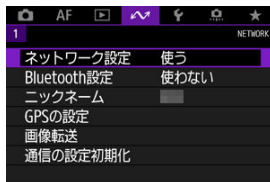
ネットワーク設定の確認と操作

- [接続設定を確認・編集する](#)
- [手動で接続設定を編集する](#)
- [接続オプションを設定する](#)
- [MACアドレスを確認する](#)

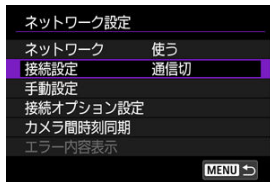
接続設定を確認・編集する

カメラに保存されている接続設定の確認や変更、削除を行います。

1. [📶: ネットワーク設定] を選ぶ



2. [接続設定] を選ぶ

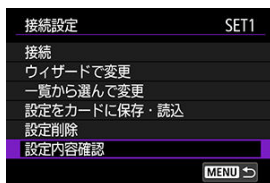


3. [SET*] を選ぶ

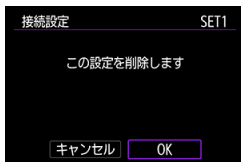


- 保存した設定の中から、接続する設定を選びます。

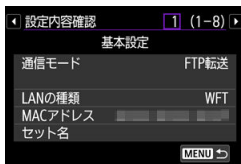
4. 設定の確認や変更を行う



- **接続**
 - 再接続するときを選びます (🔗)。
- **ウィザードで変更／一覧から選んで変更**
 - 接続設定の内容を変更します (🔗)。
- **設定をカードに保存・読込**
 - 接続設定をカードに保存したり、カードに保存した接続設定をカメラに読み込むことができます (🔗)。
- **設定削除**
 - 接続設定を削除するときを選びます。



- [OK] を選ぶと、設定が削除されます。
- **設定内容確認**
 - 接続設定の内容を確認したいときを選びます。



接続設定の変更

接続ウィザードで設定した内容を変更することができます。

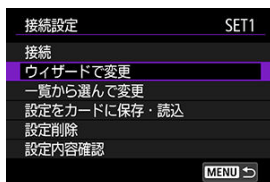
ウィザードで変更

接続ウィザードに従って、カメラに保存されている接続設定の内容を変更することができます。

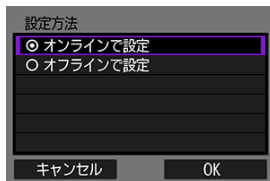
1. [接続設定] 画面を表示する

- [接続設定を確認・編集する](#)の手順1～3の操作を行います。

2. [ウィザードで変更] を選ぶ



3. 接続ウィザードに従って、設定内容を変更する



- [接続ウィザードを表示する](#)以降の操作を参照してください。

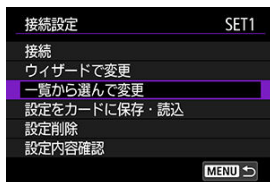
一覧から選んで変更

カメラに保存されている通信設定や機能設定を利用して、カメラに保存されている接続設定の内容を変更することができます。セット名を登録することもできます。

1. [接続設定] 画面を表示する

- [接続設定を確認・編集する](#)の手順1～3の操作を行います。

2. [一覧から選んで変更] を選ぶ



3. 項目を選んで設定内容を変更する



● セット名

- 設定に名前を付けたいときに選びます。仮想キーボード (⌨) を操作して、文字を入力します。

● NW*／通信設定*

- 通信設定を変更または追加、解除したいときに選びます。



- [一覧から選択] を選ぶと、カメラに保存されている通信設定が一覧表示されます。使用する通信設定を選びます。
- [選択解除] を選ぶと、接続設定に登録されている通信設定を解除します。確認画面で [OK] を選びます。

● MODE*／機能設定*

- 機能設定を変更または追加、解除したいときに選びます。



- [一覧から選択] を選ぶと、カメラに保存されている機能設定が一覧表示されます。使用する機能設定を選びます。
- [選択解除] を選ぶと、接続設定に登録されている機能設定を解除します。確認画面で [OK] を選びます。

参考

- 1つの接続設定に、通信設定と機能設定を2件ずつ登録することができます。
- すべての機能設定を解除すると通信設定も解除され、接続設定が [未設定] になります。

設定内容の保存と読み込み

接続設定をカードに保存して、ほかのカメラに適用することができます。また、ほかのカメラで設定した接続設定を、使用するカメラに適用することができます。

参考

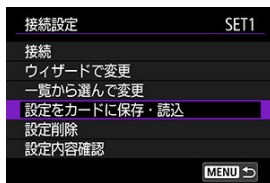
- [📌: カメラ設定をカードに保存・読み込] で、カメラ内のすべての通信設定のカードへの保存や、他カメラ内のすべての通信設定のカードからの読み込みを行うことができます。

設定内容を保存する

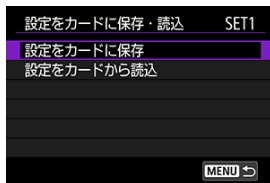
1. [接続設定] 画面を表示する

- [接続設定を確認・編集する](#)の手順1～3の操作を行います。

2. [設定をカードに保存・読み込] を選ぶ



3. [設定をカードに保存] を選ぶ



4. [OK] を選ぶ



- ファイル名は、WFTNPF01～40.NIFまでカメラが自動的に設定します。〈INFO〉ボタンを押すと、ファイル名を任意に設定することができます。
- カードに設定内容が保存されます。
- 設定内容のファイルは、カードを開いたところ（ルートディレクトリ上）に保存されます。

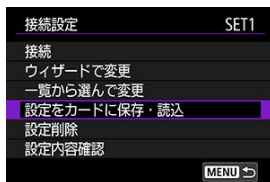
⚠ 注意

- 1つのカードにカメラで保存できる設定内容のファイルは、40個までです。41個以上カードに保存する場合は、別のカードに保存してください。

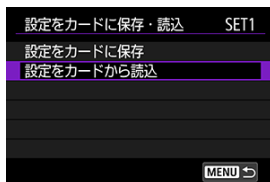
1. [接続設定] 画面を表示する

- [接続設定を確認・編集する](#)の手順1～3の操作を行います。

2. [設定をカードに保存・読込] を選ぶ



3. [設定をカードから読込] を選ぶ



4. 設定ファイルを選ぶ



- 使用するネットワーク環境に合った設定ファイルを選びます。

5. [OK] を選ぶ



- 選択しているセット番号に、設定ファイルの内容が読み込まれます。

⚠ 注意

- パソコンなどで、カードに設定内容のファイルを41個以上保存しても、カメラの読み込み画面では40個までしか表示できません。41個以上読み込む場合は、先に読み込んだ設定内容のファイルが入っていないカードを使用して、残りの設定内容のファイルを読み込んでください。

📖 参考

- [📷 : カメラ設定をカードに保存・読込] で、カメラ内のすべての通信設定のカードへの保存や、他カメラ内のすべての通信設定のカードからの読み込みを行うことができます。

手動で接続設定を編集する

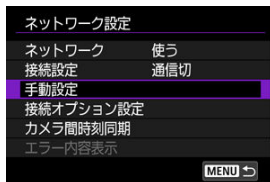
カメラに保存されている通信設定や機能設定の追加や変更、削除を行うことができます。接続ウィザードでは設定できない、FTPサーバーに同名のファイルが転送されたときの設定などを行うこともできます。

通信設定の編集

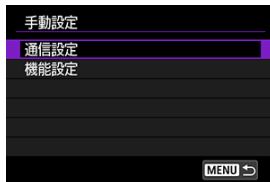
1. [🏠: ネットワーク設定] を選ぶ



2. [手動設定] を選ぶ



3. [通信設定] を選ぶ



4. [NW*] を選ぶ



- [未設定] または、保存されている設定の中から編集する設定を選びます。

5. 設定の変更/削除/確認を行う



● 設定変更

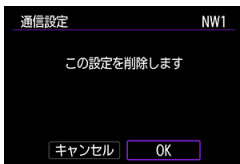
- 通信設定の内容を個別に変更したいときに選びます。



- [無線LAN] を選ぶと、接続先のSSIDの変更などを行うことができます。
- [TCP/IPv4] を選ぶと、IPアドレスの設定など、ネットワークに関する設定を行うことができます。
- [TCP/IPv6] を選ぶと、IPv6を使用するための設定を行うことができます (🔗)。
- 通信設定によっては、表示されない項目があります。

● 設定削除

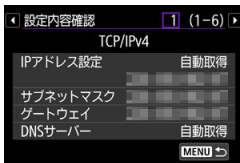
- 通信設定を削除するときに選びます。



- [OK] を選ぶと、設定が削除されます。

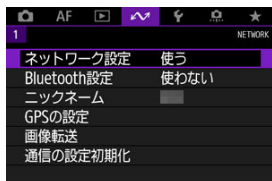
● 設定内容確認

- 通信設定の内容を確認したいときに選びます。

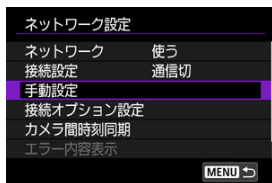


機能設定の編集

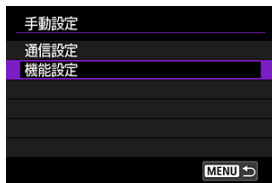
1. [📶: ネットワーク設定] を選ぶ



2. [手動設定] を選ぶ



3. [機能設定] を選ぶ



4. [MODE*] を選ぶ



- [未設定] または、保存されている設定の中から編集する設定を選びます。

5. 設定の変更/削除/確認を行う



● 設定変更

- 編集中の設定がFTP転送の場合にのみ選択できます。
- [FTPサーバー] を選ぶと、FTPサーバーに関する設定を行うことができます。



[転送先フォルダの階層について](#)

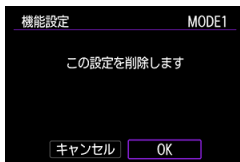
[同名ファイルの上書きについて](#)

[パッシブモードについて](#)

[送信先サーバーの信頼について](#)

● 設定削除

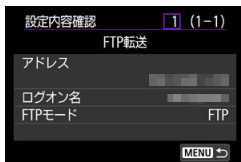
- 機能設定を削除するときに選びます。



- [OK] を選ぶと、設定が削除されます。

● **設定内容確認**

- 機能設定の内容を確認したいときに選びます。



転送先フォルダの階層について

[FTPサーバー] の [転送先フォルダの階層] で設定します。

[初期設定] では、転送先のルートフォルダを開いたところに画像を保存します。なお、[転送先フォルダ] の設定でルートフォルダの下にフォルダを作成しているときは、そのフォルダの中に画像を保存します。

[カメラ] を選択すると、転送先のルートフォルダ内に、カメラと同じ「A/DCIM/100EOS1D」というようなフォルダ階層を自動作成して、その中に画像を保存します。なお、[転送先フォルダ] の設定でルートフォルダの下にフォルダを作成しているときは、そのフォルダの中に「A/DCIM/100EOS1D」というようなフォルダ階層を自動作成して、その中に画像を保存します。

同名ファイルの上書きについて

[FTPサーバー] の [同名ファイルの上書き] で設定します。

[同名ファイルの上書き] を [しない] に設定している場合

FTPサーバーの保存先フォルダに同名ファイルが存在する場合は、ファイル名の最後にアンダーバー付きの数字 (例: IMG_0003_1.JPG) が付けられて保存されます。

転送失敗画像を再転送する場合

同名ファイルの上書きをする設定で、転送失敗画像を再転送すると、上書き保存されない場合があります。この場合は、ファイル名の最後にアンダーバー付きのアルファベットと数字 (例: IMG_0003_a1.JPG) が付けられて保存されます。

パッシブモードについて

[FTPサーバー] の [パッシブモード] で設定します。

ネットワーク環境の中にファイアウォールが設置されているときに設定します。「エラー 41: FTPサーバーに接続できません」という状態のときに、パッシブモードを [使う] 設定にすると、FTPサーバーに接続できることがあります。

送信先サーバーの信頼について

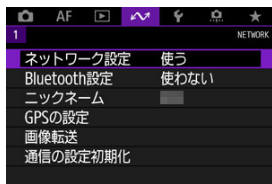
[FTPサーバー] の [送信先サーバーを信頼] で設定します。

使用するルート証明書で、接続先サーバーが信頼できなかったときでも、FTPサーバーに接続したい場合は、[する] に設定します。なお、その場合はセキュリティに注意してください。

接続オプションを設定する

FTP転送やBrowser Remoteを使用するための設定を行うことができます。また、LAN環境で802.1X認証を利用している場合の認証情報を設定することができます。

1. [ネットワーク設定] を選ぶ



2. [接続オプション設定] を選ぶ



3. 設定したい項目を選ぶ



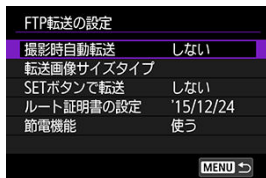
[FTP転送の設定](#)

[Browser Remoteの設定](#)

[802.1X認証の設定](#)

FTP転送の設定

[FTP転送の設定] を選ぶと、FTP転送に関する設定や節電機能の設定を行うことができます。



● 撮影時自動転送／転送画像サイズタイプ／SETボタンで転送／ルート証明書の設定

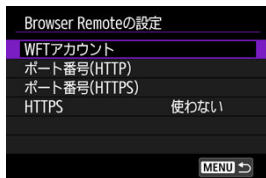
- 詳しくは、[FTPサーバーへの画像転送](#)を参照してください。

● 節電機能

- [使う] を設定したときは、一定期間転送を行わないと、FTPサーバーからログオフしてLANを休止します。画像転送が行われる状態になると、自動的に再接続します。LANを休止させたくないときは、[使わない] に設定してください。

Browser Remoteの設定

[**Browser Remoteの設定**] を選ぶと、Browser Remoteへのアクセス時に使用するWFTアカウントの設定やHTTP/HTTPS通信の設定を行うことができます。



● WFTアカウント

- 詳しくは、[Browser Remoteの接続設定を行う](#)を参照してください。

● ポート番号(HTTP)/ポート番号(HTTPS)

- HTTP/HTTPS通信用のポート番号を変更することができます。通常、ポート番号 (HTTP : 80、HTTPS : 443) の変更は必要ありません。

● HTTPS

- [**使う**] を選ぶと、Browser RemoteにHTTPS通信でアクセスできるようになります。

802.1X認証の設定

[802.1X認証の設定] を選ぶと、設定ウィザードで802.1X認証の設定をしたり、設定内容の確認や削除を行うことができます。

802.1X認証が必要なネットワークに接続する場合に設定します。

使用する802.1X認証方式で必要となる証明書を、あらかじめカメラに挿入するカードに保存してから操作してください。

本機で読み込みが可能な、ファイルの種類とファイル名は以下のとおりです。

種類	ファイル名
ルート証明書	8021X_R.CER
	8021X_R.CRT
	8021X_R.PEM
クライアント証明書	8021X_C.CER
	8021X_C.CRT
	8021X_C.PEM
秘密鍵	8021X_C.KEY

なお、本機の対応プロトコルは以下のとおりです。

プロトコル	サポート認証方式
EAP-TLS	X.509
EAP-TTLS	MS-CHAP v2
PEAP	MS-CHAP v2



● **設定ウィザード**

- ウィザードに従って、認証設定を行います。

● **設定内容確認**

- 認証設定の内容を確認したいときに選びます。

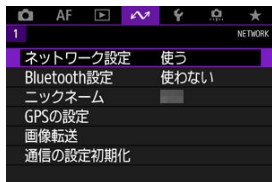
● **設定削除**

- 認証設定を削除するときに選びます。表示画面で **[OK]** を選ぶと、設定が削除されます。

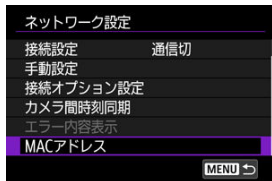
MACアドレスを確認する

本機のMACアドレスを確認することができます。

1. [ネットワーク設定] を選ぶ



2. [MACアドレス] を選ぶ



3. MACアドレスを確認する



- [Wi-Fi]、[有線LAN] のMACアドレスが表示されます。

カメラ間時刻同期

[時刻同期の準備](#)

[時刻を同期させる](#)

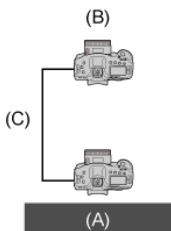
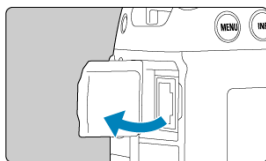
センターカメラの時刻を、最大10台までのレシーバーカメラに設定することができます。ただし、時刻同期を行っても、センターカメラとレシーバーカメラの時刻誤差が最大 ± 0.05 秒生じます。

注意

- カメラ間時刻同期は、必ず同じ機種のカメラ同士で行ってください。センターカメラとレシーバーカメラの機種が異なっていると、レシーバーカメラへの時刻同期ができません。
- 2038年以降は、本機能を使用することはできません。

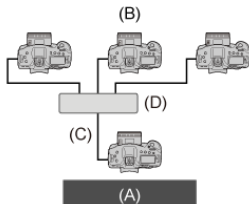
時刻同期の準備

レシーバーカメラが1台のときは、センターカメラとレシーバーカメラのEthernet用端子をLANケーブルで接続します。



- (A) センターカメラ
- (B) レシーバーカメラ
- (C) LANケーブル

レシーバーカメラが複数のときは、センターカメラおよびレシーバーカメラのEthernet用端子とハブをLANケーブルで接続します。レシーバーカメラは10台まで接続可能です。



- (A) センターカメラ
- (B) レシーバーカメラ
- (C) LANケーブル
- (D) ハブ

LANケーブルはギガビット対応でシールド性能の高い、カテゴリ5e以上のSTP (Shielded Twisted Pair) ケーブルを使用してください。

時刻を同期させる

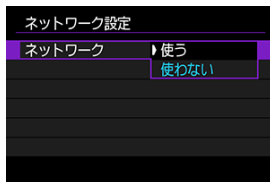
センダーカメラを準備する

はじめに、センダーにするカメラを操作して設定します。

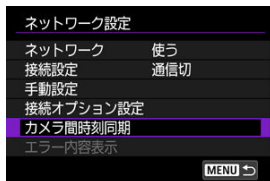
1. カメラの〈MENU〉ボタンを押す
2. [ネットワーク設定] を選ぶ



3. [使う] を選ぶ

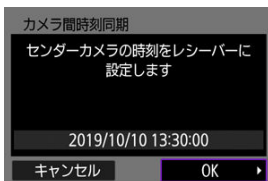


4. [カメラ間時刻同期] を選ぶ



- ほかの機器と接続中のときは [[接続設定]を[通信切]にします] と表示されます。[OK] を選んで接続を終了します。

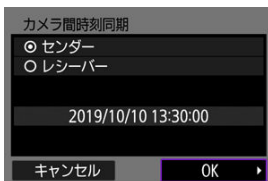
5. [OK] を選ぶ



6. [OK] を選ぶ



7. [センター] を選ぶ

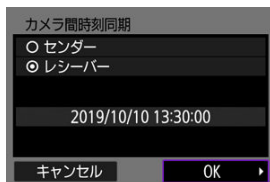


- [OK] を選ぶと、次の画面に進みます。
- 表示される画面で待機します。

レシーバーカメラを準備する

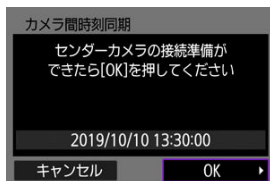
レシーバーにするカメラを操作して設定します。

1. 「センターカメラを準備する」の手順1～6を行う
2. [レシーバー] を選ぶ



- [OK] を選ぶと、次の画面に進みます。

3. [OK] を選ぶ



- 以下の画面が表示されます。

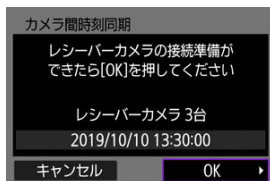


- 複数のレシーバーカメラに時刻を設定するときは、すべてのレシーバーカメラで手順1～2の操作を行います。
- センターカメラのモニターに、検出したレシーバーカメラの台数が表示されます。

センターカメラとレシーバーカメラを同期させる

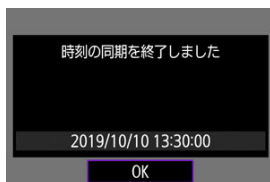
センターカメラとレシーバーカメラを操作して時刻を同期させます。

1. 「センターカメラを準備する」の手順1～6、「レシーバーカメラを準備する」の手順1～3を行う
2. センターカメラで [OK] を選ぶ



- レシーバーカメラの台数を確認し、[OK] を選びます。
- 時刻の同期が行われ、次の画面に進みます。

3. すべてのカメラで [OK] を選ぶ



GPS機能

☑ [GPSの設定](#)

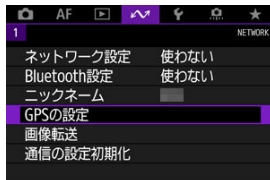
☑ [GPS機能に関するご注意](#)

このカメラに内蔵されたGPS機能を使用して、位置情報の画像への付加や、時刻情報の設定などを行うことができます。なお、このカメラのGPS機能は、GPS衛星（アメリカ）、およびGLONASS衛星（ロシア）、準天頂衛星みちびき（日本）からの信号に対応しています。

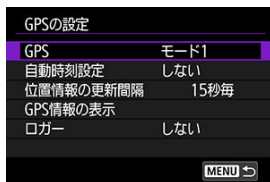
ⓘ 注意

- 次のような環境ではGPS衛星からの信号が正しく受信できないため、位置情報が記録されなかったり、誤差のある位置情報が記録されることがあります。
 - 屋内、地下、トンネルや森の中、ビルなどの近くや谷間
 - 高压電線や1.5GHz帯の携帯電話などの近く
 - カメラをかばんなどに入れて持ち歩いたとき
 - 長い距離を移動したとき
 - 周囲の環境が異なる場所へ移動したとき
- GPS衛星は時間の経過とともに移動するため、上記以外の環境でも位置情報が記録されなかったり、誤差のある位置情報が記録されることがあります。また、同じ場所でカメラを使っても移動した位置情報が記録されることがあります。
- GPSの特性上、標高の精度は、緯度・経度の精度よりも劣ります。
- GPSのアンテナは、アクセサリシューの前方に内蔵されています。なお、外部ストロボを取り付けてもGPS信号を受信することはできませんが、受信感度は少し低下します。
- カメラをバッグなどに入れて持ち歩くときは、カメラの上面を空に向け、カメラの上に物がのらないように収納してください。
- カメラの日付/時刻はできるだけ正確に設定してください。また、エリアとサマータイムは、撮影する地域に対応した設定にしてください。
- GPS信号の受信状態が悪い場所で使用すると、撮影可能枚数が少なくなります。
- GPS機能を使用すると、バッテリーの残量が少なくなることがあります。必要に応じてバッテリーを充電するか、予備のバッテリー（別売）を用意しておくことをおすすめします。
- GPS情報を記録した静止画や動画は、個人を特定できる情報が含まれていることがあります。そのため、GPS情報が記録されている静止画や動画を他人に渡したり、インターネットなど複数の人が閲覧できる環境に掲載するときは、十分注意してください。

1. [📶 : GPSの設定] を選ぶ



2. GPSの詳細な設定を行う



[GPS]

GPSの作動モードを設定します。

- **[モード1]** では、電源スイッチが〈ON〉のときだけでなく、電源スイッチを〈OFF〉にしたときも一定間隔でGPS信号を受信し続けます。
- **[モード2]** では、電源スイッチが〈ON〉のときにGPS信号を受信します。電源スイッチを〈OFF〉にすると、GPS機能もオフになります。ただし、カメラがオートパワーオフ状態のときは、一定間隔でGPS信号を受信し続けます。

GPS信号を受信するときは、空が見通せる屋外でカメラを使用し、カメラに手や物などをのせないようにして、カメラの上面が空に向くようにしてください。受信状態が良いときは、約30秒~60秒で衛星捕捉状態になり、背面の表示パネルまたはモニターに **[GPS]** が点灯します。

[GPS] が点灯した状態で撮影すると、画像に位置情報が付加されます。



⚠ 注意

- **[モード1]** 設定時は、カメラの電源スイッチを〈OFF〉にしても、一定間隔でGPS信号を受信し続けるため、バッテリーが早く消耗して撮影可能枚数が少なくなります。長時間カメラを使用しないときは、**[使わない]** に設定してください。
- **[モード2]** 設定時に、オートパワーオフ状態を長く続けると、バッテリーが早く消耗して撮影可能枚数が少なくなります。長時間カメラを使用しないときは、電源スイッチを〈OFF〉にしてください。

[自動時刻設定]

GPS信号から得られる時刻情報をカメラに設定することができます。なお、誤差は約±0.02秒です。[自動更新]を選ぶと、カメラの電源が入った状態で、GPS信号を受信したときに時刻が更新されます。

⚠ 注意

- GPS衛星を5基以上捕捉できないときは、時刻の自動更新は行われません。また、[今すぐ実行]が灰色に表示されて選択できません。
- [今すぐ実行]が選択できても、GPS衛星の捕捉タイミングによっては、時刻合わせが行われなかったことがあります。
- [自動時刻設定]が[自動更新]に設定されているときは、[📍: 日付/時刻/エリア]の設定 (🔒) で日付/時刻の手動設定はできません。
- [カメラ間時刻同期]を行ったあと、時刻を変えたくないときは、[自動時刻設定]を[しない]に設定してください。

[位置情報の更新間隔]

位置情報の更新間隔（時間）を設定することができます。なお、更新間隔が短いほど撮影時の位置情報が正確に記録されますが、バッテリーが消耗するため撮影可能枚数が少なくなります。

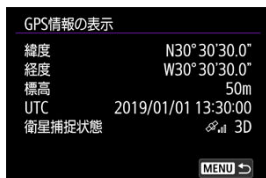
⚠ 注意

- GPSの特性上、更新間隔に誤差が生じます。

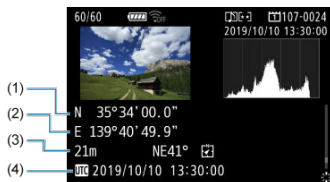
[GPS情報の表示]

取得したGPS情報を表示します。

衛星捕捉状態の $\langle \text{電波状態} \rangle$ は電波状態を示しています。**[3D]**が表示されているときは標高も記録されます。**[2D]**が表示されているときは標高は記録されません。



撮影した画像を再生し、 $\langle \text{INFO} \rangle$ ボタンを押して撮影情報表示の画面を表示した状態で $\langle \text{位置情報} \rangle$ を押すと、位置情報を確認することができます。



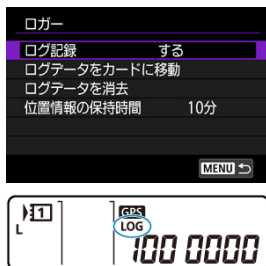
- (1) 緯度
- (2) 経度
- (3) 標高
- (4) 協定世界時 (UTC)

参考

- 動画撮影のときは、撮影を開始したときの位置情報が記録されます。なお、衛星捕捉状態は記録されません。
- 協定世界時 (UTC : Coordinated Universal Time) は、グリニッジ標準時とほぼ同じ時刻です。

ロガー

〔ログ記録〕を〔する〕に設定すると、カメラがたどった位置情報を一定間隔で自動的に記録することができます。位置情報は〔位置情報の更新間隔〕ごとに記録され、日付別のログデータとしてカメラの内蔵メモリーに保存されます。なお、たどった位置情報は、パソコンの地図上で確認することができます。



位置情報の更新間隔と保存できるログデータ日数は下表の通りです。

(約)

更新間隔	ログデータ	更新間隔	ログデータ
1秒毎	4.1日分	30秒毎	100日分
5秒毎	20日分	1分毎	100日分
10秒毎	41日分	2分毎	100日分
15秒毎	61日分	5分毎	100日分

* 1日8時間分のログデータを記録した場合

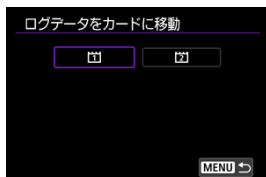
- ログファイルは、日付+番号(19101000など)のファイル名で、1日単位で作成されます。エリア(📍)を変えたときは、新たなログファイルが作成されます。
- 内蔵メモリーがいっぱいになると、古いログデータから順に消去され、新しいログデータが保存されます。

⚠ 注意

- [モード1] のときは、電源スイッチを〈OFF〉にしてもロガー機能が働きます。
- [モード2] のときは、電源スイッチを〈OFF〉にすると、ロガー機能もオフになります。ただし、オートパワーオフ状態のときは、ロガー機能が働きます。
- 移動条件や移動場所、GPS機能の設定により、画像に付加される位置情報が正確でない場合があります。

ログデータをカードに移動する

【ログデータをカードに移動】で指定したカードに、記録されたログデータを移動することができます。



- カードに移動すると、カメラの内蔵メモリーのログデータは消去されます。
- カードに取り込まれたログファイルは、「MISC」フォルダの中にある「GPS」フォルダに入っています。ログファイルの拡張子は「.LOG」です。
- ログファイル（.LOG）はGPS Log File Utility (📧) を使用してKMZファイル形式に変換することができます。

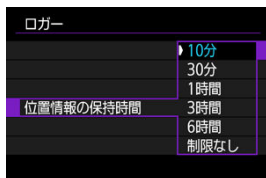
ログデータを消去する

カメラの内蔵メモリーのログデータを消去するときは、【ログデータを消去】で【OK】を選びます。消去には1分程度かかることがあります。

位置情報の保持時間

屋外から屋内に入るなど、衛星からの信号が受信できなくなっても、ログデータに位置情報を画像に付加し続けたいときは、【位置情報の保持時間】を【制限なし】に設定することをおすすめします。新しい位置情報が得られるまでは、最後に受信した位置情報がログデータに付加されます。

【10分】などの時間を設定すると、位置情報が得られなくなってから、設定した時間になるまでは、最後に受信した位置情報がログデータに付加されます。



GPS機能が使える国や地域について

GPS機能の使用は、国や地域ごとの法令等により規制されていることがあるため、違反すると罰せられることがあります。そのため、GPS機能が使用できる国や地域については、キヤノンのホームページで確認してください。

なお、それ以外の国や地域でGPS機能を使用した際のトラブル等については、弊社は一切責任を負いかねます。

- 国や地域によっては、GPS機能の使用などが規制されていることがありますので、お使いになる国や地域の法令等の規制にしたがってご使用ください。国外でGPS機能を使用するときは特に注意してください。
- 電子機器の使用が制限されている場所での使用には十分注意してください。
- GPS機能を使って撮影した静止画や動画に記録されるカメラの位置情報は、個人を特定する情報が含まれていることがあります。そのためGPS機能を使ってカメラの位置情報が記録されている静止画、動画、GPSログファイルを他人に渡したり、インターネットなどの複数の人が閲覧できる環境へ掲載するときは、十分注意してください。
- GPS衛星からの信号を受信するのに時間がかかることがあります。

資料

- ☑ [ニックネームの変更](#)
- ☑ [仮想キーボードの操作方法](#)
- ☑ [IPv6を設定する](#)

ニックネームの変更

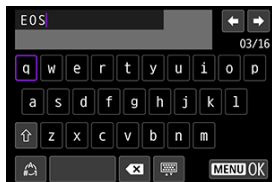
接続する機器で表示される、このカメラのニックネームを変更することができます。

1. [:ニックネーム] を選ぶ

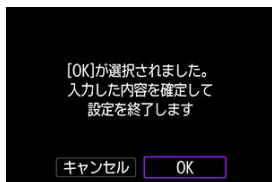


2. [仮想キーボード](#)で文字を入力する

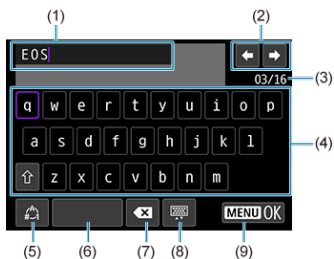
- 入力が終了したら〈MENU〉ボタンを押します。



3. [OK] を選ぶ



仮想キーボードの操作方法



(1) 文字を入力するエリア（入力エリア）

(2) 入力エリアでのカーソルの移動

(3) 入力した文字数/入力できる文字数

(4) キーボード




(5) 入力モードの切り換え


(6) スペース

(7) 入力エリアでの文字の削除

(8) キーボードの種類の変更

(9) 入力の終了

(2)、(4) ~ (8) は    で移動します。

入力する文字の決定や、入力モードの切り換えなどを行うときは  を押します。

IPv6を設定する

IPv6を使用する場合は、設定を手動で行います。

参考

- 設定する内容が分からない場合は、ネットワーク管理者などに問い合わせてください。

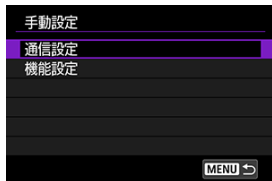
1. [ネットワーク設定] を選ぶ



2. [手動設定] を選ぶ



3. [通信設定] を選ぶ



4. IPv6を使用する通信設定を選ぶ



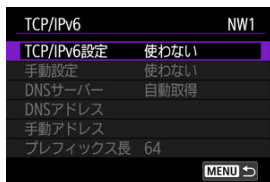
5. 【設定変更】を選ぶ



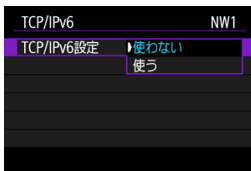
6. 【TCP/IPv6】を選ぶ



7. 設定する項目を選ぶ

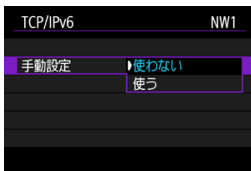


● TCP/IPv6設定



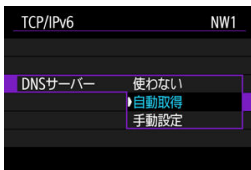
- IPv6を [使う] [使わない] を選びます。

● 手動設定



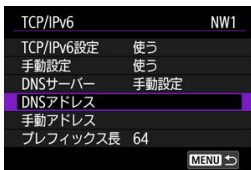
- IPアドレスを手動で設定したいときは、[使う]を選びます。[DNSサーバー]が[手動設定]となり、[DNSアドレス] [手動アドレス] [プレフィックス長] [ゲートウェイ]を設定できるようになります。

● DNSサーバー



- DNSサーバーのIPアドレスを手動で設定したいときは、[手動設定]を選びます。
- DNSサーバーを使用しない場合は、[使わない]を選びます。
- [自動取得]が設定されている場合、[手動設定]で[使う]を選ぶと、[手動設定]が設定されます。

- DNSアドレス/手動アドレス/ゲートウェイ



- 項目を選んでIPアドレスを入力します。



- プレフィックス長




- ◀(⊙) で数値 (1~128) を選び、プレフィックス長を設定します。

トラブルシューティング

- [エラー表示の対応](#)
- [故障かな?と思ったら](#)
- [通信機能での注意事項](#)
- [セキュリティについて](#)
- [ネットワークの設定を確認する](#)

エラー表示の対応

カメラのモニターにエラーが表示されたときは、この項目の対応例を参考にしてエラーの原因を取り除いてください。エラー発生時は本機の〈LAN〉ランプが点滅し、表示パネルにエラー番号が表示されます。なお、エラー内容は、メニューの [ ネットワーク設定] → [**エラー内容表示**] でも確認できます。

下記のエラー番号をクリックすると該当の項目にジャンプします。

11	12						
21	22	23					
41	43	44	45	46	47	48	
61	63	64	65	66	67	68	69
71	72	73					
81	83						
91							

11：接続先が見つかりません

- **[Smartphone] の場合、Camera Connectは起動していますか？**
 - Camera Connectから接続操作を行ってください (🔗)。
- **[EOS Utility] の場合、EOS Utilityは起動していますか？**
 - EOS Utilityを起動して、再度接続操作を行ってください (🔗)。
- **カメラとアクセスポイントで、同じ認証用の暗号キーを設定していますか？**
 - 暗号化の認証方式が [オープン] の設定で、暗号キーを間違えると、このエラーになります。
大文字、小文字の使い分けも確認して、正しい認証用の暗号キーをカメラに設定してください (🔗)。

12：接続先が見つかりません

- **接続先の機器やアクセスポイントの電源は入っていますか？**
 - 接続先の機器やアクセスポイントの電源を入れて、しばらくお待ちください。それでも接続できないときは、再度接続操作を行ってください。

21 : DHCPサーバーからアドレスが割り当てられていません

カメラの確認内容

- カメラの設定がIPアドレス [自動設定] になっています。この設定で間違いありませんか？
 - DHCPサーバーを使用していない場合は、カメラをIPアドレス [手動設定] にして設定を行ってください (🔗)。

DHCPサーバーの確認内容

- DHCPサーバーの電源は入っていますか？
 - DHCPサーバーの電源を入れてください。
- DHCPサーバーから割り当てられるアドレスに余裕はありますか？
 - DHCPサーバーが割り振るアドレスを増やしてください。
 - DHCPサーバーからアドレスが割り振られている端末を、ネットワークから外して減らしてください。
- DHCPサーバーは正常に機能していますか？
 - DHCPサーバーの設定を確認して、DHCPサーバーとして正常に機能しているか確認してください。
 - ネットワーク管理者がいるときは、DHCPサーバーを使用できる状態にするよう依頼してください。

ネットワーク全体の確認内容

- 接続しようとしているネットワークに、ゲートウェイ機能を持つルーターなどが使用されていませんか？
 - ネットワーク管理者がいるときは、ネットワークのゲートウェイアドレスを聞いて、その内容をカメラに設定してください (🔗、🔗)。
 - カメラを含むネットワーク機器すべてに、ゲートウェイアドレスを正しく設定してください。

参考

エラー20番台の対応について

- エラー21～23が表示された場合は、以下の確認も行ってください。
本機とアクセスポイントで、同じ認証用のパスワードを設定していますか？
 - 暗号化の認証方式が [オープン] の設定で、パスワードを間違えるとこのエラーになります。大文字、小文字の使い分けも確認して、正しい認証用のパスワードを本機に設定してください (🔗)。

22 : DNSサーバーから応答がありません

カメラの確認内容

- カメラの設定がDNSアドレス [手動設定] になっています。この設定で間違いありませんか？
 - DNSサーバーを使用していない場合は、カメラをDNSアドレス [使わない] の設定にしてください (🔗)。
- カメラに設定しているDNSサーバーのIPアドレスは合っていますか？
 - 使用するDNSサーバーと同じIPアドレスをカメラに設定してください (🔗、🔗)。

DNSサーバーの確認内容

- DNSサーバーの電源は入っていますか？
 - DNSサーバーの電源を入れてください。
- DNSサーバーにIPアドレスと、そのアドレスに対応する名前を正しく設定していますか？
 - DNSサーバーにIPアドレスと、そのアドレスに対応する名前を正しく設定してください。
- DNSサーバーは正常に機能していますか？
 - DNSサーバーの設定を確認して、DNSサーバーとして正常に機能しているか確認してください。
 - ネットワーク管理者がいるときは、DNSサーバーを使用できる状態にするよう依頼してください。

ネットワーク全体の確認内容

- 接続しようとしているネットワークに、ゲートウェイ機能を持つルーターなどが使用されていませんか？
 - ネットワーク管理者がいるときは、ネットワークのゲートウェイアドレスを聞いて、その内容をカメラに設定してください (🔗、🔗)。
 - カメラを含むネットワーク機器すべてに、ゲートウェイアドレスを正しく設定してください。

23 : ネットワーク上に同じIPアドレスの機器が存在します

- カメラと同じネットワークに接続している機器が、カメラと同じIPアドレスを使用していないですか？
 - カメラのIPアドレスを変更して、同じネットワークに接続している機器とIPアドレスが重複しないようにしてください。または、IPアドレスが重複している他の機器のIPアドレスを変更してください。
 - DHCPサーバーを使用するネットワーク環境で、カメラがIPアドレス [手動設定] の設定になっているときは、IPアドレス [自動設定] の設定にしてください (🔗)。

カメラの確認内容

- **カメラの設定がプロキシサーバー [使う] の設定になっています。この設定で間違いありませんか？**
 - プロキシサーバーを使用していない場合は、プロキシサーバー [使わない] の設定にしてください (🔗)。
- **カメラに設定しているプロキシサーバーの [アドレスの設定] と [ポート番号] は、プロキシサーバーと同じ設定になっていますか？**
 - プロキシサーバーと同じアドレス、ポート番号をカメラに設定してください (🔗)。
- **カメラのプロキシサーバーの設定内容は、DNSサーバーに正しく設定されていますか？**
 - 設定したプロキシサーバーの [アドレス] が、DNSサーバーに正しく設定されているか確認してください。
- **カメラに設定しているFTPサーバーのIPアドレスは合っていますか？**
 - FTPサーバーと同じIPアドレスをカメラに設定してください (🔗)。
- **カメラとアクセスポイントで、同じ認証用の暗号キーを設定していますか？**
 - 暗号化の認証方式が [オープン] の設定で、暗号キーを間違えるとこのエラーになります。
大文字、小文字の使い分けも確認して、正しい認証用の暗号キーをカメラに設定してください (🔗)。
- **カメラに設定しているFTPサーバーの [ポート番号設定] は、FTPサーバーで設定しているポート番号と合っていますか？**
 - ポート番号は通常21 (FTP/FTPS) または22 (SFTP) で、カメラとFTPサーバーとも同じポート番号を設定します。FTPサーバーのポート番号をカメラに設定してください (🔗)。
- **カメラのFTPサーバーの設定内容は、DNSサーバーに正しく設定されていますか？**
 - 設定したFTPサーバーの [サーバー名] が、DNSサーバーに正しく設定されているか確認してください。また、使用するFTPサーバーの [サーバー名] が、カメラに間違いなく設定されているか確認してください (🔗)。

FTPサーバーの確認内容

- **FTPサーバーは正常に機能していますか？**
 - パソコンをFTPサーバーとして機能するよう設定してください。
 - ネットワーク管理者がいるときは、FTPサーバーのアドレスとポート番号を聞いて、その内容をカメラに設定してください。
- **FTPサーバーの電源は入っていますか？**
 - FTPサーバーの電源を入れてください。省電力モードで電源が切れている可能性もあります。

- FTPサーバーに設定しているIPアドレスは、カメラに設定しているFTPサーバーの [アドレス] と合っていますか？
 - FTPサーバーに設定しているIPアドレスと、カメラに設定しているFTPサーバーのIPアドレスを、同じ設定にしてください (🔗)。
- FTPサーバーが、特定のIPアドレスのみ接続を許可する設定になっていませんか？
 - [設定内容確認] (🔗) でカメラのIPアドレスを確認して、FTPサーバーの設定を変更してください。
- セキュリティソフトウェアのファイアウォールを有効にしていますか？
 - セキュリティソフトウェアによっては、ファイアウォールでFTPサーバーへの接続制限をかけている可能性があります。ファイアウォールの設定を変更して、FTPサーバーに接続できるようにしてください。
 - カメラの設定で [パッシブモード] を [使う] にすると、FTPサーバーに接続できる場合があります (🔗)。
- ブロードバンドルーターを介してFTPサーバーに接続していませんか？
 - ブロードバンドルーターによっては、ファイアウォールでFTPサーバーへの接続制限をかけている可能性があります。ファイアウォールの設定を変更して、FTPサーバーに接続できるようにしてください。
 - カメラの設定で [パッシブモード] を [使う] にすると、FTPサーバーに接続できる場合があります (🔗)。

プロキシサーバーの確認内容

- プロキシサーバーの電源は入っていますか？
 - プロキシサーバーの電源を入れてください。
- プロキシサーバーは正常に機能していますか？
 - プロキシサーバーの設定を確認して、プロキシサーバーとして正常に機能しているか確認してください。
 - ネットワーク管理者がいるときは、プロキシサーバーのアドレスの設定とポート番号を聞いて、その内容をカメラに設定してください。

ネットワーク全体の確認内容

- 接続しようとしているネットワークに、ゲートウェイ機能を持つルーターなどが使用されていませんか？
 - ネットワーク管理者がいるときは、ネットワークのゲートウェイアドレスを聞いて、その内容をカメラに設定してください (🔗、🔗)。
 - カメラを含むネットワーク機器すべてに、ゲートウェイアドレスを正しく設定してください。

43 : FTPサーバーに接続できません。サーバーからのリプライコードがエラーを示しています

プロキシサーバーの確認内容

- プロキシサーバーの電源は入っていますか？
 - プロキシサーバーの電源を入れてください。
- プロキシサーバーは正常に機能していますか？
 - プロキシサーバーの設定を確認して、プロキシサーバーとして正常に機能しているか確認してください。
 - ネットワーク管理者がいるときは、プロキシサーバーのアドレスの設定とポート番号を聞いて、その内容をカメラに設定してください。

ネットワーク全体の確認内容

- 接続しようとしているネットワークに、ゲートウェイ機能を持つルーターなどが使用されていませんか？
 - ネットワーク管理者がいるときは、ネットワークのゲートウェイアドレスを聞いて、その内容をカメラに設定してください (☑、☑)。
 - カメラを含むネットワーク機器すべてに、ゲートウェイアドレスを正しく設定してください。

FTPサーバーの確認内容

- FTPサーバーで設定している最大接続数を超えて接続していませんか？
 - FTPサーバーに接続しているネットワーク機器を少なくするか、FTPサーバーの設定で最大接続数を増やしてください。

44 : FTPサーバーから切断できません。サーバーからのリプライコードがエラーを示しています

- FTPサーバーに対する接続解除が、何らかの理由でうまくいかないときに表示されるエラーです。
 - FTPサーバーとカメラの電源を入れ直してください。

45 : FTPサーバーにログオンできません。サーバーからのリプライコードがエラーを示しています

カメラの確認内容

- カメラに設定している [ログオン名] は正しいですか？
 - FTPサーバーにログオンするログオン名を確認してください。また、大文字、小文字の使い分けも確認して、正しいログオン名をカメラに設定してください (🔗)。
- カメラに設定している [ログオン・パスワード] は正しいですか？
 - FTPサーバーにログオン・パスワードが設定されているときは、大文字、小文字の使い分けも確認して、正しいログオン・パスワードをカメラに設定してください (🔗)。

FTPサーバーの確認内容

- FTPサーバーのファイルアクセス権は、読み取り／書き込み／ログアクセス可能な設定になっていますか？
 - FTPサーバーのファイルアクセス権を、読み取り／書き込み／ログアクセス可能な設定にしてください。
- FTPサーバーで転送先に指定されているフォルダの名称は、すべてASCII文字で構成されていますか？
 - フォルダ名をASCII文字で構成してください。

46 : データセッションに対し、FTPサーバーからのリプライコードがエラーを示しています

FTPサーバーの確認内容

- FTPサーバーが接続を切断しました。
 - FTPサーバーを再起動してください。
- FTPサーバーのファイルアクセス権は、読み取り/書き込み/ログアクセス可能な設定になっていますか？
 - FTPサーバーのファイルアクセス権を、読み取り/書き込み/ログアクセス可能な設定にしてください。
- FTPサーバーの保存先フォルダにアクセス権を設定していませんか？
 - カメラから転送された画像が保存できるよう、FTPサーバーにある保存先フォルダのアクセス権を設定してください。
- FTPサーバーの電源は入っていますか？
 - FTPサーバーの電源を入れてください。省電力モードで電源が切れている可能性もあります。
- FTPサーバーのハードディスクがいっぱいになっていませんか？
 - ハードディスクの空き容量を増やしてください。

47 : FTPサーバーから、画像ファイルの転送完了通知を取得できませんでした

- FTPサーバーからの転送完了通知を、何らかの理由で受けられなかったときに表示されるエラーです。
 - FTPサーバーとカメラの電源を入れ直し、画像を再度転送してください。

48 : 送信先サーバーとの接続の安全性を確認できません。このサーバーを信頼して接続する場合は、[送信先サーバーを信頼]を[する]に設定してください

- FTPS接続時に送信先サーバーとの接続の安全性を確認できなかったときに表示されるエラーです。
 - 証明書が正しく設定されているか確認してください。
 - 証明書設定に関わらず送信先サーバーを信頼する場合は、[送信先サーバーを信頼]設定を [する] に変更してください。

61：同じSSIDの無線LANネットワークが見つかりません

- アクセスポイントのアンテナとカメラの間に、見通しをさえぎる障害物はありませんか？
 - アクセスポイントのアンテナを、カメラからよく見える場所に移動させてください。

カメラの確認内容

- カメラにアクセスポイントと同じSSIDを設定していますか？
 - アクセスポイントのSSIDを確認して、同じSSIDをカメラに設定してください (🔗)。

アクセスポイントの確認内容

- アクセスポイントの電源は入っていますか？
 - アクセスポイントの電源を入れてください。
- MACアドレスでフィルタリングしている場合、使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録していますか？
 - 使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録してください (🔗)。

63：無線LANの認証に失敗しました

- カメラとアクセスポイントで、同じ認証用の暗号キーを設定していますか？
 - 大文字、小文字の使い分けも確認して、正しい認証用の暗号キーをカメラに設定してください (🔗)。
- MACアドレスでフィルタリングしている場合、使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録していますか？
 - カメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録してください。MACアドレスは [MACアドレス] 画面で確認できます (🔗)。

64：無線LAN端末に接続できません

- カメラとアクセスポイントで、同じ暗号化方式を設定していますか？
 - カメラで設定できる暗号化方式は、WEP、TKIP、AESです (🔗)。
- MACアドレスでフィルタリングしている場合、使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録していますか？
 - 使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録してください。MACアドレスは [MACアドレス] 画面で確認できます (🔗)。

65：無線LANの接続が切れました

- **アクセスポイントのアンテナとカメラの間に、見通しをさえぎる障害物はありませんか？**
 - アクセスポイントのアンテナを、カメラからよく見える場所に移動させてください。
- **何らかの理由で、無線LANの接続が切れ、再接続できない状態になっています。**
 - アクセスポイントにほかの端末からのアクセスが集中している場合や、電子レンジなどが近くで使用されている場合（IEEE 802.11n/g/b（2.4GHz帯））、雨天や高温などの影響が考えられます。

66：無線LANのパスワードが違います

- **カメラとアクセスポイントで、同じ認証用の暗号キーを設定していますか？**
 - 大文字、小文字の使い分けも確認して、正しい認証用の暗号キーをカメラとアクセスポイントに設定してください (🔑)。
なお、暗号化の認証方式が [オープン] の場合は、エラー41が表示されます (🔑)。

67：無線LANの暗号方式が違います

- **カメラとアクセスポイントで、同じ暗号化方式を設定していますか？**
 - カメラで設定できる暗号化方式は、WEP、TKIP、AESです (🔑)。
- **MACアドレスでフィルタリングしている場合、使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録していますか？**
 - 使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録してください。
MACアドレスは [MACアドレス] 画面で確認できます (🔑)。

68：無線LAN端末に接続できませんでした。始めからやり直してください。

- **アクセスポイントのWPS (Wi-Fi Protected Setup) ボタンは、アクセスポイントで指示されている時間押しつけましたか？**
 - WPSボタンをアクセスポイントの使用説明書で指示されている時間押しつけてください。
- **アクセスポイントのすぐ近くで接続操作をしていますか？**
 - 両方の機器にすぐ手が届く距離で接続操作を行ってください。

69 : 複数の無線LAN端末を検出したため、接続できませんでした。始めからやり直してください。

- ほかのアクセスポイントがWPS (Wi-Fi Protected Setup) のPBC方式 (プッシュボタン接続方式) で接続操作を行っています。
 - しばらく待ってから接続操作を行うか、PIN方式 (ピンコード接続方式) で接続操作を行ってください (🔗)。

71 : レシーバーカメラと接続できませんでした

- レシーバーカメラの接続操作を正しく行っていますか？
 - 正しい手順でレシーバーカメラを操作してください。
- レシーバーカメラとセンダーカメラが離れすぎていませんか？
 - レシーバーカメラをセンダーカメラに近づけてください。

72 : センダーカメラと接続できませんでした

- センダーカメラの接続操作を正しく行っていますか？
 - 正しい手順でセンダーカメラを操作してください。
- センダーカメラとレシーバーカメラが離れすぎていませんか？
 - センダーカメラをレシーバーカメラに近づけてください。

73 : 時刻の同期に失敗しました

- センダーカメラとレシーバーカメラの接続操作を正しく行っていますか？
 - 正しい手順でセンダーカメラとレシーバーカメラを操作してください (🔗)。
- センダーカメラとレシーバーカメラが離れすぎていませんか？
 - センダーカメラとレシーバーカメラを近づけてください。

81 : 有線LANの接続が切れました

- LANケーブルはしっかり接続されていますか？
 - 本機からサーバーにかけてのLANケーブルを接続しなおしてください。また、ケーブルが断線している可能性もありますので、別のケーブルを接続してみてください。
- ハブやルーターの電源は入っていますか？
 - ハブやルーターの電源を入れてください。
- サーバーの電源は入っていますか？
 - サーバーの電源を入れてください。省電力モードで電源が切れている可能性もあります。

83 : 温度上昇を検知したため、ネットワーク接続を切断しました

- カメラの温度が上昇したため、一時的に通信動作を停止し、有線LANの接続を切断しました。
 - カメラに直射日光が当たらないようにするなどして、カメラの温度を下げてください。カメラの温度が下がると、自動的に再接続を行います。



91 : その他のエラー

- エラー11～83以外の異常が発生しました。
 - カメラの電源スイッチを入れ直してください。



故障かな?と思ったら

「故障したのかな?」と思ったら、下記の例を参考にしてカメラや接続した機器をチェックしてください。なお、チェックしても状態が改善しないときは、製品情報や取り扱い方法に関するご相談窓口へお問い合わせください。

FTPサーバーに画像の転送ができない

- 撮影後にFTPサーバーへ画像を転送するときは、ライブビュー撮影/動画撮影スイッチを  にしてください。
ライブビュー撮影/動画撮影スイッチが  のときは、画像を転送できません。

連動撮影ができない

- 連動撮影をするときは、ライブビュー撮影/動画撮影スイッチを  にしてください。
ライブビュー撮影/動画撮影スイッチが  のときは、連動撮影できません。

カメラの温度が上がって、通信速度が遅くなる

- 高温環境下で長時間無線動作を続けると、カメラの温度が上昇し、転送速度が遅くなる場合があります。本機の温度がさらに上昇すると、エラー83が表示され、無線動作が停止することがあります (🔗)。

通信機能での注意事項

通信機能使用時に「通信速度が遅くなる」、「接続が途切れる」、「映像が滑らかに表示されない」などの現象が起きたときは、下記の例を参考にして対応してみてください。

アクセスポイント、またはアンテナの設置場所について

- 室内で使用する場合、撮影している部屋に設置してください。
- カメラとの間に、人や遮蔽物が入らない場所に設置してください。
- カメラよりも高い場所に設置してください。
- カメラにできるだけ近付けて設置してください。特に、雨天屋外で使用すると、電波が雨に吸収されて接続が途切れる場合があります。

近くにある電子機器について

下記の電子機器の影響で無線LANの通信速度が遅くなるときは、電子機器の使用をやめるか、機器から離れた場所で通信を行ってください。また、有線LANにすると問題を解消することができます。

- カメラのIEEE 802.11b/g/nは、2.4GHz帯の電波を使用して無線LANの通信を行っています。そのため、同じ周波数帯を使用するBluetooth機器や電子レンジ、コードレス電話機、マイク、スマートフォン、他のカメラなどを使うと無線LANの通信速度が遅くなります。

セキュリティについて

セキュリティに関する設定が適切に行われていないときは、次のような問題が発生する恐れがありますので注意してください。

- 通信の傍受
悪意ある第三者によって無線LANの電波を傍受され、通信内容を盗み見られる恐れがあります。
- ネットワークへの不正アクセス
悪意ある第三者によって、お使いのネットワークに不正に侵入され、情報の盗難・改ざん・破壊をされるといった被害に遭う恐れがあります。また、別の人物を装ってネットワークに不正な情報を流す「なりすまし」通信がされたり、「踏み台」と呼ばれる別の不正アクセスへの中継地点にされたりする恐れもあります。

こうした問題が発生する可能性を少なくするため、ネットワークのセキュリティを確保するための仕組みや機能を使用することをおすすめします。

ネットワークの設定を確認する

- **Windowsの場合**

Windowsの [コマンドプロンプト] を開き、`ipconfig /all` と入力して〈Enter〉キーを押します。パソコンに割り当てられているIPアドレスのほかに、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNSサーバーの情報が表示されます。

- **macOSの場合**

macOSの [ターミナル] を開き、`ifconfig -a` と入力して〈Return〉キーを押します。[en0] 項目 [inet] の***.***.***.***がパソコンに割り当てられているIPアドレスです。

[ターミナル] については、macOSのヘルプを参照してください。

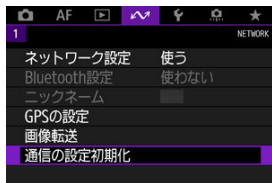
なお、手動でカメラに割り当てるIPアドレスを設定するときは、パソコンやほかのネットワーク接続機器とIPアドレスが重複しないよう、一番右側の数字を変えて設定します (例)。

例) 192.168.1.10

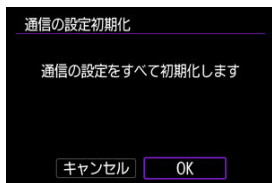
通信の設定初期化

ネットワーク機能の設定をすべて削除します。カメラを貸与したり譲渡したときに、ネットワーク機能の設定情報が流出することを防ぐことができます。

1. [通信の設定初期化] を選ぶ



2. [OK] を選ぶ



❗ 注意

- カメラとスマートフォンをペアリングしていたときは、スマートフォンのBluetooth設定画面で、無線通信の設定を初期化したカメラの登録を解除してください。

機能設定

この章では、メニュー機能の「🔧: 機能設定タブ」の項目について説明しています。

- [メニュー目次: 機能設定タブ](#)
- [記録・再生するカードを選択する](#)
- [フォルダの設定](#)
- [画像番号](#)
- [ファイル名の設定](#)
- [縦位置画像回転表示](#)
- [カード初期化](#)
- [画面の明るさ](#)
- [画面の色調](#)
- [オートパワーオフ](#)
- [日付/時刻/エリア](#)
- [言語](#)
- [ファインダー内表示](#)
- [〈INFO〉ボタンで表示する内容](#)
- [クイック設定カスタマイズ](#)
- [撮影情報表示設定](#)
- [動画撮影時シャッターボタンの機能](#)
- [メニュー画面の拡大](#)
- [ヘルプ機能](#)
- [ビデオ方式](#)
- [タッチ操作](#)
- [電子音](#)
- [バッテリー情報](#)
- [センサークリーニング](#)
- [HDMI出力解像度](#)
- [カメラ設定をカードに保存・読込](#)
- [カスタム撮影モード \(C1-C3\)](#)
- [カメラの初期化](#)
- [著作権情報](#)
- [カメラシステム情報](#)
- [その他の情報](#)

メニュー目次：機能設定タブ

● 機能設定1



- (1) 記録機能とカード・フォルダ選択
 - [記録・再生するカードを選択する](#)
 - [フォルダの作成](#)
- (2) [画像番号](#)
- (3) [ファイル名の設定](#)
- (4) [縦位置画像回転表示](#)
- (5) [カード初期化](#)
- (6) [画面の明るさ](#)
- (7) [画面の色調](#)

● 機能設定2



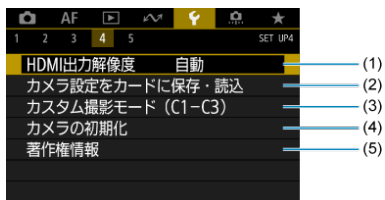
- (1) [オートパワーオフ](#)
- (2) [日付/時刻/エリア](#)
- (3) [言語](#)
- (4) [ファインダー内表示](#)
- (5) [INFOボタンで表示する内容](#)
- (6) [クイック設定カスタマイズ](#)

● 機能設定3



- (1) [メニュー画面の拡大](#)
- (2) [ヘルプの文字サイズ](#)
- (3) [ビデオ方式](#)
- (4) [タッチ操作](#)
- (5) [電子音](#)
- (6) [バッテリー情報](#)
- (7) [センサークリーニング](#)

● 機能設定4



- (1) [HDMI出力解像度](#)
- (2) [カメラ設定をカードに保存・読込](#)
- (3) [カスタム撮影モード \(C1-C3\)](#)
- (4) [カメラの初期化](#)
- (5) [著作権情報](#)

● 機能設定5



- (1) [カメラシステム情報](#)
- (2) [使用説明書・ソフトウェア URL](#)
- (3) [認証マーク表示](#)
- (4) [ファームウェア](#)

⚠ 注意

- ライブビュー撮影および動画撮影のときは、[ファームウェア] は表示されません。

● ライブビュー撮影のときは、[f2] は以下の画面が表示されます。



- (1) [オートパワーオフ](#)
- (2) [日付/時刻/エリア](#)
- (3) [言語](#)
- (4) [撮影情報表示設定](#)

- 動画撮影のときは、[F2] は以下の画面が表示されます。



- (1) [オートパワーオフ](#)
- (2) [日付/時刻/エリア](#)
- (3) [言語](#)
- (4) [撮影情報表示設定](#)
- (5) [動画撮影時シャッターボタンの機能](#)

記録・再生するカードを選択する

[カードを2枚入れたときの記録方法の設定](#)

[カードを2枚入れたときの記録・再生カードの選択](#)

カメラにカード [1]、またはカード [2] のどちらかが入っていれば、撮影した画像を記録することができます（一部の条件を除く）。カードを1枚だけ入れたときは、このあとの操作を行う必要はありません。

カードを2枚入れたときは、次の手順で記録方法、記録・再生を行うカードを選択します。

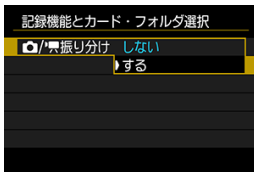
カードを2枚入れたときの記録方法の設定

1. [記録機能とカード・フォルダ選択] を選ぶ



2. 記録方法を設定する

● カメラ/マイク振り分け



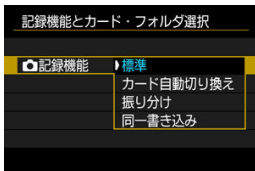
[する] に設定すると、静止画と動画の記録方法が自動設定されます。静止画はカード[1]、動画はカード[2]に記録されます。カード[1]が入っていないときや、空き容量がなくなったときは、静止画撮影はできません。カード[2]が入っていないときや、空き容量がなくなったときは、動画撮影はできません。

⚠ 注意

- [する] に設定すると、[カメラ記録機能]、[マイク記録機能]、[カメラ記録・再生]、[マイク記録・再生] は、設定できません。

● 📷 記録機能

静止画撮影時の記録方法を設定します。



● 標準

【📷記録・再生】で選択したカードに静止画が記録されます。

● カード自動切り換え

【標準】と同じですが、記録先のカードの空き容量がなくなると、記録先が自動的にもう一方のカードに切り換わります。なお、自動切り換えの際は、新しいフォルダが作成されます。

● 振り分け

カードごとに記録する画像サイズを設定することができます (🔗)。1回の撮影でカード[1]とカード[2]に、設定した記録画質の静止画が記録されます。

なお、RAW画像のときは、**RAW**と**CRAW**を振り分けることはできません。

● 同一書き込み

1回の撮影でカード[1]とカード[2]に同じ静止画が記録されます。

⚠️ 注意

- 【振り分け】設定時に、カード[1]とカード[2]の画像サイズの設定が異なるときは、連続撮影可能枚数が少なくなります (🔗)。

参考

振り分け/同一書き込み

- カード[1]とカード[2]に同じ画像番号で記録されます。
- ファインダー内と上面表示パネルには、撮影可能枚数が少ない方のカードの枚数が表示されます。
- どちらかのカードの空き容量がなくなると、[カード*がいっぱいです]が表示され、撮影できなくなります。そのときはカードを交換するか、[記録機能]を[標準]にして空き容量のあるカードを選ぶと、撮影することができます。
- [📁: 記録機能とカード・フォルダ選択]の[フォルダ]については[フォルダの設定](#)を参照してください。

● 記録機能

● 標準

[📁記録・再生]で選択したカードに動画が記録されます。

● カード自動切り換え

[標準]と同じですが、記録先のカードの空き容量がなくなると撮影が終了します。再度撮影を開始すると、記録先が自動的にもう一方のカードに切り換わります。このとき、新しいフォルダが作成されます。

● [1]RAW/[2]MP4

1回の撮影でRAW形式の動画がカード[1]、MP4形式の動画がカード[2]に、同じ画像番号で記録されます。どちらかのカードの空き容量がなくなると、それ以上は撮影できません。

RAWは[5472×2886]、MP4は[4096×2160]IPB]で記録されます。

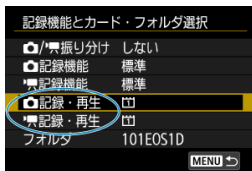
カードを2枚入れたときの記録・再生カードの選択

【**記録機能**】【**記録機能**]を【標準】【カード自動切り換え]に設定したときは、画像を「記録・再生」するカードを選択します。

【**記録機能**]を【振り分け】【同一書き込み]、または【**記録機能**]を【1]RAW, 2]MP4]に設定したときは、画像を「再生」するカードを選択します。

メニュー画面で設定

● 標準/カード自動切り換え



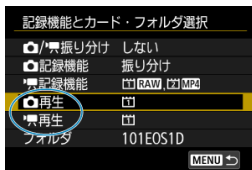
【記録・再生】を選ぶ

- 静止画の設定をするときは【**記録・再生**]、動画の設定をするときは【**記録・再生**]を選びます。

【1]：カード1に記録、カード1の画像を再生

【2]：カード2に記録、カード2の画像を再生

● 振り分け/同一書き込み/1]RAW, 2]MP4



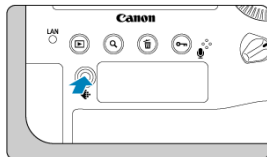
【再生】を選ぶ

- 静止画の設定をするときは【**再生**]、動画の設定をするときは【**再生**]を選びます。
- 静止画撮影状態で、【▶】ボタンを押したときは、【**再生**]で選択したカード内の画像が再生されます。
- 動画撮影状態で、【▶】ボタンを押したときは、【**再生**]で選択したカード内の画像が再生されます。

参考

- [優先設定] を設定すると、カードの抜き差しが行われたとき、優先設定したカードに切り換わります。

背面表示パネルで設定



1. <Home> ボタンを押す (6)

2. カードを選ぶ

- <ダイヤル> を回してカードを選びます。
- <▶> を付けたカードが、記録、再生されるカードになります。

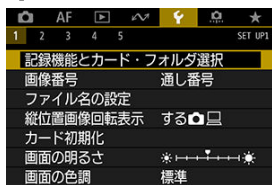
フォルダの設定

- ☑ [フォルダの作成](#)
- ☑ [フォルダ名の変更](#)
- ☑ [フォルダの選択](#)

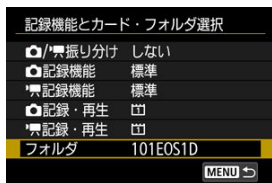
画像を保存するフォルダを任意に作成/選択することができます。またフォルダ名を変更することもできます。

フォルダの作成

1. [📁: 記録機能とカード・フォルダ選択] を選ぶ



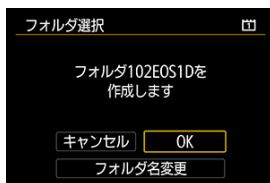
2. [フォルダ] を選ぶ



3. [フォルダ作成] を選ぶ

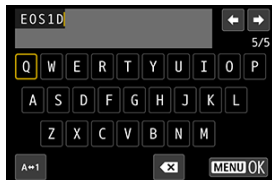


4. [OK] を選ぶ



- フォルダ名を変更したいときは [フォルダ名変更] を選びます。

1. 任意の英数字を入力する



- 5文字入力できます。
- [A⇄1] を選ぶと、入力モードが切り換わります。
- [X] を選ぶか、〈☒〉ボタンを押すと、1文字消去されます。

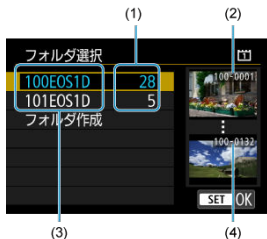


- 〈☉〉 〈☼〉を操作して文字を選び、〈☷〉を押すと入力されます。

2. 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押して [OK] を選びます。

フォルダの選択



- (1) フォルダ内画像数
- (2) 最小番号画像
- (3) フォルダ名
- (4) 最大番号画像

- フォルダ選択画面でフォルダを選びます。
- 撮影画像は選択したフォルダに記録されます。

参考

フォルダについて

- フォルダ名は、「100EOS1D」のように先頭3桁の数字（フォルダ番号）と、5文字の英数字で構成されています。1つのフォルダには、画像が最大9999枚保存されます（画像番号0001～9999）。フォルダ内の画像がいっぱいになると、番号が1つ繰り上がったフォルダが自動的に作成されます。また、強制リセット (Ⓢ) を行ったときもフォルダが自動的に作成されます。フォルダは100～999まで作成することができます。

パソコンを使ったフォルダ作成

- カードを開いたところに「DCIM」という名前のフォルダを作ります。次にDCIMフォルダを開いたところに、画像を記録するフォルダを必要な数だけ作ります。フォルダ名は、「100ABC_D」のように、必ず100～999までの3桁の番号に続けて、5文字の英数字を付けます。使用できる文字は、半角アルファベットA～Z（大文字、小文字混在可）、半角の「_」（アンダーバー）、および数字です。スペースは使用できません。また、同じフォルダ番号（例：100ABC_D、100W_XYZ）を付けたときは、カメラがフォルダを認識できません。

画像番号

- [通し番号](#)
- [オートリセット](#)
- [強制リセット](#)

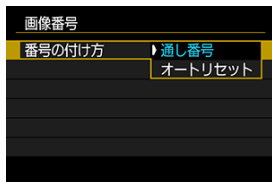
撮影した画像には0001~9999の順で画像番号が付けられ、1つのフォルダに保存されます。画像番号は、用途に応じて付け方を変えることができます。

(例)
IMG_0001.JPG
|
(1)
(1) 画像番号

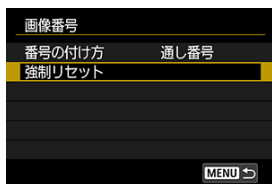
1. [🔍: 画像番号] を選ぶ



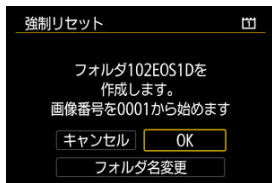
2. 項目を設定する



- [番号の付け方] を選びます。
- [通し番号] [オートリセット] のいずれかを選びます。



- 画像番号をリセットしたいときは、[強制リセット] を選びます (🔗)。



- [OK] を選ぶと、新しいフォルダが作成され、画像番号が0001から始まります。

⚠ 注意

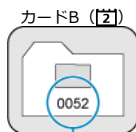
- フォルダ番号999のフォルダに画像番号9999の画像が保存されると、カードに空き容量があっても撮影できなくなります。カードの交換を促すメッセージが表示されますので、新しいカードに交換してください。

カード交換やフォルダ作成を行っても連番で保存したいとき

カード交換やフォルダ作成、カードの変更（例：[1]→[2]）を行っても、画像番号9999の画像ができるまで、連続した番号が付けられ、保存されます。複数のカード、またはフォルダにまたがった0001～9999までの画像を、パソコンで1つのフォルダにまとめて保存したいときなどに有効です。

ただし、交換・変更したカードや、作成したフォルダにすでに画像が入っているときは、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります。画像を通し番号で保存したいときは、初期化したカードを使用してください。

カードを交換・変更した場合

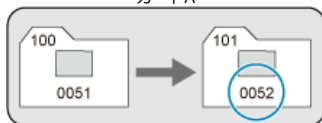


(1)

(1) 続きの画像番号

フォルダを作成した場合

カードA



カード交換やフォルダ作成で、画像番号を0001にしたいとき

カード交換やフォルダ作成、カードの変更（例：[1]→[2]）を行うと、画像番号0001から順に番号が付けられ、保存されます。カード単位、またはフォルダ単位で画像を分類したいときなどに有効です。

ただし、交換・変更したカードや、作成したフォルダにすでに画像が入っているときは、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります。0001から順に保存したいときは、初期化したカードを使用してください。

カードを交換・変更した場合

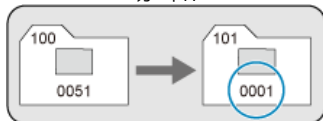


(1)

(1) 画像番号リセット

フォルダを作成した場合

カードA



任意に画像番号を0001にしたり、新しいフォルダで画像番号0001から撮影したいとき

この操作を行うと、自動的に新しいフォルダが作られ、そのフォルダに画像番号0001から順に番号が付けられ、保存されます。
前の日に撮影した画像と、今日撮影する画像を別々のフォルダに保存したいときなどに有効です。

ファイル名の設定

☑ ファイル名の登録・変更

ファイル名は、先頭4文字の英数字、4桁の画像番号 (☑)、拡張子で構成されています。先頭4文字の初期設定は、工場出荷時に決められた、カメラ固有の英数字になっています、これを任意に変更することができます。

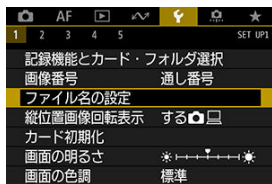
ユーザー設定1は、任意の4文字を登録することができます。ユーザー設定2は、任意の3文字を登録して撮影すると、先頭から4文字目に画像サイズが自動的に付加されます。

(例)

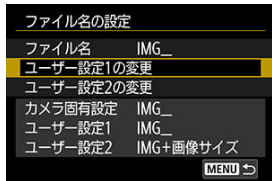
IMG_0001.JPG

ファイル名の登録・変更

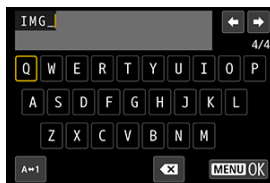
1. [☑:ファイル名の設定] を選ぶ



2. [ユーザー設定*の変更] を選ぶ



3. 任意の英数字を入力する



- ユーザー設定1は4文字、ユーザー設定2は3文字入力します。
- [A⇄1] を選ぶと、入力モードが切り換わります。
- [X] を選ぶか、(←) ボタンを押すと、1文字消去されます。

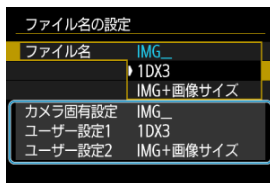


- (0) (∞) を操作して文字を選び、(SET) を押すと入力されます。

4. 設定を終了する

- (MENU) ボタンを押して [OK] を選びます。

5. 登録したファイル名を選ぶ



- [ファイル名] を選び、登録したファイル名を選びます。

ⓘ 注意

- 「_」（アンダーバー）を1文字目に指定することはできません。

📖 参考

ユーザー設定2について

- ユーザー設定2で登録した「***+画像サイズ」を選択して撮影すると、そのとき設定されていた画像サイズ（1文字）が、ファイル名の先頭から4文字目に自動的に付加されます。付加される文字の意味は次のとおりです。

「***L」= **L** / **HEIF** / **RAW**

「***C」= **CRAW**

「***M」= **M1**

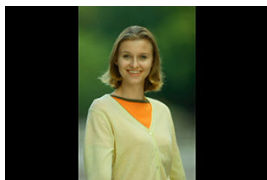
「***N」= **M2**

「***S」= **S**

パソコンに画像を取り込んだときに、自動付加された4文字目を読み取ることで、画像を開かずに画像サイズを判別することができます。なお、RAW画像、JPEG画像、HEIF画像は、拡張子から判別することができます。

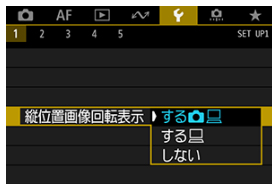
- ユーザー設定2で動画を撮影すると、ファイル名の先頭から4文字目が「_」（アンダーバー）になります。

縦位置画像回転表示






縦位置で撮影した画像を再生または表示するときの自動回転の設定を変更することができます。

1. [🔄：縦位置画像回転表示] を選ぶ



2. 項目を選ぶ

- **する**  
カメラでの再生とパソコンでの表示で自動回転表示を行います。
- **する** 
パソコンでの表示で自動回転表示を行います。
- **しない**
自動回転しません。

注意

- **【しない】** で撮影した画像は、**【する】** に設定して再生しても、自動回転表示は行われません。

参考

- カメラを上や下に向けて撮影すると、自動回転表示が正しく行われなかったことがあります。
- パソコンの画面で自動回転表示しないときは、EOS用ソフトウェアの使用をおすすめします。

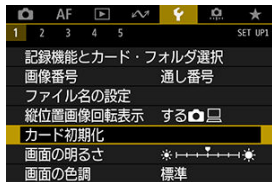
カード初期化

新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）してください。

❗ 注意

- カードを初期化すると、カードに記録されている内容は、画像だけでなくすべて消去されます。プロテクトをかけた画像も消去されますので、記録内容を十分に確認してから初期化してください。必要なデータは、初期化する前に必ずパソコンなどに保存してください。

1. [P: カード初期化] を選ぶ

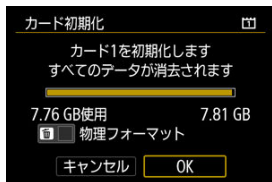


2. カードを選ぶ

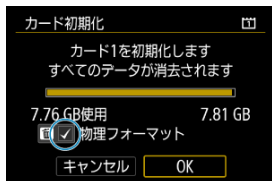


- [1] はカード1、[2] はカード2です。

3. 初期化する



- [OK] を選びます。



- 物理フォーマットを行うときは、〈⏏〉ボタンを押して、[物理フォーマット] の横に 〈〉 が付いた状態で [OK] を選びます。

🔦 カードの初期化が必要な場合

- 新しく買ってきたカードを使うとき
- 他のカメラやパソコンで初期化したカードを使うとき
- 画像やデータでカードがいっぱいになったとき
- カードに関するエラーが表示されたとき (🔍)

物理フォーマット

- 物理フォーマットは、カードへの書き込み/読み取り速度が遅くなったと感じたときや、データを完全に消去するときなどに行います。
- 物理フォーマットは、カード内の全記憶領域に渡って初期化を行うため、通常のカード初期化よりも時間がかかります。

カード初期化時のファイルフォーマットについて

CFexpressカードはexFAT形式でフォーマットされます。

動画撮影を行ったときは、1回の撮影でファイルサイズが4GBを超える場合でも、(ファイルが分割されず)1つの動画ファイルに記録されます(4GBを超える動画ファイルが作成されず)。

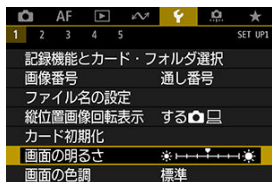
⚠ 注意

- このカメラで初期化したCFexpressカードは、他のカメラでは使用できないことがあります。
- カード内のデータは、初期化や削除では完全には消去されません。譲渡・廃棄するときは、注意してください。カードを廃棄するときは、カードを破壊するなどして個人情報の流出を防いでください。

📖 参考

- カード初期化画面に表示されるカードの総容量は、カードに表記されている容量よりも少なくなることがあります。
- 本機器はMicrosoftからライセンスされたexFAT技術を搭載しています。

1. [☛ : 画面の明るさ] を選ぶ



2. 調整する



- グレーチャートを参考にして〈☉〉を回し、〈SET〉を押します。

参考

- 撮影した画像の露出を確認するときは、ヒストグラム (☑) で確認することをおすすめします。
- 再生時に〈☉〉ボタンを押しても、手順2の画面が表示されます。

1. [🔍: 画面の色調] を選ぶ



2. 調整する

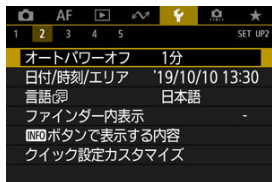


- <🔍> を回して項目を選び、<SET> を押します。

オートパワーオフ

カメラを操作しない状態でカメラの電源が切れるまでの時間を変えることができます。

1. [🔌: オートパワーオフ] を選ぶ



2. 項目を選ぶ



参考

- モニターの表示は、[しない] に設定しても約30分で消えます。ただし、カメラの電源は切れません。

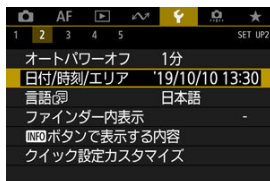
日付/時刻/エリア

初めて電源を入れたときや、日付/時刻/エリアの設定が解除されているときは、以下の操作手順に従ってエリア（地域）から設定してください。

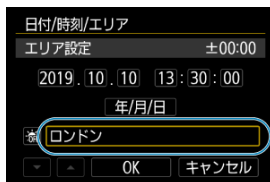
エリアから設定しておく、エリア設定を変更するだけで、そのエリアの日付/時刻に変更されます。

撮影画像には撮影日時の情報が付加されますので、必ず設定してください。

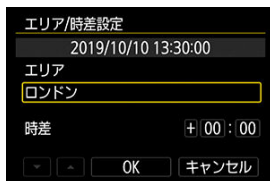
1. [📅: 日付/時刻/エリア] を選ぶ



2. エリアを設定する



- <📅> を回して [エリア設定] を選びます。



- <SET> を押します。



- <⊙> を回してエリアを選び、<SET> を押します。
- 該当するエリアがないときは、<MENU> ボタンを押して [時差] (協定世界時との時差) で設定します。



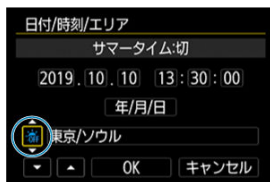
- <⊙> を回して [時差] の項目 (+-/時/分) を選び、<SET> を押します。
- <⊙> を回して設定し、<SET> を押します。
- エリア/時差の設定が終わったら、<⊙> を回して [OK] を選び、<SET> を押します。

3. 日付/時刻を設定する



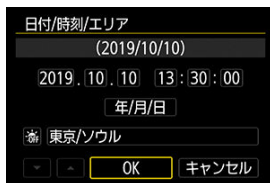
- <⊙> を回して項目を選び、<SET> を押します。
- <⊙> を回して設定し、<SET> を押します。

4. サマータイムを設定する



- 必要に応じて設定します。
- <⊙> を回して [☀️] を選び、<SET> を押します。
- <⊙> を回して [🌑] を選び、<SET> を押します。
- サマータイムを [🌑] にすると、手順3で設定した時刻が1時間進みます。[☀️] にするとサマータイムが解除され、1時間戻ります。

5. 設定を終了する



- <⊙> を回して [OK] を選びます。

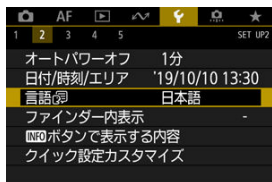
⚠️ 注意

- カメラからバッテリーを取り出して保管したときや、カメラのバッテリー残量がなくなったとき、カメラを氷点下に長時間放置したときは、日付/時刻/エリアの設定が解除されることがあります。そのときは再度設定してください。
- [エリア/時差設定] の内容を変更したときは、日付/時刻が正しく設定されているか確認してください。
- 有線LAN 機能、ワイヤレスファイルトランスミッターを使用して [カメラ間時刻同期] を行うときは、EOS-1D X Mark III どうして行ってください。他の機種と [カメラ間時刻同期] を行うことはできません。

 参考

- [📍: 日付/時刻/エリア] の画面を表示しているときは、オートパワーオフまでの時間が延長されることがあります。
- GPS機能による自動時刻設定を行うことができます (📍)。

1. [言語] を選ぶ



2. 言語を設定する



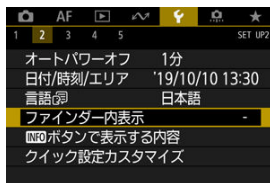
ファインダー内表示

- [水準器](#)
- [グリッド](#)
- [ファインダー内表示設定](#)

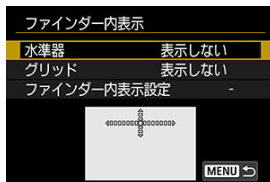
水準器

シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内の上部に水準器が表示されます。縦位置撮影時も機能します。

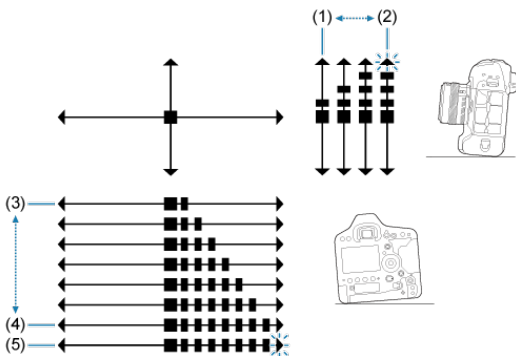
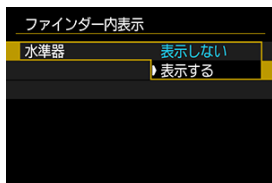
1. [F: ファインダー内表示] を選ぶ



2. [水準器] を選ぶ



3. [表示する] を選ぶ



- (1) 1°
- (2) 4°以上
- (3) 1°
- (4) 7°
- (5) 7.5°以上

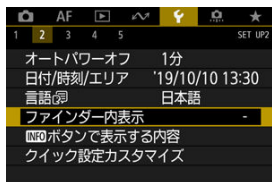
⚠ 注意

- ±1°程度の誤差が生じることがあります。

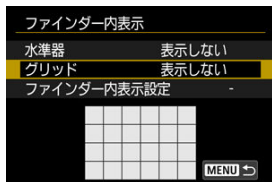
グリッド

カメラの傾き確認や構図確認に有効なグリッドが、ファインダー内に表示されます。

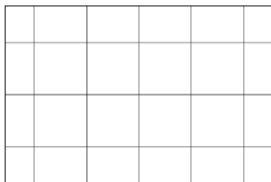
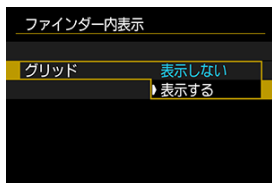
1. [☺:ファインダー内表示] を選ぶ



2. [グリッド] を選ぶ



3. [表示する] を選ぶ



参考

- ライブビュー撮影時、および動画撮影開始前に、モニターにグリッドを表示することができます (☑)。

3. 表示する項目に [✓] を付ける



- 表示する項目を選び (Ⓜ) を押すと、[✓] が表示されます。
- この手順を繰り返して、表示する項目に [✓] を付け、[OK] を選びます。

参考

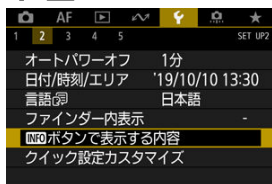
- 〈MODE〉 〈DRIVE・AF〉 〈~~AF-ON~~・~~AF-ON~~〉 〈WB〉 ボタンを押したときや、レンズのフォーカスモードスイッチを操作したとき、電子式手動フォーカス機能を備えたレンズ使用時にレンズのフォーカスリングを回してAF/MFが切り変わったときは (Ⓜ)、[✓] の設定に関わらず、ファインダー内に設定情報が表示されます。

〈INFO〉ボタンで表示する内容

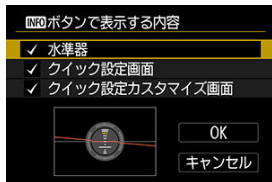
- [水準器](#)
- [クイック設定画面](#)
- [クイック設定カスタマイズ画面](#)

撮影準備状態で〈INFO〉ボタンを押したときに表示する項目を設定することができます。

1. [: INFOボタンで表示する内容] を選ぶ



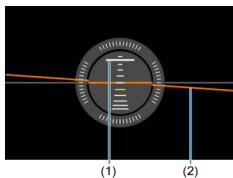
2. 項目を選ぶ



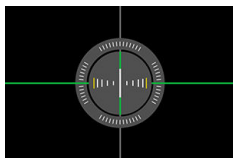
- 表示する項目を選び、[✓] を付けます。
- [OK] を選びます。

水準器

傾きがほぼ補正されると、赤い線が緑色に変わります。



- (1) 上下方向
- (2) 水平方向



⚠ 注意

- $\pm 1^\circ$ 程度の誤差が生じることがあります。
- カメラが大きく傾いているときは、誤差が大きくなります。

クイック設定画面

[クイック設定画面（ファインダー撮影）](#)を参照してください。

クイック設定カスタマイズ画面

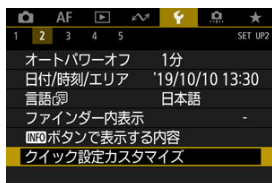
[クイック設定カスタマイズ](#)を参照してください。

クイック設定カスタマイズ

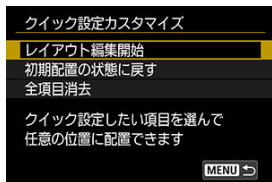
☑ クイック設定カスタマイズ画面の初期化/全項目消去

クイック設定画面 (☑) では、あらかじめ決められた撮影機能の項目が表示されますが、画面に表示したい項目を任意に選んでレイアウトすることができます。この機能を「クイック設定カスタマイズ」といいます。

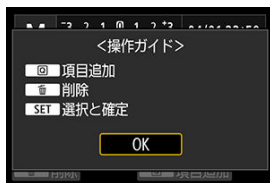
1. [⚙: クイック設定カスタマイズ] を選ぶ



2. [レイアウト編集開始] を選ぶ



3. 操作方法を確認して [OK] を選ぶ



- 初期状態では、図に示す項目が配置されています。

4. 項目を追加する



- 〈Q〉ボタンを押します。
- 〈○〉または〈⋆〉を操作して追加する項目を選び、〈SET〉を押します。
- 不要な項目を削除するときは、項目を選んだ状態で〈⏏〉ボタンを押すか、手順2で **[全項目消去]** を選びます。



- 表示サイズが選べる項目のときは、さらに〈○〉または〈⋆〉を操作してサイズを選び、〈SET〉を押します。
- 配置できる項目とサイズについては、[画面に配置できる項目とサイズ](#)を参照してください。

5. 項目を配置する



- 〈〉 〈〉または〈〉を操作して、追加する項目（辺に三角が付いた枠）を配置したい位置に移動します。
- サイズを変更したいときは、〈INFO〉ボタンを押して変更します。
- 〈〉を押すと配置されます。なお、配置する位置に項目があるときは、上書き配置（削除）されます。
- 配置する位置を変更するときは、項目を選び〈〉を押すと、移動することができます。

参考

- 初期状態で配置されている項目をすべて削除してからレイアウトしたいときは、手順2で [全項目消去] を選んでから、手順4以降の操作を行います。

配置例



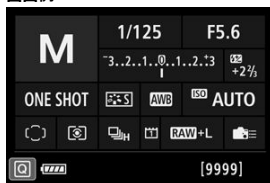
- 手順4、5を繰り返して、画面に表示する項目をレイアウトします。
- 配置されている項目を削除するときは、削除する項目を選び、〈〉ボタンを押します。

6. 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押すと設定が終了し、手順2の画面に戻ります。

7. 設定画面を確認する

画面例



- [🔍: INFOボタンで表示する内容] の [クイック設定カスタマイズ画面] に [✓] が付いていることを確認します (☑)。
- 〈INFO〉ボタンを押してクイック設定カスタマイズ画面を表示し (☑)、レイアウトを確認します。

クイック設定カスタマイズ画面の初期化／全項目消去

手順2で「初期配置の状態に戻す」を選ぶと、設定されている内容が初期化され初期配置の状態に戻ります (☑)。

「全項目消去」を選ぶと、配置されている項目がすべて削除され、画面に項目がない（blank/下段のみ表示）状態になります。

画面に配置できる項目とサイズ

(マス/縦×横)

項目/サイズ	1×1	1×2	1×3	1×5	2×2	2×3	3×1	4×1
撮影モード	○				○			
シャッタースピード	○	○						
絞り数値	○	○						
ISO感度	○	○						
露出補正/AEB設定	○	○	○					
調光補正	○	○	○					
ピクチャースタイル	○		○					
ホワイトバランス	○	○						
WB補正/BKT設定	○	○						
オートライティングオプティマイザ	○							
操作ボタン カスタマイズ	○							
AF動作	○	○						
AFフレーム選択	○					○		
測光モード	○							
ドライブモード	○							
記録機能とカード選択	○	○			○			
日付/時刻/エリア	○	○		○		○		
外部ストロボ制御	○							
高輝度側・階調優先	○							
ファインダーグリッド	○							
センサークリーニング	○							
露出レベル							○	○
GPSの設定	○							

! 注意

- 項目によっては、表示サイズにより表示される情報量や、クイック設定時に設定できる内容が異なることがあります。
- 同じ項目を複数配置することはできません。

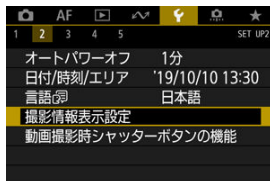
撮影情報表示設定

- [モニター情報表示カスタマイズ](#)
- [グリッド](#)
- [ヒストグラム](#)
- [設定の初期化](#)

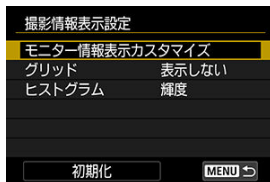
ライブビュー撮影時または動画撮影時のモニター表示をカスタマイズすることができます。

モニター情報表示カスタマイズ

1. [🔧: 撮影情報表示設定] を選ぶ






2. [モニター情報表示カスタマイズ] を選ぶ






3. 画面を選ぶ



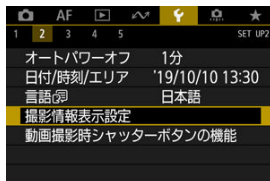
- 〈〉を回してモニターに表示する画面を選びます。
- 非表示にする画面は、〈〉を押して〔〕を外します。
- 〈**INFO**〉ボタンを押すと画面の編集ができます。

4. 画面を編集する

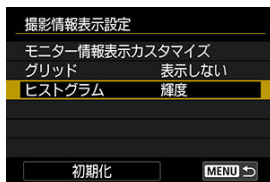


- 〈〉を回してモニターに表示する項目を選びます。
- 非表示にする項目は、〈〉を押して〔〕を外します。
- [**OK**] を選ぶと設定されます。

1. [🔍: 撮影情報表示設定] を選ぶ



2. [ヒストグラム] を選ぶ

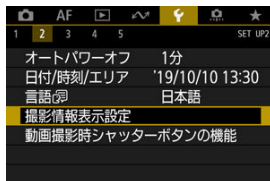


3. 項目を選ぶ

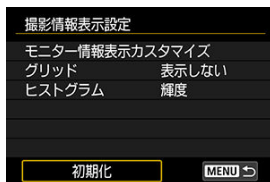


- 表示内容（[輝度] または [RGB]）と表示サイズ（[大きい] または [小さい]）を選びます。
- 〈MENU〉 ボタンを押すと設定されます。

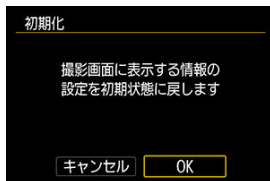
1. [🔍: 撮影情報表示設定] を選ぶ



2. [初期化] を選ぶ



3. [OK] を選ぶ



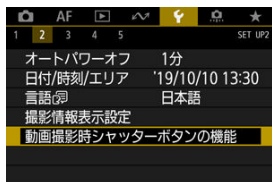
動画撮影時シャッターボタンの機能

動画撮影時にシャッターボタンを半押し/全押ししたときの動作を設定することができます。

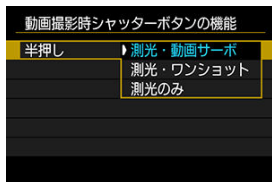
注意

- [設定: 操作ボタン カスタマイズ] でシャッターボタンに機能が割り当てられていても、動画撮影時は[動画撮影時シャッターボタンの機能]の設定が優先されます。

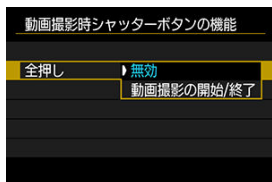
1. [設定: 動画撮影時シャッターボタンの機能] を選ぶ



2. 項目を選ぶ



- **半押し**
シャッターボタンを半押ししたときの動作を設定することができます。
- **全押し**
シャッターボタンを全押ししたときの動作を設定することができます。

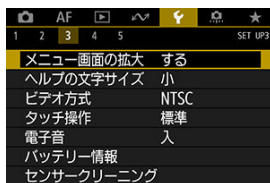


なお、[全押し]を[動画撮影の開始/終了]に設定すると、動画撮影ボタンのほか、シャッターボタンの全押し、またはリモートスイッチ RS-80N3 (別売) や、タイマーリモートコントローラー TC-80N3 (別売) で、動画撮影を開始/終了することができます。

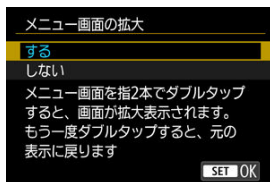
メニュー画面の拡大

指2本で、メニュー画面をダブルタップすると、メニュー画面を拡大して表示することができます。再度、ダブルタップすると元の表示サイズに戻ります。
なお、ファインダー撮影時のクイック設定画面やクイック設定カスタマイズ画面、水準器の画面も、拡大して表示することができます。

1. [🔍:メニュー画面の拡大] を選ぶ



2. [する] を選ぶ



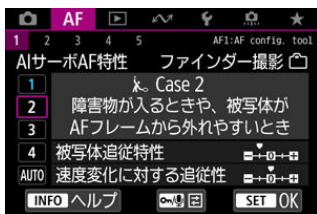
❗ 注意

- 拡大表示した状態で、メニュー機能の設定を行うときは操作部材で操作してください。タッチして操作することはできません。

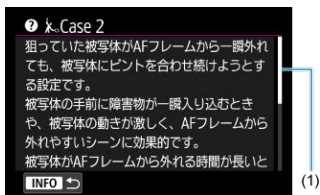
☑ ヘルプの文字サイズの変更

[INFO ヘルプ] が表示されているときに〈INFO〉ボタンを押すと、機能の説明（ヘルプ）が表示されます。もう一度押すと表示が終了します。画面の右側にスクロールバー（1）が表示されたときは、〈○〉を回します。

● [AF : Case 2] の例



〈INFO〉



● [点6 : マルチ電子ロック] の例

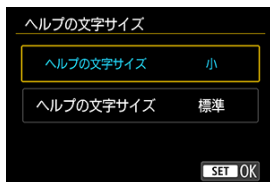


ヘルプの文字サイズの変更

1. [ヘルプの文字サイズ] を選ぶ



2. 項目を選ぶ



ビデオ方式

テレビの映像方式を設定します。この設定に応じて、動画撮影時に選択できるフレームレートが変わります。

1. [P: ビデオ方式] を選ぶ



2. 項目を選ぶ

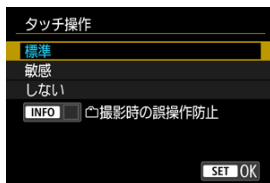


- **NTSC**
テレビの映像方式が「NTSC」地域（北米、日本、韓国、メキシコなど）のときに設定します。
- **PAL**
テレビの映像方式が「PAL」地域（ヨーロッパ、ロシア、中国、オーストラリアなど）のときに設定します。

1. [タッチ操作] を選ぶ



2. 項目を選ぶ



- [敏感] に設定すると、[標準] に比べて画面に触れたときの反応がよくなります。
- タッチ操作を禁止するときは、[しない] を選びます。

注意

タッチパネル操作時の注意事項

- 爪やボールペンなど、先のとがったもので操作しないでください。
- 濡れた指で操作しないでください。モニターに水滴がついていたり、濡れた指で操作すると、反応しなくなったり、誤動作することがあります。カメラの電源を一旦切ってから、布などでふき取ってください。
- モニターに市販の保護シートやシールを貼ると、タッチの反応が悪くなる場合があります。
- [敏感] 設定時に素早いタッチ操作を行うと、反応しづらいことがあります。

 参考

- 画面にタッチして撮影する「タッチシャッター機能」は搭載していません。

1. [🔊: 電子音] を選ぶ



2. 項目を選ぶ

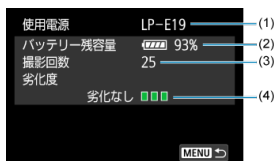


- **入**
ピントが合ったときや、タッチ操作時に電子音が鳴ります。
- **タッチ音切**
タッチ操作時の電子音を消します。
- **切**
ピントが合ったとき、タッチ操作時の電子音を消します。

バッテリー情報

使用しているバッテリーの状態を確認することができます。

1. [P: バッテリー情報] を選ぶ



(1) 使用しているバッテリー、または家庭用電源アクセサリの型式が表示されます。

(2) バッテリー残量表示 (🔋) とともに、残量が1%単位で表示されます。

(3) 使用しているバッテリーで撮影した回数が表示されます。充電を行うと回数がリセットされます (🔄)。

(4) バッテリーの劣化状態が表示されます。

■ ■ ■ (緑) : 劣化していません

■ ■ □ (緑) : 少し劣化しています

■ □ □ (赤) : バッテリーの買い換えをおすすめします

⚠ 注意

- キヤノン純正のバッテリーパック LP-E19の使用をおすすめします。純正品以外のバッテリーを使用すると、カメラ本来の性能を発揮できない恐れや、故障の原因になることがあります。

参考

- 撮影回数は静止画撮影を行った回数が表示されます（動画撮影は回数に含まれません）。
- [次回の充電時にキャリブレーションをおすすめします] と表示されたときは、[バッテリーを充電する](#)を参照してください。
- バッテリー通信エラーに関するメッセージが表示されたときは、メッセージに従って操作してください。

センサークリーニング

[今すぐクリーニング](#)

[自動クリーニング](#)

[手作業での清掃](#)

このカメラは、撮像素子前面を清掃する、センサークリーニング機能を備えています。

参考

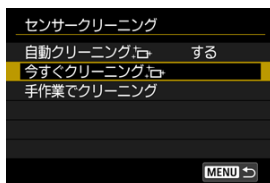
- 机の上などにカメラを置き、底面が机に付いた状態で行うと、効果的にゴミを除去できます。

今すぐクリーニング

1. [: センサークリーニング] を選ぶ



2. [今すぐクリーニング] を選ぶ

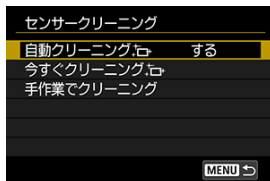


- 確認画面で [OK] を選びます。

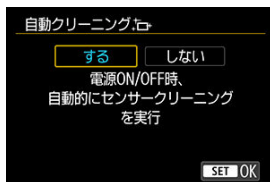
参考

- 繰り返してクリーニングしても効果は大きく変わりません。なお、清掃終了直後は、[今すぐクリーニング] が選べないことがあります。
- 撮像素子が宇宙線などの影響を受けると、撮影画像や撮影画面に「輝点」が生じることがあります。[今すぐクリーニング] を行うと、輝点の発生が改善することがあります (🔗)。

1. [自動クリーニング] を選ぶ



2. 項目を選ぶ



- <⊙> を回して項目を選び、<SET> を押します。

手作業での清掃

自動クリーニングで取りきれないゴミやほこりがあったときに、市販品のプロアーなどを使用して、手作業で撮像素子を清掃することができます。

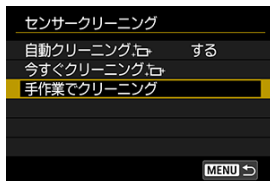
必ずフル充電したバッテリーを使用してください。

撮像素子は非常にデリケートな部品です。直接清掃が必要なときは、できるだけ修理受付窓口にお申し付けください。

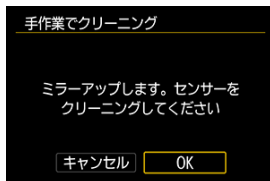
1. [🌀: センサークリーニング] を選ぶ



2. [手作業でクリーニング] を選ぶ



3. [OK] を選ぶ



- 上面表示パネルに〈CLn〉が点滅します。

4. レンズを取り外して撮像素子を清掃する

5. 清掃を終了する

- 電源スイッチを〈OFF〉にします。

参考

- 家庭用電源アクセサリ（別売）の使用をおすすめします。

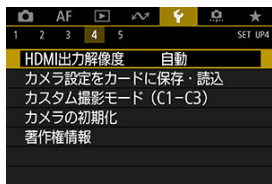
注意

- 清掃中は絶対に次のことを行わないでください。電源が切れてシャッターが閉じ、ミラーが下がるため、撮像素子やシャッター幕、ミラーが損傷する恐れがあります。
 - 電源スイッチを〈OFF〉にする
 - バッテリーを取り出す/入れる
- ミラーを手で動かさないでください。ミラーが損傷する恐れがあります。
- 撮像素子の表面は非常にデリケートな部分です。細心の注意を払って清掃してください。
- ブロアーはブラシの付いていないものを使用してください。ブラシが撮像素子に触れると、撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- ブロアーはレンズマウント面より内側に入れないでください。電源が切れるとシャッターが閉じ、シャッター幕やミラーを破損する原因になります。
- 高圧の空気やガスを吹き付けて清掃しないでください。圧力により撮像素子が破損したり、吹き付けたガスが凍結することで、撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- 撮像素子の清掃中にバッテリーの残量が少なくなると、警告のため電子音が鳴ります。作業を中止し、清掃を終了してください。
- ブロアーで除去できない汚れがあったときは、修理受付窓口に撮像素子の清掃をお申し付けください。

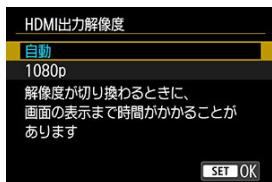
HDMI出力解像度

カメラとテレビや外部記録機器などを、HDMIケーブルで接続して映像を出力するときに、解像度を設定することができます。

1. [P: HDMI出力解像度] を選ぶ



2. 項目を選ぶ



- **自動**
接続したテレビに合わせて、自動的に最適な解像度で画像が表示されます。
- **1080p**
1080pの解像度で出力します。解像度が切り換わる時の表示や時間が気になるときに選びます。

カメラ設定をカードに保存・読込

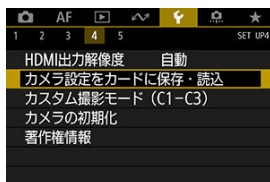
☑ [カメラ設定の保存](#)

☑ [カメラ設定の読み込み](#)

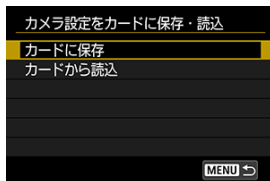
撮影機能やメニュー機能、カスタム機能など、現在カメラに設定されている内容を、「カメラ設定ファイル」としてカードに保存することができます。ファイルの読み込みを行うと、保存されている内容と同じ設定状態になります。撮影シーンごとに最適な設定を保存して使い分けたり、別のEOS-1D X Mark IIIでファイルを読み込んで同じ設定状態にすることができます。

カメラ設定の保存

1. [📁: カメラ設定をカードに保存・読込] を選ぶ



2. [カードに保存] を選ぶ

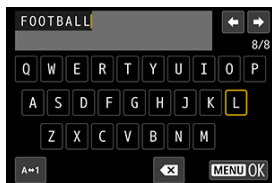


3. [OK] を選ぶ



(1) 保存先

- カメラの設定内容がカードに保存されます。



- 手順3の画面で〈INFO〉ボタンを押すと、ファイル名（8文字）を任意に変更してから保存することができます。
- 操作方法については、[ファイル名の設定](#)を参照してください。操作方法は同じです。

注意

- EOS-1D X Mark III以外のカメラで保存したカメラ設定ファイルを、このカメラで読み込むことはできません。
- カメラ設定を保存するときと、読み込むときに、カメラのファームウェアバージョンが異なると、カメラ設定ファイルが読み込めないことがあります。

参考

- 1枚のカードに10件まで保存できます。すでに10件保存されているときは、上書き保存するか、別のカードに交換するか、保存するカードを変更してください。

カメラ設定の読み込み

手順2で【カードから読み込み】を選ぶと、カードに記録されているカメラ設定ファイルが最大10件表示されます。希望するファイルを選ぶと、読み込みが行われ、保存されている内容と同じ設定状態になります。

カスタム撮影モード (C1-C3)

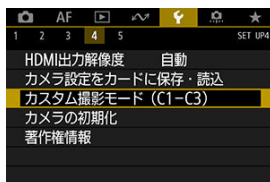
[登録内容の自動更新](#)

[カスタム撮影モードの登録解除](#)

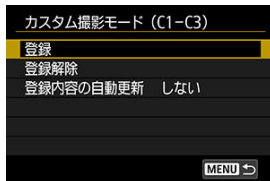
撮影機能やメニュー機能、カスタム機能など、現在カメラに設定されている内容を、撮影モードの〈C1〉～〈C3〉にカスタム撮影モードとして登録することができます。静止画撮影時、動画撮影時のそれぞれに登録することができます。

〈C2〉 〈C3〉を使用するときは、[**3**: 撮影モードの限定] で〈C2〉 〈C3〉を有効にしてください (☑)。

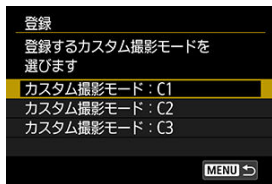
1. [**4**: カスタム撮影モード (C1-C3)] を選ぶ



2. [登録] を選ぶ



3. 登録する



- 登録するカスタム撮影モードを選び、[登録]の画面で[OK]を選びます。
- カメラの設定内容がカスタム撮影モードのC*に登録されます。

登録内容の自動更新

カスタム撮影モードで撮影しているときに、設定変更した内容を登録内容に自動反映することができます（自動更新）。自動更新するときは、手順2で[登録内容の自動更新]を[する]に設定します。

カスタム撮影モードの登録解除

手順2で【登録解除】を選ぶと、各モードの設定内容を、登録を行う前の初期状態に戻すことができます。

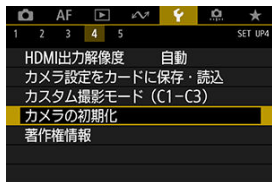
参考

- カスタム撮影モードのときも、撮影機能やメニュー機能などの設定を変更することができます。

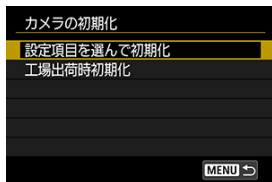
カメラの初期化

撮影機能やメニュー機能の設定を初期状態に戻すことができます。

1. [🔍: カメラの初期化] を選ぶ



2. 項目を選ぶ



- **設定項目を選んで初期化**
選択した項目の設定内容を初期化することができます。
- **工場出荷時初期化**
すべての項目を初期状態に戻します。

3. 初期化する

- 確認画面で [OK] を選びます。

参考

- カスタム機能の一括解除は、[カスタム機能\(C.Fn\)一括解除](#)を参照してください。
- 操作ボタンカスタマイズ設定の初期化は、[操作ボタンカスタマイズ](#)を参照してください。
- **[設定項目を選んで初期化]**の**[カスタム撮影モード (C1-C3)]**を選択したとき、静止画撮影状態のときは静止画のカスタム撮影モード、動画撮影状態のときは動画のカスタム撮影モードが、初期化されます。

著作権情報

[著作権情報の確認](#)

[著作権情報の消去](#)

著作権情報の設定を行うと、その内容がExif（イグジフ）情報として画像に記録されます。

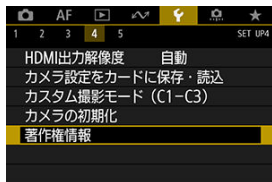
⚠ 注意

- 入力した作成者名または著作権者名が長いときは、[著作権情報の表示] を選んだ際に、入力した文字の一部が表示されないことがあります。

📖 参考

- EOS用ソフトウェアのEOS Utility (🔗) から、著作権情報を設定・確認することもできます。

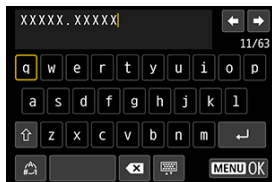
1. [🔗：著作権情報] を選ぶ



2. 項目を選ぶ



3. 文字を入力する



- 〈〉 〈〉 を操作して文字を選び、〈〉 を押すと入力されます。
- [] を選ぶと、入力モードが切り換わります。
- [] を選ぶか、〈〉 ボタンを押すと、1文字消去されます。

4. 設定を終了する

- 〈MENU〉 ボタンを押して [OK] を選びます。

著作権情報の確認



手順2で [著作権情報の表示] を選ぶと、入力した [作成者] [著作権者] の情報を確認することができます。

著作権情報の消去

手順2で **著作権情報の消去** を選ぶと、**作成者** **著作権者** の情報が消去されます。

カメラシステム情報

[エラーの履歴を確認する](#)

[カメラ状態履歴の全削除](#)

カメラのシリアル番号、ファームウェアのバージョン、レリーズ回数を画面で確認することができます。また、過去に発生したエラーの履歴を確認することもできます。この機能でカメラの状態を確認して、必要に応じて修理受付窓口でメンテナンスを行うことで、不具合の発生を低減することができます。

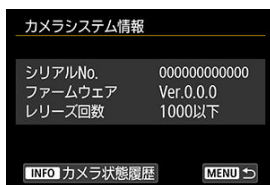
エラーの履歴を確認する

過去に発生したエラーの履歴や、発生時に使用していたレンズ、ストロボ使用の有無、使用バッテリーを確認することができます

1. [🔍: カメラシステム情報] を選ぶ



2. 内容を確認する



参考

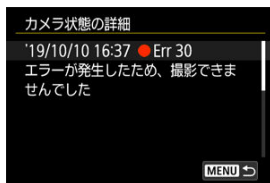
- カメラ状態履歴の画面には、最新のエラー5件が表示されます。5件を超えたときは、古い履歴が自動的に削除されます。
- レリーズ回数は1,000回単位で表示されます。



3. 履歴を確認する



- 手順2の画面で、〈INFO〉ボタンを押します。
- 「Err **」はエラー情報です (📄)。

4. 内容を確認する



- 〈〉を回して項目を選び〈INFO〉ボタンを押すと、エラーの内容が表示されます。
- 〈〉を回して内容を確認します。

カメラ状態履歴の全削除

手順3で〈⌵〉ボタンを押すと、表示されている履歴をすべて削除することができます。



● 使用説明書・ソフトウェア URL

[**⚡**: 使用説明書・ソフトウェア URL] を選んで表示されるQRコードをスマートフォンで読み取り、使用説明書をダウンロードすることができます。また、表示されるURLのWebサイトにパソコンでアクセスして、ソフトウェアをダウンロードすることができます。

● 認証マーク表示

[**⚡**: 認証マーク表示] を選ぶと、このカメラが対応している認証マークの一部を確認できます。また、その他の認証マークは、カメラ本体、カメラが入っていた箱にも表記されています。

● ファームウェア

[**⚡**: ファームウェア] を選ぶと、このカメラや使用中のレンズ、ストロボ、ワイヤレスファイルトランスミッターのファームウェアをアップデートすることができます。

カスタム機能／マイメニュー


撮影スタイルに応じて、カメラの機能を細かく変更したり、カメラのボタンやダイヤルの機能を変更することができます。また、設定変更の頻度が高いメニュー機能とカスタム機能を選んで、マイメニュータブに登録することができます。



- [メニュー目次：カスタム機能タブ](#)
- [カスタム機能で変更できる内容](#)
- [操作ボタンカスタマイズ](#)
- [メニュー目次：マイメニュータブ](#)
- [マイメニューの登録](#)

メニュー目次：カスタム機能タブ

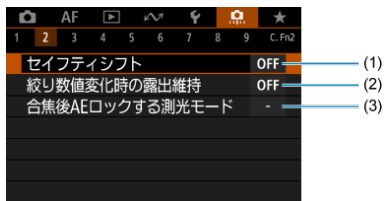
●  1



 : 設定無効 (機能しません)

		ファインダー撮影	 LV撮影	 動画撮影
(1)	露出設定ステップ	○	○	○
(2)	ISO感度設定ステップ	○	○	M 時
(3)	ブラケティング自動解除	○	○	
(4)	ブラケティング順序	○	○	
(5)	ブラケティング時の撮影枚数	○	○	
(6)	測距点連動スポット測光	○		

● 点2



■ : 設定無効 (機能しません)

		ファインダー撮影	LV撮影	動画撮影
(1)	セーフティシフト	○	○	■
(2)	絞り数値変化時の露出維持	○	○	■
(3)	合焦後AEロックする測光モード	○	○	■

● 点3



■ : 設定無効 (機能しません)

		ファインダー撮影	LV撮影	動画撮影
(1)	撮影モードの限定	○	○	○
(2)	測光モードの限定	○	○	■
(3)	マニュアル露出時の測光モード	○	○	■
(4)	シャッタースピード制御範囲設定	○	○	○
(5)	絞り数値の制御範囲の設定	○	○	○
(6)	AEマイクロアジャストメント	○	○	○
(7)	FEマイクロアジャストメント	○	○	■

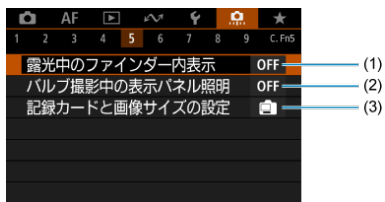
● 点4



■ : 設定無効 (機能しません)

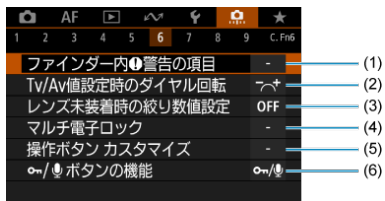
		ファインダー撮影	📷 LV撮影	🎞️ 動画撮影
(1)	連続撮影速度	○	■	■
(2)	連続撮影時の撮影枚数制限	○	○	■
(3)	ドライブモードの限定	○	○	■

● 点5



■ : 設定無効 (機能しません)

		ファインダー撮影	📷 LV撮影	🎞️ 動画撮影
(1)	露光中のファインダー内表示	○	■	■
(2)	バルブ撮影中の表示パネル照明	○	○	■
(3)	記録カードと画像サイズの設定	○	○	○



■ : 設定無効 (機能しません)

		ファインダー撮影	LV撮影	動画撮影
(1)	ファインダー内警告の項目	○		
(2)	Tv/Av値設定時のダイヤル回転	○	○	○
(3)	レンズ未装着時の絞り数値設定	○	○	○
(4)	マルチ電子ロック	○	○	○
(5)	操作ボタン カスタマイズ	設定により異なる		
(6)	On/Off ボタンの機能	(再生時)		

● 点7



■ : 設定無効 (機能しません)

		ファインダー撮影	LV撮影	動画撮影
(1)	スイッチ (点滅/シャッター)	○	○	○
(2)	スマートコントローラー	○	○	○
(3)	トリミング情報の付加	○	○	■
(4)	各種タイマー保持時間	*1		
(5)	リリースタイムラグ最速化	○	■	■
(6)	音声メモの音質	(再生時)		
(7)	音声圧縮	■	■	○

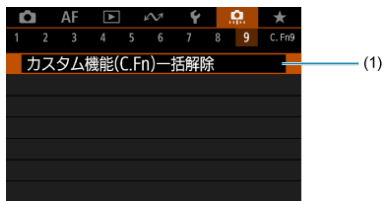
*1 : [リリース後タイマー] のみ

● 点8



■ : 設定無効 (機能しません)

		ファインダー撮影	LV撮影	動画撮影
(1)	画像消去の初期設定	○	○	■
(2)	電源オフ時のレンズ収納	○	○	○
(3)	IPTC情報の付加	○	○	■



■ : 設定無効 (機能しません)

		ファインダー撮影	📷 LV撮影	🎥 動画撮影
(1)	カスタム機能(C.Fn)一括解除	○	○	○

カスタム機能で変更できる内容

[C.Fn1](#)

[C.Fn2](#)

[C.Fn3](#)

[C.Fn4](#)

[C.Fn5](#)

[C.Fn6](#)

[C.Fn7](#)

[C.Fn8](#)

[C.Fn9](#)

撮影スタイルに応じて、[\[設定\]](#) タブでカメラの機能を細かく設定することができます。初期設定から変更した内容は、設定値が青色で表示されます。

露出設定ステップ

- **1/3 : 設定1/3 露出補正1/3**
シャッタースピードと絞り数値、露出補正量、AEBレベル、ストロボ調光補正量を1/3段ステップで設定することができます。
- **1/1 : 設定1 露出補正1/3**
シャッタースピードと絞り数値を1段ステップ、露出補正量、AEBレベル、ストロボ調光補正量を1/3段ステップで設定することができます。
- **1/2 : 設定1/2 露出補正1/2**
シャッタースピードと絞り数値、露出補正量、AEBレベル、ストロボ調光補正量を1/2段ステップで設定することができます。

参考

- [設定1/2 露出補正1/2] 設定時の露出レベル表示は図のようになります。



ISO感度設定ステップ

ISO感度の手動設定ステップを1段ステップに変更することができます。

- **1/3 : 1/3段**
- **1/1 : 1段**

参考

- [1段] に設定しても、ISOオート設定時は1/3段ステップで自動設定されます。

ブラケットング自動解除

電源スイッチを〈OFF〉にしたときの、AEBとWBブラケットングの解除を設定することができます。

- ON : する
- OFF : しない

ブラケットング順序

AEBの撮影順序と、WBブラケットング撮影時の画像の記録順序を変更することができます。

- 0-+ : 0→-→+
- -0+ : -→0→+
- +0- : +→0→-

AEB	WBブラケットング	
	B/A方向設定時	M/G方向設定時
0 : 標準露出	0 : 基準ホワイトバランス	0 : 基準ホワイトバランス
- : マイナス補正	- : ブルー寄りに補正	- : マゼンタ寄りに補正
+ : プラス補正	+ : アンバー寄りに補正	+ : グリーン寄りに補正

ブラケットング時の撮影枚数

AEB撮影、WBブラケットング撮影時の撮影枚数を変更することができます。
なお、[ブラケットング順序]を[0→→+]に設定したときは、下表のように撮影されま
す。

- 3 : 3枚
- 2 : 2枚
- 5 : 5枚
- 7 : 7枚

(1段ステップ設定時)




	1枚目	2枚目	3枚目	4枚目	5枚目	6枚目	7枚目
3 : 3枚	標準 (0)	-1	+1				
2 : 2枚	標準 (0)	±1					
5 : 5枚	標準 (0)	-2	-1	+1	+2		
7 : 7枚	標準 (0)	-3	-2	-1	+1	+2	+3

参考

- [2枚]設定時は、AEBレベルを設定するときに補正方向(+または-)を選ぶことができます。WBブラケットング設定時は、B/A方向、またはM/G方向のマイナス補正になります。

測距点連動スポット測光

測光モードが[]のときに、測距点(AFフレーム)に連動したスポット測光を行うかどうかを設定することができます。

-  **中央AFフレームのみ**
測距エリア選択モードやAFフレームの選択状態に関わらず、常にファインダーの中央部でスポット測光が行われます。
-  **測距点に連動**
任意選択AFフレームに連動したスポット測光を行うことができます。なお、測距エリア選択モードが、自動選択AF、ゾーンAF、ラージゾーンAFのときは、ファインダーの中央部でスポット測光が行われます。
外部ストロボ使用時は、任意選択AFフレームに連動したFEロックを行うことができます(ストロボメーターマニュアル撮影時 ) に活用することもできます。

セーフティシフト

被写体の明るさが変化して、自動露出で標準露出が得られる範囲を超えたとき、手動設定値をカメラが自動的に変更して、標準露出で撮影することができます。[Tv値/Av値]は〈Tv〉、〈Av〉モードで機能します。[ISO感度]は〈P〉、〈Tv〉、〈Av〉モードで機能します。

- OFF : しない
- Tv/Av : Tv値/Av値
- ISO : ISO感度

参考

- [ISO感度] 設定時は、〈M〉モードでAEB撮影を行ったときも機能します。
- [📷 : ISO感度に関する設定] で、[静止画撮影の範囲] [オートの低速限界] が初期状態から変更されていても、標準露出が得られないときは、セーフティシフトが優先されます。
- ISO感度でセーフティシフトが行われたときの下限感度、上限感度は、[オートの範囲] の設定によります (🔍)。ただし、手動設定されているISO感度が [オートの範囲] を超えているときは、手動設定した感度までの範囲でセーフティシフトが行われます。
- ストロボ撮影時も状況に応じてセーフティシフトが行われます。


絞り数値変化時の露出維持

〔M〕モード（マニュアル露出撮影）+ISO感度任意設定時に（ISOオート設定時を除く）、①レンズを交換したとき、②エクステンダーを装着したとき、③開放絞り数値が変化するズームレンズを使用したときは、開放絞り数値が大きい数値（小絞り側）に変化することがあります。絞り開放の設定のまま撮影を行うと、開放絞り数値が暗くなった段数分、露出アンダー（露出不足）になりますが、ISO感度、またはシャッタースピード（Tv値）を自動的に変更して、①②③を行う前と同じ露出で撮影することができます。

〔ISO感度/Tv値〕は、ISO感度設定範囲内でISO感度を自動的に変更します。ISO感度を変更しても露出が維持できないときは、シャッタースピード（Tv値）を自動的に変更します。

- OFF : しない
- ISO : ISO感度
- ISO/Tv : ISO感度/Tv値
- Tv : Tv値

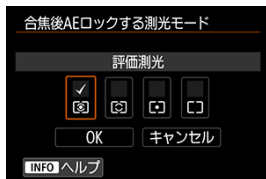
⚠ 注意

- マクロレンズ使用時の（撮影倍率の変更による）実効絞り数値の変化には対応していません。
- 〔ISO感度〕設定時に、〔ISO感度の範囲〕で設定した範囲内で露出が維持できないときは、①②③を行う前と同じ露出になりません。
- 〔Tv値〕設定時に、〔 3 : シャッタースピード制御範囲設定〕で設定した範囲内で露出が維持できないときは、①②③を行う前と同じ露出になりません。

📖 参考



- この機能は最大絞り数値（最小絞り）の変化にも対応しています。
- 〔ISO感度〕〔ISO感度/Tv値〕〔Tv値〕の設定で①②③を行ったあと、ISO感度、シャッタースピード、絞り数値を任意に変更せずに①②③を行う前の状態に戻すと、露出設定が元の状態に戻ります。
- 〔ISO感度〕設定時に、拡張ISO感度に達したときは、露出維持のためシャッタースピードが変化することがあります。

合焦後AEロックする測光モード




ワンショットAFでピントが合ったときに、露出を固定（AEロック）するかどうかを、測光モードごとに設定することができます。シャッターボタンを半押ししている間、露出が固定されます。AEロックする測光モードを選び、[✓]を付けます。[OK]を選ぶと設定されず。










撮影モードの限定

〈MODE〉ボタンを押したときに選択できる撮影モードを限定することができます。撮影モード〈P/Av/M/Tv/BULB/C1/C2/C3〉を選び、〈〉を押して〈〉を付けます。[OK] を選ぶと設定されます。


注意

- 撮影モードの限定で設定した内容は、〈C1〉 〈C2〉 〈C3〉 には登録されません。
- 8項目すべての〈〉を外すことはできません。

測光モードの限定






〈・〉ボタンを押したときに選択できる測光モードを限定することができます。測光モード〈/〈/〈/〈/〈〉〉を選び、〈〉を押して〈〉を付けます。[OK] を選ぶと設定されます。

注意








- 4項目すべての〈〉を外すことはできません。

マニュアル露出時の測光モード

撮影モードが〈M〉のときに使用する測光モードを設定することができます。

- : 設定測光モード
撮影時に設定されている測光モードで測光が行われます。
- : 評価測光
- : 部分測光
- : スポット測光
- : 中央部重点平均測光

注意

- 〈/〈/〈/〈/〈〉〉〉設定時は、マニュアル露出撮影時に〈・〉ボタンを押しても、測光モードは選択できません。

シャッタースピード制御範囲設定

シャッタースピードの制御範囲を設定することができます。〈Tv〉 〈M〉モードのときは、設定した範囲でシャッタースピードを手動設定することができます。〈P〉 〈Av〉モードのときは、設定した範囲でシャッタースピードが自動設定されます（動画撮影時を除く）。[OK] を選ぶと設定されます。

- **低速側**
30秒～1/4000秒の範囲で設定することができます。
- **高速側**
1/8000秒～15秒の範囲で設定することができます。

絞り数値の制御範囲の設定

絞り数値の制御範囲を設定することができます。〈Av〉 〈M〉 〈BULB〉モードのときは、設定した範囲で絞り数値を手動設定することができます。〈P〉 〈Tv〉モードのときは、設定した範囲で絞り数値が自動設定されます。[OK] を選ぶと設定されます。

- **開放側**
F1.0～F64の範囲で設定することができます。
- **小絞り側**
F91～F1.4の範囲で設定することができます。

参考

- 絞り数値の制御範囲は、使用するレンズの最小絞り数値と開放絞り数値により異なります。

AEマイクロアジャストメント

⚠ 注意

- 通常はこの機能で露出基準を調整する必要はありません。必要な場合のみ、調整を行ってください。なお、調整により適切な露出で撮影できなくなる恐れがありますので、十分に注意してください。

露出基準を微調整することができます。露出補正を行わずに自動露出で撮影した画像が、常に露出アンダー、または露出オーバーと感じるときに有効です。

- **OFF** : しない
- **ON** : する

[する] を選び〔Q〕ボタンを押すと、調整画面が表示されます。1/8段ステップ±1段の範囲で露出基準を調整することができます。撮影画像が露出アンダー傾向にあるときはプラス側に、露出オーバー傾向にあるときはマイナス側に調整します。

⚠ 注意

- AEマイクロアジャストメントで露出基準の調整を行っても、露出基準が変更になるだけで、動画撮影時に実際に露出補正ができる範囲は変わりません。動画撮影時に実際に露出補正ができる範囲を超えたときは、AEマイクロアジャストメントによる調整分の露出補正量は撮影結果に反映されません（例：AEマイクロアジャストメント：+1段、露出補正：+3段に設定したときは、+1段分の露出補正は行われません）。

📖 参考

- ファインダー撮影時は、調整した露出基準から±5段（ライブビュー撮影時は±3段）の露出補正を行うことができます。

⚠ 注意








- 通常はこの機能で調光露出の基準を調整する必要はありません。必要な場合のみ、調整を行ってください。なお、調整により適切な露出でストロボ撮影ができなくなる恐れがありますので、十分に注意してください。

ストロボ撮影時の調光露出の基準を微調整することができます。調光補正を行わずに自動調光で撮影した際に、主被写体が常に露出アンダー、または露出オーバーと感じるときに有効です。

- **OFF** : しない
- **ON** : する

[する] を選び〔Q〕ボタンを押すと、調整画面が表示されます。1/8段ステップ±1段の範囲で調光基準を調整することができます。主被写体が露出アンダー傾向にあるときはプラス側に、露出オーバー傾向にあるときはマイナス側に調整します。

連続撮影速度

〈H〉高速連続撮影、〈〉連続撮影、〈L〉低速連続撮影、〈S〉ソフト連続撮影、〈SL〉ソフト低速連続撮影時の連続撮影速度を設定することができます。[OK] を選ぶと設定されます。

- **高速連続撮影**

初期状態では16コマ/秒に設定されています。16～3コマ/秒の範囲で設定することができます。

- **連続撮影**

初期状態では10コマ/秒に設定されています。15～2コマ/秒の範囲で設定することができます。

- **低速連続撮影**

初期状態では3.0コマ/秒に設定されています。14～1コマ/秒の範囲で設定することができます。

- **ソフト連続撮影**

初期状態では8.0コマ/秒に設定されています。8～2コマ/秒の範囲で設定することができます。

- **ソフト低速連続撮影**


初期状態では3.0コマ/秒に設定されています。7～1コマ/秒の範囲で設定することができます。

! 注意

- 連続撮影速度の設定を行っても、撮影条件により、設定した速度で連続撮影できないことがあります。連続撮影に関する注意事項は[ドライブモードの選択](#)を参照してください。





連続撮影時の撮影枚数制限

連続撮影の設定でシャッターボタンを押し続けたときに、何枚で連続撮影を自動停止するかを設定することができます。

99～2枚の範囲で設定することができます。〈〉ボタンを押すと、[しない]に戻ります。[しない] 設定時は、ファインダー内の右側に表示されている枚数の連続撮影を行うことができます。

ドライブモードの限定

〈DRIVE・AF〉 ボタンを押したときに選択できるドライブモードを限定することができます。

ドライブモード 〈 /  /  /  /  /  /  〉を選び、〈SET〉
を押して 〈✓〉 を付けます。[OK] を選ぶと設定されます。

⚠ 注意

- すべての項目の 〈✓〉 を外すことはできません。

露光中のファインダー内表示

ファインダー撮影を行ったときに、露光中、ファインダー内に撮影情報を表示するかどうかを設定することができます。

- **OFF : しない**


- **ON : する**

露光中もファインダー内に撮影情報が表示されます。露出や撮影可能枚数などを確認しながら連続撮影したいときに有効です。


⚠ 注意

- 撮影モードがバルブ撮影のときは、[する] に設定しても機能しません。

バルブ撮影中の表示パネル照明

表示パネル照明が点灯した状態でバルブ撮影を行ったときや、バルブ撮影中に〈〉ボタンを押したときに、照明を消灯するか、継続して点灯するかを設定することができます。


- **OFF : 消灯**


バルブ撮影を開始すると表示パネル照明が消灯します。バルブ撮影中に〈〉ボタンを押したときは、約6秒間表示パネルが照明されます。




- **ON : 継続して点灯**


バルブ撮影が終了するまで表示パネル照明が点灯します。暗い場所などで露光時間を確認しながらバルブ撮影を行いたいときに有効です。


記録カードと画像サイズの設定

〈〉 ボタンを押したときに、カードの選択と画像サイズの設定を、背面表示パネルで行うか、モニターで行うかを設定することができます。



-  : 背面表示パネル

〈〉 ボタンを押して、背面表示パネルを見ながら 〈〉 〈〉 で設定することができます。



-  : モニター





〈〉 ボタンを押すと、[画像サイズ] または [記録機能とカード・フォルダ選択] (動画撮影時は [動画記録画質]) の画面が表示され、押すたびに画面が切り換わります。

- OFF :  ボタン無効








〈〉 ボタンを押しても、カードの選択と画像サイズの設定はできません。〈〉 ボタンが不用意に押されて、記録するカードや画像サイズが変わることを防止することができます。カードの選択と画像サイズの設定は、メニュー画面から行います。

ファインダー内警告の項目

以下の機能が設定されているときに、ファインダー視野内に警告アイコンを表示することができます（）。警告表示を行う対象を選び、を押して \checkmark を付けます。**[OK]**を選ぶと設定されます。

-  **モノクロ設定時**
ピクチャースタイルが**[モノクロ]**に設定されているときに（）、警告表示が行われます。
- **ホワイトバランス補正時**
ホワイトバランス補正が設定されているときに（）、警告表示が行われます。
- **ワンタッチ記録画質切り換え時**
ワンタッチ記録画質切り換え機能（）で、記録画質が変更されているときに、警告表示が行われます。

Tv/Av値設定時のダイヤル回転





-  **通常**
-  **設定方向を反転**
シャッタースピード、絞り数値設定時のダイヤルによる設定方向を反転させることができます。
撮影モードが**[M]**のときは（）（）、それ以外の撮影モードでは（）の設定方向が反転します。**[M]**モード時に（）を操作したときの設定方向と、**[P]**（**Tv**）（**Av**）モード時に（）を操作して露出補正を行ったときの設定方向が同じになります。


レンズ未装着時の絞り数値設定






カメラにレンズを取り付けていない状態で、絞り数値が設定できるようにするかどうかを設定することができます。

- **OFF**：不可
- **ON**：可能
レンズを取り外した状態で絞り数値の設定を行うことができます。撮影時の絞り数値があらかじめ決まっているときに、この機能を使って準備しておくことができます。





マルチ電子ロック

電源スイッチを〈LOCK〉位置にすると、〈〉 〈〉 〈〉 が不用意に動いたり、〈〉 やタッチパネルに意図せずに触れたりして、設定が変わることを防止することができます。

〈LOCK〉にしたときに操作を禁止する操作部材を選び、〈〉 を押して [✓] を付けます。[OK] を選ぶと設定されます。

-  : **メイン電子ダイヤル**
メイン電子ダイヤル、縦位置メイン電子ダイヤルがロックされます。
-  : **サブ電子ダイヤル**
サブ電子ダイヤルがロックされます。
-  : **マルチコントローラー**
マルチコントローラー、縦位置マルチコントローラーがロックされます。
-  : **タッチ操作**
タッチ操作がロックされます。
-  : **スマートコントローラー**
スマートコントローラーがロックされます。

参考

- ロックした状態で禁止した部材を操作すると（[ **タッチ操作**] 設定時を除く）、フアインダー内と上面表示パネルに〈L〉、クイック設定画面（）とクイック設定カスタマイズ画面（）に [LOCK] が表示されます。
- 初期状態で電源スイッチを〈LOCK〉の位置にしたときは、〈〉 がロックされます。

操作ボタン カスタマイズ

よく使う機能を、自分が操作しやすいボタンやダイヤルに割り当てることができます。詳しくは[操作ボタンカスタマイズ](#)を参照してください。

○m/🎧ボタンの機能

〈○m/🎧〉ボタンの機能を変更することができます。画像プロテクト、音声メモの記録、レーティングは、画像再生中に行うことができます。

- ○m/🎧：プロテクト(長押しで音声記録)

〈○m/🎧〉ボタンを押すと画像がプロテクトされます。〈○m/🎧〉ボタンを約2秒間押しと音声メモの記録が始まり、離すと終了します。

- 🎧：音声メモ記録(○m不可)

〈○m/🎧〉ボタンを押すとすぐに音声メモの記録が始まり、離すと終了します。

- ▶/🎧：音声メモ再生(長押しで記録)

音声メモ付きの画像を再生しているときに〈○m/🎧〉ボタンを押すと、音声メモが再生されます。〈○m/🎧〉ボタンを約2秒間押しと音声メモの記録が始まり、離すと終了します。

- ★：レーティング (○m/🎧不可)

〈○m/🎧〉ボタンを押すとレーティングを行うことができます。ボタンを押すたびにレーティング (OFF/[★]/[★★]/[★★★]/[★★★★]/[★★★★★]) が切り換わります。

📖 参考

- [音声メモ記録(○m不可)] [音声メモ再生(長押しで記録)] [レーティング (○m/🎧不可)] 設定時に、画像をプロテクトするときは、[▶]：画像プロテクトで設定します。
- [レーティング (○m/🎧不可)] 選択時に〈[Q]〉ボタンを押すと、〈○m/🎧〉ボタンを押したときに選択できるお気に入りマークを設定することができます。

oスイッチ(📷/📺)

- 📷⇄📷 : 📷/📺有効
- 📷 : 📷無効

【📷無効】設定時は、ライブビュー撮影/動画撮影スイッチを〈📷〉に合わせても、動画撮影はできません。常に静止画を撮影することができます。

📷スマートコントローラー

〈📷〉ボタンを押したあと、スマートコントローラーを指でスライドするとAFフレームを移動することができます。

- **ON : 有効**
横位置・縦位置、どちらでもスマートコントローラーを使用することができます。
- 📺 : 縦位置📷のみ無効
横位置撮影用のスマートコントローラーでのみ操作できます。
- **OFF : 無効**
スマートコントローラーは動作しません。

⚠ 注意

- 操作ボタンカスタマイズ機能で、【AF-ON】ボタンの機能割り当てが【無効】に設定されているときは、この機能は設定できません。

📖 参考

- 【有効】【縦位置📷のみ無効】選択時に、〈📷〉ボタンを押して敏感度を変更すると、スマートコントローラーを指でスライドしたときのAFフレームの移動量の大きさ（敏感度）を変えることができます。

トリミング情報の付加

トリミング情報の設定を行うと、ライブビュー撮影時に設定した比率に応じた縦線が画面に表示され、6×6cm、4×5inchなど、中判/大判カメラと同じ構図で撮影することができます。

撮影を行うと、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalでトリミングを行うための縦横比の情報が、画像に付加されます（トリミングされた画像が、カードに記録されるわけではありません）。

パソコンに画像を取り込み、Digital Photo Professionalを使用すると、撮影時に設定した縦横比で簡単にトリミングすることができます。

- OFF : しない(比率3:2)
- 6:6 : 比率6:6
- 3:4 : 比率3:4
- 4:5 : 比率4:5(六切)
- 6:7 : 比率6:7
- 5:6 : 比率5:6(四切)
- 5:7 : 比率5:7

⚠ 注意

- ファインダー撮影時もトリミング情報が付加されますが、トリミング範囲は確認できません。
- トリミング情報が付加されたRAW画像をカメラで現像処理しても (🔗)、JPEG/HEIF画像はトリミングされた状態では保存されません。RAW現像を行ったときは、トリミング情報が付加されたJPEG/HEIF画像が保存されます。

📖 参考

- [比率6:6] 設定時のみ、ファインダー内に縦線が表示されます。

各種タイマー保持時間

ボタンから指を離れたあと、タイマーによりその機能の設定状態が保持される時間を変更することができます。0～59秒、1～60分の範囲で設定することができます。

- **6秒タイマー**
測光タイマーとAEロックの保持時間を設定することができます。
- **16秒タイマー**
FEロックとマルチスポット測光の保持時間を設定することができます。
- **レリーズ後タイマー**
レリーズ後の測光タイマー保持時間を設定することができます。通常は撮影後に約2秒間作動します。時間を長くすると、同じ露出でAEロック撮影が行いやすくなります。

レリーズタイムラグ最速化

通常はレリーズタイムラグを安定化する制御が行われますが、[する]に設定すると、この制御を行わないようにして、レリーズタイムラグをさらに短くすることができます。

- | : しない
- | : する
レリーズタイムラグは通常時の最速が約0.055秒ですが、最速化すると最高約0.029秒になります。

⚠ 注意

- レリーズタイムラグは撮影条件やレンズの種類、絞り数値などにより変動します。

音声メモの音質

音声メモを記録する際の音質を設定することができます。

- **48kHz : 高音質(48kHz)**
動画撮影時と同じ高音質で音声メモを記録することができます。
- **8kHz : 低音質(8kHz)**
[高音質(48kHz)] よりも音声メモのファイルサイズを小さくすることができます。

⚠ 注意

- すでに記録されている音声メモに追加記録するときは、ここで設定した内容に関わらず、先に記録されている音声メモと同じ音質で記録されます。

音声圧縮



動画撮影時の音声データの圧縮に関する設定です。[しない] を選ぶと、音声データを圧縮時よりも高音質で記録することができますが、ファイルサイズは大きくなります。


- ON : する
- OFF : しない



⚠ 注意

- [しない] で撮影した動画ファイルを編集して圧縮保存すると、音声データも圧縮されます。
- [動画記録画質] が **FHD 29.97P IPB** (NTSC)、**FHD 25.00P IPB** (PAL) のときは [しない] を選んでも音声データは圧縮されます。

画像消去の初期設定

画像再生時や撮影直後の画像表示中に〈〉ボタンを押すと、消去メニューが表示されますが（）、そのときにどの項目が選択されているかを設定することができます。

[キャンセル] 以外に設定したときは、〈〉を押すだけで画像を素早く消去することができます。

-  : [キャンセル]を選択
-  : [消去]を選択
- **RAW** : [RAWのみ消去]を選択
- **J/H** : [RAW以外を消去]を選択

注意

- [キャンセル] 以外に設定したときは、画像を誤って消去しないように注意してください。

電源オフ時のレンズ収納

カメラの電源スイッチを〈OFF〉にしたときに、ギアタイプのSTMレンズ（例：EF40mm F2.8 STM）の繰り出している部分の自動収納を設定することができます。

- **ON** : する
- **OFF** : しない

注意

- オートパワーオフのときは、設定に関わらずレンズは収納されません。
- レンズが収納されたことを確認してからレンズを取り外してください。

参考

- [する] 設定時は、レンズのフォーカスモードスイッチの設定（AF/MF）に関わらず機能します。

IPTC情報の付加

EOS用ソフトウェアのEOS UtilityからカメラにIPTC (International Press Telecommunications Council) 情報を登録すると、静止画 (JPEG/HEIF/RAW画像) 撮影時に、IPTC情報を画像に記録 (付加) することができます。IPTC情報を活用してファイル管理を行うときなどに有効です。

なお、IPTC情報のカメラへの登録方法や、登録できる内容については、EOS Utility使用説明書を参照してください。

- OFF : しない
- ON : する

注意

- 動画撮影時にIPTC情報は付加されません。

参考

- 再生時にIPTC情報の有無を確認することができます。
- EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalを使用すると、画像に記録されたIPTC情報の内容を確認することができます。

カスタム機能(C.Fn)一括解除

[**9**: カスタム機能(C.Fn)一括解除] を選ぶと、設定されているカスタム機能がすべて解除されます。

参考

- [**9**: カスタム機能(C.Fn)一括解除] を行っても、[**6**: 操作ボタン カスタマイズ] [**7**: スイッチ(ON/OFF)] [**7**: スマートコントローラー] で設定した内容は解除されません。また、[**8**: IPTC情報の付加] の登録内容も消去されませんが、設定は [しない] になります。
- [**9**: カスタム機能(C.Fn)一括解除] を行っても、[**3**: AEマイクロアジャストメント] [**3**: FEマイクロアジャストメント] の設定内容は解除されませんが、設定は [しない] になります。

2. 操作部材を選ぶ



3. 割り当てる機能を選ぶ



- 〈SET〉を押すと設定されます。
- 画面左下に **INFO** マークが表示される機能は、〈INFO〉ボタンを押すと、さらに詳細設定を行うことができます。

参考

- 手順2の画面で 〈MENU〉ボタンを押すと、設定内容を初期化することができます。なお、[. 6 : 操作ボタン カスタマイズ] の設定は、[. 9 : カスタム機能(C.Fn)一括解除] を選んでも解除されません。

操作部材に対して割り当てできる機能の一覧

機能		AF-ON	AE-L/AF-ON	*		LENS	MFn	MFn2	SET			
AF 測光・AF開始	○	○		○		○						
AF-OFF AF停止		○		○	○	○		○				
AF- 登録AF機能に切り換え					○	○		○				
ONE SHOT AI SERVO ワンショット ↔ AIサーボ		○		○	○	○		○				
 登録AFフレーム に切り換え					○	○		○				
 AFフレームダイ レクト選択			○								○	○
 AFフレーム選択 + 切 換											○	

露出

機能		AF-ON	AE-L/AF-ON	*		LENS	M-Fn	M-Fn2	SET			
測光開始	○	○		○								
*AEロック		○		○	○	○	○	○				
*AEロック (押している間)	○											
*H AEロック (ホールド)		○		○	○	○	○	○				
*AF-OFF AEロック・AF停止		○		○								
FEL FEロック		○		○	○		○	○				
ISO ISO感度設定									○			
ISO ISO感度設定 (押しながら)									○			
ISO ISO感度設定 (測光中)											○	
^{ISO} ISO感度 + ↔ ISO 切換												○
 露出補正 (押しながら)		○		○	○	○		○	○			
Tv Mモード時、シャッター速度変更										○	○	
Av Mモード時、絞り数値変更										○	○	

動画







機能		AF-ON	AE-L/AF-ON	*		LENS	M.Fn	M.Fn2	SET			
 動画サーボAF一時停止					<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			
 動画撮影開始 (*設定時有効)					<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			

画像

機能		AF-ON	AE-L/AF-ON	*		LENS	M.Fn	M.Fn2	SET			
 画像サイズ選択									<input type="radio"/>			
RAW JPEG ワンタッチ記録画 質切換					<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				
RAW JPEG H ワンタッチ記録画 質切換(ホールド)					<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				
 記録機能とカード・フォルダ選択									<input type="radio"/>			
 ピクチャースタイル 選択									<input type="radio"/>			
WB ホワイトバランス 選択									<input type="radio"/>			

操作

機能		AF-ON	AE-L/AF-ON	*		LENS	M.Fn	M.Fn2	SET			
 絞り込み					○			○				
 手ブレ補正機能作 動					○	○		○				
MENU メニュー表示									○			
 撮影機能の登録と 呼出		○		○								
UNLOCK 押している間、ロ ック解除					○			○				
 カスタム撮影モー ドに切り換え							○					
 画像の再生									○			
 拡大/縮小 (ボ タン+ボ タン)									○			
 拡大/縮小ボタン					○			○				
 再生ボタン					○			○				
INFO INFOボタン					○			○				
 消去ボタン					○			○				
 プロテクトボタン					○			○				

 機能の循環設定							○					
 ストロボ機能設定									○			
 ストロボの発光					○		○	○	○			
 ファインダー情報の 照明					○		○	○	○			
 ネットワーク設定					○		○	○	○			
 フォルダ作成					○		○	○	○			
OFF 無効		○	○	○	○		○	○	○	○	○	○

⚠ 注意

- 〈AF-ON〉ボタンに【無効】を割り当てたときは、スマートコントローラーの機能も無効になります。

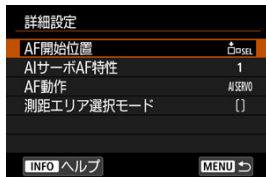
📖 参考

- 〈LENS〉は、手ブレ補正機能付きの超望遠レンズに装備されている「AFストップボタン」を表しています。

操作ボタンカスタマイズの設定について一部説明します。

AF : 測光・AF開始

この機能を割り当てたボタンを押すと、測光とAFを行います。



* 1 : (AF-ON) ボタン、(★) ボタンのときは、設定画面で (INFO) ボタンを押すと、AF機能の詳細設定を行うことができます。撮影時に (AF-ON) ボタン、または (★) ボタンを押すと、設定した内容でAFが行われます。

● AF開始位置

[登録AFフレーム] に設定したときは、(AF-ON) ボタンまたは (★) ボタンを押すと、登録したAFフレームに切り換わります。

【AFフレームの登録方法】

1. 測距エリア選択モードを、スポット1点AF / 1点AF / 領域拡大AF (任意選択 HP) / 領域拡大AF (任意選択 周囲) / 自動選択AFの中から選びます。ゾーンAF、ラージゾーンAFは登録できません。
2. AFフレームを任意選択します。
3. (AF) ボタンを押しながら (ISO) ボタンを押すと、「ピツ」という音がしてAFフレームが登録されます。測距エリア選択モードが、自動選択AF以外の場合は、登録したAFフレームが点滅します。

参考

- AFフレーム登録時に表示される内容は次のとおりです。
 - 自動選択AF : HP (HP: Home Position)
 - スポット1点AF、1点AF、領域拡大AF (任意選択)、領域拡大AF (任意選択 周囲) : SEL [] (中央) / SEL HP (中央以外)
- 登録したAFフレームを解除するときは、(AF) ボタンを押しながら (解除) ボタンを押します。

● AIサーボAF特性 (設定)

(AF-ON) ボタンまたは (★) ボタンを押すと、設定した [Case *] の特性でAFが行われます。

● AF動作 (設定)

(AF-ON) ボタンまたは (★) ボタンを押すと、設定したAF動作でAFが行われます。

● 測距エリア選択モード (📍)

〈AF-ON〉ボタンまたは〈*〉ボタンを押すと、設定した測距エリア選択モードでAFが行われます。

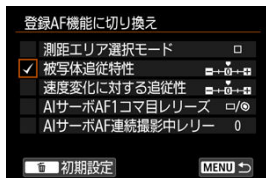
なお、〈AF-ON〉ボタンまたは〈*〉ボタンを押したときに、そのとき選択しているAFフレームを使用したいときは〔AF開始位置〕を〔選択AFフレーム〕、そのとき設定されているAIサーボAF特性、AF動作、測距エリア選択モードを維持したいときは〔現在の設定を変更しない〕を選びます。






 参考

- [AF: 縦位置/横位置のAFフレーム設定] を [別々に設定: エリア+フレーム] [別々に設定: フレーム] に設定しているときは、縦位置撮影 (グリップ上/下)、横位置撮影に使用するAFフレームを別々に登録することができます。
- [AF開始位置] の [登録AFフレーム] と [測距エリア選択モード] を同時に設定したときは、[登録AFフレーム] の設定が優先されます。

AF：登録AF機能に切り換え

この機能を割り当てたボタンを押している間だけ、登録したAF機能でAFを行うことができます。AIサーボAF中にAF特性を変えたいときに有効です。



* 2: 設定画面で〈INFO〉ボタンを押すと、詳細設定画面が表示されます。〈〉または〈〉を回して項目を選び、〈〉で〔√〕を付けます。項目名を選び〈〉を押すと、機能の内容を設定することができます。〈〉ボタンを押すと、設定を初期状態にすることができます。

⚠ 注意




- [AF: AIサーボAF特性/サーボAF特性]で[Case A]を選択しているときは、[被写体追従特性][速度変化に対する追従性]の設定内容は反映されません。

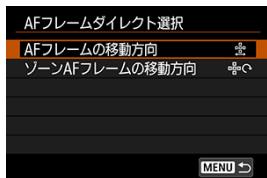
☐ HP : 登録AFフレームに切り換え



測光タイマー作動中に、この機能を割り当てたボタンを押すと、登録したAFフレームに切り換えることができます。

- * 3 : 設定画面で〈INFO〉ボタンを押すと、[押している間だけ切り換え] [もう一度押すまで切り換え保持] を選択することができます。AFフレームの登録方法については、[\[AFフレームの登録方法\]](#) を参照してください。







: AFフレームダイレクト選択



測光タイマーが作動中であれば、 ボタンを押さずに、 または  で直接AFフレームを選択することができます。






- * 4 : サブ電子ダイヤルの設定画面で **INFO** を押すと、 を操作したときのAFフレームの移動方向を設定することができます。**[AFフレームの移動方向]** の **[横方向]** **[縦方向]** の設定は、スポット1点AF/1点AF/領域拡大AF（任意選択）/領域拡大AF（任意選択周囲）時に、**[ゾーンAFフレームの移動方向]** の **[循環]** **[横方向]** **[縦方向]** の設定は、ゾーンAF時に機能します。
- * 5 : マルチコントローラーの設定画面で **INFO** ボタンを押すと、 の中央を押したときのAFフレームの切り換えを **[中央AFフレームに切り換え]** **[登録AFフレームに切り換え]** から選択することができます。AFフレームの登録方法については、[\[AFフレームの登録方法\]](#) を参照してください。

: AFフレーム選択 + ⇄ 切換



測光タイマーが作動中であれば、 ボタンを押さずに、 で直接AFフレームを選択することができます。この機能を設定したときは、 ボタンと  ボタンの機能が入れ換わります。 ボタンを押しながら  を回すと、露出補正/絞り数値の設定を行うことができます。

- * 6: 設定画面で  を押すと、 を操作したときのAFフレームの移動方向を設定することができます。[AFフレームの移動方向] の [横方向] [縦方向] の設定は、スポット1点AF/1点AF/領域拡大AF (任意選択) / 領域拡大AF (任意選択周囲) 時に、[ゾーンAFフレームの移動方向] の [循環] [横方向] [縦方向] の設定は、ゾーンAF時に機能します。

: ISO感度 + ⇄ ISO切換

測光タイマー作動中に  を回すと、ISO感度を設定することができます。この機能を設定したときは、 ボタンと **ISO** ボタンの機能が入れ換わります。**ISO** ボタンを押して  を回すと、露出補正/絞り数値の設定を行うことができます。

: 画像サイズ選択

〈SET〉を押すと、背面表示パネルを見ながら、カード選択、画像サイズの設定を行うことができます。カードを選択するときは〈〉を回します。画像サイズを設定するときは〈〉を回します。

この機能を割り当てたボタンを押すと、ここで設定した画像サイズに切り換えて撮影することができます。切り換え中は、ファインダー内の **JPEG RAW** と背面表示パネルの画像サイズが点滅します。撮影が終了すると切り換えが自動解除され、元の画像サイズに戻ります。

* 7: 設定画面で **(INFO)** ボタンを押すと、切り換える画像サイズを設定することができます。

この機能を割り当てたボタンを押すと、ここで設定した画像サイズに切り換えて撮影することができます。切り換え中は、ファインダー内の **JPEG RAW** と背面表示パネルの画像サイズが点滅します。撮影を行っても、切り換えは自動解除されません。もう一度この機能を割り当てたボタンを押すと、元の画像サイズに戻ります。

* 7 : 設定画面で **INFO** ボタンを押すと、切り換える画像サイズを設定することができます。

📷 : 撮影機能の登録と呼出

主要な撮影機能を任意に設定して、カメラに登録することができます。この機能を割り当てたボタンを押すと、押ししている間だけ、登録した撮影機能呼び出して撮影することができます。




- * 8 : 設定画面で〈INFO〉ボタンを押すと、詳細設定画面が表示されます。〈☉〉または〈☀〉を回して項目を選び、〈SET〉で〔✓〕を付けます。項目名を選び〈SET〉を押すと、機能の内容を設定することができます。〈☐〉ボタンを押すと、設定を初期状態にすることができます。なお、〔現在の設定内容を登録〕を選ぶと、現在カメラに設定されている内容を登録することができます。AFフレームの登録方法については、[【AFフレームの登録方法】](#)を参照してください。

⚠ 注意

- スピードライト EL-100装着時は、この設定内容は機能しません。

UNLOCK : 押している間、ロック解除

電源スイッチが〈LOCK〉位置でも、この機能を割り当てたボタンを押している間だけ、
[ 6 : マルチ電子ロック] で制限した部材を操作することができます。



C : カスタム撮影モードに切り換え

撮影モードが〈C1〉 〈C2〉 〈C3〉以外有的时候に、〈M-Fn〉ボタンを押すと、登録されているカスタム撮影モード (📷) に切り換えることができます。[📷,3 : 撮影モードの限定] の [C1] [C2] [C3] に [✓] が付いているときは、〈M-Fn〉ボタンを押すごとに「C1 → C2 → C3 → 現在の撮影モード」の順に切り換わります。

: 機能の循環設定

〈M-Fn〉ボタンを押すたびに、撮影機能の設定を循環して切り換えることができます。



* 9 : 設定画面で〈INFO〉ボタンを押すと、詳細設定画面が表示されます。切り換える機能を設定することができます。〈〉を回して項目を選び、〈〉で [✓] を付けます。[OK] を選ぶと設定されます。

: ファインダー情報の照明

この機能を割り当てたボタンを押すと、ファインダー内に表示されている情報を赤く照明することができます。もう一度この機能を割り当てたボタンを押すか、シャッターボタンなど測光タイマーが作動するボタンを押すと消灯します。

注意

- AEロック中にこの機能を割り当てたボタンを押すと、AEロックが解除され、ファインダー情報の照明が行われます。

メニュー目次：マイメニュータブ



- (1) [マイメニュータブの追加](#)
- (2) [マイメニュータブの全削除](#)
- (3) [全項目削除](#)
- (4) [メニュー表示](#)

マイメニューの登録

- [マイメニュータブの追加（作成）](#)
- [マイメニュータブに項目を登録](#)
- [マイメニュータブの設定](#)
- [マイメニュータブの全削除／全項目削除](#)
- [メニュー表示の設定](#)

設定変更の頻度の高いメニュー機能とカスタム機能を選んで、マイメニュータブに登録することができます。

マイメニュータブの追加（作成）

1. [マイメニュータブの追加] を選ぶ

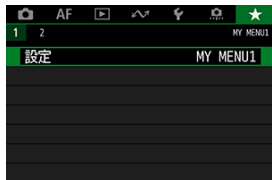


2. [OK] を選ぶ



- 手順1、2を繰り返すと、[MY MENU5] まで作成することができます。

1. [MY MENU* : 設定] を選ぶ



2. [登録項目の選択] を選ぶ



3. 項目を登録する



- 項目を選び〈SET〉を押します。
- 確認画面で [OK] を選ぶと登録されます。
- 6項目まで登録できます。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、手順2の画面に戻ります。

マイメニュータブの設定



タブに登録した項目の並べ替え、項目またはタブの削除、タブの名称の変更を行うことができます。

● 登録項目の並べ替え

登録した項目の並び順を変えることができます。[登録項目の並べ替え]を選び、並び順を変える項目を選んで〈SET〉を押します。[◆]が表示された状態で〈○〉を回して並び順を変え、〈SET〉を押します。

● 選択して削除／タブ内の全項目削除

登録した項目を削除することができます。[選択して削除]を選ぶと1項目ずつ削除、[タブ内の全項目削除]を選ぶと、タブ内に登録されている項目がすべて削除されます。

● タブの削除

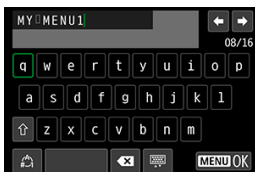
現在設定しているタブを削除することができます。[タブの削除]を選ぶと、[MY MENU *]のタブが削除されます。

- **タブ名の変更**

タブの名称を [MY MENU*] から任意の名称に変更することができます。

1. [タブ名の変更] を選ぶ

2. 文字を入力する



- [X] を選ぶか、(⏪) ボタンを押すと、1文字消去されます。
- (⏪) (⏩) を操作して文字を選び、(SET) を押すと入力されます。
- (⏩) を選ぶと、入力モードが切り換わります。

3. 入力を確定する

- (MENU) ボタンを押して [OK] を選びます。

マイメニュータブの全削除／全項目削除



作成したすべてのタブの削除、作成したすべてのタブに登録されている全項目の削除を行うことができます。

● マイメニュータブの全削除

作成したタブをすべて削除することができます。[マイメニュータブの全削除] を選ぶと、[MY MENU1] ~ [MY MENU5] のタブがすべて削除され、[★] タブが初期状態に戻ります。

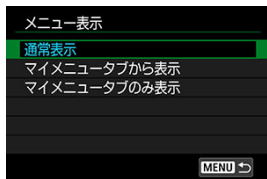
● 全項目削除

[MY MENU1] ~ [MY MENU5] タブに登録されている項目だけを、すべて削除することができます。タブ自体は削除されません。[全項目削除] を選ぶと、作成したすべてのタブに登録されている全項目が削除されます。

⚠ 注意

- [タブの削除] [マイメニュータブの全削除] を行うと、[タブ名の変更] で設定した名前も削除されます。

メニュー表示の設定



[**メニュー表示**] を選ぶと、〈MENU〉ボタンを押したときに表示する画面を設定することができます。

- **通常表示**

前回操作を行ったときに、最後に表示していたメニュー画面が表示されます。

- **マイメニュータブから表示**

[★] タブの画面から表示されます。

- **マイメニュータブのみ表示**

[★] タブの画面だけが表示されます（〔〕 [AF] [▶] [∞] [Y] [.] タブは表示されません。）

この章では、撮影の参考になるカメラの機能情報などの説明を行っています。

- [パソコンへの画像の取り込み](#)
- [故障かな?と思ったら](#)
- [エラー表示](#)
- [使用レンズとAF測距 \(ファインダー撮影\)](#)
- [システム図](#)
- [データシート](#)
- [情報表示](#)
- [主な仕様](#)

パソコンへの画像の取り込み

[カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続する](#)

[カードリーダーを使う](#)

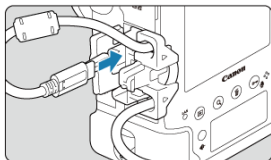
[カメラとパソコンをWi-Fi接続する](#)

EOS用のソフトウェアを使って、カメラで撮影した画像をパソコンに取り込むことができます。パソコンに取り込む方法は、3通りあります。

カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続する

1. EOS Utilityをインストールする (📎)

2. カメラとパソコンを接続する



- カメラに付属のインターフェースケーブルを使用します。
- カメラ側を接続するときは、ケーブルプロテクターを使用し (📎)、プラグをデジタル端子に差し込みます。
- パソコンのUSB端子 (Type-C) にプラグを差し込みます。

3. EOS Utilityを使って画像を取り込む

- EOS Utility使用説明書を参照してください。

注意

- Wi-Fi接続中に、カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続しても、パソコンと通信できません。

参考

- FTPサーバーに接続して、カメラ内の画像をパソコンに転送することができます (📁)。

カードリーダーを使う

カードリーダーを使って画像をパソコンに取り込むことができます。

1. Digital Photo Professionalをインストールする (📄)
2. カードリーダーにカードを差し込む
3. Digital Photo Professionalを使って画像を取り込む

- Digital Photo Professional使用説明書を参照してください。

参考

- EOS用ソフトウェアを使わずに、カードリーダーを使って画像を取り込むときは、カード内の「DCIM」フォルダをパソコンにコピーしてください。

カメラとパソコンをWi-Fi接続する

カメラとパソコンをWi-Fi接続して、画像をパソコンに取り込むことができます (📷)。

故障かな？と思ったら

- [電源関連](#)
- [撮影関連](#)
- [無線通信機能関連](#)
- [操作関連](#)
- [表示関連](#)
- [再生関連](#)
- [センサークリーニング関連](#)
- [パソコン接続関連](#)

「カメラが故障したのかな？」と思ったら、下記の例を参考にしてカメラをチェックしてください。なお、チェックしても状態が改善しないときは、修理受付窓口にご相談ください。

電源関連

バッテリーが充電できない

- 付属のバッテリーチャージャー LC-E19は、付属のバッテリーパック LP-E19以外は充電できません。
- 充電、または充電器に関する不具合は、[バッテリーを充電する](#)を参照してください。

電源スイッチを〈ON〉にしてもカメラが作動しない

- バッテリーがカメラにきちんと入っているか確認してください (🔍)。
- カードスロットカバーが閉じているか確認してください (🔍)。
- バッテリーを充電してください (🔍)。

電源スイッチを〈OFF〉にしてもアクセランプが点灯／点滅する

- カードへの画像記録中に電源を切ると、アクセランプが数秒間点灯／点滅します。画像記録が終了すると、自動的に電源が切れます。

【バッテリー通信エラー ご使用のバッテリーにCanonのロゴはありますか?】と表示される

- 純正のバッテリーパック LP-E19を使用してください。
- バッテリーの出し入れを行ってください (🔋)。
- バッテリーの接点が汚れているときは、やわらかい布などでふいてください。

バッテリーの消耗が早い

- フル充電したバッテリーを使用してください (🔋)。
- バッテリーの性能が劣化している可能性があります。[🔋: バッテリー情報] でバッテリーの劣化状態を確認してください (🔋)。劣化している場合は、新しいバッテリーをお買い求めください。
- 以下の操作を行うと、撮影可能枚数が少なくなります。
 - シャッターボタン半押しの状態を長く続ける
 - AFのみを行って撮影しない操作を頻繁に行う
 - レンズの手ブレ補正機能を使う
 - GPS機能を使用する
 - モニターを頻繁に使用する
 - ライブビュー撮影や動画撮影を長時間行う
 - 無線通信機能を使用する

電源が勝手に切れる

- オートパワーオフ機能が働いています。自動的に電源が切れないようにしたいときは、[🔋: オートパワーオフ] を [しない] にしてください (🔋)。
- [🔋: オートパワーオフ] を [しない] に設定していても、カメラを約30分放置すると、節電のためモニターの表示が消えます (カメラの電源は切れません)。

レンズが装着できない

- RFLレンズ、EF-Sレンズ、EF-Mレンズは使用できません (🔒)。

ファインダーが暗い

- 充電したバッテリーをカメラに入れてください (🔒)。

撮影・記録ができない

- カードが正しくセットされているか確認してください (🔒)。
- カードの空き容量がない場合は、空き容量のあるカードに交換するか、不要な画像を消去してください (🔒 🔒)。
- ワンショットAFでピントを合わせたときに、ファインダー内の合焦マーク (●) が点滅するときや、ライブビュー撮影／動画撮影時にAFフレームがオレンジ色のときは撮影できません。もう一度シャッターボタンを半押ししてピントを合わせなおすか、手動でピントを合わせてください (🔒)。

カードが使えない

- カードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、[カードを入れる／取り出す、エラー表示](#)を参照してください。

シャッターボタンを2回押さないと撮影できない

- [📷 : ミラーアップ撮影] を [しない] に設定してください。






画像がボケている／ブレている

- レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にしてください (🔒)。
- 手ブレを起こさないように、シャッターボタンを静かに押してください (🔒、🔒)。
- 手ブレ補正機能を搭載したレンズのときは、手ブレ補正スイッチを〈ON〉にしてください。
- 暗い場所では、シャッタースピードが遅くなることがあります。シャッタースピードを速くする (🔒)、ISO感度を上げる (🔒)、ストロボを使用する (🔒)、三脚を使用するなどの方法で撮影してください。
- [ブレの少ない画像を撮影するには](#)を参照してください。



AFフレーム (測距点) が少ない／エリアAFフレームの形が異なる

- 使用するレンズにより、使用可能な測距点の数や、測距パターン、エリアAFフレームの形などが異なります (🔒)。

AFフレームが点滅している／2つ表示される

-  ボタンを押したときのAFフレームの点灯／点滅については、[測距エリアとAFフレームの選択（ファインダー撮影）](#)を参照してください。
- 登録した位置のAFフレームが点滅しています（, ）。
- 任意選択しているAFフレーム（またはゾーン）と、登録AFフレームが表示されています（, ）。

ピントを固定したまま構図を変えて撮影できない

- AF動作をワンショットAFにしてください（）。AIサーボAF／サーボAFのときは、フォーカスロック撮影はできません（）。

連続撮影速度が遅い

- 高速連続撮影時の連続撮影速度は、電源の種類、バッテリー残量、温度、ISO感度、フリッカー低減処理、シャッタースピード、絞り数値、連続撮影中の絞りの状態、被写体条件、明るさ、レンズの種類、ストロボ使用、撮影機能の設定などにより低下することがあります。詳しくは[ドライブモードの選択](#)を参照してください。


連続撮影可能枚数が少なくなる

- 芝生など細かいパターンの被写体を撮影すると、1枚あたりのファイルサイズが大きくなり、実際に連続撮影できる枚数が、[データシート](#)に目安として示した連続撮影可能枚数より少なくなることがあります。

カードを変えても連続撮影可能枚数の表示が変わらない

- 別のカードに変えても（例：高速タイプのカードを使用しても）、ファインダー内に表示される連続撮影可能枚数は変わりません。また、[データシート](#)の表に記載している連続撮影可能枚数は、その試験条件のカードで実際に連続撮影できる枚数を示しています（書き込み速度が高速なカードなど、実際に連続撮影できる枚数が多くなります）。そのため、ファインダー内に表示される連続撮影可能枚数と、実際に連続撮影できる枚数は異なることがあります。

静止画撮影時にISO感度が選択できない

-  **高輝度側・階調優先** が **[する]** **[強]** に設定されているときは、ISO感度の設定範囲がISO200～になります。

静止画撮影時に拡張ISO感度が選択できない

- [📷: ISO感度に関する設定] で [ISO感度の範囲] の設定を確認してください。
- [📷: 高輝度側・階調優先] が [する] [強] に設定されているときは、拡張ISO感度は設定できません。
- [📷: HDR撮影[HDR PQ]] が [する] に設定されているときは、拡張ISO感度は設定できません。

露出を暗めに補正したのに明るく撮影される

- [📷: オートライティングオブティマイザ] を [しない] に設定してください (🔒)。
[弱め] [標準] [強め] に設定されているときは、露出補正、ストロボ調光補正で露出を暗めに補正しても、明るく撮影されることがあります。

マニュアル露出+ISOオート時に露出補正ができない

- [M: マニュアル露出](#) を参照して露出補正を行ってください。
- ストロボ撮影時に露出補正は行われません。

レンズ光学補正設定時に一部の項目が表示されない

- [デジタルレンズオブティマイザ] が [する] に設定されているときは、[色収差補正] [回折補正] は表示されませんが、ともに [する] の設定で撮影されます。
- 動画撮影時に [デジタルレンズオブティマイザ] [歪曲収差補正] の項目は表示されません。

多重露出撮影時に撮影画像が表示されない

- [連続撮影優先] 設定時は、撮影途中で「撮影直後の画像確認」「画像再生」はできません (🔒)。

〈Av〉モードでストロボ撮影するとシャッタースピードが遅くなる

- 夜景などを背景にした暗い場所で撮影すると、主被写体も背景も適正露出となるように、自動的にシャッタースピードが遅くなります(スローシンクロ撮影)。シャッタースピードが遅くならないようにするときは、[📷: 外部ストロボ制御] の [Avモード時のストロボ同調速度] を、[1/250-1/60秒自動] または [1/250秒固定] に設定してください (🔒)。

ストロボが発光しない

- カメラにストロボ (またはシンクロコード) がしっかり取り付けられているかどうか確認してください。
- ストロボを使用してライブビュー撮影を行うときは、[📷: シャッター方式] を [電子シャッター] 以外に設定してください (🔒)。

ストロボがいつもフル発光する

- EL/EXスピードライト以外のストロボを使用して、自動調光モードで撮影すると、常時フル発光します (🔒)。
- ストロボカスタム機能の「調光方式」が「TTL」(自動調光)に設定されていると、常時フル発光します (🔒)。

ストロボ調光補正ができない

- ストロボ側で調光補正量が設定されているときは、カメラで補正量の設定はできません。ストロボ側の設定を解除(ゼロに設定)すると、カメラで設定できるようになります。

〈Av〉モードでハイスピードシンクロができない

- [📷: 外部ストロボ制御]の「Avモード時のストロボ同調速度」を「自動」に設定してください (🔒)。

ライブビュー撮影ができない

- [📷: ライブビュー撮影]を「する」に設定します。

ライブビュー撮影時に白い🔒と赤い🔒が表示される

- カメラ内部の温度が上昇していることを示しています。白い「🔒」が表示されたときは、静止画の画質が低下することがあります。赤い「🔒」が表示されたときは、もうすぐライブビュー撮影が自動的に終了することを示しています (🔒)。

動画撮影時に赤い🔒が表示される

- カメラ内部の温度が上昇していることを示しています。赤い「🔒」が表示されたときは、もうすぐ動画撮影が自動的に終了することを示しています (🔒)。

動画撮影が勝手に終了する

- 書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画撮影が自動的に終了することがあります。動画が記録できるカードについては、[データシート](#)を参照してください。なお、書き込み速度については、カードメーカーのホームページなどで確認してください。
- カードへの書き込み/読み取り速度が遅くなったときは、物理フォーマットでカードを初期化してください (🔒)。
- 動画撮影を開始してから29分59秒(ハイフレームレート動画撮影時は7分29秒)経過すると、動画撮影が自動的に終了します。

動画撮影時にISO感度が設定できない

- 撮影モードが〈**M**〉 〈**TV**〉 〈**Av**〉 のときはISO感度が自動設定されます。〈**M**〉モードのときはISO感度を任意に設定することができます (🔗)。
- [📷: 高輝度側・階調優先] が [する] [強] に設定されているときは、ISO感度の設定範囲がISO200～になります。

動画撮影時に拡張ISO感度が選択できない

- [📷: **M**ISO感度に関する設定] で [ISO感度の範囲] の設定を確認してください。
- [📷: 高輝度側・階調優先] が [する] [強] に設定されているときは、拡張ISO感度は設定できません。
- RAW動画に設定されているときは、拡張ISO感度は設定できません。

動画撮影時に露出が変化する

- 動画撮影中にシャッタースピードや絞り数値の変更を行うと、露出変化が記録されることがあります。
- 動画撮影中にズーム操作を行うときは、テスト撮影をおすすめします。ズーム操作を行うと、露出変化やレンズの作動音が記録されたり、録音される音量が不安定になったり、レンズ光学補正が正しく適用されなかったり、ピントがズレることがあります。

動画撮影時に画面がちらつく／横縞が写る

- 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画撮影を行うと、画面のちらつきや、横縞 (ノイズ) や露出ムラが記録されることがあります。また、露出 (明るさ) や色あいの変化が記録されることがあります。〈**TV**〉 〈**M**〉モードのときは、シャッタースピードを遅くすると、現象が緩和されることがあります。

動画撮影時に被写体がゆがむ

- 動画撮影中にカメラを左右に動かしたり (パンニング)、動きのある被写体を撮影すると、像がゆがんで写ることがあります。

動画に音声記録されない

- ハイフレームレート動画撮影時は、音声は記録されません。

タイムコードが付加されない

- ハイフレームレート動画撮影時に、[📷: タイムコード] の [カウントアップ] が [フリーラン] に設定されているときは (🔗)、タイムコードは付加されません。また、HDMI出力を行ったときも、HDMI出力映像にタイムコードは付加されません (🔗)。

タイムコードのカウントが早い

- ハイフレームレート動画撮影時は、実時間1秒で4秒分カウントアップします (📷)。

動画撮影時に静止画が撮影できない

- 動画撮影時に静止画は撮影できません。静止画を撮影するときは、動画撮影を終了して、ファインダー撮影、またはライブビュー撮影を行ってください。

スマートフォンとペアリングできない

- Bluetooth Specification Version 4.1以上に対応しているスマートフォンを使用してください。
- スマートフォンの設定画面で、Bluetooth機能をONにしてください。
- スマートフォンのBluetooth機能設定画面では、カメラとのペアリングはできません。スマートフォンに専用アプリケーションのCamera Connect（無料）インストールしてください（📄）。
- 一度ペアリングしたスマートフォンと再びペアリングするときに、スマートフォン側に前回ペアリングしたときのカメラの登録が残っていると、ペアリングすることができません。そのときは、スマートフォンのBluetooth設定で残っているカメラの登録を解除してから、ペアリングをやり直してください（📄）。

Wi-Fi機能の設定ができない

- カメラとパソコンなどを、インターフェースケーブルで接続しているときは、Wi-Fi機能の設定はできません。インターフェースケーブルを取り外してから、設定を行ってください。

インターフェースケーブルで接続した機器が使えない

- Wi-Fi接続中は、カメラとパソコンなどを、インターフェースケーブルで接続して使用することはできません。Wi-Fi接続を終了してからインターフェースケーブルで接続してください。

撮影や再生などの操作ができない

- Wi-Fi接続中は、撮影や再生などの操作ができないことがあります。Wi-Fi接続を終了してから操作を行ってください。


スマートフォンに再接続できない

- 同じカメラとスマートフォンの組み合わせでも、設定を変更したり、異なる設定を選んでいるときは、同じSSIDを選んでも再接続できなくなることがあります。そのときは、スマートフォンのWi-Fi設定で、カメラとの接続設定を削除してから、接続設定をやり直してください。
- 接続設定をやり直すときに、Camera Connectを起動したままにしていると、接続できないことがあります。そのときは、Camera Connectを一旦終了させてから再起動してください。



静止画撮影から動画撮影、または動画撮影から静止画撮影に変更すると、設定した内容が変更される

- 設定内容は、静止画撮影時、動画撮影時のそれぞれに記憶されます。

〈〉 〈〉 〈〉 〈〉 〈〉 で設定を変更できない

- 電源スイッチを〈ON〉の位置にしてください (🔒)。
- [.6 : マルチ電子ロック] の設定内容を確認してください (🔒)。


縦位置の 〈〉 〈〉 〈〉 で設定を変更できない

- 縦位置操作スイッチを〈ON〉にしてにしてください (🔒)。
- [.7 : スマートコントローラー] を [有効] に設定してください (🔒)。

タッチ操作ができない

- [ : タッチ操作] が [標準] または [敏感] に設定されているか確認してください (🔒)。

ボタンやスイッチなどが思ったとおりに動かない

- [.6 : 操作ボタン カスタマイズ] の設定内容を確認してください (🔒)。

【★】マイメニュータブから表示される／【★】タブしか表示されない

- 【★】タブの【メニュー表示】が【マイメニュータブから表示】または【マイメニュータブのみ表示】に設定されています。【通常表示】に設定してください (🔗)。

ファイル名の先頭文字がアンダーバー (「_」) になる

- 【📷: 色空間】を【sRGB】に設定してください。【Adobe RGB】に設定されているときは、先頭文字がアンダーバーになります (🔗)。

ファイル名の4文字目が変化する

- 【📁: ファイル名の設定】が【***+画像サイズ】に設定されています。カメラ固有のファイル名、またはユーザー設定1に登録したファイル名を選択してください (🔗)。

画像番号が0001から始まらない

- 画像が記録されているカードを使用すると、撮影した画像の番号が0001から始まらないことがあります (🔗)。

撮影年月日／時刻が正しく表示されない

- 日付/時刻が正しく設定されているか確認してください (🔗)。
- エリア、サマータイムの設定を確認してください (🔗)。

画像に日付／時刻が写し込まれない

- 撮影した画像に日付/時刻は写し込まれません。画像データに撮影情報として記録されます。写真を印刷するときに、その情報を利用して用紙に日付/時刻を入れることができます (🔗)。

【###】が表示される

- カードに記録されている画像数が、カメラで表示できる桁数を超えると【###】と表示されます。

モニターの表示が不鮮明になる

- モニターが汚れているときは、やわらかい布などでふいてください。
- 液晶の特性で低温下での表示反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

画像の一部が黒く点滅する

- [▶] : ハイライト警告表示] が [する] に設定されています (☑)。

画像に赤い枠が表示される

- [▶] : AFフレーム表示] が [する] に設定されています (☑)。

画像再生時にAFフレームが表示されない

- トリミングを行った画像を再生したときは、AFフレームは表示されません。

画像が消去できない

- プロテクトされている画像は消去できません (☑)。

画像（静止画／動画）が再生できない

- 他のカメラで撮影した画像は再生できないことがあります。
- パソコンで編集した動画はカメラで再生できません。

再生できる画像が少ない

- [▶] : 画像検索の条件設定] で再生する画像の絞り込みが行われています (☑)。検索条件を解除してください。

動画を再生すると作動音や操作音がする

- 動画撮影中にAF動作を行ったり、カメラ/レンズの操作を行うと、カメラに内蔵されたマイクにより、レンズの作動音やカメラ/レンズの操作音が一緒に録音されることがあります。そのときは、外部マイクを使用すると、これらの音を低減できることがあります。なお、外部マイクを使用してもこれらの音が気になるときは、外部マイクをカメラから取り外し、カメラやレンズから遠ざけると、低減効果を高められることがあります。

動画再生が勝手に終了する

- 動画再生を長時間行ったり、高温下で動画再生を行うと、カメラ内部の温度が上昇し、動画再生が自動的に終了することがあります。そのときは、カメラ内部の温度が下がるまで、再生ができなくなりますので、一旦電源を切り、しばらく休止してください。

動画が一瞬止まって見える

- プログラムAE撮影時に、大きな露出変化が生じると、明るさが安定するまでの一瞬間、記録を止める仕様になっています。このようなときは、**[M]**モードで撮影してください (🔗)。

動画がスローモーションで再生される

- ハイフレームレート動画は、29.97fps/25.00fpsの動画として記録されるため、再生時は1/4倍速のスローモーションで再生されます。

テレビに映像が表示されない

- **[📺: ビデオ方式]** の **[NTSC]** **[PAL]** の設定を確認してください (テレビが対応している方式に合わせてください)。
- HDMIケーブルのプラグが根元までしっかりと差し込まれているか確認してください (🔗)。

カードリーダーでカードを認識できない

- CFexpressカードは、お使いのカードリーダーやパソコンのOSにより、カードリーダーに差ししても正しく認識されないことがあります。そのときは、カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続し、EOS用ソフトウェアのEOS Utility (🔗) を使って画像を取り込んでください。

画像をリサイズ/トリミングできない

- JPEGの**S**、RAW画像、**[📷: HDR PQ設定]** の **[📷: HDR撮影HDR PQ]** を **[する]** で撮影した画像、4K動画からフレーム切り出しを行い静止画として保存した画像は、カメラでリサイズできません (🔗)。
- RAW画像、**[📷: HDR PQ設定]** の **[📷: HDR撮影HDR PQ]** を **[する]** で撮影した画像、4K動画からフレーム切り出しを行い静止画として保存した画像は、カメラでトリミングできません (🔗)。

画像に輝点が発生する

- 撮像素子が宇宙線などの影響を受けると、撮影画像に「輝点 (白、赤、青など)」が生じることがあります。**[📺: センサークリーニング]** の **[今すぐクリーニング🔧]** を行うと (🔗)、輝点の発生が改善することがあります。

センサークリーニング関連

センサークリーニング中にシャッター音がする

- [今すぐクリーニング] を選んだときは、清掃中にシャッターの作動音がしますが、画像はカードに記録されません (📷)。

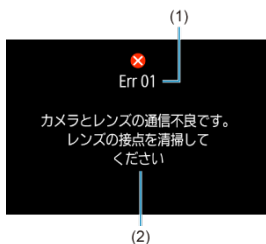
撮像素子の自動清掃が行われない

- 電源スイッチの〈ON〉 〈OFF〉を短い時間で繰り返すと、〈📷〉が表示されないことがあります (📷)。

パソコンに画像が取り込めない

- EOS用ソフトウェアのEOS Utilityをパソコンにインストールしてください (📎)。
- EOS Utilityのメイン画面が表示されていることを確認してください。
- Wi-Fi接続中は、インターフェースケーブルを使用してパソコンと通信を行うことはできません。
- アプリケーションのバージョンを確認してください。

エラー表示



- (1) エラー番号
- (2) 原因・対処方法

カメラに異常が発生すると、エラー画面が表示されます。表示される内容に従って対応してください。

問題が解決しないときは、エラー番号（Errxx）を控えて、修理をご依頼ください。

使用レンズとAF測距（ファインダー撮影）

- [Aグループ](#)
- [Bグループ](#)
- [Cグループ](#)
- [Dグループ](#)
- [Eグループ](#)
- [Fグループ](#)
- [Gグループ](#)
- [Hグループ](#)
- [Iグループ](#)
- [Jグループ](#)
- [レンズのグループ属性](#)

注意

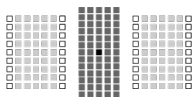
- このカメラは191点のAFフレーム（測距点）を備えていますが、**使用するレンズにより、使用可能な測距点の数や、測距パターン、エリアAFフレームの形などが異なり、A～Jの10グループに分類されます。**
- F～Jグループのレンズを使用したときは、測距点が少なくなります。
- 使用する[レンズのグループ属性](#)を確認してください。

参考

- <[AF-ON]> ボタンを押したときに、「□」で示した位置のAFフレームが点滅します（「■/■/■」は点灯）。AFフレームの点灯／点滅については、[AFフレームの点灯／点滅](#)を参照してください。
- 「レンズのグループ属性」の最新情報は、キヤノンのホームページなどで確認してください。
- 国や地域によって販売されているレンズは異なります。

Aグループ

191点でAF測距を行うことができます。すべての測距エリア選択モードを選ぶことができます。



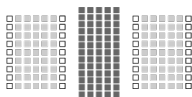
■：デュアルクロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、他の測距点よりも高精度なピント合わせを行うことができます。

■ ■：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。

□：横線を検出できる測距点です。

Bグループ

191点でAF測距を行うことができます。すべての測距エリア選択モードを選ぶことができます。

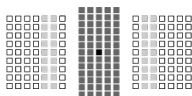


■ ■ : クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。

□ : 横線を検出できる測距点です。

Cグループ

191点でAF測距を行うことができます。すべての測距エリア選択モードを選ぶことができます。



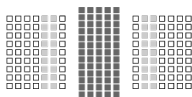
■：デュアルクロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、他の測距点よりも高精度なピント合わせを行うことができます。

■ ■：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。

□：横線を検出できる測距点です。

Dグループ

191点でAF測距を行うことができます。すべての測距エリア選択モードを選ぶことができます。



■ ■ : クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。

□ : 横線を検出できる測距点です。

Eグループ

191点でAF測距を行うことができます。すべての測距エリア選択モードを選ぶことができます。

なお、レンズにエクステンダーを装着したときに（エクステンダー装着可能レンズのみ）、開放絞り数値がF8（F5.6超～F8まで）のときは、AFを行うことができます。



: クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。

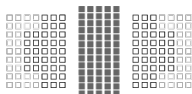
: 横線を検出できる測距点です。

⚠ 注意

- 開放絞り数値がF5.6よりも暗い（F5.6超～F8までの）ときは、コントラストの低い被写体や低輝度な被写体を撮影するときに、AFでピントが合わないことがあります。
- 開放絞り数値がF8よりも暗い（F8超の）ときは、ファインダー撮影時にAFを行うことはできません。

Fグループ

図に示す139点でAF測距を行うことができます（191点測距はできません）。すべての測距エリア選択モードを選ぶことができます。なお、自動選択AF時のAF領域を表す外側の枠（エリアAFフレーム）は、191点自動選択AF時と異なります。



■：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。

□：横線を検出できる測距点です。

□：使用できません（非表示）。

Gグループ

図に示す87点でAF測距を行うことができます（191点測距はできません）。すべての測距エリア選択モードを選ぶことができます。なお、自動選択AF時のAF領域を表す外側の枠（エリアAFフレーム）は、191点自動選択AF時と異なります。



■：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。

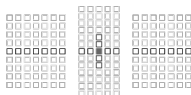
□：横線を検出できる測距点です。

□：使用できません（非表示）。

Hグループ

図に示す23点でAF測距を行うことができます。測距エリア選択モードは、スポット1点AF、1点AF、領域拡大AF（任意選択 \square ）、ゾーンAF（ゾーン任意選択）、23点自動選択AFから選ぶことができます。

なお、レンズにエクステンダーを装着したときに（エクステンダー装着可能レンズのみ）、開放絞り数値がF8（F5.6超～F8まで）のときは、AFを行うことができます。



：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。

：横線（中央横方向の測距点）、または縦線（中央の上下測距点）を検出できる測距点です。

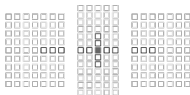
：使用できません（非表示）。

注意

- 領域拡大AF（任意選択 \square ）設定時も23点の中で領域拡大が行われます。任意選択した測距点の上下左右に測距点がないときは、隣接する有効な測距点のみ領域拡大されます。
- 開放絞り数値がF5.6よりも暗い（F5.6超～F8までの）ときは、コントラストの低い被写体や低輝度な被写体を撮影するときに、AFでピントが合わないことがあります。
- 開放絞り数値がF8よりも暗い（F8超の）ときは、ファインダー撮影時にAFを行うことはできません。

Iグループ

図に示す15点でAF測距を行うことができます。測距エリア選択モードは、スポット1点AF、1点AF、領域拡大AF（任意選択 $\cdot\text{○}\cdot\text{○}$ ）、15点自動選択AFから選ぶことができます。なお、レンズにエクステンダーを装着したときに（エクステンダー装着可能レンズのみ）、開放絞り数値がF8（F5.6超～F8まで）のときは、AFを行うことができます。



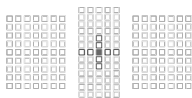
- ：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。
- ：横線（中央横方向の測距点）、または縦線（中央の上下測距点）を検出できる測距点です。
- ：使用できません（非表示）。

⚠ 注意

- 領域拡大AF（任意選択 $\cdot\text{○}\cdot\text{○}$ ）設定時も15点の中で領域拡大が行われます。任意選択した測距点の上下左右に測距点がないときは、隣接する有効な測距点のみ領域拡大されます。
- 開放絞り数値がF5.6よりも暗い（F5.6超～F8までの）ときは、コントラストの低い被写体や低輝度な被写体を撮影するときに、AFでピントが合わないことがあります。
- 開放絞り数値がF8よりも暗い（F8超の）ときは、ファインダー撮影時にAFを行うことはできません。

3グループ

図に示す9点でAF測距を行うことができます。測距エリア選択モードは、スポット1点AF、1点AF、領域拡大AF（任意選択 \square ）のみ選ぶことができます。



: クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。

: 横線（中央の左右測距点）、または縦線（中央の上下測距点）を検出できる測距点です。**任意選択はできません。領域拡大AF（任意選択）選択時のみ機能します。**

: 使用できません（非表示）。

レンズのグループ属性

EF14mm F2.8L USM	A
EF14mm F2.8L II USM	A
EF15mm F2.8 Fisheye	A
EF20mm F2.8 USM	A
EF24mm F1.4L USM	A
EF24mm F1.4L II USM	A
EF24mm F2.8	A
EF24mm F2.8 IS USM	A
EF28mm F1.8 USM	A
EF28mm F2.8	C
EF28mm F2.8 IS USM	A
EF35mm F1.4L USM	A
EF35mm F1.4L II USM	A
EF35mm F2	A
EF35mm F2 IS USM	A
EF40mm F2.8 STM	C
EF50mm F1.0L USM	A
EF50mm F1.2L USM	A
EF50mm F1.4 USM	A
EF50mm F1.8	A
EF50mm F1.8 II	A
EF50mm F1.8 STM	A
EF50mm F2.5 Compact Macro	B
EF50mm F2.5 Compact Macro + LIFE SIZE Converter EF	E
EF85mm F1.2L USM	A
EF85mm F1.2L II USM	A
EF85mm F1.4L IS USM	A
EF85mm F1.8 USM	A
EF100mm F2 USM	A
EF100mm F2.8 Macro	B
EF100mm F2.8 Macro USM	E
EF100mm F2.8L Macro IS USM	B

EF135mm F2L USM	A
EF135mm F2L USM + Extender EF1.4x I/II/III	A
EF135mm F2L USM + Extender EF2x I/II/III	B
EF135mm F2.8 (Softfocus)	A
EF180mm F3.5L Macro USM	G
EF180mm F3.5L Macro USM + Extender EF1.4x I/II/III	G
EF200mm F1.8L USM	A
EF200mm F1.8L USM + Extender EF1.4x I/II/III	A※
EF200mm F1.8L USM + Extender EF2x I/II/III	B※
EF200mm F2L IS USM	A
EF200mm F2L IS USM + Extender EF1.4x I/II/III	A
EF200mm F2L IS USM + Extender EF2x I/II/III	B
EF200mm F2.8L USM	A
EF200mm F2.8L USM + Extender EF1.4x I/II/III	B
EF200mm F2.8L USM + Extender EF2x I/II/III	E
EF200mm F2.8L II USM	A
EF200mm F2.8L II USM + Extender EF1.4x I/II/III	B
EF200mm F2.8L II USM + Extender EF2x I/II/III	E
EF300mm F2.8L USM	A
EF300mm F2.8L USM + Extender EF1.4x I/II/III	B※
EF300mm F2.8L USM + Extender EF2x I/II/III	E※
EF300mm F2.8L IS USM	A
EF300mm F2.8L IS USM + Extender EF1.4x I/II/III	B
EF300mm F2.8L IS USM + Extender EF2x I/II/III	E
EF300mm F2.8L IS II USM	A
EF300mm F2.8L IS II USM + Extender EF1.4x I/II/III	B
EF300mm F2.8L IS II USM + Extender EF2x I/II/III	E
EF300mm F4L USM	B
EF300mm F4L USM + Extender EF1.4x I/II/III	E
EF300mm F4L USM + Extender EF2x I/II	I (F8)
EF300mm F4L USM + Extender EF2x III	H (F8)
EF300mm F4L IS USM	B
EF300mm F4L IS USM + Extender EF1.4x I/II/III	E
EF300mm F4L IS USM + Extender EF2x I/II	I (F8)
EF300mm F4L IS USM + Extender EF2x III	H (F8)

EF400mm F2.8L USM	A
EF400mm F2.8L USM + Extender EF1.4x I/II/III	B※
EF400mm F2.8L USM + Extender EF2x I/II/III	E※
EF400mm F2.8L II USM	A
EF400mm F2.8L II USM + Extender EF1.4x I/II/III	B※
EF400mm F2.8L II USM + Extender EF2x I/II/III	E※
EF400mm F2.8L IS USM	A
EF400mm F2.8L IS USM + Extender EF1.4x I/II/III	B
EF400mm F2.8L IS USM + Extender EF2x I/II/III	E
EF400mm F2.8L IS II USM	A
EF400mm F2.8L IS II USM + Extender EF1.4x I/II/III	B
EF400mm F2.8L IS II USM + Extender EF2x I/II/III	E
EF400mm F2.8L IS III USM	A
EF400mm F2.8L IS III USM + Extender EF1.4x I/II/III	B
EF400mm F2.8L IS III USM + Extender EF2x I/II/III	E
EF400mm F4 DO IS USM	B
EF400mm F4 DO IS USM + Extender EF1.4x I/II/III	E
EF400mm F4 DO IS USM + Extender EF2x I/II	I (F8)
EF400mm F4 DO IS USM + Extender EF2x III	E (F8)
EF400mm F4 DO IS II USM	B
EF400mm F4 DO IS II USM + Extender EF1.4x I/II/III	E
EF400mm F4 DO IS II USM + Extender EF2x I/II	I (F8)
EF400mm F4 DO IS II USM + Extender EF2x III	E (F8)
EF400mm F5.6L USM	E
EF400mm F5.6L USM + Extender EF1.4x I/II	I (F8)
EF400mm F5.6L USM + Extender EF1.4x III	E (F8)
EF500mm F4L IS USM	B
EF500mm F4L IS USM + Extender EF1.4x I/II/III	E
EF500mm F4L IS USM + Extender EF2x I/II	I (F8)
EF500mm F4L IS USM + Extender EF2x III	E (F8)
EF500mm F4L IS II USM	B
EF500mm F4L IS II USM + Extender EF1.4x I/II/III	E
EF500mm F4L IS II USM + Extender EF2x I/II	I (F8)
EF500mm F4L IS II USM + Extender EF2x III	E (F8)
EF500mm F4.5L USM	E
EF500mm F4.5L USM + Extender EF1.4x I/II	I (F8)※
EF500mm F4.5L USM + Extender EF1.4x III	E (F8)※

EF600mm F4L USM	B
EF600mm F4L USM + Extender EF1.4x I/II/III	E※
EF600mm F4L USM + Extender EF2x I/II	I (F8)※
EF600mm F4L USM + Extender EF2x III	E (F8)※
EF600mm F4L IS USM	B
EF600mm F4L IS USM + Extender EF1.4x I/II/III	E
EF600mm F4L IS USM + Extender EF2x I/II	I (F8)
EF600mm F4L IS USM + Extender EF2x III	E (F8)
EF600mm F4L IS II USM	B
EF600mm F4L IS II USM + Extender EF1.4x I/II/III	E
EF600mm F4L IS II USM + Extender EF2x I/II	I (F8)
EF600mm F4L IS II USM + Extender EF2x III	E (F8)
EF600mm F4L IS III USM	B
EF600mm F4L IS III USM + Extender EF1.4x I/II/III	E
EF600mm F4L IS III USM + Extender EF2x I/II	I (F8)
EF600mm F4L IS III USM + Extender EF2x III	E (F8)
EF800mm F5.6L IS USM	F
EF800mm F5.6L IS USM + Extender EF1.4x I/II/III	I (F8)
EF1200mm F5.6L USM	G
EF1200mm F5.6L USM + Extender EF1.4x I/II/III	I (F8)※
EF8-15mm F4L Fisheye USM	B
EF11-24mm F4L USM	D
EF16-35mm F2.8L USM	A
EF16-35mm F2.8L II USM	A
EF16-35mm F2.8L III USM	A
EF16-35mm F4L IS USM	B
EF17-35mm F2.8L USM	A
EF17-40mm F4L USM	B
EF20-35mm F2.8L	A
EF20-35mm F3.5-4.5 USM	E
EF22-55mm F4-5.6 USM	F
EF24-70mm F2.8L USM	A
EF24-70mm F2.8L II USM	A
EF24-70mm F4L IS USM	B
EF24-85mm F3.5-4.5 USM	E
EF24-105mm F3.5-5.6 IS STM	E
EF24-105mm F4L IS USM	B
EF24-105mm F4L IS II USM	B

EF28-70mm F2.8L USM	A
EF28-70mm F3.5-4.5	F
EF28-70mm F3.5-4.5 II	F
EF28-80mm F2.8-4L USM	B
EF28-80mm F3.5-5.6	F
EF28-80mm F3.5-5.6 USM	F
EF28-80mm F3.5-5.6 II	F
EF28-80mm F3.5-5.6 II USM	F
EF28-80mm F3.5-5.6 III USM	F
EF28-80mm F3.5-5.6 IV USM	F
EF28-80mm F3.5-5.6 V USM	F
EF28-90mm F4-5.6	E
EF28-90mm F4-5.6 USM	E
EF28-90mm F4-5.6 II	E
EF28-90mm F4-5.6 II USM	E
EF28-90mm F4-5.6 III	E
EF28-105mm F3.5-4.5 USM	E
EF28-105mm F3.5-4.5 II USM	E
EF28-105mm F4-5.6	F
EF28-105mm F4-5.6 USM	F
EF28-135mm F3.5-5.6 IS USM	E
EF28-200mm F3.5-5.6	E
EF28-200mm F3.5-5.6 USM	E
EF28-300mm F3.5-5.6L IS USM	E
EF35-70mm F3.5-4.5	F
EF35-70mm F3.5-4.5A	F
EF35-80mm F4-5.6	F
EF35-80mm F4-5.6 PZ	F
EF35-80mm F4-5.6 USM	F
EF35-80mm F4-5.6 II	F
EF35-80mm F4-5.6 III	F
EF35-105mm F3.5-4.5	E
EF35-105mm F4.5-5.6	J
EF35-105mm F4.5-5.6 USM	J
EF35-135mm F3.5-4.5	E
EF35-135mm F4-5.6 USM	E
EF35-350mm F3.5-5.6L USM	F
EF38-76mm F4.5-5.6	E

EF50-200mm F3.5-4.5	E
EF50-200mm F3.5-4.5L	E
EF55-200mm F4.5-5.6 USM	E
EF55-200mm F4.5-5.6 II USM	E
EF70-200mm F2.8L USM	A
EF70-200mm F2.8L USM + Extender EF1.4x I/II/III	B※※
EF70-200mm F2.8L USM + Extender EF2x I/II/III	E※※
EF70-200mm F2.8L IS USM	A
EF70-200mm F2.8L IS USM + Extender EF1.4x I/II/III	B
EF70-200mm F2.8L IS USM + Extender EF2x I/II/III	E
EF70-200mm F2.8L IS II USM	A
EF70-200mm F2.8L IS II USM + Extender EF1.4x I/II/III	B
EF70-200mm F2.8L IS II USM + Extender EF2x I/II/III	E
EF70-200mm F2.8L IS III USM	A
EF70-200mm F2.8L IS III USM + Extender EF1.4x I/II/III	B
EF70-200mm F2.8L IS III USM + Extender EF2x I/II/III	E
EF70-200mm F4L USM	B
EF70-200mm F4L USM + Extender EF1.4x I/II/III	E
EF70-200mm F4L USM + Extender EF2x I/II	I (F8)
EF70-200mm F4L USM + Extender EF2x III	H (F8)
EF70-200mm F4L IS USM	B
EF70-200mm F4L IS USM + Extender EF1.4x I/II/III	E
EF70-200mm F4L IS USM + Extender EF2x I/II	I (F8)
EF70-200mm F4L IS USM + Extender EF2x III	H (F8)
EF70-200mm F4L IS II USM	B
EF70-200mm F4L IS II USM + Extender EF1.4x I/II/III	E
EF70-200mm F4L IS II USM + Extender EF2x I/II	I (F8)
EF70-200mm F4L IS II USM + Extender EF2x III	H (F8)
EF70-210mm F3.5-4.5 USM	E
EF70-210mm F4	B
EF70-300mm F4-5.6 IS USM	E
EF70-300mm F4-5.6 IS II USM	E
EF70-300mm F4-5.6L IS USM	E
EF70-300mm F4.5-5.6 DO IS USM	E

EF75-300mm F4-5.6	E
EF75-300mm F4-5.6 USM	E
EF75-300mm F4-5.6 II	E
EF75-300mm F4-5.6 II USM	E
EF75-300mm F4-5.6 III	E
EF75-300mm F4-5.6 III USM	E
EF75-300mm F4-5.6 IS USM	E
EF80-200mm F2.8L	A
EF80-200mm F4.5-5.6	E
EF80-200mm F4.5-5.6 USM	F
EF80-200mm F4.5-5.6 II	F
EF90-300mm F4.5-5.6	E
EF90-300mm F4.5-5.6 USM	E
EF100-200mm F4.5A	E
EF100-300mm F4.5-5.6 USM	E
EF100-300mm F5.6	E
EF100-300mm F5.6L	E
EF100-400mm F4.5-5.6L IS USM	E
EF100-400mm F4.5-5.6L IS USM + Extender EF1.4x I/II	I (F8)
EF100-400mm F4.5-5.6L IS USM + Extender EF1.4x III	E (F8)
EF100-400mm F4.5-5.6L IS II USM	E
EF100-400mm F4.5-5.6L IS II USM + Extender EF1.4x I/II	I (F8)
EF100-400mm F4.5-5.6L IS II USM + Extender EF1.4x III	E (F8)
EF200-400mm F4L IS USM Extender 1.4x	D
EF200-400mm F4L IS USM Extender 1.4x: 内蔵Ext.1.4x	E
EF200-400mm F4L IS USM Extender 1.4x + Extender EF1.4x I/II/III	E
EF200-400mm F4L IS USM Extender 1.4x: 内蔵Ext.1.4x + Extender EF1.4x I/II	I (F8)
EF200-400mm F4L IS USM Extender 1.4x: 内蔵Ext.1.4x + Extender EF1.4x III	E (F8)
EF200-400mm F4L IS USM Extender 1.4x + Extender EF2x I/II	I (F8)
EF200-400mm F4L IS USM Extender 1.4x + Extender EF2x III	E (F8)
TS-E17mm F4L	B
TS-E24mm F3.5L	B
TS-E24mm F3.5L II	B
TS-E45mm F2.8	A
TS-E50mm F2.8L Macro	B
TS-E90mm F2.8	A
TS-E90mm F2.8L Macro	B
TS-E135mm F4L Macro	B

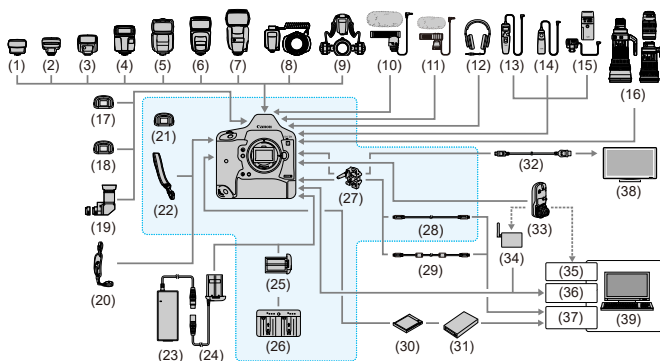
注意

- EF180mm F3.5L Macro USMにExtender EF2x (I/II/III型) を装着したときは、AFを行うことはできません。
- 表内に「※」が付いたレンズとExtender EF1.4x III/EF2x IIIの組み合わせのときや、「※※」が付いたレンズとエクステンダーの組み合わせのときは、AFでピントが正確に合わないことがあります。そのときは、使用するレンズやエクステンダーの使用説明書を参照してください。

参考

- TS-Eレンズ使用時は手動ピント合わせになります。グループ分類はティルト/シフトなしの条件です。

システム図



 : 主な付属品

- | | |
|------|--------------------------------|
| (1) | スピードライトトランスミッター ST-E2 |
| (2) | スピードライトトランスミッター ST-E3-RT |
| (3) | スピードライト 270EX II |
| (4) | スピードライト EL-100 |
| (5) | スピードライト 430EX III-RT/430EX III |
| (6) | スピードライト 470EX-AI |
| (7) | スピードライト 600EX II-RT |
| (8) | マクロリングライト MR-14EX II |
| (9) | マクロツインライト MT-26EX-RT |
| (10) | 指向性ステレオマイクロホン DM-E1 |
| (11) | ステレオマイクロホン DM-E100 |
| (12) | ヘッドフォン |
| (13) | タイマーリモートコントローラー TC-80N3 |
| (14) | リモートスイッチ RS-80N3 |
| (15) | ワイヤレスコントローラー LC-5 |
| (16) | EFレンズ |
| (17) | 視度補正レンズ Eg |
| (18) | アンチフォグアイピース Eg |
| (19) | アングルファインダー C |
| (20) | ハンドストラップ E2 |

(21) アイカップ Eg
(22) ストラップ
(23) ACアダプター AC-E19
(24) DCカブラー DR-E19
(25) バッテリーパック LP-E19*1
(26) バッテリーチャージャー LC-E19
(27) ケーブルプロテクター
(28) インターフェースケーブル IFC-100U (約1m) *2, *3
(29) インターフェースケーブル IFC-400U (約4m) *2, *4
(30) CFexpressカード
(31) カードリーダー
(32) HDMI ケーブル HTC-100 (約2.9m) *5
(33) ワイヤレスファイルトランスミッター WFT-E9
(34) 無線LANアクセスポイント
(35) 無線LANアダプター
(36) Ethernet端子
(37) USBポート
(38) テレビ/モニター
(39) パソコン

* 1 : バッテリーチャージャー LC-E19以外では充電できません。

* 2 : カメラ側/パソコン側の端子はともにUSB Type-C

* 3 : IFC-100U使用時は、通信速度がSuperSpeed USB (USB 3.1 Gen 1) 相当になります。

* 4 : IFC-400U使用時は、通信速度がHi-Speed USB (USB 2.0) 相当になります。

* 5 : 4K 59.94p/50.00p (4:2:2) 出力に対応しておりません。4K 59.94p/50.00p (4:2:2) に対応している外部機器接続時は、市販の対応ケーブルをお使いください。

データシート



- [静止画撮影](#)
- [動画撮影](#)
- [動画撮影時のISO感度](#)
- [画像の再生](#)

静止画撮影

撮影可能枚数の目安

(約・枚)

温度	常温 (+23℃)	低温 (0℃)
ファインダー撮影時	2850	2360
ライブビュー撮影時	610	530

- フル充電のバッテリーパック LP-E19使用、CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準による
- [ : Bluetooth設定] が [使わない]、[ : GPSの設定] が [使わない] 設定時

ISOオートの範囲

撮影モード	ISO感度設定	
	ストロボなし	ストロボあり
P/Tv/Av/M	ISO100 ^{*1} 、*2~102400 ^{*2}	ISO100 ^{*1} 、*2~6400 ^{*2, *3}
BULB	ISO400 ^{*4}	ISO400 ^{*4}

* 1: [高輝度側・階調優先] を [する] [強] に設定時はISO200

* 2: [オートの範囲] の [下限値] [上限値] による

* 3: 「E-TTL ISO オート上限可変制御」非対応レンズ使用時はISO1600。詳しくは、キヤノンのホームページを参照

* 4: 設定範囲外の場合はISO400に最も近い値に変更

画像サイズを選ぶときの目安（約）

画像サイズ	記録画素数	ファイルサイズ (MB)	撮影可能枚数	連続撮影可能枚数
JPEG				
L	20M	7.6	40650	1000以上
M1	13M	5.4	56960	1000以上
M2	8.9M	4.1	74070	1000以上
S	5.0M	2.8	109110	1000以上
HEIF				
L	20M	7.6	39650	1000以上
RAW				
RAW	20M	22.1	14150	1000以上
CRAW	20M	13.1	27560	1000以上
RAW + JPEG				
RAW L	20M 20M	22.1 7.6	10500	1000以上
CRAW L	20M 20M	13.1 7.6	16420	1000以上
RAW + HEIF				
RAW L	20M 20M	24.3 7.6	9620	350
CRAW L	20M 20M	13.7 7.6	14380	420

- 撮影可能枚数、連続撮影可能枚数は、当社試験基準325GBカード使用時の枚数、ファインダー撮影時
- 撮影条件（JPEG/HEIF画質：8、被写体、メモリーカードの銘柄、ISO感度、ピクチャースタイル、カスタム機能など）により異なる

動画の総記録時間と1分あたりのファイルサイズの目安

(約)

動画記録サイズ			カードごとの総記録可能時間			ファイルサイズ (約・MB/分)
			64GB	256GB	1TB	
4K-D	59.94P 50.00P	RAW	3分	13分	50分	18711
	29.97P 25.00P 24.00P 23.98P	RAW	4分	18分	1時間13分	12937
	59.94P 50.00P	ALL-I	9分	36分	2時間21分	6734
		IPB	36分	2時間27分	9時間35分	1656
	29.97P 25.00P 24.00P 23.98P	ALL-I	18分	1時間12分	4時間42分	3373
		IPB	1時間10分	4時間40分	18時間17分	869
4K-D Crop	59.94P 50.00P	ALL-I	9分	36分	2時間21分	6734
		IPB	36分	2時間27分	9時間35分	1656
	29.97P 25.00P 24.00P 23.98P	ALL-I	18分	1時間12分	4時間42分	3373
		IPB	1時間10分	4時間40分	18時間17分	869
4K-U	59.94P 50.00P	ALL-I	9分	36分	2時間21分	6734
		IPB	36分	2時間27分	9時間35分	1656
	29.97P 25.00P 23.98P	ALL-I	18分	1時間12分	4時間42分	3373
		IPB	1時間10分	4時間40分	18時間17分	869
FHD	119.9P 100.0P	ALL-I	23分	1時間34分	6時間8分	2586
	59.94P 50.00P	ALL-I	47分	3時間8分	12時間14分	1298
		IPB	2時間18分	9時間14分	36時間6分	440
	29.97P 25.00P 23.98P	ALL-I	1時間33分	6時間12分	24時間16分	655
		IPB	4時間30分	18時間2分	70時間27分	226
		IPB	11時間35分	46時間23分	181時間13分	88

注意

- カメラ内部の温度上昇により、表に示した時間よりも早く動画撮影が終了することがあります (🔒)。

動画撮影可能時間の目安

(合計・約)

温度	常温 (+23℃)	低温 (0℃)
FHD 29.97P 25.00P 1PB	4時間40分	4時間10分

- フル充電のバッテリーパック LP-E19使用時
- [動画サーボAF] が [しない] 設定時
- [✓: Bluetooth設定] が [使わない]、[✓: GPSの設定] が [使わない] 設定時

動画撮影時のISO感度

- RAW動画に設定されているときは、[オートの上限]を[H(51200)] [H(102400)] [H(204800)]に設定しても、上限の拡張は行われません。

〈M〉 〈Tv〉 〈Av〉 モード時

- ISO100～25600の範囲で自動設定されます
- [📷: ISO感度に関する設定]の[オートの上限]を[H1(204800)]に設定すると(🔗)、自動設定範囲の上限がH1(204800相当)まで拡張されます。
- [📷: 高輝度側・階調優先]を[する][強]に設定したときは(🔗)、ISO感度の自動設定範囲の下限がISO200になります。また、[オートの上限]を拡張する設定を行っても、上限の拡張は行われません。
- [📷: Canon Log設定]を[入]に設定したときは(🔗)、ISO感度の自動設定範囲の下限が、ISO400になります。

〈M〉 モード時

- ISO感度を[AUTO]に設定したときは、ISO100～25600の範囲で自動設定されます。
- ISOオート設定時に、[📷: ISO感度に関する設定]の[オートの上限]を[H1(204800)]に設定すると(🔗)、自動設定範囲の上限がH1(204800相当)まで拡張されます。
- 手動設定のときは、ISO100～25600の範囲で設定することができます。なお、[📷: ISO感度に関する設定]の[ISO感度の範囲]を[H1(204800)]に設定すると(🔗)、手動設定範囲の上限がH1(ISO204800相当)まで拡張されます。
- [📷: 高輝度側・階調優先]を[する][強]に設定したときは(🔗)、ISO感度の自動/手動設定範囲の下限がISO200になります。また、ISO感度を拡張する設定を行っても、上限の拡張は行われません。
- [📷: Canon Log設定]を[入]に設定したときは(🔗)、ISO感度の自動設定範囲の下限が、ISO400になります。また、ISO100～320は拡張ISO感度(L)になります。

🚫 注意

- RAW動画設定時は、拡張ISO感度は設定できません。

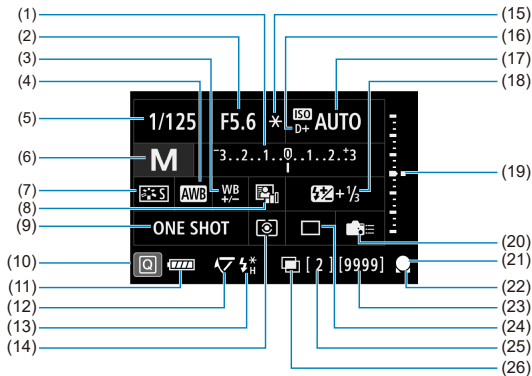
撮影時の記録画質（JPEG画像）とリサイズできるサイズ

撮影時の記録画質	リサイズできるサイズ		
	M1	M2	S
L	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
M1		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
M2			<input type="radio"/>

情報表示

- [クイック設定画面 \(ファインダー撮影\)](#)
- [クイック設定画面/クイック設定カスタマイズ画面表示中のボタン操作について](#)
- [ライブビュー撮影画面](#)
- [動画撮影画面](#)
- [再生画面](#)

クイック設定画面 (ファインダー撮影)



* 設定に応じた部分のみ表示されます。

-
- (1) 露出補正
 - (2) 絞り数値
 - (3) ホワイトバランス補正
 - (4) ホワイトバランス
 - (5) シャッタースピード
 - (6) 撮影モード
 - (7) ピクチャースタイル
 - (8) オートライティングオブティマイザ
 - (9) AF動作
 - (10) クイック設定マーク
 - (11) バッテリー残量
 - (12) ミラーアップ
 - (13) ストロボ充電完了/FEロック/ハイスピードシンクロ
 - (14) 測光モード
 - (15) AEロック
 - (16) 高輝度側・階調優先
 - (17) ISO感度
 - (18) ストロボ調光補正
 - (19) 露出レベル表示
 - (20) 操作ボタンカスタマイズ
 - (21) 合焦マーク
 - (22) AF作動表示/自動クリーニング
 - (23) 撮影可能枚数
 - (24) ドライブモード
 - (25) 連続撮影可能枚数/多重露出残り枚数
 - (26) 多重露出撮影
-

クイック設定画面/クイック設定カスタマイズ画面表示中のボタン操作について

〈MODE〉 〈DRIVE・AF〉 〈・〉 〈〉 〈ISO〉 〈〉 〈WB〉 ボタンを押すと、設定画面が表示され、 〈〉 〈〉 〈〉 〈M-Fn〉 で設定することができます。



測光モード／調光補正



AFフレーム選択



ISO感度



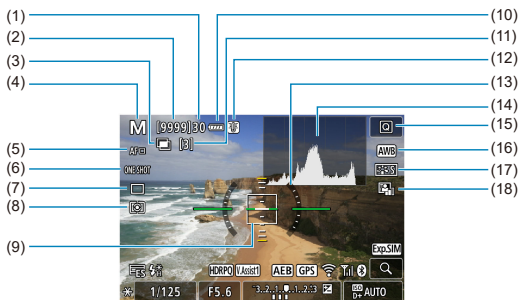
露出補正



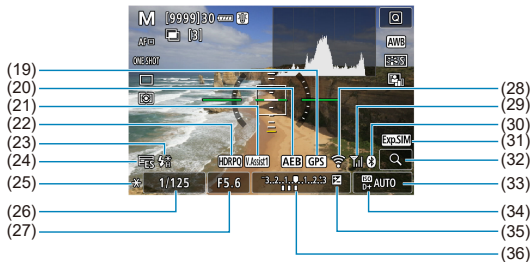
ライブビュー撮影画面

〈INFO〉ボタンを押すと、押すたびに情報表示内容が切り換わります。

- 設定に応じた部分のみ表示されます。



- | | |
|------|---------------------|
| (1) | 連続撮影可能枚数 |
| (2) | 撮影可能枚数/セルフタイマー撮影秒数 |
| (3) | 多重露出撮影 |
| (4) | 撮影モード |
| (5) | AF方式 |
| (6) | AF動作 |
| (7) | ドライブモード |
| (8) | 測光モード |
| (9) | AFフレーム(1点AF) |
| (10) | バッテリー残量 |
| (11) | 多重露出残り枚数 |
| (12) | 温度上昇警告 |
| (13) | 水準器 |
| (14) | ヒストグラム |
| (15) | クイック設定ボタン |
| (16) | ホワイトバランス/ホワイトバランス補正 |
| (17) | ピクチャースタイル |
| (18) | オートライティング最適マイザ |



- (19) GPS受信状態
- (20) AEB撮影/FEB撮影
- (21) ビューアシスト
- (22) HDR PQ
- (23) ストロボ充電完了/FEロック/ハイスピードシンクロ
- (24) 電子シャッター
- (25) AELロック
- (26) シャッタースピード/マルチ電子ロック警告
- (27) 絞り数値
- (28) Wi-Fi機能
- (29) Wi-Fi電波強度
- (30) Bluetooth機能
- (31) 露出シミュレーション
- (32) 拡大ボタン
- (33) ISO感度
- (34) 高輝度側・階調優先
- (35) 露出補正
- (36) 露出レベル表示 (測光値)

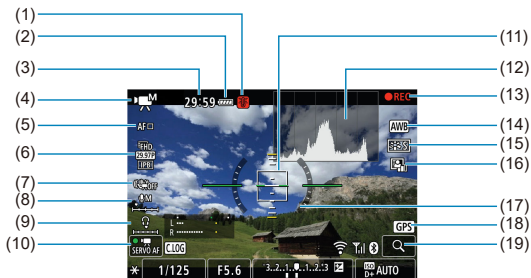
参考

- 〈INFO〉ボタンを押したときに表示する内容を設定することができます (🔗)。
- カメラとテレビをHDMIケーブルで接続したときは、水準器は表示されません。
- この他に、設定を変更したときに一時的に表示されるアイコンもあります。

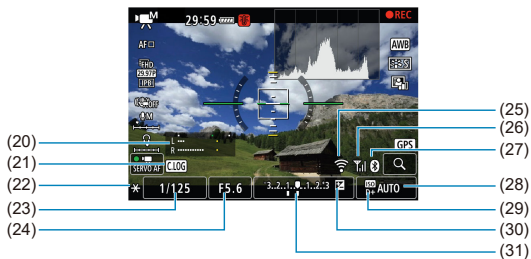
動画撮影画面

〈INFO〉ボタンを押すと、押すたびに情報表示内容が切り換わります。

- 設定に応じた部分のみ表示されます。



- | | |
|------|---------------------|
| (1) | 温度上昇警告 |
| (2) | バッテリー残量 |
| (3) | 1回の撮影可能時間/撮影経過時間 |
| (4) | 動画撮影モード/ハイフレームレート動画 |
| (5) | AF方式 |
| (6) | 動画記録サイズ |
| (7) | 動画電子IS |
| (8) | 録音レベル (マニュアル/ライン入力) |
| (9) | ヘッドフォン音量 |
| (10) | 動画サーボAF |
| (11) | AFフレーム (1点AF) |
| (12) | ヒストグラム (マニュアル露出時) |
| (13) | 動画撮影中 |
| (14) | ホワイトバランス/WB補正 |
| (15) | ピクチャースタイル |
| (16) | オートライティングオプティマイザ |
| (17) | 水準器 |
| (18) | GPS受信状態 |
| (19) | 拡大ボタン |



(20) 録音レベルメーター（マニュアル/ライン入力）

(21) Canon Log

(22) AEロック

(23) シャッタースピード

(24) 絞り数値

(25) Wi-Fi機能

(26) Wi-Fi電波強度

(27) Bluetooth機能

(28) ISO感度

(29) 高輝度側・階調優先

(30) 露出補正

(31) 露出レベル表示（測光値）

❗ 注意

- 〈INFO〉ボタンを押したときに表示する内容を設定することができます (ℹ️)。
- カメラとテレビをHDMIケーブルで接続したときは、水準器は表示されません。
- 動画撮影中に水準器、グリッド、ヒストグラムを表示することはできません（表示した状態で動画撮影を開始すると、表示が消えます）。
- 「1回の撮影可能時間」は、撮影が始まると「撮影経過時間」に変わります。

📖 参考

- この他に、設定を変更したときに一時的に表示されるアイコンもあります。

静止画の簡易情報表示

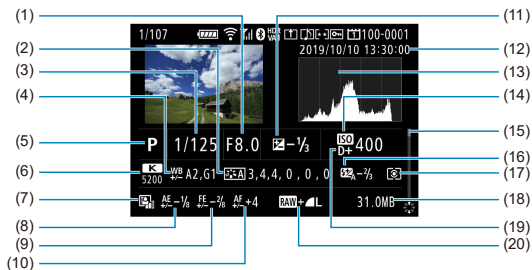


- | | |
|------|----------------------------|
| (1) | HDR出力状態/ビューアシスト |
| (2) | Bluetooth機能 |
| (3) | Wi-Fi電波強度 |
| (4) | Wi-Fi機能 |
| (5) | バッテリー残量 |
| (6) | 再生番号/総記録画像数/検索結果画像数 |
| (7) | シャッタースピード |
| (8) | 絞り数値 |
| (9) | 露出補正量 |
| (10) | パソコン/スマートフォンに送付済み |
| (11) | 音声メモ |
| (12) | レーティング |
| (13) | 画像プロテクト |
| (14) | カード番号 |
| (15) | フォルダ番号-画像番号 |
| (16) | 記録画質/画像加工済み/トリミング/フレーム切り出し |
| (17) | ISO感度 |
| (18) | 高輝度側・階調優先 |

 注意

- 他のカメラで撮影した画像は、一部の撮影情報が表示されないことがあります。
- このカメラで撮影した画像は、他のカメラで再生できないことがあります。

静止画の詳細情報表示



- | | |
|------|---------------------|
| (1) | 絞り数値 |
| (2) | ピクチャースタイル/設定内容 |
| (3) | シャッタースピード |
| (4) | WB補正/BKT設定 |
| (5) | 撮影モード/多重露出/フレーム切り出し |
| (6) | ホワイトバランス |
| (7) | オートライティングオブティマイザ |
| (8) | AEマイクロアジャストメント |
| (9) | FEマイクロアジャストメント |
| (10) | AFマイクロアジャストメント |
| (11) | 露出補正量 |
| (12) | 撮影日時 |
| (13) | ヒストグラム (輝度/RGB) |
| (14) | ISO感度 |
| (15) | スクロールバー |
| (16) | ストロボ調光補正量/バウンス |
| (17) | 測光モード |
| (18) | ファイルサイズ |
| (19) | 高輝度側・階調優先 |
| (20) | 記録画質/画像加工済み/トリミング |

* RAW+JPEG/HEIFで撮影した画像は、RAW画像のファイルサイズが表示されます。

* トリミング情報が付加された画像は、撮影範囲を示す線が表示されます。

* 調光補正なしでストロボ撮影を行ったときは、が表示されます。

* バウンス撮影を行った画像は、が表示されます。

* 多重露出撮影を行った画像は、が表示されます。

* RAW現像、リサイズ処理、トリミング、フレーム切り出しを行って保存した画像は、が表示されます。

* トリミングを行って保存した画像は、が表示されます。

主な仕様

型式

型式	デジタル一眼レフレックスAF・AEカメラ
記録媒体	CFexpressメモリーカード * Type B対応：2カードスロット
撮像画面サイズ	約35.9×23.9mm
使用レンズ	キヤノンEFレンズ群 * EF-S、EF-Mレンズを除く (有効撮影画角は表記焦点距離の約等倍に相当)
レンズマウント	キヤノンEFマウント

撮像素子

型式	CMOSセンサー
カメラ部有効画素	約2010万画素 * 1万の位を四捨五入
アスペクト比	3 : 2
ダスト除去	自動/手動、ダストデリートデータ付加

記録形式

記録フォーマット	DCF2.0																		
画像タイプ	JPEG (8bit)、HEIF (10bit)、RAW (14bit、キヤノン独自) RAW+JPEG同時記録可能 RAW+HEIF同時記録可能 * 電子シャッター撮影時のRAW画像は12bit A/D変換が施されている																		
記録画素数	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">記録画質</th> <th>記録画素数 (画素)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">JPEG</td> <td>L</td> <td>約2000万 (5472×3648)</td> </tr> <tr> <td>M1</td> <td>約1270万 (4368×2912)</td> </tr> <tr> <td>M2</td> <td>約890万 (3648×2432)</td> </tr> <tr> <td>S</td> <td>約500万 (2736×1824)</td> </tr> <tr> <td>HEIF</td> <td>L</td> <td>約2000万 (5472×3648)</td> </tr> <tr> <td>RAW</td> <td>RAW/C-RAW</td> <td>約2000万 (5472×3648)</td> </tr> </tbody> </table> <p>* 1万の位を四捨五入</p>	記録画質		記録画素数 (画素)	JPEG	L	約2000万 (5472×3648)	M1	約1270万 (4368×2912)	M2	約890万 (3648×2432)	S	約500万 (2736×1824)	HEIF	L	約2000万 (5472×3648)	RAW	RAW/C-RAW	約2000万 (5472×3648)
記録画質		記録画素数 (画素)																	
JPEG	L	約2000万 (5472×3648)																	
	M1	約1270万 (4368×2912)																	
	M2	約890万 (3648×2432)																	
	S	約500万 (2736×1824)																	
HEIF	L	約2000万 (5472×3648)																	
RAW	RAW/C-RAW	約2000万 (5472×3648)																	
記録機能	静止画/動画振り分け、静止画記録機能、動画記録機能、静止画記録・再生、動画記録・再生																		
フォルダ作成/選択	可能																		
ファイル名	カメラ固有設定、ユーザー設定1、ユーザー設定2																		
画像番号	通し番号、オートリセット、強制リセット																		

撮影時の画像処理

ピクチャースタイル	オート、スタンダード、ポートレート、風景、ディテール重視、ニュートラル、忠実設定、モノクロ、ユーザー設定1~3
ホワイトバランス	オート（雰囲気優先）、オート（ホワイト優先）、プリセット（太陽光、日陰、くもり、白熱電球、白色蛍光灯、ストロボ）、マニュアル（5件）、色温度指定（約2500~10000K） ホワイトバランス補正、ホワイトバランスブラケティング可能 *ストロボ色温度情報通信対応
ホワイトバランス補正	ブルー/アンバー方向：±9段 マゼンタ/グリーン方向：±9段
ホワイトバランスブラケティング	1段ステップ、±3段
画像の明るさ自動補正	オートライティング最適化機能搭載
ノイズ低減	高感度撮影、長秒時露光に対応
高輝度側・階調優先	可能
レンズ光学補正	周辺光量補正、歪曲収差補正、デジタルレンズ最適化機能、色収差補正、回折補正

ファインダー

方式	ペンタプリズム使用、アイレベル式
視野率	上下/左右とも約100%（アイポイント約20mm時）
倍率	約0.76倍（50mmレンズ・∞・-1m ⁻¹ ）
アイポイント	約20mm（-1m ⁻¹ 時、接眼レンズ最後尾から）
視度調整範囲	約-3.0~+1.0m ⁻¹ （dpt）
アイピースシャッター	内蔵
フォーカシングスクリーン	固定式
ミラー	クイックリターン式
被写界深度確認	可能

オートフォーカス（ファインダー撮影）

フォーカス方式	専用AFセンサーによるTTL二次結像位相差検出方式
測距点	最大191点（クロス測距点：最大155点） * 使用レンズにより、測距点数、デュアルクロス測距点数、クロス測距点数が変動する * 中央測距点はF2.8対応デュアルクロス測距
測距輝度範囲	EV -4～21（中央F2.8対応測距点・ワンショットAF・常温・ISO100）
フォーカス動作	ワンショットAF、AIサーボAF、手動（MF）
測距エリア選択モード	スポット1点AF（任意選択）、1点AF（任意選択）、領域拡大AF（任意選択上下左右）、領域拡大AF（任意選択周囲）、ゾーンAF（ゾーン任意選択）、ラージゾーンAF（ゾーン任意選択）、自動選択AF
被写体検知AF	EOS iTR AF（色情報、顔検出、頭部検出が可能） * iTR：Intelligent Tracking and Recognition
AFカスタム設定ガイド機能	Case1～4、CaseA
AIサーボAF特性	被写体追従特性、速度変化に対する追従性
AF微調整	AFマイクロアジャストメントにより対応（全レンズ一律調整、レンズごとに調整）
AF補助光	EOS用外部ストロボのAF補助光による

オートフォーカス（ライブビュー撮影/動画撮影）

フォーカス方式	デュアルピクセルCMOS AF
AF方式	顔+追尾優先AF、スポット1点AF、1点AF、領域拡大AF（上下左右）、領域拡大AF（周囲）、ゾーンAF、ラージゾーンAF（縦）、ラージゾーンAF（横）
AFフレーム選択可能ポジション	最大3869ポジション *マルチコントローラーによる選択時
自動選択時AFエリア分割数	最大525分割
瞳AF	可能
拡大表示	約5倍/10倍拡大表示可能
測距エリア	横：約90%、縦：約100% 横：約80%、縦：約80% *使用するレンズにより異なる
マニュアルフォーカス（MF）	MFピーキング、フォーカスガイド

[ライブビュー撮影]

AF動作	ワンショットAF、サーボAF
コンティニユアスAF	可能
測距輝度範囲	EV -6~18 (F1.2・中央測距点・常温・ISO100・ワンショットAF)
AFカスタム設定ガイド機能	Case1~4、CaseA
サーボAF特性	被写体追従特性、速度変化に対する追従性

[動画撮影]

測距輝度範囲	EV -4~18 (F1.2・中央測距点・常温・ISO100・ワンショットAF・29.97fps)
動画サーボAF	可能
動画サーボAF特性	被写体追従特性、AF速度

露出制御

測光方式	<p>ファインダー撮影：約40万画素RGB+IR測光センサー使用、216分割（18×12）TTL開放測光</p> <p>ライブビュー撮影／動画撮影：撮像素子の出力信号による384分割（24×16）測光</p> <p>ファインダー撮影： 評価測光 部分測光（画面の約6.2%） スポット測光（画面の約1.5%） * 測距点連動スポット測光、マルチスポット測光可能 中央部重点平均測光</p> <p>ライブビュー撮影：評価測光、部分測光（画面の約5.8%）、スポット測光（画面の約2.9%）</p> <p>動画撮影：中央部重点平均測光、評価測光 * 撮影状況に応じて自動設定</p>
測光輝度範囲	<p>ファインダー撮影：EV 0～20（常温・ISO100）</p> <p>ライブビュー撮影：EV -3～20（常温・ISO100）</p> <p>動画撮影：EV -1～20（常温・ISO100）</p>
撮影モード	<p>静止画撮影： プログラムAE、シャッター優先AE、絞り優先AE、マニュアル露出、バルブ、カスタム撮影モード（C1/C2/C3）</p> <p>動画撮影： プログラムAE、シャッター優先AE、絞り優先AE、マニュアル露出、カスタム撮影モード（C1/C2/C3）</p>
ISO感度（推奨露光指数）	<p>静止画撮影： ISOオート（ISO100～102400自動設定）、ISO100～102400手動設定（1/3、1段ステップ）、およびL（ISO50相当）、H1（ISO204800相当）、H2（ISO409600相当）、H3（ISO819200相当）の感度拡張が可能 * 高輝度側・階調優先設定時は、ISO200～102400</p> <p>動画撮影： プログラムAE/Av/Tv:ISOオート（ISO100～25600自動設定）、H1（ISO204800相当）まで上限の拡張が可能 M: ISOオート（ISO100～25600自動設定）、ISO100～25600手動設定（1/3、1段ステップ）、H1（ISO204800相当）まで上限の拡張が可能 * 高輝度側・階調優先設定時は、ISO200～25600</p>
ISO感度関連設定	<p>静止画撮影： ISO感度の範囲、オートの範囲、オートの低速限界</p> <p>動画撮影： ISO感度の範囲、オートの上限</p>
露出補正	<p>手動：1/3、1/2段ステップ±5段（ファインダー撮影）、1/3、1/2段ステップ±3段（ライブビュー撮影／動画撮影） AEB：1/3、1/2段ステップ±3段（手動露出補正との併用可能）</p>
AEロック	<p>静止画撮影： 自動：カスタム機能により、測光モードごとに合焦と同時にAEロック有無を設定可能 手動：AEロックボタンによる</p> <p>動画撮影：AEロックボタンによる</p>
フリッカー低減	可能（ファインダー撮影）

多重露出撮影

撮影方法	機能・操作優先、連続撮影優先
多重枚数	2~9枚
多重露出制御	加算、加算平均、比較（明）、比較（暗）

HDR撮影（静止画HDR PQ）

記録形式	HEIF
ビット深度	10bit
カラーサンプリング方式	YCbCr 4:2:2
HDR 規格	ITU-R BT.2100 (PQ)

シャッター

形式	電子制御式、フォーカルプレーンシャッター
シャッター方式	ファインダー撮影：メカシャッター ライブビュー撮影：メカシャッター、電子先幕、電子シャッター
シャッタースピード	メカシャッター/電子先幕設定時：1/8000~30秒、バルブ 電子シャッター設定時：1/8000~0.5秒 ストロボ同調最高シャッタースピード=1/250秒 * 動画撮影時は設定範囲が異なる

ドライブ関係

ドライブモード	1枚撮影、高速連続撮影、連続撮影、低速連続撮影、1枚：ソフト動作、ソフト連続撮影、ソフト低速連続撮影、セルフタイマー：10秒、セルフタイマー：2秒			
連続撮影速度	ドライブモード		ファインダー撮影	ライブビュー撮影 ^{*2}
	高速連続撮影 ^{*1}	ワンショットAF	最高約16コマ/秒 (16~3コマ/秒に設定可能)	最高約20コマ/秒
		AIサーボAF/ サーボAF		
	連続撮影	ワンショットAF	約10コマ/秒 (15~2コマ/秒に設定可能)	約10コマ/秒 ^{*3}
		AIサーボAF/ サーボAF		
	低速連続撮影	ワンショットAF	約3.0コマ/秒 (14~1コマ/秒に設定可能)	約3.0コマ/秒
		AIサーボAF/ サーボAF		
ソフト連続撮影		約8.0コマ/秒 (8~2コマ/秒に設定可能)	約10コマ/秒 ^{*3}	
ソフト低速連続撮影		約3.0コマ/秒 (7~1コマ/秒に設定可能)	約3.0コマ/秒	
<p>* 1:シャッタースピード、絞り、連続撮影中の絞りの状態、ストロボ撮影、フリッカーレス撮影：する、電池残量、温度、被写体条件、明るさ（暗所での撮影等）、レンズの種類、電源の種類、内部メモリーがフル時（一時的に撮影ができなくなる）などの条件により低下することがある</p> <p>* 2:電子シャッター時には、連続撮影速度は高速連続撮影と同じとなる</p> <p>* 3:メカシャッター時には、連続撮影速度は約8.0コマ/秒となる</p>				
連続撮影可能枚数	<p>JPEGラージ：1000枚以上 HEIFラージ：1000枚以上 RAW：1000枚以上 RAW+JPEGラージ：1000枚以上 RAW+HEIFラージ：約350枚</p> <p>* 当社試験基準325GBカード使用時、ファインダー撮影時</p> <p>* 撮影条件（JPEG/HEIF画質：8、被写体、メモリーカードの銘柄、ISO感度、ピクチャースタイル、カスタム機能など）により異なる</p>			

外部ストロボ

対応ストロボ	EL/EXスピードライト
調光方式	E-TTL II 自動調光
ストロボ調光補正	1/3、1/2段ステップ±3段
FEロック	可能
シンクロ端子	あり
ストロボ制御	ストロボ機能設定、ストロボカスタム機能設定

動画撮影機能

通常動画			Canon Log	
			OFF	ON
	記録形式		MP4	
	圧縮		MPEG-4 H.264/AVC	MPEG-4 H.265/HEVC
	映像信号の記録レンジ		フルレンジ (0-255)	フルレンジ (128-1016)
	カラーサンプリング方式		YCbCr4:2:0 (8bit)	YCbCr4:2:2 (10bit)
	カラーマトリックス		Rec.ITU-R BT.709	Rec.ITU-R BT.709/BT.2020
	音声	ALL-I/IPB	AAC/リニアPCM*	
IPB (軽量)		AAC		
* AACとリニアPCMの選択が可能【C.Fn7-7:音声圧縮】				
RAW動画			Canon Log	
			OFF	ON
	記録形式		RAW (12bit)	
	音声		リニアPCM	
動画記録サイズ	RAW (5472×2886)、4K DCI (4096×2160)、4K DCIクロップ (4096×2160)、4K UHD (3840×2160)、Full HD (1920×1080)			
フレームレート	119.9p/59.94p/29.97p/24.00p/23.98p (NTSC設定時) 100.0p/50.00p/25.00p/24.00p (PAL設定時) * 119.9p/100.0pはFull HD/ハイフレームレート動画			
圧縮方式	ALL-I (編集用)、IPB (標準)、IPB (軽量)			

ビットレート	RAW (59.94p/50.00p)	約2600Mbps
	RAW (29.97p/25.00p/24.00p/23.98p)	約1800Mbps
	4K DCI (59.94p/50.00p) /ALL-I	約940Mbps
	4K DCI (59.94p/50.00p) /IPB	約230Mbps
	4K DCI (29.97p/25.00p/24.00p/23.98p) /ALL-I	約470Mbps
	4K DCI (29.97p/25.00p/24.00p/23.98p) /IPB	約120Mbps
	4K DCIクロップ (59.94p/50.00p) /ALL-I	約940Mbps
	4K DCIクロップ (59.94p/50.00p) /IPB	約230Mbps
	4K DCIクロップ (29.97p/25.00p/24.00p/23.98p) /ALL-I	約470Mbps
	4K DCIクロップ (29.97p/25.00p/24.00p/23.98p) /IPB	約120Mbps
	4K UHD (59.94p/50.00p) /ALL-I	約940Mbps
	4K UHD (59.94p/50.00p) /IPB	約230Mbps
	4K UHD (29.97p/25.00p) /ALL-I	約470Mbps
	4K UHD (29.97p/25.00p) /IPB	約120Mbps
	Full HD (119.9p/100.0p) /ALL-I	約360Mbps
	Full HD (59.94p/50.00p) /ALL-I	約180Mbps
	Full HD (59.94p/50.00p) /IPB	約60Mbps
	Full HD (29.97p/25.00p) /ALL-I	約90Mbps
	Full HD (29.97p/25.00p) /IPB	約30Mbps
Full HD (29.97p/25.00p) /IPB (軽量)	約12Mbps	
タイムコード	付加可能	
ドロップフレーム	119.9p/59.94p/29.97p対応	
録音	モノラルマイク内蔵、外部ステレオマイク端子装備、ライン入力可能 録音レベル調整可能、ウィンドカット機能、アッテネーター機能搭載	
ヘッドフォン	ヘッドフォン端子装備、音量調整可能	
動画電子IS	可能	
Canon Log	撮影可能	
静止画撮影	動画撮影時不可	
HDMI出力	情報表示なし映像を出力可能 * 4K出力対応、自動/1080p選択可能	

モニター

形式	TFT式カラー液晶モニター
画面サイズ/ドット数	3.2型 (3:2) / 約210万ドット
明るさ調整	手動 (7段階)
色あい調整	暖色/標準/寒色1/寒色2
メニュー表示言語	日本語、英語
タッチパネル	静電容量方式
カメラシステム情報	確認可能

再生関連機能

画像表示形式	表示情報表示なし/簡易情報表示/詳細撮影情報表示、インデックス表示 (4枚/9枚/36枚/100枚)
ハイライト警告	ハイライト部分点滅表示
AFフレーム表示	可能 (撮影条件により表示できない場合がある)
グリッド表示	3種類
拡大表示	約1.5~10倍、拡大開始倍率/開始位置設定可能
画像検索	検索条件を設定可能 (レーティング、日付、フォルダ、プロテクト、ファイルの種類)
画像送り	1枚、10枚、指定枚数、撮影日、フォルダ、動画、静止画、プロテクト、レーティング
画像回転	可能
画像プロテクト	可能
レーティング	可能
音声メモ	記録/再生可能
動画再生	可能
動画前後カット	可能
4K動画フレーム切り出し	任意のフレームを切り出しJPEG画像として保存可能
スライドショー	全画像、または検索条件に該当する画像を自動再生
画像コピー	可能
HEIF画像をJPEG画像に変換	可能
カメラ内RAW現像	明るさ補正、ホワイトバランス、ピクチャースタイル、明瞭度、オートライティング最適化、高感度撮影時のノイズ低減、記録画質、色空間、レンズ光学補正 (周辺光量補正、歪曲収差補正、デジタルレンズ最適化)、色収差補正、回折補正)
リサイズ	可能
トリミング	可能
印刷指定	DPOFバージョン1.1準拠

通信機能

[Wi-Fi]

準拠規格	IEEE 802.11b/g/n
伝送方式	DS-SS変調方式 (IEEE 802.11b)、OFDM変調方式 (IEEE 802.11g/n)
送信周波数 (中心周波数)	周波数: 2412~2462MHz チャンネル: 1~11ch
接続方法	カメラアクセスポイントモード、インフラストラクチャー* * Wi-Fi Protected Setup対応
セキュリティ	認証方式: オープン、共有キー、WPA/WPA2-PSK 暗号化: WEP、TKIP、AES
接続可能機器	スマートフォン、パソコン、FTPサーバー

[有線LAN]

型式	Ethernet
準拠規格	IEEE 802.3u (10BASE-T、100BASE-TX、1000BASE-T)
接続可能機器	アクセスポイント、パソコン、EOS-1D X Mark III* * カメラ間時刻同期機能使用時

[Bluetooth]

準拠規格	Bluetooth Specification Version 4.2準拠 (Bluetooth low energy technology)
伝送方式	GFSK変調方式
接続可能機器	スマートフォン

GPS機能

対応衛星	GPS衛星 (アメリカ)、GLONASS衛星 (ロシア)、準天頂衛星みちびき (日本)
画像への位置情報付加	緯度、経度、標高、協定世界時 (UTC)、衛星捕捉状態
位置情報の更新間隔	1/5/10/15/30秒間隔、1/2/5分間隔
位置情報の保持時間	10分/30分/1時間/3時間/6時間/制限なし
時刻合わせ	GPSの時刻データをカメラに設定
ログデータ	NMEAフォーマット、1日1ファイル生成 * エリアを変えると別ファイル生成 * 内蔵メモリーに保存されたログデータを、ログファイルとしてカードに移動/パソコンに取り込み可能
ログデータの消去	可能

カスタマイズ機能

カスタム機能	38種
クイック設定カスタマイズ	可能
カメラ設定保存	1枚のカードに最大10件登録可能
カスタム撮影モード	静止画C1/C2/C3モード、動画C1/C2/C3モード
マイメニュー	5画面登録可能
著作権情報	設定/付加可能
IPTC情報	付加可能

インターフェース

デジタル端子	SuperSpeed Plus USB (USB 3.1 Gen 2) 相当、USB Type-C パソコン通信
HDMIミニ出力端子	タイプC (解像度自動切り換え)
外部マイク入力/ライン入力端子	Φ3.5mmステレオミニジャック 指向性ステレオマイクロホン DM-E1、ステレオマイクロホン DM-E100または 市販の外部マイクが接続可能
ヘッドフォン端子	Φ3.5mmステレオミニジャック
リモコン端子	N3タイプのリモコンに対応
拡張システム端子	ワイヤレスファイルトランスミッター WFT-E9接続
イーサネット端子	RJ-45端子

電源

使用電池	バッテリーパック LP-E19、1個 * 家庭用電源アクセサリー使用によりAC駆動可能
電池情報	使用電源、電池残量、撮影回数、劣化度確認可能
撮影可能枚数の目安	ファインダー撮影： 常温 (+23℃) 約2850枚/低温 (0℃) 約2360枚 ライブビュー撮影： 常温 (+23℃) 約610枚/低温 (0℃) 約530枚 * フル充電のバッテリーパック LP-E19使用時
動画撮影可能時間	常温 (+23℃) 合計約4時間40分 低温 (0℃) 合計約4時間10分 * フル充電のバッテリーパック LP-E19使用、動画サーボAF：しない、Full HD 29.97p/ 25.00p IPB (標準) 設定時

大きさ・質量

大きさ	約158.0（幅）×167.6（高さ）×82.6（奥行） mm
質量	約1440g（バッテリー、カードを含む）／約1250g（本体のみ）

動作環境

使用可能温度	0℃～+45℃
使用可能湿度	85%以下

- 記載データはすべて当社試験基準、またはCIPA試験基準/ガイドラインによります。
- 大きさ、質量はCIPAガイドラインによります（カメラ本体のみの質量を除く）。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。
- 他社製のレンズを使用して不具合が生じた場合は、そのレンズメーカーへお問い合わせください。

商標・ライセンスについて

- [☑ 商標について](#)
- [☑ MPEG-4使用許諾について](#)
- [☑ アクセサリーについて](#)
- [☑ 修理対応について](#)

商標について

- Adobeは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
- Microsoft、Windowsは、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- App Store、macOSは、米国およびその他の国で登録されているApple Inc.の商標です。
- Google PlayおよびAndroidはGoogle LLCの商標です。
- IOSは、Ciscoの米国およびその他の国における商標または登録商標であり、ライセンスに基づき使用されています。
- QRコードは、株式会社デンソーウェーブの商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。
- DCF*は、（社）電子情報技術産業協会の団体商標で、日本国内における登録商標です。
- カメラの設定画面と本書内で使用されている「WPS」は、Wi-Fi Protected Setupを意味しています。
- Bluetooth®のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、キヤノン株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標およびトレードネームは、それぞれの所有者に帰属します。
- その他の社名、商品名などは、各社の商標または登録商標です。

* DCFは、主としてデジタルカメラの画像を関連機器間で簡便に利用しあうことを目的として制定された（社）電子情報技術産業協会（JEITA）の規格の「Design rule for Camera File System」の略称です。

MPEG-4使用許諾について

"This product is licensed under AT&T patents for the MPEG-4 standard and may be used for encoding MPEG-4 compliant video and/or decoding MPEG-4 compliant video that was encoded only (1) for a personal and non-commercial purpose or (2) by a video provider licensed under the AT&T patents to provide MPEG-4 compliant video. No license is granted or implied for any other use for MPEG-4 standard."

THIS PRODUCT IS LICENSED UNDER THE AVC PATENT PORTFOLIO LICENSE FOR THE PERSONAL USE OF A CONSUMER OR OTHER USES IN WHICH IT DOES NOT RECEIVE REMUNERATION TO (i) ENCODE VIDEO IN COMPLIANCE WITH THE AVC STANDARD ("AVC VIDEO") AND/OR (ii) DECODE AVC VIDEO THAT WAS ENCODED BY A CONSUMER ENGAGED IN A PERSONAL ACTIVITY AND/OR WAS OBTAINED FROM A VIDEO PROVIDER LICENSED TO PROVIDE AVC VIDEO. NO LICENSE IS GRANTED OR SHALL BE IMPLIED FOR ANY OTHER USE. ADDITIONAL INFORMATION MAY BE OBTAINED FROM MPEG LA, L.L.C. SEE [HTTP://WWW.MPEGLA.COM](http://www.mpegla.com)

* 規定により英語で表記しています。

アクセサリーについて

アクセサリーはキヤノン純正品のご使用をおすすめします

本製品は、キヤノン純正の専用アクセサリーと組み合わせて使用した場合に最適な性能を発揮するように設計されておりますので、キヤノン純正アクセサリーのご使用をおすすめいたします。

なお、純正品以外のアクセサリーの不具合（例えばバッテリーの液漏れ、破裂など）に起因することが明らかな、故障や発火などの事故による損害については、弊社では一切責任を負いかねます。また、この場合のキヤノン製品の修理につきましては、保証の対象外となり、有償とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

❗ 注意

- バッテリーパック LP-E19は、キヤノン製品専用です。指定外の充電器、および製品と組み合わせて使用した場合の故障、事故に関しては一切保証できません。

修理対応について

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりは、お客様にてご負担願います。
2. 本製品の修理対応期間は、製品製造打ち切り後7年間です。なお、弊社の判断により、修理対応として同一機種または同程度の仕様製品への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、ご使用の消耗品や付属品をご使用いただけないことや、対応OSが変更になることがあります。
3. 修理品をご送付の場合は、見本の撮影データやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示の上、十分な梱包でお送りください。